

北陸信越・中部エリア

Mt.6 多言語解説整備協議会（妙高赤倉）

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
575	1	国立公園妙高パンフレット P.8.9	7つの温泉地温泉の紹介文 ・赤倉温泉 ・新赤倉温泉 ・池の平温泉 ・杉之原温泉・妙高温泉・燕温泉 ・関温泉
576	2	国立公園妙高パンフレット P.8.9	温泉ソムリエ家元がすすめる「七五三の湯」の楽しみ方 / 温泉ソムリエの入浴5ヶ条(how to take a bath)
577	3	妙高高原四季の見どころガイド 観光スポットマップ内	日本の滝百選 苗名滝 紹介文
578	4	妙高高原四季の見どころガイド 観光スポットマップ内	笹ヶ峰高原 紹介文
579	5	妙高高原四季の見どころガイド 観光スポットマップ内	赤倉温泉大野天風呂「滝の湯」紹介文
580	6	国立公園妙高パンフレット P.10 中段左	岡倉天心 ・岡倉天心六角堂
581	7	国立公園妙高パンフレット P.11 中段左	北国街道 関川の関所 道の歴史観
582	8	妙高高原四季の見どころガイド 観光スポットマップ内	妙高高原スカイケーブル
583	9	国立公園妙高パンフレット P.13	雪と大地が育んだ妙高の味（説明文） かんずり、岩の原ワイン
584	10	国立公園妙高パンフレット P.12	バスで手軽に楽しむ妙高名所散策
585	11	国立公園妙高パンフレット P.5	笹ヶ峰ーセラピーロード コメント コース
586	12	国立公園妙高パンフレット P.6	アクティブ体験の各紹介 （キャンプ場・ジップライン・MTB）
587	13	国立公園妙高パンフレット P.13	妙高 3つの酒蔵見学 君の井酒造（株）を中心に千代の光酒造（株）・鮎正宗酒造（株）も紹介
588	14	妙高高原四季の見どころガイド 観光スポットマップ内	アパリゾート上越妙高 イルミネーション紹介文
589	15	妙高高原四季の見どころガイド 観光スポットマップ内	妙高高原ビジターセンター 紹介文
590	16	妙高高原四季の見どころガイド 観光スポットマップ裏面	野尻湖 紹介文 わかさぎ釣りができる。（ボートで食べることができる）
591	17	道の駅 あらい	概要
592	18	関山神社	概要
593	19	手湯・寝湯	概要
594	20	赤倉観光ホテル	概要
595	21	autumn season / 雷鳥	概要
596	22	いもり池	概要

Mt.6 多言語解説整備協議会（白馬八方尾根）

597	1	白馬八方温泉/八方の湯	白馬八方温泉と太古のロマン説明表示
598	2	白馬八方温泉/八方の湯	天然水素説明文
599	3	白馬八方温泉/八方の湯	八方の湯館内説明文
600	4	白馬八方温泉/足湯	足の湯 説明看板
601	5	八方尾根 HP	リーゼンスラローム大会 / 大会史 / リーゼンスラロームとは
602	6	八方尾根 HP	トレッキングガイド

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
603	7	八方尾根 HP	八方アルペンライン
604	8	八方尾根 HP	黒菱ライン
605	9	八方尾根 HP おすすめスポット	白馬ジャンプ競技場
606	10	八方尾根 HP おすすめスポット	細野諏訪神社
607	11	八方尾根 HP おすすめスポット	白馬大橋
608	12	八方尾根 HP おすすめスポット	大出公園
609	13	八方尾根 HP おすすめスポット	白馬三枝美術館
610	14	八方尾根 HP おすすめスポット	白馬美術館
611	15	八方尾根 HP おすすめスポット	菊池哲男 山岳フォトアートギャラリー
612	16	八方尾根 HP おすすめスポット	白馬教会
613	17	八方尾根 HP おすすめスポット	和田野の森教会
614	18	八方尾根 HP 八方の歴史	日本民宿発祥の地 細野
615	19	八方尾根 HP 八方の歴史	白馬・山とスキーの総合資料館
616	20	八方尾根 HP 八方の歴史	白馬八方温泉の歴史
617	21	八方尾根 HP おびなたの湯	
618	22	白馬八方温泉/八方の湯	NO.3の看板とは別に、正しく温泉を楽しめるような解説看板作成

Mt.6 多言語解説整備協議会（野沢）

619	1	野沢温泉スキー場・上ノ平高原（グリーンシーズン）	解説文
620	2	野沢温泉・麻釜（おがま）	解説文
621	3	野沢温泉・13の外湯	解説文
622	4	野沢温泉のつる細工	解説文
623	5	野沢菜と健命寺	解説文
624	6	湯沢神社例祭・野沢温泉灯籠祭り	解説文(由来)
625	7	湯沢神社例祭・野沢温泉灯籠祭り	解説文(灯籠行列について)
626	8	湯沢神社例祭・野沢温泉灯籠祭り	解説文（御神輿物語について）
627	9	野沢温泉スキー場（ホワイトシーズン）	解説文
628	10	野沢温泉の道祖神祭り	解説文(由来、道祖神について、祭りの組織について)
629	11	野沢温泉の道祖神祭り	解説文（道祖神について）
630	12	野沢温泉の道祖神祭り	解説文（祭りの組織について）
631	13	野沢温泉朝市	解説文
632	14	つつじ山百番観音とつつじ山公園	解説文
633	15	岡本太郎と野沢温泉	解説文
634	16	雪原遊覧ツアー	解説文
635	17	麻釜温泉公園 ふるさとの湯	解説文

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
636	18	野沢温泉スパリーナ・国際会議場	解説文
637	19	高野辰之記念館 おぼろ月夜の館（班山文庫）	解説文
638	20	スキー博物館	解説文
639	21	シュナイダー広場 L'atelier KURA	解説文
640	22	木造道祖神人形	解説文
641	23	ハウスアントン	解説文
642	24	遊ロード	解説文
643	25	マイクロプルフリー 里武士	解説文
一般社団法人 金沢市観光協会			
644	1	長町武家屋敷跡界隈	歴史的まち並み
645	2	長町武家屋敷跡界隈	加賀城下町の侍について(居住地・身分など)
646	3	長町武家屋敷跡界隈	長町界隈について(町の成り立ち、うつりかわり等)
647	4	長町武家屋敷跡界隈	加賀藩の武士階級
648	5	長町武家屋敷跡界隈	武家屋敷の土堀・石垣
649	6	旧藩士高田家跡	全体解説
650	7	旧藩士高田家跡	仲間の身分と役割
651	8	旧藩士高田家跡	長屋門について(概要、歴史、建築など)
652	9	旧藩士高田家跡	厩について/馬の世話をする奉公人たち
653	10	旧藩士高田家跡	平士の組織/職務/収入
654	11	旧藩士高田家跡	平士の外出と供揃い
655	12	足軽資料館の説明	入口の説明
656	13	高西家	高西家全体解説
657	14	高西家	足軽とは/勤務/生活/服装
658	15	高西家	吉報は玄関から/気軽な江戸勤番/お金次第で足軽になれた/足軽組地は桃の組
659	16	高西家	足軽の俸禄/加賀騒動の主役は足軽出身だった
660	17	高西家	足軽の住居
661	18	清水家	清水家全体解説
662	19	清水家	玄関の間/座敷/庭
663	20	清水家	厠
664	21	清水家	鍵の間/納戸
665	22	清水家	あま
666	23	清水家	早道飛脚の通路
667	24	清水家	茶の間/流し

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
668	25	清水家	足輕の武術/教義
ビジット GIFU 協議会			
669	1	岐阜城山上部	国史跡 岐阜城跡（ロープウェイ山頂駅付近）1 山上部解説
670	2	岐阜城山上部 岐阜城山麓部	国史跡 岐阜城跡（ロープウェイ山頂駅付近）2 史跡の概要解説
671	3	岐阜城山上部 岐阜城山麓部	国史跡 岐阜城跡（ロープウェイ山頂駅付近）3 日本遺産解説
672	4	岐阜城山麓部	国史跡 岐阜城跡（過去の整備地区内）2 山麓城主居館跡解説
673	5	岐阜公園内	御手洗池
674	6	岐阜城山上部	石垣・井戸跡
675	7	岐阜城山上部	天守台と石垣
676	8	岐阜城山上部	井戸跡
677	9	岐阜城山上部	伝 下台所跡
678	10	岐阜城山上部	稲葉城趾之図
679	11	岐阜城山上部	伝 二ノ門・下台所跡
680	12	岐阜城山上部	堀切（切通）
681	13	岐阜城山上部	伝 馬場跡
682	14	岐阜城山上部	伝 一ノ門跡
683	15	岐阜城山上部	伝 太鼓櫓跡
684	16	岐阜城山麓部	庭園跡と金箔飾り瓦
685	17	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 1 二階堂行政
686	18	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 2 長井氏
687	19	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 3 斎藤道三
688	20	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 4 斎藤義龍
689	21	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 5 斎藤龍興
690	22	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 6 織田信長
691	23	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 7 織田信忠
692	24	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 8 織田信孝
693	25	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 9 池田元助
694	26	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 10 池田輝政
695	27	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 11 豊臣秀勝
696	28	岐阜城山上部	岐阜城の歴代城主 12 織田秀信
697	29	岐阜公園内	岐阜城の井戸
698	30	岐阜公園内	信長と天下布武
699	31	岐阜公園内	板垣退助遭難の地
700	32	岐阜公園内	山内一豊・千代婚礼の地

環境省中部地方環境事務所

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
701	1	伊勢志摩国立公園ストーリー	-
702	2	英虞湾（空撮風景）	-
703	3	横山園地	木もれ日テラス
704	4	横山園地	そよ風テラス
705	5	横山園地	みはらし展望台
706	6	横山園地	あご湾展望台
707	7	横山園地	横山天空カフェテラス、英虞湾リアス海岸、真珠・青のり養殖、遊歩道、照葉樹、桜、石神社
708	8	音無山	遊歩道（桜並木）
709	9	二見浦	二見興玉神社、夫婦岩
710	10	朝熊山	展望台、遊歩道、蛇紋岩植物、天空のポスト、金剛證寺、八大竜王社、極楽門、卒塔婆群、連間の池
711	11	神島	神島灯台、『潮騒』、カルスト地形、アサギマダラ、サンバの渡り
712	12	答志島	水軍史跡
713	13	菅島	菅島灯台、しろご祭、遊歩道
714	14	坂手島	
715	15	鳥羽展望台	
716	16	青峯山	正福寺、社寺林、灯明岩、護摩岩、伊雑宮
717	17	日和山	展望台（桜）、的矢湾
718	18	城山公園	九鬼水軍・鳥羽城
719	19	樋の山	金刀比羅宮
720	20	賢島	サミット、真珠、クルーズ
721	21	安乗崎灯台	灯台、的矢湾、安乗文楽
722	22	登茂山	夕景、シーカヤック、真珠・リ養殖
723	23	大王崎灯台	波切の石工、絵かきの町、鯉節
724	24	金比羅山	爪切不動尊
725	25	鵜倉園地	展望台（かさらぎ、見江島、あけぼの、たちばな）、海食崖、リアス海岸、養殖筏・いけす、見江島、親子橋、八柱神社、恋人の聖地
726	26	南海展望公園	海跡湖、リアス海岸
727	27	中ノ磯展望台	真珠・鯛養殖
728	28	伊勢志摩国立公園の特徴（要約）	
729	29	伊勢志摩国立公園の特徴	
730	30	伊勢志摩国立公園の地形・景観（要約）	

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
731	31	伊勢志摩国立公園の地形・景観	
732	32	伊勢志摩国立公園の文化（要約）	
733	33	伊勢志摩国立公園の文化	
734	34	伊勢志摩国立公園の食（要約）	
735	35	伊勢志摩国立公園の食	
736	36	伊勢志摩国立公園の動物（要約）	
737	37	伊勢志摩国立公園の動物	
738	38	伊勢志摩国立公園の植物（要約）	
739	39	伊勢志摩国立公園の植物	
740	40	伊勢志摩国立公園のアクティビティ（要約）	
741	41	伊勢志摩国立公園のアクティビティ	
742	42	伊勢志摩の歴史、地域性（要約）	
743	43	伊勢志摩の歴史、地域性	
744	44	伊勢神宮（要約）	
745	45	伊勢神宮	
746	46	真珠（要約）	
747	47	真珠	
748	48	海女（要約）	
749	49	海女	

Mt.6 多言語解説整備協議会（妙高赤倉）

【施設名】7つの温泉地温泉の紹介文

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Myoko is home to seven natural onsen, or hot springs, all of which have unique colors and qualities. Consisting of Akakura, Shin Akakura, Ikenotaira, Suginohara, Myoko, Tsubame and Seki onsen, the seven onsen have nurtured a rich bathing culture which visitors can enjoy during their stay. The onsen are located in close proximity to each other, making them ideal for a day's onsen hopping — with just a quick five- to ten-minute drive between each of them.

With such a variety of onsen available, guests can learn to appreciate their differences. The easiest way to differentiate between them is to look at the water's color as well as the health properties and benefits each one claims.

Akakura, Shin Akakura, Suginohara and Myoko onsen are all characterized by their clear water, which is said to aid everything from regulation of blood circulation to healing cuts and wounds, thanks to the presence of minerals and sulphates including calcium and magnesium. Ikenotaira onsen features two types of water, both clear and black, the black water minerals known for soothing dry skin problems like eczema. All the way up at Tsubame onsen you'll find cloudy white water, which is rich in sulphates, sulfur and bicarbonate, and said to prevent high blood pressure. Lastly, Seki onsen is known for its red water, which is given its rusty-brown tinge by a high concentration of iron.

It's rare to see so many different types of onsen located in one convenient location, making Myoko a major draw for avid fans of onsen bathing. The scenery around Myoko is another reason to come — these onsen are located amidst the gorgeous natural scenery of Niigata. The magic peaks during autumn when the leaves turn color and the mountains are filled with a rainbow of hues, and during the summer, when the sun is shining and everything turns a lush, vibrant green.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

他にはない独特な場所である妙高市は、図らずも 7 つの天然温泉の所在地で、そのすべてが独特の色と泉質をしています。赤倉温泉、新赤倉温泉、池の平温泉、杉ノ原温泉、妙高温泉、燕温泉、関温泉からなるこの一帯には豊かな温泉文化があり、訪れた人々は滞在しながら楽しむことができます。また、これらの温泉はそれぞれ距離が近いので、すべて 5 分か 10 分のちょっとしたドライブで行き来することもできます。

これほど変化に富む温泉が集まっているので、訪問客は、異なる泉質やお湯の色など、それら 7 つの主要なスポットの

ユニークな違いが理解できるようになるでしょう。これらの温泉の違いの一番簡単な見分け方は、それぞれのお湯の色や健康面の特質や効能で識別する方法です。

赤倉温泉、新赤倉温泉、杉ノ原温泉、妙高温泉は、すべて透明なお湯が特徴で、カルシウム、マグネシウム、硫酸塩その他のミネラルのおかげで、血流の正常化から切り傷や外傷の癒しまでのすべてに効能があります。池の平温泉は、透明のお湯と黒いお湯の 2 種類のお風呂があり、黒いお湯のミネラルは、湿疹といった乾燥肌による問題を癒すことで知られています。燕温泉の方まで登ると、硫酸塩、硫黄、重炭酸塩を豊富に含む白く濁ったお湯があり、高血圧に効果のあることが知られています。最後に関温泉は、高濃度の鉄分を含むため、うっすらと赤褐色を帯びた赤いお湯で知られています。

熱烈な温泉好きにとって妙高市は、これほど多くの異なる種類の温泉が都合よく一カ所に集まる珍しい土地であり、ぜひとも訪れるべきスポットです。妙高市周辺の景色は、訪れるべきもうひとつの理由です。これらの温泉が、新潟の素晴らしい自然の景色のなかに収まっているからです。特に、木々が色づき山々が色とりどりの紅葉で染まる秋や、日が輝きすべてが鮮やかで豊かな緑になる夏などの季節は最高です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】温泉ソムリエ家元がすすめる「七五三の湯」の楽しみ方 / 温泉ソムリエの入浴五ヶ条(how to take a bath)

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Such is the variety of bathing options, Myoko has its own resident onsen sommelier, Toma Kazuhiro, who provides visitors with a helpful guide to enjoying onsen in the area and how to properly bathe. Worth a look for both novice and onsen regulars, these tips can help you make the most of your onsen experience.

According to Toma, an easy onsen rule to follow is the Japanese concept of ‘*shichi-go-san*’ or ‘seven-five-three’, which is usually a traditional rite of passage for children wishing them both health and luck while they are growing up. In terms of onsen, the seven-five-three formula refers to the seven onsen in the area, the five different qualities of onsen, and three unique water colors that can be found.

Toma suggests keeping five things in mind while bathing. Firstly, start and end your onsen time with a glass of water, as it is important to stay hydrated. Secondly, do not go straight into the onsen. Make sure you soak yourself down with *kakeyu* (adjusting your body to the water’s temperature by pouring onsen water onto your body) before heading in. Start with your feet first, or the farthest point from your heart as you temper your body with the water. Thirdly, place a wet towel on your head when you are in the onsen — this can stop you from feeling faint or dizzy from the heat. The fourth tip is to break up your bathing into smaller intervals rather than bathing for one long period of time. By doing this you won’t feel as faint, and you’ll be able to enjoy the onsen to its fullest. The suggested amount of time if the water is around 42°C is a three minute bath followed by a three-minute break, and this process should be repeated a total of three times. At 40°C, Toma suggests you bathe for five minutes followed by a three minute break, then back in the water for eight minutes, followed by another three-minute break, and then finish off with a final three minute soak.

Finally, you don’t always have to put your full body into the onsen. It can be just as beneficial to soak your legs from your knees down, alternating between hot and cold water to help get over symptoms of fatigue. Toma suggests using the *kakeyu* technique by pouring water onto your legs and feet for three minutes followed by pouring cold water over the same area three to five times. Alternatively, you can also soak your entire body in an onsen for three minutes followed by applying cold water to your legs and feet for one minute.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

種類に富んだ温泉がある妙高市には、市内在住の温泉ソムリエ、遠間和広氏がおり、訪問客はこの地域の温泉の楽しみ方や正しい入浴法など、ためになる案内が受けられます。温泉初心者の方にも常連の方にも最高の温泉体験を楽しんでもらえるよう、いくつかのアドバイスをご紹介します。

遠間氏によれば、簡単に従うことのできる温泉のルールは、日本の「七五三」の概念です。これは通常、子供たちが通過する伝統的な儀式で、成長過程で健康と幸運を願って行うものです。温泉で言うならば、この概念は、7つの温泉があり、5つの異なる泉質があり、3つの独特なお湯の色があるこの地域に当てはまっています。このルールはまた、お湯のなかでどのように入浴時間を過ごすかというガイドとして使うこともできます。

遠間氏は入浴時に頭に入れておくべき5つのコツを提案しています。まず、温泉に入る前後に、コップ1杯の水を飲むことを勧めています。脱水を防ぐことが大切だからです。2つ目に、温泉に直行してはいけません。浸かる前に、かけ湯をすることが重要です（温泉のお湯を体にかけることで、お湯の温度に体を慣らします）。足の先や、心臓から遠い場所から始め、体をお湯に慣らしていきます。3つ目に、温泉に浸かっているときには、暑さでふらついたりのぼせたりするのを防ぐために、濡れたタオルを頭に置きます。4つ目は、一度に長く浸かるのではなく、短い時間に分けて入ります。そうすることで、それほどのぼせたりすることなく温泉を目いっぱい楽しむことができます。お勧めの時間は、お湯が42℃くらいであれば、3分入って3分休み、というのを全部で3回繰り返します。お湯が少しぬる目の40℃であれば、5分入って3分休み、また8分浸かって3分休み、最後に3分浸かって終わります。

最後に、必ずしも肩まで温泉に浸かる必要はありません。膝から下の脚を熱いお湯と冷たいお湯に交互に浸けるだけでも同様の効果が得られ、疲労を取り除くことができます。遠間氏は、脚や足先に3分お湯をかけてから、3分から5分冷たい水をかけるという、かけ湯の方法を勧めています。また、体全体を温泉に3分間浸けてから、膝から下の脚や足先に冷たい水を1分間かけるのもよいです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】日本の滝百選 苗名滝
【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Listed as one of the 100 best waterfalls in Japan, Naena Taki Waterfall is a must-see spot if you're in the Myoko area. Just a short fifteen-minute hike from the parking area, the waterfall is surrounded by the area's lush nature and scenic mountains. The leisurely hike leading up to the main waterfall area takes you over picturesque suspension bridges and between stunning foliage all the way up to the waterfall. The fall has a drop of 55 meters and is at its best during mid-October when the autumn leaves start to change color.

After you've made your way back down, you'll find a café and restaurant in the rest area. Here you can eat *nagashi somen* (flowing somen noodles) made using fresh mountain water during the warmer months. When the weather cools down, seasonal specialties such as *kinoko* mushroom *soba* are available. If you're in a rush, opt for a soft cream cone for the road. Please note that the waterfall is closed to visitors from early December to mid-April.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本の滝百選の一つに挙げられる苗名滝は、妙高エリアにいるなら絶対に見ておくべき場所でしょう。パーキングエリアの入り口からほんの 15 分ほどハイキングを楽しむと、妙高高原の素晴らしい自然と美しい山々に囲まれた滝が見えます。滝の本流エリアにたどり着くまでの気軽なハイキングの道中の景観も綺麗で、それだけでも行ってみる価値があります。絵のように美しい吊り橋があり、滝までずっと見事な緑の景色が続きます。滝は 55 メートルの高さを落下するもので、10 月半ばには木々の葉が染まり始める秋の紅葉スポットとしても人気があります。

ハイキングから戻ってきたあとは、休憩エリアに立ち寄ることもお忘れなく。パーキングエリアの中にはカフェやレストランがあります。ここでは、夏には新鮮な山の水を使った流しそうめんを楽しむことができます。気候が涼しくなれば、きのご蕎麦など季節の美味しい料理を楽しむことができます。時間がないときには、出発前にソフトクリームを買い求めるのもいいかもしれません。滝は 12 月初旬から 4 月中旬まで一時的にアクセスできなくなりますので、旅行される方はご注意ください。

本事業以前の英語解説文

なし

578

No.4 Sasagamine Plateau

<妙高・赤倉、新潟>

【施設名】笹ヶ峰高原

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

If you really want to immerse yourself in nature, head on up to Sasagamine Plateau where vast stretches of scenic terrain await. The Sasagamine Dam, situated between the mountains, is the starting point for many trekking trails and what Japanese people call ‘therapy roads’ – specially designated areas that stimulate the five senses and are said to have physiological and psychological benefits for visitors. The Sasagamine Plateau sits 1,300 meters above sea level and includes camping grounds and even a cattle farm over its area. The winding road leading up to the area offers so many scenic viewpoints you’ll want to allow extra time for all the photo opportunities. Due to the plateau’s high altitude, it seems at times like you are hanging out above the clouds. The result is that the area enjoys its own microclimate and it is even said that there is no rainy season on the plateau. Still, pack a raincoat just in case!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

自然にどっぷりと浸かる経験がしたいなら、笹ヶ峰高原へ向かってみましょう。広大で美しい地形があなたを待っています。主要なスポットの一つは山々の合間に位置する笹ヶ峰ダムで、この周辺に数多くあるトレッキングコースや日本語でいう、セラピーロード（専用の道で、五感を刺激し身体にいい影響をもたらすとされている道）の始点となっています。海拔 1300メートルに位置する広々としたこのエリアにはキャンプサイトまであり、その先の牧場まで出かけて観光の続きを楽しむことができます。このエリアまでの曲がりくねった道のりも特筆すべきポイントで、思わず車をとめて写真を撮りたくなるような美観ポイントがたくさんあります。笹ヶ峰高原のほとんどの部分が標高の高いところにあり、時には雲の上でくつろいでいるような気分になれます。このあたりでは天候までもが標高が低いエリアとは異なっており、笹ヶ峰では梅雨がないと言われるほどです。ですが、万が一に備えてレインコートをお忘れなく。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】赤倉温泉大野天風呂「滝の湯」

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Offering visitors a unique *rotenburo* (outdoor onsen) experience in the heart of Akakura Onsen, Taki no Yu is one of the most popular bathing spots in the area. With outdoor waterslides that are active during the warmer months and its swimsuit-friendly attitude (most onsen expect you to bathe naked) this is a rare family-friendly onsen. There are also spacious individual male and female bathing areas which feature relaxing waterfalls. The natural spring water that flows into this onsen contains many minerals that are said to help regulate blood circulation and relieve dry skin. Do note that the facility closes during the winter, usually from early November until the middle of April.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

赤倉温泉の中心部でユニークな露天風呂を体験してみましょう。滝の湯はこのエリアで人気の温泉スポットの一つです。家族みんなで楽しめるこの温泉には、夏季に利用可能な屋外のウォータースライド（ここでは水着着用可です）や、夏季以外でも楽しめる、小さな滝が設置されている男女別の広い露天風呂があります。温泉には天然の水が流れており、血行を良くし、乾燥肌などの症状を改善するのに効果がある多くのミネラル分を含んでいます。この温泉施設は通常 11 月初旬から 4 月中旬まで休業していますが、その他の時期は営業しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】岡倉天心・岡倉天心六角堂

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Dedicated to the late art scholar Okakura Tenshin (1863–1913), who made an enormous contribution to the development of art in modern Japan, this peaceful spot was his home until he passed away in 1913. The area is now preserved as a serene garden where visitors can read about the significant contributions he made to his country.

Perhaps one of Okakura's most important achievements was the co-founding of the Tokyo School of Fine Arts (known today as Tokyo University of the Arts) which he later came to lead. Along with teaching many students who went on to become leading artists, he also published *The Book of Tea*, which became a popular read with Western audiences interested in learning more about Japanese tea culture. He was also placed as head of the Asian division at the Museum of Fine Arts in Boston, where he was in charge of Chinese and Japanese works at the museum.

Although Okakura was originally from Yokohama, his love for the Myoko area and decision to live here during his later years have made him a proud adopted son of the region, making this spot a true cultural landmark enjoyed by both locals and visitors from abroad.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本美術の発展に多大な貢献をした日本の美術研究家、岡倉天心に捧げられたこの静かな場所には、1913年に亡くなった天心が晩年に暮らした山荘があり、庭園では天心の母国に対する素晴らしい功績に関する資料を閲覧することができます。

恐らく、岡倉天心による最も重要な功績の一つは、国立東京藝術大学の前身である東京美術学校を設立した人物の一人であり、のちにこの美術学校の校長となったことでしょう。後に著名になった多くの学生たちを教えたことのほかに、天心はまたニューヨークで『茶の本』を出版し、日本の茶文化についてもっと知りたいと考える西洋の人々の間で広く読まれました。また、ボストン美術館のアジア部門長にも任命され、博物館が所蔵する中国と日本の美術品を担当しました。

天心はもともと横浜出身ですが、天心が妙高エリアを愛して晩年にここで暮らすことを決意したことにより、天心自身とこの場所は、地元の人々と海外からの観光者の両方に開かれた、本当の意味での文化的ランドマークとなるに至ったのです。

本事業以前の英語解説文

なし

581

No.7 Seki River Border Checkpoint

<妙高・赤倉、新潟>

【施設名】北国街道 関川の関所 道の歴史観
【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

During the Edo period (1603–1867), the shogun controlled *sekisbo*, or checkpoints, on all the highways that lead in and out of Edo (modern day Tokyo). These checkpoints were crucial areas where officials would regulate trade and search all travelers to check for weapons, rebels and criminals.

At the Hokkoku Kaido History Information Center, you can learn about these unique checkpoints and the role they played in history. There are artifacts with detailed descriptions in Japanese and English featured in the exhibition hall, as well as a tour through the reconstruction of a checkpoint, where you can walk around and re-enact a day at the Seki River border. The information center even offers fun props where visitors can dress up in *kimono* and traditional-style headpieces. All this combined with the detailed models in each room give you a vivid look at how things played out back in the Edo era.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

江戸時代（1603～1867年）、将軍（軍の司令官）は江戸、現在でいう東京に至るすべての街道に置かれた関所（境界の検問所）を管理していました。これらの関所は非常に重要な場所で、交易を規制し、武器の所持や謀反人、犯罪人を取り締まるため、すべての旅人を調べました。

北国街道歴史情報館では、これらのユニークな関所が当時どのように運営されていたか、展示ホールの詳しい説明や工芸品によって知ることができます。また、復元された関所を見学するツアーでは、歩き回って関川の関所の一日を再現することもできます。情報館は楽しい企画も用意していて、訪問者は着物や伝統的なスタイルのかつらで装いを整えそのエリアを歩き回ることができます。各部屋には生きているような人形も置かれていて、江戸時代にはどんな風にもものが繰り広げられていたか目の当りにすることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】妙高高原スカイケーブル
【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Take a ride on the Myoko Kogen Sky Cable and travel up into Mt. Myoko, the tallest mountain in the area. A popular skiing spot during the winter months, there's a lot to explore regardless of the season. From lengthy trekking trails and panoramic lookout points to a restaurant with great views, you'll get to see the best of the Niigata area from this one spot.

On clear days, the scenic plateau allows you to see as far north as Hotokegamine in Nagano and south towards Mt. Azumaya, and even Sado Island in the distance. When the weather is overcast down in Myoko, it is sometimes possible to pass through the clouds in the sky cable, giving you sunny weather and gorgeous vistas of white clouds unfolding for miles.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

妙高高原スカイケーブルに乗り、この緑が生い茂る地域で最も標高の高い妙高山へ昇ります。冬期はスキーで人気のある山ですが、他の季節も、妙高の山頂まで登れば、いろいろと探索するものがあります。長い登山道や景色が一望できる展望台から、素晴らしい眺めのレストランまで、この要所から新潟一帯の最高の眺めがご覧になれます。晴れた日には、景色の良い高原の向かいには、遠く北の長野の仏ヶ峰が見え、南は四阿山の方へ延び、最も晴れ渡った時には佐渡島も見えます。眼下の妙高市が曇りに覆われている時、スカイケーブルの頂上からは、雲の上が見渡せ、太陽が輝いて白い雲が何 km も広がっているような素晴らしい景色に出会えることもあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】雪と大地が育んだ妙高の味（かんずり、岩の原ワイン）

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

One of the best things about exploring a new area — particularly in Japan — is trying the local specialties. The Myoko area of Niigata is no exception: the region is famed for its mountain vegetables, top quality rice and locally produced *sake* and wine. Since the area also sees a significant amount of snow in the winter, many food items are actually stored, exposed and preserved in snow, giving them unique qualities and flavors that are not likely found in other areas of Japan.

One of the specialties to come out of the area is a fermented chili paste called *kanzuri*, which benefits from the region's chilly winter conditions. Typically fermented for three to six years, this popular paste is made up of a mix of salt-pickled *togarashi* peppers that have been exposed to snow, *koji* yeast and *yuzu* peels. The result is a spicy, citrusy paste that packs an umami punch and spices up everything from *ramen* to *yakitori*.

The city of Joetsu near Myoko is home to the Iwanohara Vineyard, one of the oldest wine producers in Japan, which has over 125 years of history to its name. The vineyard was founded by Kawakami Zenbei, widely known as the father of Japanese grapes and wine, and was where he grew unique grapes for wine including his signature Muscat Bailey A, a mix of both American and European grapes. Wines produced at this vineyard are made with the fruit of vines that have been specially cultivated for the environment around Niigata, which is situated between the sea and mountains. Over the years, wine connoisseurs from around the globe have taken notice of these unique Japanese wines that have emerged from this local vineyard.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

見知らぬ場所を探索する時に最高なのは、地元周辺の特産品を食べて味わうことです。新潟の妙高エリアもその例外ではなく、豊富な山菜や一流の米の他にも、地元産の酒やワインなどといった人気の特産品が溢れています。また、この地域は冬は豪雪に見舞われるため、多くの食べ物が雪の中に貯蔵され、さらされ、保存され、日本の他のどの地域にも見られない独特の品質や風味を持つようになります。

特にこの地域で生産され、この雪の作用の恩恵を受けている最も有名な食品の一つは、発酵させた唐辛子のペーストで、かんずりと呼ばれています。一般的に約 3～6 年発酵されるこの人気のペーストは、雪にさらし、麴の酵母菌と柚子の皮を混ぜた、塩漬けの唐辛子から作られます。ピリツとして柑橘系の風味があるものに仕上がりに、旨味が詰まっています。香辛料としてラーメンや焼き鳥などあらゆるものによく合います。

また、妙高市に近い上越市には、日本でも有数の古いワイン生産者であり、125 年以上の歴史を持つ岩の原葡萄園があります。葡萄園は「日本のブドウとワインの父」として広く知られる川上善兵衛が創業し、アメリカとヨーロッパのブドウを交配したマスカット・ベリーA と呼ばれる独特の品種など、独自のワイン向けのブドウを育てました。この葡萄園で生産されるワインは、海と山に挟まれた新潟周辺の環境に合わせて栽培された特殊なブドウから作られています。ここ数年で、地元新潟のブドウ園から生まれたユニークな日本ワインに、世界中のワイン通たちが注目するようになってきています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】バスで手軽に楽しむ妙高名所散策

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Myoko's local buses, which stop at many must-see spots in the area, offer an easy way to explore the region. In fact, these buses are the perfect way to sightsee as they give visitors the freedom to hop on and off at their leisure wherever they wish to explore.

The Myoko city buses operate three lines that are ideal for sightseeing: the Akakura, Suginosawa and Seki/Tsubame Onsen lines. These buses stop at all the main onsen spots with services every few hours, allowing you to jump back on and head to your next destination. Whether you prefer to onsen-hop your way through Myoko, or take in a few of the impressive walking trails, it's an easy way to get around without a car. Although these buses are convenient, do note that they don't run at a high frequency, so it's recommended you plan your journeys in advance using the timetables to avoid lengthy waits. Visitors might also want to check out the Myoko Sanroku line, which operates between April 29th and November 4th every year. This route is designed especially for visitors and hits most of the popular seasonal destinations in the area.

Two-day tickets let visitors hop on and off these four lines as many times as they like over a period of 48 hours. Tickets can be purchased on the bus or at the local tourism office for ¥1,000 per adult and ¥500 per child. The buses stop at two of the main railway stations in the area Myoko Kogen and Sekiyama Station, making it convenient for travelers arriving or leaving by train. The Akakura and Suginosawa line both stop at Myoko Kogen Station, and the Myoko Sanroku line starts and ends at Sekiyama Station.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

自分で車を運転しなくても、地元のバスを利用することで妙高エリアの多くの見逃せない観光スポットを簡単に見て回るすることができます。実際、好きな場所で自由に乗り降りできるこの地元のバスを利用する事は、このエリアを巡る観光客の方にとって最適な方法です。

妙高市には赤倉線、杉野沢線、関/燕温泉線の3車線のバスが運行しており、まさに観光にぴったりです。これらのバスは全ての主要な温泉スポットで止まり、さらに数時間毎に行き来しているので、好みの場所を訪れ、そしてまたバスを利用して次の目的地に向かうことができます。妙高エリアの温泉巡りをするにしても、いくつかの素晴らしい散策コースを歩くにしても、この地元のバスの利用はレンタカーを借りたり、自分で車を運転する手間がはぶけて簡単な方法だと言えます。これらのバスは非常に便利なのですが、運行している本数はそれほど多くはないのでご注意ください。時には次のバスが来るまで停留所でしばらく待たなくてはならないかもしれません(時刻表で正確な時間を確認してください)。そして

妙高山麓線は、このエリアで最も人気のスポットを訪れる観光客の方々向けに特別に運行しており、営業しているのは毎年4月29日から11月4日までになりますのでご注意ください。

2日間利用可能なバスのチケットを販売しており、連続した2日間の中で上記の4車線のバスを使って好きな場所で何回でも乗り降りすることができます。チケットは大人1人¥1,000、子供1人¥500で、バスの車内や妙高市観光協会で購入可能です。鉄道でのアクセスについては、上記のバスが妙高高原駅や関山駅といった主要となる2つの駅に接続しているので、鉄道で妙高エリアへやって来る人々のスタートポイントとして利用しやすくなっています。赤倉線と杉野沢線の列車は両方とも妙高高原駅に停まり、妙高山麓線の列車は関山駅を始発または終点としています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】笹ヶ峰—セラピーロード
【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Therapy roads, also known as ‘relaxing trails’, are a growing trend in Japan; the area around Myoko is a great place to experience them first-hand. Therapy roads are short trails through forest areas and are designed to stimulate the five senses. They are also a great way to explore the area without having to hike all the way up any of the surrounding mountains. Every therapy road excursion should bring about a sense of peace and relaxation, unlike a vigorous workout. Converts claim a walk through one of these trails while taking in the fresh air and greenery is one of the best forms of recreation you can get in the area. They make the perfect pathways for families with younger children, or elderly people keen to get back to nature. These paths are often detailed on a large map at the start of a trail area, so you should be able to find them easily when you are making your way through, and your relaxation won’t be interfered with the stress of getting lost.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

新潟の自然の魅力をゆったりと満喫できる妙高の数多くのセラピーロード、または「癒しの道」として知られるコースを歩いてみましょう。妙高のこれらの様々な短いコースは森林の中に整備されており、周囲の山々を登山せずに探検することのできる素晴らしい散策路です。「セラピーロード」と名付けられているように、これらのコースは健脚者向けというよりも、ゆったりとリラックスするためのものです。緑の中で新鮮な空気を吸いながらこれらのコースを歩く事が、このエリアで体験できる最高のセラピーの 1 つとなっています。小さな子供連れのファミリーや、年配の方と一緒に場合でも楽しめる最適なコースもあります。これらのコースは散策コースエリアの出発地点にある大きな地図に示されていることが多いので、リラックスしている中で道に迷ってしまう、といった心配もないでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】アクティブ体験の各紹介（キャンプ場・ジップライン・MTB）

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Although Myoko is best known for its amazing skiing during the winter season, the area is an ideal place to visit year-round thanks to a wealth of exciting outdoor activities and events scheduled throughout the year.

Ziplining, tennis and mountain biking are all popular during the warmer months, and summer is also a great time for outdoor camping at one of the area's many grounds. Autumn sees a marathon pass through from Nagano to Myoko, and you'll see a lot of training taking place in the lead-up to the event. Runners consider the region the ideal place for training because the weather is less humid than in other parts of the country, and the high altitude means that athletes create more red blood cells, which help enhance performance when running at a lower altitude. The spacious terrain is well suited to golf courses, so the area has become a popular spot for players year-round.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

妙高は、冬季の間に素晴らしいスキー環境が揃っていることで最も有名ですが、非常に多くのわくわくするような野外活動や行事が一年中予定されていますので、実際はこの地域は年間を通じて訪れるのに理想的な場所なのです。暖かい季節には、ジップライン、テニスそしてマウンテンバイクも人気で、妙高周辺には利用できるキャンプ場がたくさんありますので、夏は野外キャンプに絶好の時期です。秋にはこの地域で長野から妙高へのマラソン大会が行われるため、夏から秋かけて多くのトレーニングが行われます。この地域は湿度が低い上に、高度が高いためアスリートはトレーニングによってより多くの赤血球を作り出すことができ、そうすることで今度は高度が低い場所でランニングを行う際のパフォーマンスを向上するのに役立つため、ランニングやトレーニングに理想的な場所です。この一帯は広大で、数多くのゴルフ場も作られていますので、この地域はここ数年ゴルフ愛好者に人気のスポットにもなっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】妙高 3 つの酒蔵見学

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Niigata produces some of the best *sake* in Japan thanks to an overwhelming supply of high-quality rice from the fertile local farmland. Myoko is home to three wonderful breweries: Kiminoi, Chiyo no Hikari and Ayu Masamune.

A big part of the *sake* process in this area is the combination of snow, water and rice, which really brings *nihonsbu* (rice wine) together. The brewing process traditionally takes place in the winter months when breweries receive recently harvested rice. The grain is then polished down to a small percentage of the initial size, which helps produce the highest quality *sake*. In the case of Kiminoi *sake* brewery, they use a particular grain of rice that has been polished down to 35 percent. After the polishing process, the rice is soaked and steamed in large pots where it is then carefully mixed with *koji* for the fermenting process. Once the *sake* is made, it is stored in large crates before being bottled to go on sale.

Many breweries offer tours where visitors can experience first-hand how *sake* is produced, and buy bottles of Japan's national drink directly from those who create it.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

圧倒的な生産量の高品質米と肥沃な栽培環境により、新潟県は日本でも有数の日本酒の産地です。妙高市には、君の井酒造、千代の光酒造、鮎正宗酒造という3つのすばらしい醸造所があります。

この地域の醸造では、主に雪、水、米という要素が組み合わさることで、一体感のある日本酒の製造を可能としています。醸造所は米を受け取ると、それを元のサイズの数パーセントの大きさになるまで磨き上げることで、最高品質の日本酒を生産します。君の井酒造の場合、特定の米を35%の大きさまで磨いて使用します。精米後は、浸漬し、大きな容器で蒸米され、その後、発酵プロセスにおいて麴と丁寧に混ぜ合わされます。日本酒が出来上がると、貯蔵タンクで熟成された後販売用に容器詰されます。

多くの醸造場は訪問者向けにツアーを行っており、それは日本酒を製造見学ができ、作り手から直接日本酒を購入することができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】アパリゾート上越妙高 イルミネーション

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

You don't have to wait for the holiday season to get your illuminations fix. At Apa Hotels & Resorts Joetsu Myoko, you can enjoy their annual Apallusion light displays, which take place between the end of June to August and again between September and mid-November. Set up along the spacious grounds surrounding the resort, these wow-inducing light displays and projection mapping shows continually surprise guests. A stroll through the area takes approximately half an hour, but you can easily lose track of time as you make your way through the various light-themed zones that range from sprawling constellations and a planetarium, to a zoo of exotic animals and a colorful representation of Mt. Fuji. Apallusion makes a great spot for a romantic evening stroll or an attraction to entertain the whole family.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

イルミネーションを楽しむのに、クリスマスシーズンを待つ必要はありません。アパホテル&リゾート上越妙高では、6月末から8月と、9月から11月中旬にかけての二度にわたり行われる、毎年恒例のアパリュージョン・ライト・ディスプレイを楽しむことができます。このリゾートに面した広大な敷地に沿って設営されたアパリュージョンは、驚嘆の声を誘う光のディスプレイとプロジェクション・マッピングのショーで、滞在客に驚きを与え続けています。このエリアを散策するのにおよそ30分かかりますが、広がる無数の星座やプラネタリウムから、エキゾチックな動物たちがいる動物園や、富士山を模したカラフルな展示物に至るまで、様々なテーマの光のエリアを進んでゆくと、すぐに時間を忘れてしまいそうです。アパリュージョンは家族全員を、あるいは恋人をロマンティックな夜の散策に連れて行くのに絶好のスポットでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】妙高高原ビジターセンター
【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

For those interested in learning more about the natural wildlife of the Myoko region, a visit to the Myoko Kogen Visitor Center is a great place to start. Here you can find a wealth of information on the unique natural wonders to be found in this gorgeous mountainous area, along with insights into its onsen and skiing culture. They've even got a scale model of the area, so you can see where everything is at a glance. The center is located next to Imori Pond, a beautiful stop from which you can head out and explore the nearby nature. Depending on the season, the visitor center also hosts a variety of events from snowshoe trekking in the winter to bird watching and guided walks during the spring and summer.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

妙高地区周辺の在来自然野生生物に興味のある人たちにとって、妙高高原ビジターセンターは最初に訪れるのにつけの場所です。広範囲にわたる情報を提供しているので、妙高の温泉やスキー文化から、この地域の固有の野生生物、山々や動物に至るまでを学ぶことができます。上空の見晴らしの良い地点から、あらゆるものがどこにあるかを見ることができる、この地域の縮小版のレプリカも設置されているのです。またこのセンターはいもり池のすぐ隣にあり、センターを出てももの数分で自然の野外を探索することができます。ビジターセンターは、季節に応じて、冬のスノーシュートレッキングから、春や夏のバードウォッチングや案内付きのウォーキングに至るまで、様々な行事を主催しています。

本事業以前の英語解説文

なし

590

No.16 Nojiriko Lake

<妙高・赤倉、新潟>

【施設名】野尻湖

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Nojiriko Lake is a serene spot where you can enjoy sprawling views of clear water as well as the mountains in the backdrop. Do note that if you're taking a boat out to fish, you can do so only between dawn and dusk, as there is no night fishing from the shore allowed. For some tranquil reflection, paddle out on a stand-up paddleboard or duck-shaped boat to Biwa Island situated in the middle of the lake where you'll find the tiny Uga Shrine. Alternatively, there are also sightseeing boats that go to this small island. The lake is also famous for Naumann's Elephant, an ancient fossil of a tusk accidentally discovered during an excavation in 1962. Visitors can head to the Nojiriko Naumann Elephant Museum situated near the river to learn more about paleontology and these ancient fossils.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

野尻湖は、背景の山々とともに、透明な水の広大な景観を楽しむことのできる場所です。小型のボートを借りて釣りを楽しむ際に、注意していただきたいのは、船で釣りをする場合は、指定時間は夜明けから日没までだということです。夜間の釣りは一切禁止されています。心の安らぎを求めて、パドルサーフィンのボードやアヒルの形のボートに乗って湖の真ん中にある、とても小さな宇賀神社がある琵琶島という小島に行ってみてください。または、この小さな島に行く観光船に乗るということもできます。また、この湖は、1962年の発掘で偶然古代の牙の化石が発見されたことから、ナウマンゾウでも有名です。観光客は川のそばにある野尻湖ナウマンゾウ博物館に出向いて、古生物学やこのような古代の化石についてさらに学ぶことができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】道の駅 あらい

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Michi no eki are popular roadside stations found across Japan and are often great spots to pick up local produce and other locally-made items and souvenirs. This particular one in Myoko is a treasure trove for shoppers and foodies, as it hosts over a dozen different venues you can shop and eat your way around. You can pick up bags of locally grown rice and mountain vegetables, as well as homemade food items including freshly baked bread and *sasa zushi* (sushi spread out on a bamboo leaf). There's also a wealth of souvenirs available including locally-made senbei rice crackers, *kanzuri* pepper paste and coffee beans which have been aged in snow. It's a one-stop-shop for everything you may need from Myoko or Niigata.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

道の駅は人気の道路沿いの駅で、日本全国にあり、地元の生鮮食品やその他の地域で作られた品物やお土産物を買うのに絶好のスポットである場合が多いです。特にこの妙高の道の駅は、10以上の異なった売り場があり、その全てで買い物したり食べたりしながら歩き回れるので、買い物客や食通の方には宝の山のような場所でしょう。ここで、袋に入った地元産の米や山菜から、焼きたてのパンや笹ずしなどの自家製の食品を買うことができます。たくさんの土産物屋もあり、地元産のせんべいから、かんずり、雪の中で熟成させたコーヒー豆などを買うことができます。この道の駅はあらゆる妙高産の、さらに言えば新潟産の欲しいものを一か所で全て買うことができる、最高の場所です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】関山神社

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Erected in the year 708, the Sekiyama shrine is regarded as the center of Mt. Myoko and the birthplace of the area's long and rich culture. Its main building and *kuden* (altar case) are registered as nationally designated cultural properties, as is the bronze bodhisattva statue which sits inside the *kuden* altar. This particular statue is believed to be one of the oldest Buddhas brought from Baekje (one of Korea's three ancient kingdoms) during the sixth and seventh centuries. The current building you see today was constructed at the end of the Edo era.

Every July, this neighborhood hosts the annual Himatsuri festival, which celebrates over 1,300 years of history with the entire community. There are various performances and a beautiful *mikoshi* (portable shrine) is paraded through the area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

関山神社は708年ごろに建立され、妙高の長きに渡る豊かな文化の発祥地と考えられています。この神社は妙高山の中心と考えられていて、神聖な山として信仰の対象となっていました。社殿と宮殿は、宮殿の内部に安置された銅造菩薩立像とともに、国の重要文化財に指定されています。特にこの菩薩像は朝鮮の古代の3つの王国の一つ、百済から6世紀から7世紀の間にもたらされた最古の仏像の一つと考えられています。現在の建物は、江戸時代末期に建てられたものです。

この地域最古の神社の一つで、この地域では毎年夏7月に火祭りが行われ、地域社会全体と共に1,300年以上の歴史を祝います。この祭りの間に、美しい神輿が様々なパフォーマンスとともに、この地域を練り歩きます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】手湯・寝湯

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

At Akakura Onsen you'll find some unique outdoor onsen including a *teyu* (hand bath) and *neyu* (sleeping bath) spot overlooking the picturesque mountains. These two small bathing areas are a great place to test the waters before you head to one of the main bathing areas. The *teyu* is perfect for warming up your hands and increasing blood circulation, while the *neyu* allows you to lie down and relax while soaking the bottom half of your legs and feet. For those in a rush, it's the perfect way to experience the area's onsen waters while benefiting from its unique properties. Water continuously flows from the hot spring tap attached to these two onsen, ensuring the best quality water at all times.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

赤倉温泉には、手湯や寝湯などユニークな屋外温泉がいくつかあり、絵画のように美しい山々を眺めながら楽しむことができます。普通の温泉とは違うこの2つの温泉は、メインの温泉に行く前のお試しにぴったりです。手湯は手を温めて血行を良くするのにうってつけですし、寝湯は足の下半分を湯につけながら寝ころがってリラックスすることができます。時間のない人にとっては、この辺りの温泉水を体験し、その独特の効能を味わうのに最適です。この2つの温泉の湯口からは水が流れ続け、常に最高品質の水を確保しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】赤倉観光ホテル

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

This historic hotel has been around since 1937 and has seen visitors from around the world pass through its doors over the years. Located right on the Akakura Kanko ski slope, it's the ideal place to stay whether you're looking for an easy ski-to-door resort or gorgeous vistas while relaxing in an onsen. You don't have to stay in the hotel to enjoy the views, as the hotel has a spacious terrace restaurant which you can visit at any time of year. With world-class skiing in the winter and local wildlife and gorgeous vistas throughout the rest of the year, the Akakura Kanko Hotel and the surrounding resort area is truly a spot for all seasons.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この歴史的ホテルは1937年の誕生以来、多くの観光客に長年にわたって愛されてきました。まさに赤倉観光スキー場のゲレンデに位置し、スキー場に近いリゾートに行きたい人にとっても、温泉でリラックスしながら素晴らしい景色を楽しみたい人にとっても理想的な場所にあります。1年中いつでも楽しめる広々としたテラスレストランを併設していますので、ホテルに宿泊しなくても景色を楽しむことができます。赤倉観光ホテルは、冬は世界に誇れる粉雪の上でのスキーや、他の季節は地元の野生生物や豪華な景観を年中楽しんだり、まさに全ての季節で楽しめるリゾートです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 autumn season / 雷鳥

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

No matter what time of year you decide to visit, the Myoko area has something for everyone. Renowned for its heavy snowfall and top-notch ski conditions during the winter, the area sees locals and foreigners alike make the trip to Myoko for amazing winter sports. Visitors can try out everything from skiing and snowboarding to trekking in snowshoes and cross-country skiing. Springtime sees the weather warm up and gorgeous flowers bloom in the wetlands — and with the snow melted it's the perfect time for trekking and hiking Myoko's lush trails. When it's well into summer, avid golfers flock to the area to swing into action, and activities such as mountain biking and running make it a popular spot for sporty types. Myoko's Sekiyama Shrine also sees a lot of action during the summer, especially when the Himatsuri Festival is held each July. Autumn is one of the most beautiful times to visit, when the mountains change color with the season's foliage. Don't forget to bring your camera and snap some unforgettable memories at some of Myoko's most picturesque locations. Keep an eye out for raicho, otherwise known as the rock ptarmigan bird, which calls this area home. This endangered species is commonly found in areas of extremely high elevation, making it a rare sighting here.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

どの季節でも、誰にとっても、妙高は一年中楽しめます。冬は、豪雪や最上級のスキー場で有名なこのエリアに、最高のウィンタースポーツを楽しむため多くの地元住民や外国人が訪れます。スキーやスノーボードから、スノーシューズを履いたトレッキングやクロスカントリースキーまで、ありとあらゆるものを楽しむことができます。春は暖かく、初春には湿った土地で美しい花が咲き誇ります。雪が溶けたら、妙高の青々としたトレイルをトレッキングやハイキングするのに最適な時期となります。夏の盛りには、熱心なゴルファー達がこの地に集まってプレーをし、アクティブ派にはマウンテンバイクやランニングなどのアクティビティも人気です。毎年7月の火祭りが開催される時期になると、妙高の関山神社も活気づいてきます。秋は山が紅葉に色づき、最も美しい時期の一つです。妙高の最も美しい場所で思い出に残る写真を撮るためにも、カメラを忘れないようにしましょう。この地域をすみかとするライチョウを探してみてください。この絶滅の危機に瀕している鳥の種は、通常、非常に高い標高地点で見られるため、運がよければ目撃することができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】いもり池

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Stop by the scenic Imori Pond where the water's surface reflects the stunning scenery of the mountains. Inhale the fresh mountain air during a walk around the pond on the easy trekking path, or stop by the restaurant and rest area where you can dine on local specialties including tempura, soba and mochi-topped soft cream. If you're feeling chilly, warm up at the *ashiyu*, or foot bath, next to the restaurant. Also a popular spot for artists, the charming pond area makes an ideal spot for painting or drawing, and you can even bring along a camera to practice your photography skills.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

風光明媚ないもり池に立ち寄ってみてください。背景の山々の息をのむ程に美しい景色を水面が完璧に映し出しています。新鮮な山の空気を吸い込みながら池の周りのトレッキングコースを散策したり、レストランや休憩エリアで、天ぷらやそば、もちをトッピングしたソフトクリームなどの地元の特選料理を楽しむことができます。肌寒く感じたら、レストランの隣にある足湯で温めてください。魅力的な池のエリアは絵を描くのに理想的な場所ですし、カメラを持ち歩いて写真を撮ることもでき、アーティストにとっても人気のスポットです。

本事業以前の英語解説文

なし

Mt.6 多言語解説整備協議会（白馬八方尾根）

【施設名】白馬八方温泉/八方の湯

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Looking at Hakuba Happo-one's Hot Spring through the "Lens of Science"

Hakuba Happo-one attracts a steady stream of visitors keen to benefit from the rejuvenating properties of its natural baths. The onsen (hot spring) water's high alkaline content, which has a pH of over 11, means bathers emerge from the tranquil baths delighted with how smooth and soft their skin feels. But the onsen's appeal is more than skin deep. These hot springs are extremely valuable to science and can teach us a great deal about life on Earth.

Beginning of Life

Scientists believe that the Earth was born approximately 4.6 billion years ago and that life began four billion years ago. At the Tokyo Institute of Technology's Earth-Life Science Institute, researchers study a variety of fields in order to better understand the origins of the Earth and of life itself. A leading hypothesis on the origins of life is the deep sea serpentinite vents theory, which suggests that layers of the hydrocarbons exposed on the Earth's surface and the seafloor reacted with hot water to form organic compounds, which became the basis of life.

Hakuba Happo-one: An Unusual Place on Earth

The serpentinite vents theory is named for the snake-like patterns formed on peridotite rock when it reacts with warm water. Peridotite is predominantly found in the Earth's mantle deep within the planet, but tectonic movements can force it up, exposing it to the air or the seafloor. The Hakuba area has witnessed a great deal of this movement over the course of history, and has one of the largest surface distributions of serpentinite in the world. And thanks to its accessibility, Hakuba has become a leading site for scientific research.

Onsen Similar to a Primordial Environment

Since 2007 a research team from the Tokyo Institute of Technology has focused its attention on the serpentinite exposed on the surface of Hakuba Happo-one's onsen, and since 2010 has continually analyzed the composition of the excavated hot springs. The results showed that the onsen are highly alkaline (pH > 11) and that the hydrogen content is also extremely high, with hydrocarbons such as methane prominent. Moreover, the water quality is similar to that of water that has reacted with serpentinite. Most excitingly, the researchers discovered that although the number of bacteria is much lower at Hakuba than at other hot springs, the bacteria present are able to survive in highly alkaline environments, a trait similar to that of primordial lifeforms. Researchers believe that Hakuba Happo-one's onsen has the same water quality as that which existed four billion years ago, when life first emerged on Earth.

Scientists Around the World with Eyes on Hakuba Happo-one's Hot Spring

It is hoped that continued research of Hakuba Happo-one's hot spring may enable us to understand the beginnings of life on primordial Earth. Another research team at the Earth-Life Science Institute presented their research results on Hakuba Happo-one's onsen in the 2014 publication "Earth and Planetary Science Letters." Additionally, a new research project on the origins of life was started in 2014, with funding from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology's scientific research funds. Scientists from around the world have their eyes on Hakuba Happo-one, which is considered one of the most important places in the world for examining the origins of life.

Pondering the Mystery of Ancient Times

Hakuba Happo-one is said to have the same aquatic environment as existed four billion years ago—and with further studies some of the mysteries of the origins of life on Earth may be solved right here. Why not ponder the mysteries of life on Earth yourselves while taking a soak in a bath at Hakuba Happo-one?

上記解説文の仮訳（日本語訳）

白馬八方温泉を「科学のレンズ」を通して見てみましょう：

美肌の湯として知られる白馬八方温泉は、強いアルカリ性の温泉で pH 値は 11 を越えています。そのおかげで、この温泉はお肌をととも滑らかで柔らかくする効果があります。これがこの地域の温泉の典型的な特徴ですが、科学的見地に立ってみると、白馬八方温泉が非常に貴重で、地球生命の研究にとって重要な意味を持っていることがわかります。

いつ、どこで生命は発生したのでしょうか？

科学者によると、地球は約 46 億年前に誕生し、生命は約 40 億年前に発生しました。東京工業大学地球生命研究所には、様々な分野の研究者たちが集結し、地球と生命の起源を解き明かそうとしています。生命の起源については有力な見方として、海底熱水説があります。この説では、地表や海底に露出したカンラン岩が熱水に反応して炭化水素といった有機化合物を生成し、それが生命の基盤となったと考えられています。

白馬八方：地球上では珍しい地域

岩石表面に蛇柄のような模様があることから名付けられた蛇紋岩は、地球深部のマントルを構成するカンラン岩が地殻運動によって地表面や海底に露出した時に水と反応することで組成されます。白馬地域では蛇紋岩が地表面に露出していることが知られています。実際のところ、白馬の蛇紋岩の地表面露出は世界有数の規模を誇り、交通の便の良さも相まって、この地域は研究者たちの注目を集めているのです。

原始環境に非常に近似している温泉

東京工業大学の研究チームは、2007 年以来、白馬八方温泉地域の地表面に露出した蛇紋岩に着目しています。

そして、同研究チームは、2010 年以降、掘削された温泉の成分分析を継続的に行っているのです。その結果、この地域の温泉は強アルカリ性 (pH > 11) で、水素含有率が著しく高く、メタンなどの炭化水素も含まれることが明らかとなりました。この水質は、蛇紋岩と反応を起こす水質に似ています。さらには、白馬八方温泉に存在するバクテリアは、他の温泉と比べると数自体は非常に少ないものの、強アルカリ性の環境でも生存可能という特徴を有していることも発見されました。これは原始生命体の特徴に似ています。白馬八方温泉の泉質は、地球上に初めて生命が発生した 40 億年前の水質と同様であるとも言えるわけです。

世界中の科学者たちが注目する白馬八方温泉

白馬八方温泉の継続的な研究により原始地球における生命の誕生の仕組みが解明されるのではないかという期待が高まっています。2014 年 1 月 15 日発行の Earth and Planetary Science Letters にて、地球生命研究所の別の研究チームが白馬八方温泉に関する研究の成果を発表しました。それに加えて、生命の起源についての新たな研究プロジェクトが文部科学省科学研究費補助金の交付を受けて 2014 年に開始されました。今、世界中の科学者たちが白馬八方温泉に注目しています。白馬八方温泉は生命の起源について議論する上で、世界で最も重要で、適切な場所と考えられているのです。

太古の謎に思いを巡らせてみましょう

40 億年前と同様の水域環境を白馬八方温泉で目にすることができます。さらには、この水域環境の研究を進めることで生命の起源の謎が解き明かされるかもしれません。太古の謎に思いを巡らせながら湯に浸かるといのも白馬八方温泉への旅の素敵な楽しみ方ではないでしょうか。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】白馬八方温泉/八方の湯

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The water at onsen (hot spring) facility Happo no Yu's open-air bath is very special indeed. A study by the Nippon Onsen Research Institute revealed that the spring has a significantly elevated level of hydrogen concentration. Drinking or bathing in this hydrogen-rich onsen water is said to achieve anti-aging effects.

*You will experience peak hydrogen concentration five minutes after entering the bath: the ppb (parts per billion) you will encounter is 50-60, although at the hot spring's tap that rises to an amazing 120 ppb.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

「八方の湯」の露天風呂（屋外浴場）の湯は大変特別なもので、日本温泉総合研究所の調査によると、温泉水から測定した水素濃度が高いことが裏付けられました。水素の豊富な温泉は、浸かったり飲んだりすることで、アンチエイジング効果が見込めます。

*水素濃度の上昇は入浴 5 分後にピークに達します。

お湯の水素濃度

> 湯口：120ppb / 浴槽内：50～60ppb

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】白馬八方温泉/八方の湯

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Hakuba Happo-one's onsen (hot spring) is an alkaline hot spring flowing from the serpentinite layers near the peak of Mt. Yari, one of the three Shirouma Sanzan mountains. Its colorless, clear hot water has a pH of over 11, making it one of the strongest alkaline hot springs in Japan. Its water removes excessive keratin to stimulate the revitalization of the skin, leaving it soft and smooth.

Research conducted by the Earth-Life Science Institute of the Tokyo Institute of Technology has revealed that due to the water's high temperature, the number of bacteria in Hakuba Happo-one's hot spring is much lower than at other onsen. Furthermore, Hakuba's hot spring water reacts with peridotite, the type of rock comprising the Earth's deep mantle, and forms hydrocarbons, the basis of life. When peridotite is exposed to the seafloor or the Earth's surface as a result of tectonic movement and reacts with the water, it turns into serpentinite.

The water temperatures and the properties at Hakuba Happo-one are thought to be very similar to those of the primordial Earth before the appearance of life, making it an essential place for scientists to examine the origins of life. Here you can also enjoy health-promoting waters from the beginning of time.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

白馬八方温泉は、槍ヶ岳の頂上付近のすぐ南にある蛇紋岩の地層を源流とするアルカリ性のシンプルな温泉です。槍ヶ岳は白馬三山の一峰です。日本で最もアルカリ性の強い温泉のひとつであり、無色透明のお湯の pH は 11 以上にのぼります。お湯には肌の余分なケラチンを落とす若返り効果があるので、柔らかくスベスベになります

東京工業大学地球生命研究所の調査により、白馬八方温泉のお湯に含まれるバクテリアの数が特に低いことが明らかになっています。さらに、お湯は地球深部のマントルを構成するかんらん岩と反応し、生命に必要とされる炭化水素を作り出します。地殻変動によりかんらん岩が地表や海底に露出すると、水と反応して蛇紋岩が形成されます。

このような温泉は非常に珍しいため、生命が生まれる前の原始地球に極めて近い環境なのではないかと考えられています。これにより、科学者が生命の起源について考察する上で重要な場所となっています。日本で最もアルカリ性の強い温泉に浸かり、生命の誕生について思いを馳せましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】白馬八方温泉/足湯

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Hakuba Happo-one is a cozy village with dozens of onsen (hot spring) facilities. Visitors can enjoy indoor baths in the lodging facilities or in the four public natural hot spring baths.

In the spring of 1875, Hakuba Happo-one's villagers began working on an ambitious engineering project to draw hot spring water from the source of Hakuba Yari Onsen, the highest hot spring in the country at an elevation of 2,475 meters. One day in late autumn, when 2 km of bamboo pipes had already been laid, the construction site was buried under a heavy avalanche—and 21 workers lost their lives. Due to that tragic accident, the project was suspended for more than one hundred years.

In 1982, a new project was launched. This time the excavation of the hot spring source directly under Hakuba Yari Onsen, with a 4 km-long pipe, was successful, and the century-long wish of the villagers was granted.

The hot spring's strong alkaline water is considered among the best in Japan, with claims that it moisturizes and revitalizes the skin. Nagomi no Izumi, the foot bath right in the heart of Hakuba Happo-one, was built to provide an open space where people can come together and enjoy the miraculous effects of Happo-one's hot spring.

Yakushi-sama's Onsen Mist

Yakushi-sama is worshipped as the Healing Buddha, and a statue of him watches over the Nagomi no Izumi. Make an offering and you can take home a bottle of Hakuba Happo-one's onsen water, which makes your skin silky and smooth.

- > Take a bottle off the shelf and put ¥200 into the stone box.
- > Step over to the statue of the Healing Buddha and show your gratitude.
- > Take your bottle and hold it under the tap at the right side of the foot bath.
- > Now you can spray the water onto your skin in the comfort of your own home.
- > For best results, use within five days. Do not drink the onsen water.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

白馬八方尾根は数十の温泉施設に恵まれ、過ごすのに快適な村です。訪問者は宿泊施設の屋内浴場や、4か所の公衆天然温泉を楽しむことができます。

1875年春、白馬八方尾根の村民が白馬鑓温泉の源泉から温泉を引く工事を始めました。白馬鑓温泉は標高2,475メートルに位置し、日本で最も標高の高い温泉です。晩秋のある日、竹筒の敷設が2kmまで進んだところで、建設現場が大規模な雪崩により埋没してしまいました。21人の作業員の命が失われました。この悲劇により、プロジェクトは100年以上もの間停止していました。

1982 年になり、ようやく新しい構想が立ち上がり、今度は白馬鑓温泉の直下にある泉源を掘削し、4km の長さのパイプを敷設することに成功しました。こうして、地元民の 1 世紀来の願いがかなったのです。

数世紀にわたり地元民が追い求めてきた強アルカリ性のお湯は、保湿効果と若返り効果があり、日本全国屈指のものとされています。人々が一緒に集まり、八方尾根の温泉が持つ奇跡的な效能を楽しめる場所を提供するため、「和の泉」という足湯が作られました。

薬師様の温泉ミスト

薬師様は癒やしの仏様、そして温泉の守護者として崇められています。白馬八方温泉の温泉水を瓶で持ち帰り、お肌を滑らかでスベスベにしましょう。

> 瓶を棚から取り出し、石箱に 200 円を入れましょう。

> 癒やしの仏様の仏像へ向かい、感謝を捧げましょう。

> 足湯の右側にある湯口から、瓶にお湯を汲みましょう。

> これでお湯を肌にかけることができます。

> 5 日以内に使い切ってください。温泉水は飲まないでください。

本事業以前の英語解説文

なし

601

No.5 Ski Hakuba Happo-one's Riesenslalom

<白馬八方尾根、長野>

【施設名】八方尾根 HP

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/history/riesen>

できあがった英語解説文

Hakuba Happo-one's renowned Riesenslalom (Giant Slalom) course boasts over 70 years of history and is the site for the area's popular skiing competition known by the same name.

The development of the Riesenslalom course dates back to the year 1945. The founder Fukuoka Takayuki (1913–1981), a skiing enthusiast and a former professor of German and the theory of physical education at Hosei University, followed his vision of establishing a Japanese long downhill and slalom ski run, similar to the ones in Austria.

Fukuoka was a successful member of his school's track and field club, and began practicing skiing and mountain climbing as a form of athletics training. The cold weather won over his heart though, and he soon turned his full attention to winter sports.

Fukuoka studied different skiing techniques and methods, and eventually published his own book based on his experiences. After resettling to Hosono (modern-day Hakuba Happo-one) shortly before World War II (1939–1945), he found an appropriate place to develop a run for downhill and slalom skiing. After convincing the local government to develop the run by emphasizing the potential of skiing to draw tourists to the area, the construction work for the Riesenslalom was completed in 1946, and the first Happo-one Riesenslalom Competition was held in 1947.

With no ski-lifts or ropeways, early skiers of the Riesenslalom course had to demonstrate excellent mountain climbing skills to reach the top of the 4,500 m-long run, with an elevation difference of 1,030 m, before enjoying the run. This demonstrates how deeply connected skiing and mountain climbing were during the early days of skiing in Japan. It took another seven years until the first lift—the Nakiyama lift—was ready for operation, connecting the foot of the mountain with the Riesenslalom Course.

Since the first Happo-one Riesenslalom Competition in 1947, amateur participants who reach the line within a few seconds difference from the top skiers are rewarded with an oval-shaped badge, which is black, blue, or red depending on how close they got to the leaders. The year 2019 marks the 73rd anniversary of the competition, which continues to be one of the area's most-loved annual events and attended by both locals and international skiers.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

白馬八方尾根のリーゼンスラロームコースは、70年以上の歴史をもつ有名なコースです。同時に、同じ名で知られるこの地域の有名なスキー競技大会の、開催場のことをも指します。

このリーゼンスラロームコースの開発は、1945年に遡ります。創設者である福岡孝行（1913年～1981年）氏は、スキー愛好家であるとともに法政大学のドイツ語と体育理論の元教授でしたが、オーストリアにあるようなダウンヒルやスラロームの長距離スキーコースを開発する自らの夢を追いました。

福岡氏は学生時代、学校の陸上競技部に所属して優秀な成績を収めていましたが、体力維持トレーニングとして、スキーや登山を取り入れていました。陸上競技を断念した後、彼の関心はもっぱらスキーと登山に向けられました。

福岡氏はスキーのさまざまな技術や方法を研究し、自らの経験やドイツ語の文献を基にして、自身の著作物を出版しました。第二次世界大戦（1939年～1945年）勃発直前に細野（現在の白馬八方尾根）に移り住んだ後に、彼は思いがけず、ダウンヒルやスラロームのスキーコースを開発するのに適した場所を見つけました。人気スポーツとしてのスキーの将来性を説明することで地元自治体を説得した後、リーゼンスラロームコースの建設作業が始まり、1947年には第1回八方尾根リーゼンスラローム大会が開催されました。

リフトやロープウェイはまだなかったので、標高差が1030mある4500mコースの最上部にたどり着くには、スキーヤーたちは卓越した登山スキルが必要でした。これは、日本におけるスキーの黎明期であった20世紀前半にはスキーと登山とが深く関連していたことを如実に物語るものです。山の麓とリーゼンスラロームとを繋げる最初のリフトとなる名木山リフトの操業が準備されるまでには、その後7年かかりました。

1947年の第1回八方尾根リーゼンスラローム大会以来、トップスキーヤーたちとわずかな数秒差でゴールした参加者たちは、黒、青、赤のいずれかの楕円バッジで表彰されます。大会は2019年で73周年を迎え、この地域の年中行事として、地元民からも世界のスキーヤーたちからも愛され続けています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】八方尾根 HP

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/trekking>

できあがった英語解説文

During the green season, usually between June and October, Hakuba Happo-one's most popular and picturesque trekking route takes hikers through the Chubu Sangaku National Park. Start your journey at the Happo Ike Sanso Station, the final stop of the Happo Alpenline and the Kurobishi line. On a clear day, you will be able to gaze out over 100 of Japan's most picturesque mountains, including the iconic Mt. Fuji.

The hike leads you through lush green highlands, with plenty of endemic alpine plants, which have been designated Natural Monuments of Nagano Prefecture. With a little bit of luck, you can even watch Japanese serows and snow grouses in their natural surroundings.

After an ascent of around 90 minutes, you'll come to the crystal-clear Happo Pond, also known as the observation platform of Japan's Northern Alps. At an altitude of 2,060 m, you'll be wowed by breathtaking views of the Shirouma Sanzan mountain range and the sky, reflecting in the pond's deep blue water. Take a break at one of the big rocks around the pond and enjoy the fresh summer breeze high up in the mountains.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

通常 6 月から 10 月にかけての緑の季節のあいだ、白馬八方尾根で最も人気ある美しいトレッキングコースは、なんといっても中部山岳国立公園を通るコースです。八方アルペンラインと黒菱ラインの終点の、八方池山荘からスタートします。そこから、日本百名山に名を連ねる富士山や他の山頂が見られるかも知れません。

歩いて行くと緑豊かな高原となりますが、ここは固有種の高山植物がたくさん生え、長野県天然記念物にも指定されています。少し運が良ければ、ニホンカモシカやライチョウを本来の生息環境のなかで見ることができるかも知れません。

90 分ほど長い上り坂を行くと、やがて透明な八方池に出ます。ここは日本北アルプスの展望台としても知られています。標高が 2060m もあり、藍色の池の水にも映り込む、白馬三山の山並みと空の息をのむ眺めには驚くことでしょう。池周辺の大きな岩のひとつで休憩して、高山の爽やかな夏風を楽しみましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】八方尾根 HP

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/trekking/alpenline>

できあがった英語解説文

The three lifts that make up the Happo Alpenline provide some of the most scenic views of Hakuba Happo-one. Within 30 minutes the Adam gondola lift, the Alpen Quad lift, and the Grad Quad lift bring you to the Happo Ike Sanso Station at an altitude of 1,830 m.

After taking in the awe-inspiring views across Japan's 100 most famous mountains, venture further north and find yourself surrounded by the lush green highlands, where you can see many endemic alpine plants and animals.

If you are feeling energetic, the Happo Pond is a 90-minute hike from Happo Ike Sanso Station. At an altitude of 2,060 m, the pond is the best spot to take in Japan's Northern Alps and is a popular sightseeing spot for both Japanese and international visitors. As the mirror-like waters reflect the blue sky and the three peaks of the Shirouma Sanzan mountain range, you'll soon understand why.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

八方アルペンラインの 3 つのリフトに乗りこんで安全ベルトを締め、白馬八方尾根の極上の眺めを堪能しましょう。ゴンドラリフト「アダム」、アルペンクワッドリフト、グラートクワッドリフトに乗って 30 分で、標高 1830m の八方池山荘駅に到着します。

日本百名山に属するいくつかの山頂の息をのむ眺めを堪能した後は、さらに足を踏み入れて高山の豊かな緑のなかに入って行きましょう。ここでしか見られない固有種の高山植物や動物がたくさん見られます。

90 分の長い上りのトレッキングコースを進んで行くと、標高 2060m の透明な八方池に出ます。ここは日本北アルプスの展望台としても知られており、日本や海外の観光客が訪れる人気スポットです。青い空と白馬三山の山並みの 3 つの山頂が紺碧の水に映る眺めを堪能しながら、池周辺の大きな岩のひとつで休憩しましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

604

No.8 Kurobishi Line

<白馬八方尾根、長野>

【施設名】八方尾根 HP

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/trekking/kurobishi>

できあがった英語解説文

Getting to the Kurobishi Line—a combination of the Kurobishi No. 3 Pair lift (1,500 m) and the Grad Quad lift (1,680 m)—is an adventure in itself. The drive to the station takes you along the picturesque, 8km-long Kurobishi Rindo road, which winds through the lush green forest of Wadano no Mori, taking you past the little Wadano no Mori Church and the Tetsuo Kikuchi Alpine Photograph Gallery. You'll need to keep your wits about you as the road contains steep curves, sheer drops, and narrow passes, but fortune favors the brave.

After this refreshing drive through the area's abundant nature, you will eventually reach the Cafeteria Kurobishi, located next to the Kurobishi No. 3 Pair lift. When onboard, the views get even better as you are taken over the amazing scenery of Japan's Northern Alps.

The Kurobishi No. 3 Pair lift takes you to the Kurobishi plateau and the Kamaike marshland within just a few minutes. You can also venture further by transferring to the Grad Quad lift, from whose final station, Happo Ike Sanso, is the starting point of a popular trekking route to the miraculous mountain pond Happo.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

黒菱第3ペアリフト（1,500m）とグラートクアドリフト（1,680m）を乗り継ぐ黒菱ラインはトレッキングの冒険のようです。自動車で風光明媚な長さ8kmの黒菱林道のドライブでリフト乗り場へと向かうと、緑豊かな和田野の森を進むと、小さな和田野の森教会と、菊池哲男山岳写真ギャラリーの前を通ります。ドライブされる時には、林道の急峻な箇所や狭い箇所、そして急カーブなどに常にご注意ください。

この地域の豊かな自然の中のさわやかなドライブの後、ようやく黒菱第3ペアリフト乗り場すぐ横にあるカフェテリア黒菱に到着します。ここからは日本の北アルプスの素晴らしい風景を満喫していただけます。

わずか数分間で黒菱平と鎌池湿地へと行ける黒菱第3ペアリフトにお乗りください。非常に美しい山中の池、八方池へのトレッキングルートの始点となる八方池山荘を最終目的地とするグラートクアドリフトに乗り換えてその先に進むこともできます。

本事業以前の英語解説文

なし

605

No.9 Hakuba Ski Jumping Stadium

<白馬八方尾根、長野>

【施設名】八方尾根 HP おすすめスポット

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/association/spot>

できあがった英語解説文

Completed in November 1992, this colossal structure capable of accommodating 45,000 spectators hosted the ski jumping events during the 1998 Nagano Winter Olympics. Athletes from all over the world competed on two differently sized ski jumping slopes—the Normal Hill (318 m) and the Large Hill (385 m)—resulting in two gold medals for the Japanese Olympic team.

Nowadays, the Hakuba Ski Jumping Stadium, which is located directly at the foot of Japan's Northern Alps, counts as one of Hakuba Happo-one's most popular sightseeing spots and is open year-round. Curious visitors can hop on the lift that runs between the two hills and get off at the tower, which provides access to the in-runs. While taking the elevator upwards, you may wonder why it's much taller than your average lift, but the additional space is necessary to accommodate long skis. From the observation deck you can enjoy marvelous views of the surrounding area, as well as imagining the thrilling anticipation of the athletes shortly before they jump off. The floors of the connecting passageways between tower and jumping hills were built with gratings, making it possible to admire the scenery below as well.

Occasionally the stadium is still used by ski jumping professionals for training purposes. Thanks to a slippery artificial surface, it is even possible to practice in the summer.

After exploring the ski jumping hills, venture out to the plateau on the opposite side and gaze at the Olympic cauldron. The Olympic fire was clearly visible from the top of the jumping hills to encourage the athletes.

The monument next to it was added after the 1998 Nagano Winter Olympics to celebrate and commemorate the 100th gold medal that was achieved by Japanese athletes at this competition.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この1992年11月に完成した45,000人を収容する観覧席の備わった巨大な構造物は、1998年の長野オリンピックのスキージャンプ競技会場として使用されました。世界中から集まったアスリートが、サイズの異なるノーマルヒル(318m)とラージヒル(385m)の2つのジャンプ台で競い合い、その結果、日本のオリンピックチームは金メダルを2つ獲得しました。

日本の北アルプスのすぐ麓に位置する白馬ジャンプ競技場は、今日では、1 年中行ける白馬八方尾根屈指の人気スポットとなっています。興味のある方は、ふたつのジャンプ台の間にあるエレベーターに乗ってジャンプ台へとアクセスできるタワーで降りることもできます。エレベーターに乗って上に向かっていく間、エレベーターの天井が通常のそれよりも高いことを不思議に思われるかもしれませんが、この高さは、長いスキーを持って入るのに必要なのです。展望デッキからは周辺地域の素晴らしい風景を楽しむことができると同時に、アスリートがジャンプする直前のスリル満点な雰囲気を楽しむことができます。タワーとジャンプ台をつなぐ通路の床はグレーチングでできているため、足元の風景も楽しむことができます。

このスタジアムは時折スキージャンプのプロがトレーニングに使っていることがありますが、ジャンプ台の人工素材の表面が常に滑りやすくされているため、夏季でもジャンプの練習をすることができます。

ジャンプ台を散策した後は、競技場の反対側の高原へと移動してオリンピック聖火台を眺めましょう。オリンピックの聖火は、アスリートを勇気づけるべく、ジャンプ台の上からでもはっきりと見えるようになっていました。その隣の記念碑は、1998 年長野オリンピックで獲得した金メダルが通算 100 個目であることを称賛し、記念するために大会開催後に新たに加えられたのです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP おすすめスポット

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/association/spot>

できあがった英語解説文

The first thing you notice while approaching this historic Shinto shrine nestled against a hillside is the giant sacred Japanese cedar at the bottom of the staircase. This ancient tree, which even survived a lightning stroke, is estimated to be at least 1,000 years old, and is over 40 meters tall and up to 10 meters in diameter. Surrounded by thirty massive conifers, this sacred tree has been designated a Natural Monument of Hakuba village.

The Hosono Suwa Shrine used to be the destination for villagers to pray for rain in the hope of a rich autumn harvest, but nowadays it's best-known as the site of the *Reitaisai*, Hakuba Happo-one's annual festival, and *ninen-mairi*, the shrine visit that marks the beginning of a new year.

The *Reitaisai*, usually in autumn, includes the Yukake Matsuri, a procession that features a portable shrine, which houses a 300 kg-heavy serpentinite rock, carried through the village. The shrine carriers are splashed with hot spring water from Hakuba Happo-one. The spectacle ends at Hosono Suwa Shrine, where everyone can feast on typical festival fare such as *yakisoba* (stir-fried noodles), *butajiru* (miso soup with pork and vegetables), and cotton candy— and enjoy lively *taiko* drumming performances. During *ninen-mairi*, which takes place between the sun setting on the old year and rising on the new, the premises are beautifully illuminated and often covered by the sparkling white snow. This is the only night when you are able to purchase the coveted lucky charms of Hosono Suwa Shrine.

Since this sacred place is just a five-minute walk from the Adam gondola lift station, stop by at any time of year and take in the mystical atmosphere in this tranquil setting.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この歴史ある神社に近づくと、まずは石段のふもとにある神聖な巨大な杉の木に気づくでしょう。落雷があっても生き延びたこの昔から存在する杉の木の樹齢は、1,000年以上だと推定されており、高さは40m以上、そしてその直径は約10mとなっています。30本ものこれまた巨大な針葉樹に囲まれたこの神木は、白馬村の天然記念物として見なされています。

細野諏訪神社は、村民が秋の豊作のために雨乞いをするための場所でしたが、今日では例年の春・夏祭の会場、そして、古い年の夜間から新年の朝の間に神社詣りをするという二年詣りの場所ともなっています。

「湯かけ祭」としても知られる例大祭では、村中から集まった男性が重さ300kgの蛇紋岩の入ったお神輿を担ぐ行列を見ることができ、彼らにはお神輿を担いでいる間中ずっと白馬八方尾根の温泉のお湯がかけられます。この壮観な行

列は、担ぎ手と観客がお祭りならでは焼きそばや豚汁、綿菓子などの食事でお腹を満たし、活気に満ちた和太鼓の生演奏を楽しむことができる細野諏訪神社で終了します。一方、前のとしの日没から新年の日の出の間にある二年詣りの期間中は、この神社は真っ白な雪に覆われた中に美しくライトアップされます。この夜限定で、細野諏訪神社のお守りを購入することができます。

この神聖な場所は、八方尾根ゴンドラ駅からわずか徒歩 5 分の場所にあるため、立ち寄ってこの静寂な環境の中、神秘的な雰囲気を楽しみましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP おすすめスポット

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/association/spot>

できあがった英語解説文

Selected as one of the 100 best roads and streets of Japan, the Hakuba Ohashi Bridge, completed in 1986, is the perfect vantage point from which to marvel at Mt. Shakushi, Mt. Yari, and Mt. Shirouma—three colossal mountains known collectively as Shirouma Sanzan.

Stretching over Matsu River, which flows with crystal-clear meltwater, the bridge has pedestrian walkways on both sides, from where visitors can take in the breathtaking views of this awe-inspiring stretch of Japan's Northern Alps. The bridge is dotted with informative signs that explain what to look for in the snow formations on top of each mountain throughout the year. For example, one vantage point lets you see the diamond-like shapes formed by falling snow, while another allows you to see the first Japanese character (八) of the area's name Happo-one etched in the ice.

Only a ten-minute walk from Happo-one's bus terminal and information center, Hakuba Ohashi Bridge is a detour well worth taking.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本の道 100 選のひとつに選ばれた 1986 年完成の白馬大橋は、間違いなく日本の北アルプスの白馬三山をなす 3 つの山を含む、広大な山脈の驚異的な美しさを楽しめる、最も見晴らしのよいポイントです。

澄み切った雪解け水が豊かに流れる松川の上にかかるこの橋の両端には歩道が備わっており、観光客はここからこの素晴らしい自然にあふれた風景を楽しむことができます。橋の上を散策しながら、三山のそれぞれの山頂の雪形が、年間を通してどう見えるのかを説明する看板の前で足を止めてみましょう。たとえば、5 番目の看板は、ダイヤモンドのような形を探すよう促し、6 番目の看板では八方尾根の「八」の字がどこに見えるのかを説明しています。

八方尾根のバスターミナルとインフォメーションセンターから徒歩 10 分のところにあるこの橋からは、年間を通して様々な景色を楽しむことができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP おすすめスポット

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/association/spot>

できあがった英語解説文

If you want to see how Japan's traditional rural landscape used to look, this little park offers a window to history. Encompassing an area of 5.9 hectares along both sides of the winding Himekawa River, the park was completed in 2006 and is dedicated to preserving Hakuba Happo-one's historical scenery.

You can enjoy the area's abundant nature, while getting to know the locals who inhabit the traditional buildings. The park's spectacular viewpoint is especially picturesque during cherry blossom season, but capable of taking your breath away at any time of year with its magnificent panorama of the Shirouma Sanzan mountain range of Japan's Northern Alps, the Himekawa River, the park's wooden suspension bridge and thatched houses. It is a popular spot for landscape painters, so with luck you can observe a masterpiece in the making.

Snacks and drinks are available at the Tsurishashi Teahouse, or the Kappa Tei Café, which occupies a one hundred-year-old structure with a small water wheel near its entrance. Here you can enjoy a range of dishes made from local produce, including pork from Hakuba and Shinshu salmon from Nagano Prefecture. (The Kappa Tei Café operates between May and October).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本の昔ながらの田舎の風景は、どんなものだったのだろうと想像したことがある方にとって、この小さな公園は、時間を遡ることができるうってつけの場所です。曲がりくねる姫川の両岸沿い、5.9ヘクタールの敷地に広がるこちらの公園は、白馬八方尾根の歴史的な風景を保存する目的で、2006年に完成しました。

この地域の豊かな自然を楽しみながら、地元の人々と彼らの深い文化について学びましょう。小さな小道を進んだ先にある絶景を見渡せる園内の展望台からは、特に桜の季節には絵に描いたような美しい風景をご覧頂けますが、日本北アルプスの白馬三山、姫川、木製の吊り橋、またわらぶき屋根の家々など息を呑む風景が年中楽しめます。画家の間でも非常に有名なので、作品を描いている場面に出会うこともあるかもしれません。

小さな吊り橋を渡る前に、吊橋茶屋で軽食と飲み物を買ってみてはいかがでしょうか。またはもう少し先へ進むと、かっぱ亭という喫茶店もあります。こちらは築100年の建物の中にあり、入り口のそばには小さな水車が回っています。こちらの店では、白馬の豚肉や長野の信州サーモンなど、地元の特産品を使った料理を堪能できます。（かっぱ亭の営業は5月から10月の間です）

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP おすすめスポット

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/association/spot>

できあがった英語解説文

Set in a beautiful wooden structure resembling Western architectural designs of the early twentieth century, the Hakuba Saegusa Art Museum boasts around one hundred paintings by 80 of Japan's top artists, including Yayoi Kusama (1929–), Ikeda Masuo (1934–1997) and Yamashita Kiyoshi (1922–1971). Most of the pieces are inspired by the beautiful scenery of Hakuba and Japan's Northern Alps throughout the seasons, channeling winter's crisp air off the snowy mountains or the fresh green grass and colorful flowers in the highlands during the spring.

The museum's adjoining sunroom provides its own beauty, allowing you to sip on a cup of tea while looking out onto the garden where hundreds of different flowers bloom between spring and autumn, while Japan's Northern Alps tower in the backdrop. (Note that the museum is open only between April and November).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

20世紀初めの西洋建築を模した木製の建物の中にある、白馬三枝美術館には、草間弥生、池田満寿夫、山下清など日本のトップ画家80名が描いた100以上の作品を所蔵しています。これらの作品のほとんどに、白馬、そして日本北アルプスの四季折々の美しい風景が描かれています。作品を鑑賞しながら、冬の雪山の厳しい寒さを感じ、また春の高原に広がる新緑と色とりどりの花々をご覧ください。

数々の名画を鑑賞した後は、隣接する美術館のサンルームでお茶を飲んでおくつろぎください。ここから見える庭には、そびえ立つ日本北アルプスを背景に春から秋まで咲き乱れる何百種もの花々を見ることができます。

(美術館は4月から11月の期間中のみ開館しておりますのでご注意ください)

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP おすすめスポット

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/association/spot>

できあがった英語解説文

Surrounded by lush greenery, this art museum with its Japanese-style exterior focuses on works of Marc Chagall—the Russian-French modernist artist dubbed “the magician of colors.” Out of its large collection of nearly five hundred copperplate prints and lithographs, the museum exhibits around one hundred twenty of his best works annually. All of them feature English-language explanations, making it possible for a greater number of people to gain a deeper understanding of each artwork’s meaning.

The interior design with its dimmed lighting and dark-colored wooden beams, typical for Japanese-style structures, creates a nice contrast to Chagall’s colorful and modern pieces, while large windows welcome in the abundant nature of the surrounding area. Don’t miss Chagall’s small copperplate prints lining the walls of the museum’s adjoining music room.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

生い茂る緑に囲まれた、日本建築の外観を持つこちらの美術館は、マルク・シャガールの作品に特化した美術館です。このロシア系フランス人画家は色彩の魔術師と呼ばれ、モダニズムの美術運動に参加しました。500 近くにも及ぶ膨大な銅版画や石版画コレクションの中から、毎年、彼の傑作を 120 点ほど展示しています。すべての作品に英語解説が付いていますので、外国人の来館者も、それぞれの作品の持つメッセージをより深く理解することができます。

内装には、典型的な日本建築に見られる濃い色の木製の梁が渡されており、暗めに落とされた照明がシャガールの色あざやかな現代作品と美しいコントラストを生み出しています。伝統的な建築デザインに加え、当美術館のもうひとつの売りは、その大きな窓から周囲の豊かな自然を眺めることができることです。美術館に併設されている音楽室の壁に並べられた、シャガールの小さな銅版画もぜひお見逃しなく。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP おすすめスポット

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/association/spot>

できあがった英語解説文

Throughout his career, Kikuchi Tetsuo, one of Japan's leading mountain photographers, captured the natural beauty of Hakuba's majestic Mt. Shirouma throughout a period of more than 30 years. Admire around 40 of his best works, selected by Kikuchi himself, at this two-story gallery. These large-scale photographs show the mountain during all four seasons—capturing the mountain's peak surrounded by an ocean of mystical-looking wintery clouds, scenery embraced by pink cherry blossoms during spring, and the autumn foliage reflecting in the mountain's large Happo Pond.

Kikuchi taught himself the art of photography at the young age of fourteen and devoted his talent to alpine photography six years later. He can look back at an incredible career that encompasses a host of solo exhibitions, as well as two teaching positions at the Nikon College and the Yamakei Culture Club. In 2007, the Tetsuo Kikuchi Alpine Photograph Gallery opened its doors in Hakuba Happo-one's Wadano no Mori area, in the premises of the Wadano no Mori Church. Before heading over to the gallery, a beautiful brick building with a red roof, purchase your ticket at the little hut located at the entrance to the premises, where you can also grab a coffee or tea.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本を代表する山岳写真家の1人である菊池哲男は、そのキャリアを通して、30年以上に渡り白馬の壮大な白馬岳の美しい自然を撮り続けてきました。こちらの2階建てのギャラリーでは、菊池自身が選んだ40枚ほどの傑作を見ることができます。これらの大判写真は、四季折々の山の姿を見せてくれます。神秘的な雲海に囲まれた山の頂上の息をのむような景色、ピンク色の桜に包まれた春の風景、また山の中の大きな八方池に映る秋の紅葉などをご覧になることができます。

菊池は若干14歳にして独学で写真を学び、その6年後から山岳写真に傾倒していきます。彼は、その早くから頭角を現したキャリアの中で数々の個展を開き、またニコンカレッジとヤマケイ・カルチャークラブの2つで教師を務めるなど活躍しています。2007年には菊池哲男 山岳フォトアートギャラリーが、白馬八方尾根の和田野の森地区にある、和田野の森教会の敷地内にオープンしました。ギャラリーは赤い屋根をした美しいレンガ造りの建物で、そこへ行く途中に見える、敷地入り口の横にある小屋で、チケットをご購入いただけます。また小屋ではなんとコーヒー、または紅茶をお召し上がりいただけます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP おすすめスポット

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/association/spot>

できあがった英語解説文

Built in 1998, this small contemporary-looking wooden church with its beautiful garden is located in the center of Hakuba village and boasts great views of the Northern Alps. Surrounded by lush greenery in the summer, or nestled deep in the sparkling snow during the winter, it's a popular wedding destination year-round for both Japanese and international couples.

The Hakuba Chapel is especially famous for the emotional wedding speeches of pastor Mary Hasegawa, who has blessed more than one thousand couples over the last twenty years and continues to do so. A theologian and former pastor in Calcutta under Mother Teresa (1910–1997), Mary came to Japan in 1962. After moving to Hakuba in 1994, she took over the role as a pastor in 1998, the year of the Winter Olympics in Nagano, and remains one of the only female international pastors in Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

小さな木造建築でありながら、モダンな外見のこの教会は 1998 年に建てられました。美しい庭に囲まれたこの教会は、日本の北アルプスの雄大な景色を望む白馬村の中心にあります。夏は青々とした樹木に囲まれ、冬は輝く深雪の奥に佇むこの教会は、日本人や外国人のカップルが結婚式を挙げる場所として、一年中人気を集めています。

白馬教会はメリー長谷川チャブレン牧師が感動的な結婚式のスピーチを行うことでつとに知られており、牧師は過去 20 年に渡って千組以上のカップルを祝福してきました。神学者の学位を持つメリー牧師はカルカッタのマザー・テレサの下で牧師を務めていたことがあり、1962 年に日本にやって来ました。1994 年に白馬に移り、長野で冬季オリンピックが開催された 1998 年に牧師の任務を引き継いで、日本で数少ない外国人女性牧師の一人となりました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP おすすめスポット

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/association/spot>

できあがった英語解説文

Nestled in the lush forest of Hakuba Happo-one's Wadano no Mori, this adorable brick structure with its peaked roof and detached bell tower was built more than 30 years ago. Walk down the little paved path and enjoy picturesque sceneries throughout the seasons, beautiful hydrangeas in the early summer, rustling colorful leaves during autumn, and a white lit-up landscape in the winter. Due to its fairytale setting, the Wadano no Mori Church is a popular wedding location among Japanese and international couples alike—and at certain days of the year, visitors can even enjoy classical concerts amidst this romantic and cozy atmosphere.

Directly next to the bell tower you can find the Tetsuo Kikuchi Alpine Photograph Gallery, which exhibits breathtaking large-scale images of Mt. Shirouma taken by famous mountain photographer Kikuchi Tetsuo. For those who want to stay a little bit longer in this tranquil ambience, sit down in front of the little hut next to the entrance and enjoy a cup of freshly brewed coffee or tea.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

白馬八方尾根に位置する和田野の森のみずみずしい森の中に佇む、とんがり屋根の可愛らしいレンガ造りの教会です。今から30年以上も前に建てられ、傍には鐘楼も立っています。教会から敷石の小路を歩いていけば、四季を通じて絵のように美しい景色を楽しむことができます。教会敷地内の建物は、初夏には綺麗な紫陽花の花に、秋にはざわめく色とりどりの紅葉した木々に、冬には白く輝く景色に包まれます。まるでおとぎ話に出てくるような和田野の森教会は日本人だけではなく、外国人のカップルにも人気のある結婚式場となっています。また日によって、訪問客はこのロマンティックでくつろいだ雰囲気の中でクラシックコンサートを楽しむことも出来ます。

鐘楼のすぐ隣には菊池哲男山岳フォトアートギャラリーがあります。ここには有名な山岳写真家、菊池哲男が撮影した優美な白馬岳の大型写真が展示されています。この静謐な雰囲気の中にもう少し味わいたいという方には、入り口の隣にある小さなヒュッテの前に座って、入れたてのコーヒーやお茶をお楽しみください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP 八方の歴史

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/history/hosono>

できあがった英語解説文

Typical Japanese-style guest houses run by families, known as *minshuku*, are a great way to experience traditional hospitality without breaking the bank. Usually to be found in villages, *minshuku* are usually spare rooms in family homes. The concept of this housing style began in Hosono (modern-day Hakuba Happo-one) during the first half of the 20th century, and is deeply connected with the village's history of mountain climbing.

Until the end of the Edo period (1603–1867), Happo-one's Shirouma mountain range was believed to be a sacred site and climbing was forbidden. After the Meiji Restoration at the end of the 19th century, regulations loosened and Mt. Shirouma and its surrounding peaks were finally measured and opened up to explorers and geologists, botanists and famous mountaineers flocked to the area. One was the British pastor and mountaineer Walter Weston. Considered the “father of mountaineering in Japan,” he conquered Mt. Shirouma in 1894 and assembled his impressions in the book *Mountaineering and Exploration in the Japanese Alps* (1896). The popularity of Weston's book, along with the publication of 50,000 topographic maps of the mountain site in 1913 and the connection to the Shinano Railway three years later, making it possible to visit directly from Tokyo, combined to draw more and more mountaineers to Happo-one.

To accommodate the adventurers, a number of guides offered visitors the opportunity to spend the night at their own houses, instead of staying at a *ryokan* (typical Japanese inn). In 1937, sixteen houses of local guides in Hosono gained permission to provide lodging for travelers—marking the beginning of the *minshuku* business. The area rapidly developed into a ski and mountain resort in 1948, and about ten years later 295 individual *minshuku* provided accommodation for about 13,000 guests.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

家族経営の典型的な日本式ゲストハウスは、民宿として知られており、低予算で伝統的なおもてなしを体験するには格好の方法です。通常、村で見かける民宿は、たいてい民家の空き部屋を利用しています。このような宿の提供の仕方は、20世紀の前半に細野（現在の白馬八方尾根）で始まり、この村の登山の歴史と深く関わっています。

江戸時代（1603～1867年）の終わりまで、八方尾根の白馬山脈は神聖な場所と考えられ、登ることなど論外でした。19世紀末の明治維新の後、規制が緩和され、白馬岳とその周囲にそびえる峰々はようやく測量され、その後、地質学者や植物学者、有名な登山家など多くの人々が訪れました。その一人がイギリス人の牧師で登山家のウォルタ

ー・ウェストンでした。「日本の登山の父」とされる彼は、1894年に白馬岳を征服し、その印象を著書「日本アルプスの登山と探検」（1896年）に表しました。1913年に白馬岳の5万分の1地形図が発行され、3年後に信濃鉄道が開通して、東京から直に訪れることができるようになり、この山岳地域はますます登山家の間で人気が高まりました。登山家たちは夜は旅館（一般的な日本の宿）ではなく、ガイドの家に泊まることもできるようになりました。1937年に細野の地元ガイドの家16軒が旅行者に宿泊所を提供する許可を得て、これが民宿の始まりとなりました。この地域は太平洋戦争の数年後の1948年に急速にスキー・山岳リゾートに発展し、およそ10年後には295軒の民宿が1万3千人の宿泊客に宿を提供しました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP 八方の歴史

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/history/hosono>

できあがった英語解説文

The Hakuba Alpine Library, conveniently located in the premises of the central bus terminal and information center, is the perfect place to learn about the history of Hakuba Happo-one. Established in 2010, the facility has exhibitions in English and Japanese exploring mountaineering and skiing in the area, historical rural life in the region, and the life story of Fukuoka Takayuki, the founder of the Riesenslalom (Giant Slalom) course. There is a large selection of Japanese- and English-language publications allowing people to dive deeper into these subjects.

Exhibition About the Relationship Between Mountaineering and Skiing

The deep connections between mountaineering and skiing are explored in this sixteen-booth exhibition with information provided in both Japanese and English. Find out about the first attempts at mountain climbing in the beginning of the Meiji period (1868–1912), learn about the concept of *minshuku*, Japanese-style guest houses run by families, and learn how skiwear changed throughout the decades. The section dedicated to the Nagano Winter Olympics 1998 is a particular highlight, with photographs and memorabilia of the time all eyes were on Hakuba Happo-one.

Fukuoka Takayuki Memorial Exhibition

This exhibition celebrates the life of Fukuoka Takayuki (1913–1981), a former professor of German language and of the theory of physical education at Hosei University. To many he is the founding father of Hakuba Happo-one's ski scene. Fukuoka dedicated a great deal of his life to skiing and mountain climbing, having discovered the sports while training to be an athlete. Fukuoka published his own book about different skiing techniques, based on his own experiences and observations.

Having resettled to Hosono (modern-day Hakuba Happo-one) shortly before World War II (1939–1945), Fukuoka discovered the area was the perfect place to establish a run for downhill and slalom skiing. After convincing the local government by explaining the benefits of this new project, the construction works for the Riesenslalom (Giant Slalom) Course started and the first tournament was held in 1947.

History Corner

Travel back in time and discover the many different traditional farming tools and techniques used by the locals over one hundred years ago. The history corner also houses a life-size diorama of a typical fireplace found in traditional

Japanese farm houses.

Mountain and Ski Library

Here you can leaf through more than 10,000 different Japanese- and English-language publications related to mountains, mountain climbing, and skiing.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

白馬アルペン・ライブラリーは、中央バスターミナルや案内所の敷地内にあり、白馬八方尾根の歴史を知るのに絶好の場所です。2010年に設置されたこの施設では、日英で地域の登山、スキーの情報や、100年以上前の農村の生活、リーゼンスラローム（ジャイアントスラローム）の親である福岡孝行さんについての展示が行われています。隣接するライブラリーでは、日本語や英語で書かれた白馬八方尾根の歴史、スキーや登山の世界に誘う出版物が読めます。

登山とスキーの関係を示す展示

白馬八方尾根では登山とスキーは、相互に深く関連し合っています。16のブースは、この二つのアクティビティの幅広い歴史を扱っており、日本語と英語で書かれた案内板があります。明治時代（1868～1912年）の初めに行われた最初の登山の試みや、日本式のゲストハウスである民宿の考え方について学び、何十年にもわたるスキーウェアの変遷もご覧ください。1998年の長野冬季五輪の多数の写真や思い出深い記事のコーナーもお見逃しなく。

福岡孝行記念展

福岡孝行（1913～1981年）さんは、法政大学のドイツ語と体育理論の元教授、今日の白馬八方尾根スキーリゾートの創設者です。彼は学校では陸上競技部の優秀な部員であり、時間のある時にドイツ語を勉強していました。彼は生涯を、運動選手時代にすでに何度も行っていたスキーと登山に捧げました。また自分自身の体験や観察を基に、様々なスキー技術についての本を出版しました。

第二次世界大戦（1939～1945年）が勃発する少し前、彼は細野（現在の白馬八方尾根）に住み始めました。ある日彼は、ダウンヒルやスラロームのスキーコースを設けるのに格好の場所を見つけました。この新しい計画の利点を説明して地方自治体を説得すると、大回転（ジャイアントスラローム）のための建設工事が始まり、1947年に最初のトーナメントが開催されました。

歴史のコーナー

時代を遡り、地元の人々が使用していた様々な古い農機具について学びましょう。このコーナーには、日本の伝統的な農家に一般的に見られる炉端の実物大のジオラマも置かれています。

山とスキーのライブラリー

ここでは、山や登山、スキーに関する1万点以上の出版物に目を通すことができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 八方尾根 HP 八方の歴史

【整備予定媒体】WEB

<http://www.happo-one.jp/history/hosono>

できあがった英語解説文

Since the area was first settled, the residents of Hakuba Happo-one have dreamt of drawing water from the source of an onsen (hot spring) high up in the mountains down to the village. After a number of failed attempts, it seemed that this dream would turn to reality at the end of the 19th century, but the construction works were overshadowed by a tragic accident.

In the spring of 1875, 60 people started to realize a project to draw down water from the source of the hot spring located at 2,100 m of Mt. Yari. After 2 km of bamboo pipes were already laid, a massive avalanche hit the construction site in November of the same year. Since 21 people lost their lives, the project was put on hold for over a century.

About five decades later, Matsuzawa Teiitsu (1889–1926), a well-respected mountaineer and the founder of the tourist association of Hakuba, established a mountain hut with an adjoining open-air bath near the source of the hot spring Hakuba Yari Onsen. Since then, it has become known as one of the highest outdoor hot spring resorts in Japan and a popular destination for both mountaineers and onsen lovers.

It took another 60 years until a new plan was created to draw water from the hot spring's source. Finally in 1983, the excavation of the source on the south side directly under Hakuba Yari Onsen succeeded. A few years later all the pipes were laid and the concept of turning Hakuba Happo-one into an onsen resort took form. The project transformed the town with dozens of lodging facilities, including hotels, *ryokan* (Japanese-style inn) and *minshuku* (Japanese-style guest houses run by families), as well as four public hot spring facilities, which were connected to the hot spring opening. Eventually the century-long wish of the locals was granted.

Now, the little onsen town is popular for the anti-aging effects of its beautifying baths. Due to the strong alkaline hot water with a pH of over 11, bathers find that their skin becomes very smooth and soft. And even more, bathers also claim that the additional health benefits of the onsen water supports the healing process of muscular pain, nerve damage, and more. If you're not comfortable entering an onsen, where you'll usually be expected to bathe naked, you can enjoy the hot water at one of the free foot baths sprinkled across the village.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高い山の源泉から村まで温泉のお湯を引くという念願の夢は、19世紀末に現実のものとなりました。しかし、悲劇的な事件がその建設事業に暗雲をもたらしました。

1876年7月、槍ヶ岳の標高2100mに位置する温泉の源で60人の人々が湯引き事業を開始しました。2kmに及ぶ竹製のパイプを通し終わった後、同年の11月に巨大な雪崩が作業場を襲いました。21人が亡くなり、事業は1世紀以上滞りました。

約50年後、著名な登山家であり白馬の旅行業の創業者である松沢貞逸が、白馬鑓温泉の源泉近くに露天風呂付きの山小屋を開きました。以後、この温泉は日本有数の最も標高高くにある温泉リゾートとして知られ、登山家、温泉愛好家に人気の場所となりました。

さらに60年が経過した後、源泉から麓への引湯の新計画が立てられました。そして1983年、白馬鑓温泉直下南側の源泉の発掘が成功しました。数年後には全てのパイプが設置され、白馬八方尾根は一大温泉リゾートに姿を変えました。温泉から湯を引く、数多くのホテルや旅館、民宿などの宿泊施設、4つの公共温泉施設が整備されました。ついに、地域の人々の100年越しの悲願が達成されたのです。

現在、小さな温泉街はアンチエイジング効果のある美肌の湯として人気となっています。pH値11以上と強いアルカリ性の水質により、肌は大変滑らかで柔らかくなります。加えて、温泉のお湯は筋肉痛や神経痛、あざなどにも効果があるとされています。温泉に入るのに気が進まない場合は、村中にある無料の足湯を楽しむこともできます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】八方尾根 HP おびなたの湯

【整備予定媒体】WEB

<http://hakuba-happo-onsen.jp/obinatanoyu/private-hot-spring/>

できあがった英語解説文

This little outdoor hot spring facility is located about 3 km away from the center of Hakuba Happo-one and is the closest one to the source. The baths are basic, but surrounded by abundant nature, making them an ideal place to fully unwind. The large serpentinite rock, which divides the two bathing areas, adds to the natural atmosphere. Should rain or snow fall, Obinata no Yu will provide traditional bamboo hats for cover, making it a special experience year-round.

The best time to enjoy this little oasis is during the winter, when visitors can book the entire snow-surrounded baths for private evening dips. Normally onsen (hot spring) facilities have different areas for each sex, as bathers are expected to be naked, but swimwear is allowed during these special sessions, meaning you are able to enjoy the cozy bath together with your friends, family, or partner.

The facility's natural hydrogen water is said to have anti-aging effects through antioxidant actions. You can even take a sip of the water at the little tasting corner next to the entrance. Nevertheless, you should dilute the onsen water with normal tap water before drinking it, as the alkalinity pH value is around 11.

*The hydrogen concentration at Obinata no Yu's hot spring tap rises to 250 ppb (parts per billion).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この小さな野外温泉は白馬八方尾根中心部から約 3km ほどの場所にあり、源泉に最も近い温泉の一つです。豊かな自然に囲まれた基本的な入浴設備で、リラックスするには最高の場所です。浴場を二つに区分けする巨大な蛇紋岩が、自然の趣を取り入れています。雨や雪の日は昔ながらの竹製の帽子を貸し出しており、年間を通じて特別な体験ができます。

この小さな安らぎの場所を最も楽しめる季節は冬です。夜には、雪に囲まれた浴場をすべて貸切にすることができます。この時間は水着を着用しての入場も可能です。友人や家族、恋人と一緒にゆったりと温泉を楽しむことができます。

温泉施設の水質に含まれる水素は、その抗酸化作用によりアンチエイジング効果があると期待されています。入口近くの試飲コーナーでは、水を飲むこともできます。ただ、pH 値 11 と大変アルカリ性が強いので、飲む前に通常の水道水で薄めてください。

溶存水素濃度：おびなたの湯 給水栓 250ppb

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 白馬八方温泉/八方の湯

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Visiting a hot spring, or onsen in Japanese, is the highlight of many people's visit to Hakuba Happo-one, but keep in mind that there are several rules to follow. The first thing foreign travelers may be surprised about is the strict prohibition of people with tattoos entering the water. If your tattoo is small enough to be covered up, you can bring skin-colored, waterproof stickers, but otherwise you won't be permitted entry.

Upon entering the onsen facility, you should take off your shoes before stepping into the changing and bathing area. Before entering the bath, wash yourself thoroughly using the facilities provided. The washing area is usually located inside the bathing area. Please remember that swimwear is not allowed in hot spring facilities.

Avoid jumping into the water, since the tub is not deep enough and it may disturb other visitors. Keep in mind that your towel shouldn't touch the bathing water, or be wrung out into it—it's seen as dirtying the water. Instead, place it on your head or the side of the bath. This is an area for quiet soaking and contemplation, not swimming or splashing about. After you've enjoyed the hot spring water, dry your body carefully before heading back to the changing room, otherwise the floor may get slippery.

It's absolutely prohibited to take photos inside the bathing area, and also please refrain from bringing any alcoholic beverages into the bath. Observe these simple rules and you are in for a rejuvenating soak like no other.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

温泉を訪れることは旅の間の最高の体験のひとつかもしれませんが、しかし温泉では従うべきいくつかのルールがあることにご注意ください。第一に、外国人観光客は驚くかもしれませんが、刺青は厳重に禁止されています。刺青のサイズが大きくても小さくても、日本の温泉文化では許されていません。（覆い隠せるほど小さい場合は、肌色の防水シールを持っていきましょう。）

温泉施設に入ったら、更衣室や浴場に足を踏み入れる前に靴を脱ぐことを忘れないでください。浴槽に入る前には、身体を入念に洗いましょう。洗い場は大抵は浴場内にあります。温泉施設では水着は許可されていないことを覚えておきましょう。

興奮を抑えて、お湯に飛び込まないようにしましょう。浴槽はあまり深くありませんし、飛び込むと他の方に迷惑かもしれません。タオルを浴槽のお湯につけたり、浴槽の中で絞ったりしてはいけないうご注意ください。タオルを絞るとお湯を汚

していると見なされます。タオルは頭の上に載せるか、浴槽の脇に置きましょう。また、浴槽内で泳いだり激しく動いたりしてはいけません。温泉は静かにお湯に浸かって物思いに耽るためにあります。温泉のお湯を楽しんだ後は、更衣室に戻る前に身体の水分をしっかりととりましょう。そうしないと床が滑りやすくなってしまいます。

浴場内での写真撮影は絶対に禁止です。また、お風呂へのいかなる（アルコール）飲料の持込みもお控えください。

本事業以前の英語解説文

なし

Mt.6 多言語解説整備協議会（野沢）

【施設名】 野沢温泉スキー場・上ノ平原高原
【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Nozawa Onsen Sports Park

The Nozawa Onsen Sports Park with its many fun activities is located at the foot of the Hikage Slope and directly accessible via Nozawa Onsen's walkway escalator Yu Road.

Zipline

Ready to take flight? Whizz through the air on the zipline, which stretches over 650 meters above the Hikage slope and reaches a top speed of 70 km/h. Flap your wings and enjoy fabulous views in this one-of-a-kind setting while hurtling downhill.

Summer Ski Slope

If you thought skiing outdoors was only possible in the winter, then Nozawa Onsen is here to prove you wrong. Grab your sunglasses and head into the lush green mountains where the Hikage run offers an exciting summer ski slope, where you can practice your maneuvers year-round. The slope is covered with a 500-meter long white mat, with a surface that offers a surprisingly lifelike impression of real snow, making even carving turns and ground tricks possible. On-site ski and snowboard rental are available.

Naski Park

Kids love hanging out at this park at the base of Hikage slope. Named after Naski, Nozawa Onsen's quirky green mascot in the shape of Nozawana, a local leaf vegetable, the park boasts a large variety of activities to keep kids entertained. There's a white mountain-like trampoline, a kid-friendly zipline, tubing rides on a snow-like surface, and a whole host of other family-friendly attractions.

The Nozawa Onsen Sports Park is open from July to November.

Uenotaira Kogen Plateau

Venture out to the Uenotaira Kogen Plateau directly from Nagasaka station; you can reach it via the Nagasaka gondola. From here you'll be treated to breathtaking views of Nozawa Onsen and its unique mountainous landscape, while walking trails through lush, virgin beech forests let you experience the area's abundant nature. Remember to dress a bit warmer since you are at an altitude of 1,400 meters, where it often gets chilly. From early July to late August, nature lovers can camp next to Lake Sutaka's shore at an altitude of 1,300 meters. You can sleep in wooden, raised floor-type

bungalows for groups up to eight, in permanent tents for up to five people, or you can bring your own tent. Kitchen spaces, coin showers, and toilets are available on site, as well as blanket and cooking apparatus rental. Cyclists mustn't miss the thrilling mountain bike courses around the camp.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

公園や野沢温泉の動く歩道「遊ロード」で直接行くことができる日影ゲレンデの中に、野沢温泉スポーツ公園があります。

ジップライン

そこで、日影ゲレンデ上空で、最大 20 メートルの高さで時速 70 キロメートルに達する、全長 652 メートルのジップラインに乗ってみましょう。他では味わえない環境の中で「飛んで」坂を下りながら、素晴らしい景色をお楽しみ頂けます。

サマースキー

屋外スキーは冬の間しかできないとお考えは、野沢温泉に行けば間違いだとおわかりになるでしょう。木々が茂る青々とした山々に囲まれた日影スキーコースは、刺激的なサマースキーゲレンデに姿を変え、1年中スキーやスノーボードの練習ができます。ゲレンデは長さ 500 メートル、幅 30 メートルの巨大な白いマットに覆われています。その表面は本物の雪のようで、カービングターンやグラウンドトリックさえもできるのです。現地でスキーやスノーボードのレンタルが利用できます。

ナスキー公園

この公園は日影ゲレンデのふもとにあり、子どもにとってのパラダイスです。奇抜な緑色をした地元の葉野菜の野沢菜の形をした野沢温泉のキャラクター、ナスキーから名前を取っていて、多彩なアクティビティが自慢です。白い山のようなトランポリン、子ども専用のジップライン、雪のような表面を走るチューブでできた乗り物を思い浮かべてください。他にも盛り沢山です。

野沢温泉スポーツ公園は 7 月から 11 月までオープンしています。

上ノ平高原

長坂駅から長坂ゴンドラ経由で直接上ノ平高原に行くことができます。ここから息を呑むような野沢温泉とそのユニークな山岳風景が展望できるでしょう。でもそれで全てではありません。青々と茂ったブナの原生林はこの地域の豊かな自然を体験させてくれます。標高 1,400 メートルで、気温がずっと低いので、少し暖かい服装をお忘れなく。自然愛好家なら、7 月初旬から 8 月下旬まで標高 1,300 メートルのスタカ湖の岸の隣でキャンプもできます。最大 8 人までのグループで木製の高床式のバンガローや、定員最大 5 人の常設テントに宿泊するか、あるいは自分のキャンプ用具を持ってきてくれば、他はキッチンスペース、コインシャワーとトイレがサイトで利用できますし、毛布や調理用具のレンタルもあります。キャンプ場の周りにはスリリングなマウンテンバイクのコースも設置されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 麻釜

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

One of Nozawa Onsen's must-see spots is Ogama, the village's charming communal open-air kitchen, which is named after the hottest spring among the thirty sources of Nozawa Onsen and located on top of a slope. Villagers use Ogama's five pools, through which 90-degrees Celsius steaming-hot mineral water endlessly flows, for washing and boiling vegetables and eggs. And you can see why they continue to flock to this community hub—the mineral-rich hot spring water gives the food its extraordinary, delicious taste, especially the area's signature leaf vegetable Nozawana. But don't start dreaming up your own onsen-enhanced culinary creations just yet. Since access to Ogama is restricted to community members, and also for safety reasons, visitors are not allowed to go near the pools, but you can still observe the spectacle from a close-enough distance—with the best views in the morning. And there's no need to miss out on the food. To get a taste of legendary onsen eggs, walk down the alleyway that connects Ogama with Yurari, a terrace-like open space, housing one of the public foot-baths as well as a tub for boiling prepurchased eggs (available at one of the souvenir shops along the alleyway). The eggs may need about twenty minutes until they are ready to eat, but a relaxing foot-bath combined with a superb view of Nozawa Onsen definitely makes it worth the wait.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

野沢温泉の必見の場所の一つが村の共同の野外キッチンである麻釜です。野沢温泉の 30 の源泉の中でも最も熱い源泉から名前を取っていて、斜面の一番上にあります。麻釜には摂氏 90 度の、湯気が出るほど熱い鉱水が止めどなく流れる、5 つの大きさの異なる湯溜まりがあります。地元の人たちはその湯を洗い物や、野菜や卵を茹でるのに使っています。ミネラル分が豊かなお湯は食べ物に驚くほどおいしい風味を加えます。特にこの地域の特産品である葉野菜の野沢菜は、温泉で茹でた後、えぐ味が消えるのです。

麻釜へ行くことができるのは地域の人々に限られていますし、それに安全上の理由から、訪問客は湯溜まりに近づくことはできません。しかし、それでも十分近い距離からその光景を見ることができますし、朝方の眺めが一番です。この地域の伝説にもなっている温泉卵を味わうには、麻釜と湯らりを結ぶ路地を歩いて行ってください。湯らりには数ある町の足湯の 1 つと、予め購入した卵（路地沿いのお土産物店で買うことができます）を茹でるための湯船があります。卵が食べられるようになるのにおよそ 20 分必要です。野沢温泉の素晴らしい眺めとともにリラックスできる足湯がありますので、間違いなく待つだけの価値はあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 外湯

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Nozawa Onsen flourished as a hot spring town during the Edo period (1603–1868), when drinking from and soaking in the alkaline mineral-rich water was said to heal various illnesses. The town is particularly proud of its Soto Yu, thirteen communal bath houses dotted around the neighborhood and run by local families of the “Yunakama” community. Easily recognizable due to their wooden structures, which resemble architectural designs from the Edo period, the baths are located within walking distance. Facilities combine a calm atmosphere with rustic, simple structures; there’s one room for each gender, containing a bathtub with space for about ten people and a changing area. All the baths are served by a hot spring whose water flows continuously from its local natural source (ranging between 40–90 degrees Celsius) called *gensen kakenagashi*; the water in the bathtubs is typically 45–49 degrees Celsius. For first-timers the hot water can be a challenge, but it’s a challenge worth accepting because your body will profit from the silk-like, mineral-rich liquid, which boasts anti-aging effects and smoothens your skin. If it’s too hot, don’t worry—you can add cold water to adjust the temperature, but do check with other guests that they are comfortable with the change. Some like it hot. Keep in mind that swimwear is not common in onsen facilities, and before you enter the bath you have to wash while seated as to not disturb other visitors (don’t forget to bring a towel and soap). There is no entrance fee to the thirteen Soto Yu, but contributions towards its upkeep are appreciated. Donation boxes are placed next to the entrance of each bath. You may also encounter single indoor pools next to some Soto Yu facilities. These are used by villagers for daily tasks such as laundry or vegetable washing.

To give your onsen-hopping even more of a local flavor, wander around this picturesque, nostalgic town dressed in a *yukata* (light cotton kimono), and explore the many narrow lanes with their tiny canals. Even if you may not feel comfortable entering a Soto Yu, it is worth visiting each of them. Gaze at their unique architecture, or collect stamps at the checkpoints in front of each bath. Hours: May–Nov 5am–11pm, Dec–Mar 6am–11pm

上記解説文の仮訳（日本語訳）

野沢温泉は江戸時代（1603～1868年）に温泉街として栄えました。当時はアルカリ性のミネラル分の豊富な温泉を飲んだりそれに浸かったりするのはいくつもの病気を治すと言われていました。特に野沢温泉が誇りにしているのが、外湯と呼ばれる、この地域に点在し、「湯仲間」の地元の家庭が経営する13の共同浴場です。こういった浴場の大半は歩いて行ける距離にあり、その古く江戸時代からの建築様式に似た木造の建物ですぐにそれとわかります。こういっ

た施設は落ち着いた雰囲気とひなびた素朴な造りを兼ね備えていて、男性女性それぞれ 1 室ずつで、10 人用くらいの広さの浴槽と脱衣場がある、と思い描いてみてください。

全ての浴場は、地元の天然の源泉（摂氏 40～90 度）から絶えずお湯が流れる注がれる温泉が備わっていて、日本語では源泉かけ流しと呼ばれています。浴槽のお湯の温度は様々ですが、普通は摂氏 45～49 度です。初めての人にはこのお湯はちょっと大変かもしれませんが、その温度に慣れたとたんに、老化防止効果を謳い、皮膚をすべすべにする、その絹のように滑らかでミネラル分豊富なお湯から、体も心も恩恵を受けるでしょう。熱すぎれば、冷たい水を加えて温度を調節することもできますが、あらかじめ他の客にお湯の温度を変えてもいいか聞いてください。温泉施設に水着はふさわしくないことをお忘れなく。さらに、浴槽に入る前に、他の客のじゃまにならないように座ったまま体全体を洗ってください（タオルと石けんをお忘れなく）。

この 13 の共同浴場には入場料はありませんが、維持費のために寄付していただければ大変ありがたいです。寄付金箱はそれぞれの浴場の入り口の横に設置してあります。一部の外湯施設の隣に一つだけ屋内の湯溜まりがあるのを見かけるかもしれませんが、これは村人たちが洗濯や野菜洗いなどの日常の作業をするのに用いられているものです。

この絵のように美しい、郷愁を誘う町で、浴衣（薄手の綿の着物）を着て、小さな用水路のある狭い路地をそぞろ歩きながら、落ち着いた温泉めぐりの体験を楽しんでください。たとえ外湯に入るのに気が進まなくても、そのどれも訪れる価値があります。それぞれのユニークな建物を眺めたり、それぞれの浴場の前にあるチェックポイントでスタンプラリーに参加してみてください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 野沢温泉のつる細工
【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

In Nozawa Onsen you can't miss the traditional products made from the beautiful purple flowering plant Akebi vine (*Akebia quinata*), sometimes called chocolate vine or five-leaf akebia. Particularly famous are the woven little baskets used for boiling onsen eggs, or the area's charmingly cute folk toy "Hatoguruma," a dainty pigeon-shaped craftwork. Akebi vine grows between spring and autumn in Okushinano, a nearby mountain region at a height of 500–800 meters. In October and November, the few remaining local craftspeople harvest the vines by hand, picking each branch before soaking them for about twenty minutes in the town's hot spring water to make them more flexible and easier to weave. This classical handicraft dates back to the Edo period, when the vine branches were found to be perfect for making back-carried baskets and flower baskets. At Sankyu Kogei you can purchase a wide range of Akebi vine products, as well as participate in workshops to create your personal souvenir. There are two types of Akebi vine products: the red items are still in possession of their outer bark; the light brown ones were woven after having their bark peeled off, giving them a smoother texture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

野沢温泉ではあけび蔓（時々 chocolate vine や five-leaf akebia と呼ばれるもの）で作った伝統工芸品を見逃すことはできません。特に有名なのが、温泉卵をゆでるのに使われる小さな編み籠や、地元の有名な民俗玩具の「鳩車」という、村中のお土産店で売られている鳩の形をした小さな乗り物です。

あけび蔓は春から秋にかけて近くの標高 500～800 メートルの山岳地域の奥信濃に育ちます。10 月から 11 月にわずかに残っている地元の職人が山に分け入り枝 1 本ずつ手作業で蔓を収穫します。その後、約 20 分間町の温泉のお湯に浸して、蔓を柔らかく編みやすくします。

この古典的な手工芸は江戸時代（1603～1868 年）に遡ります。当時、柔軟な蔓は背中に背負うカゴや、花カゴや日常的に使う製品にぴったりであることがわかったのです。

三久工芸では、多彩なあけび蔓製品を購入できますし、ワークショップに参加して自分だけのお土産品を作ることができます。ここで異なった 2 種類のアケビ製品があることを発見するかもしれません。赤い色の品物はまだ外皮がついたままで、それに対して薄茶色のものは外皮を剥いてから編んだもので、手触りがより滑らかなのが自慢です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 野沢菜と健命寺

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Climbing the steep stone stairs leading to the temple grounds will take your breath away, as will this mystical and picturesque building, which is surrounded by towering conifers. This ancient temple of the Soto School of Zen Buddhism, founded more than four centuries ago, is said to be the place of origin of the locally grown leaf vegetable Nozawana. Nozawana pickles, beloved for their slightly salty taste and crunchy texture, are rich in vitamin C. In 1756, the eighth head priest of Kenmeiji temple returned from Kyoto with Tennoji Kabura (a type of turnip) seeds. When the seeds were planted in Nozawa Onsen, they sprouted much bigger leaves and stems than their original variety did. Within the temple grounds there are still Nozawana fields left, and *teradane* (temple seeds) can be purchased as well.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

このお寺の境内へと至る急な石の階段は、大きな針葉樹の木々に取り囲まれていて、ここを神秘的であり美しい場所にしています。この禅宗の曹洞宗の古いお寺は、4世紀以上前に山腹に建てられ、地元で栽培される葉野菜の野沢菜の発祥の地と言われています。野沢菜漬けは、少し塩っぱい味とシャキシャキした歯ざわりで人気ですが、健康によくビタミンCが豊富です。

1756年に8代目住職が研鑽のために京都を訪れ天王寺蕪というカブの一種の種を持ち帰りました。野沢温泉でこの種が播かれるやいなや、元の種類のものよりもずっと葉や茎が大きく育ちました。この寺の境内には今でも野沢菜畑が残っており、代々伝えられた貴重な宝である「寺種」をご購入いただけます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 湯沢神社例祭・湯沢温泉灯籠祭り

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

The sky is lit up with glowing orange bulbs when Yuzawa Jinja, the shrine located next to Kenmeiji temple, holds its annual lantern festival on September 8th and 9th. For locals, who believe the event's origins date to the mid- or late-Edo period (1603–1868), this is one of the most eagerly awaited religious occasions of the year.

It can, however, be a little baffling for the uninitiated. The huge two-day event is conducted only by 42-year-old men, whose age (along with 25) is considered unlucky. While a committee—which consists only of men residing in Nozawa Onsen aged between 40 and 42—collectively called *sanyako*—takes charge of all the preparations, the spiritual dances, such as the Sarutahiko (Shinto god) Dance, the Lion Dance and the Dance of the thirty-six *kasen* (great poets), are conducted by an association of Yuzawa Shrine, which handles the preservation of *bugaku*, imperial court music and dance.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

空は煌々としたオレンジ色の灯りで照らされ、健命寺の隣に位置する湯澤神社では毎年恒例の燈籠祭りが9月8日、9日に開催される。地元の人々によればこの祭りの起源は江戸中期（1603-1868）までさかのぼるとされており、一年で最も楽しみにされている宗教的な行事のひとつである。

しかし、この祭りに初めて参加する者は少しばかり奇妙に思うことだろう。と言うのも、この大がかりな2日間のイベントは42歳の男性たちのみが指揮を取り、年齢が25歳または60歳の者は厄年として参加する。野沢温泉に暮らす40歳～42歳の男性のみで構成される執行部はまとめて「三夜講」と呼ばれているが、彼らが全ての準備を取り仕切っている。また「猿田彦（日本神話に登場する神）の舞」や「獅子舞」、「三十六歌仙（すぐれた歌人）舞」などの神事踊りは舞楽、雅楽、舞踊の保存に取り組む湯澤神社舞楽保存会によって行われる。

本事業以前の英語解説文

Dosojin, sometimes called Dorokujin or Saenokami, are a folk deity believed to ward off danger near village borders and crossroads.

Their stone statues are usually enshrined at village borders. These deities are also worshipped for bringing fertility and children's growth, and fire festivals dedicated to them are held on January 15th. In particular Nozawa-onsen's Dosojin festival is famous for its spectacular size.

625

No. 7 Yuzawa Shrine's Lantern Festival (lantern procession)

<野沢温泉、長野>

【施設名】 湯沢神社例祭・湯沢温泉灯籠祭り

(灯籠行列について)

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

The colorful festivities start on the first day at around 7.30 pm with a fireworks display, followed by the lantern procession, which features the lamps attached on large poles and carried through the streets from the public bath house Juodo no Yu to Yuzawa Shrine via Oyu-dori Street. Don't miss the performance of Sarutohiko no Mikoto, a Shinto deity who carries out a purifying ritual known as *shimekiri*. The deity rhythmically swings a large lit torch before cutting a ceremonial rope with a *katana* sword. Since this unique spectacle usually lasts until midnight, stay sated with some tasty local snacks, which are sold at stalls along the street.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この色彩豊かな祭りは、初日は夜 7 時半頃に花火とともに始められる。つづく灯籠行列では、大きな棒につけた灯籠を持って外湯である十王堂の湯から大湯通りを経由し、湯澤神社に向けて通りを練り歩く姿が見られる。神道の神、猿田彦命が清めの神事を行うシメ切は見逃せない。この踊りでは、猿田彦命が拍子に合わせて火のついた大きな松明を振り回し、刀でシメ縄を断ち切るのだ。毎年このユニークで壮大な舞は夜中まで続くため、通りにならぶ屋台で売られている地元のおいしい軽食などを食べ、お腹を満たしておくといいだろう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 湯沢神社例祭・湯沢温泉灯籠祭り
(神輿物語について)

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

The following day, September 9th, features a morning children's parade before a large float of *omikoshi* (portable shrines) makes its way through town.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

翌日の9月9日は、朝から子供たちがお神輿をかついで町中を練り歩く姿が見られる。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 野沢温泉スキー場

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

The stunningly beautiful Nozawa Onsen is among Japan's top ski resorts and draws winter sports enthusiasts between late November and early May. They've been skiing here since 1912, a few years before its first ski club was founded. When Austrian skier Hannes Schneider's modern methods made their way to the country in 1930, helping popularize a new and exciting sport, Nozawa Onsen was where he showed off his skills. The town is justly proud of its sporting pedigree, boasting no fewer than sixteen Olympians, and in 1998 Nozawa Onsen hosted the biathlon tournament of the Nagano Winter Olympics. The 297-hectare-wide ski area, blessed with plenty of natural powder snow, comprises thirty-six different slopes, perfect for both beginners and advanced skiers. If you are new to skiing and snowboarding, or are visiting with your family, then the wide, gentle slopes of the Uenotaira area, accessible via the Hikage and the Nagasaka gondola, is for you.

The Yamabiko area is home to the Skyline Course, a 3,500-meter long powder snow run stretching from the summit to the base area along the ridge of the mountain. Advanced skiers and snowboarders might want to take on the Schneider course, a steep and bumpy powder snow run that's not for the faint-hearted. If you're not quite at that level yet, take the moving walkway Yu Road to the Hikage Base, which houses a ski and snowboard school, as well as a children's park that has several playgrounds and fun activities. For a calmer winter adventure, the resort organizes a range of entertaining non-skiing activities. Board a snowcat and venture out to untouched areas—breathtaking views guaranteed—or put your snowshoes on and tramp through fairytale-like white forests. Whether you're into the serene scenery or the high-octane winter sports, after a day out in the ski resort, nothing beats heading down to the Nozawa Onsen village and unwinding in the hot springs.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

野沢温泉は日本屈指のスキー場の1つとされており、毎年11月下旬から5月上旬にかけて、国内外からたくさんのウィンタースポーツ愛好家がこの地を訪れます。スノーリゾートとしての歴史は、スキーが野沢温泉に公式に導入された1912年にさかのぼります。1923年には初のスキークラブが創立され、この静かな町に練習用の雪原が設置されました。1930年に世界的に有名なオーストリア人スキーインストラクターのハンネス・シュナイダーにより、現代的なスキー・メソッドが日本に導入された際には、野沢温泉がそのデモンストレーション会場となったのです。こうして日本でスキーは

まったく新しい、楽しいスポーツへと変化したのです。これまでに、この小さな町から 16 人のオリンピック選手が生まれています。そして 1998 年の長野冬季オリンピックの際には、バイアスロン競技の会場となりました。

このスキー場は、標高 1,650m の毛無山の山頂から標高 565m の山麓まで広がった、297 ヘクタールの広さを誇るスキー場で、天然のパウダースノーに恵まれ、初心者にも上級スキーヤーにも最適な 36 種類のゲレンデから構成されています。

スキーやスノーボードに慣れていない方や家族連れの方には、上ノ平もお勧めです。日影 Gondola と長坂 Gondola のどちらからもアクセス可能で、広いエリアに緩い傾斜のゲレンデ、そしてスノーパークを備えています。スノーパークでは、パークならではのエキサイティングなアクティビティが楽しめるでしょう。そのためスノーボーダーやフリースタイルのスキーヤーには特に人気があります。このほか、やまびこエリアにはスカイラインコースがあります。この全長 3,500 メートルのパウダースノーコースは、山頂から山の尾根に沿ってベースエリアまで伸びるコースで、中級から上級のスキーヤーのほか、スノーボーダーにもお勧めです。スキルをお持ちであれば、シュナイダーコースに挑戦するという手もあります。傾斜が急でコブの多いパウダースノーコースです。

温泉街とスキー場を結ぶ便利な動く歩道「遊ロード」を利用して簡単にアクセスできる日陰ベースには、国際的なインストラクターから指導を受けられるスキー・スノーボードのスクールのほか、遊び場や楽しいアクティビティを複数備えたキッズパークもあります。

もっと穏やかな雪遊びがお好みの方用に、スキー場には他にも楽しいアクティビティが幅広く用意されています。雪上車「スノーキャット」に乗って、手つかずのエリアまで遠征してみたいかたがでしょう。確実に息をのむような絶景が見れます。あるいはスノーブーツを履いて、おとぎ話に出てくるような一面真っ白の森を雪の上をテクテク歩いてみましょう。自然の美しさが発見できます。

冒険好きのウインタースポーツファンであれ、やや穏やかなアクティビティがお好きな方であれ、スキー場で 1 日を過ごした後、こじんまりした温泉街へ戻り、温泉につかってゆっくり疲れを癒すのは至福のひと時です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 野沢温泉の道祖神祭り（由来）

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

A fixture since 1863 and held annually on January 15th, Nozawa Onsen's Dosojin Fire Festival is one of the three biggest such spectacles in Japan. During the celebrations, prayers are offered up to the deity Dosojin.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

1863年から毎年定例で1月15日に開催されている野沢温泉の道祖神祭は、日本三大火祭りの一つです。この祭で人々は、村々やその住人達を災厄から保護し、また豊饒、円満な結婚生活、健康な子孫をもたらす道祖神に祈ります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 野沢温泉道祖神祭り
(道祖神について)
【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Dosojin protects villages and its inhabitants from harm and is also the god of fertility, happy marriages, and healthy children. The tradition in Nozawa Onsen is for villagers to anonymously exchange carved wooden figurines of Dosojin while the fire festival takes place. Besides connecting members of the community in this way, the Dosojin Fire Festival provides another local service: bringing fortune to those men of Nozawa Onsen who are currently at the “unlucky” ages of 25 and 42.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

道祖神は人々を災いから守り、幸せな結婚や子供たちの健康を見守る神です。野沢温泉の伝統によって、火祭りの間、村の住人達は道祖神の小さな木製彫像を一杯に入れた籠を匿名で交換し合います。このようにして地域住民の交流を推進する以外にもう一つ、道祖神火祭りの地域社会への貢献があります。野沢温泉に住む現在 25 歳と 42 歳の「厄年」の男性達に幸運をもたらすのです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 野沢温泉道祖神祭り（祭りの組織）

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

These two “unlucky” age groups play an essential role as organizers for this event, selecting the five sacred beech trees from which the festival's *shaden*—a large wooden shrine—is built on January 13th, two days before the main event. After its construction, a priest from a nearby shrine holds a special ceremony to endow it with the spirit of Dosojin.

On the evening of January 15th the festival starts in earnest, as male villagers light torches from a bonfire and stage an assault on the *shaden*. The “unlucky” 42-year-olds sit on top of the shrine defending its roof while singing and chanting, and the 25-year-olds protect the wooden structure at its base, using pine branches to put out the torchbearers' fires. Once the excitement of battle is over—and all participants have withdrawn to a safe distance—the *shaden* is ceremonially burned, together with large decorated lanterns on poles that are carefully made by families to bring good health and fortune to the children.

You can see a replica of one of these large, beautifully decorated poles in the Oborozukiyo no Yakata Museum.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

これら二つの「厄年」のグループが、この祭りの取りまとめる中心となり、祭当日の2日前の1月13日に社殿（大きな木造の祭壇）を作る為の五本の神聖なブナの木を選びます。社殿の建設後、近くの神社から神主が呼ばれ、この社殿に道祖神の魂を授ける特別な儀式が行われます。

祭は1月15日の夜に本格的に始まり、村の男性住人達が種火から火を付けた松明を手に、社殿への攻撃を開始します。42歳の「厄男」達は社殿の上に座り、歌ったり唱えたりしながら屋根を防御し、25歳の男達はその下で、松の小枝を振りかざして松明の火をはね返し、木造社殿を守ります。戦いの興奮が去り、参加者達全てが離れた場所に避難すると、灯籠（子孫の健康と幸運を願う地元住民の家族達によって丁寧に作られた、装飾した竿に付いた大きな灯籠）と共に、社殿は儀式的に燃やされます。

美しく装飾されたこの大竿の複製は、おぼろ月夜の館に展示されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 野沢温泉朝市

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

If you are visiting Nozawa Onsen between May and October, make sure you don't miss out on the town's weekly morning market—though you'll have to get up early, as it's held every Sunday from 6 am to 7.30 am. Super-early risers should bear in mind that all thirteen public onsen facilities open at 5 am, so your market visit could easily turn into a pleasant morning stroll following a dip in the hot spring. The market is on the town's main drag of Oyu-dori, and offers local and seasonal produce—grapes and apples from surrounding orchards in late summer, mountain vegetables during spring, mushrooms in autumn. Look out for Nozawa Onsen's specialty, Nozawana (Japanese leaf vegetable) pickles, which are in high demand among locals and tourists alike. The farmers market also sells Akebi vine crafts, folk toys, woodwork, souvenirs, homemade jam and more. A handful of food stalls provide culinary specialties, including *onsen manju* (buns filled with red bean paste), Nozawana croquettes, *sasa zushi* (sushi spread out on a bamboo leaf), and healthy smoothies. Be warned: it'll be hard to resist grabbing a snack while exploring the market stalls.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

5月～10月に野沢温泉を訪れるなら、日曜日の朝は早起きをして、6時から7時半まで開かれる朝市に是非お出かけください。どうしてこんなに朝早くに開くのか、不思議に思われるかもしれません。でもこの街に13ある共同浴場はすべて朝5時に開きます。ということは温泉につかった後で朝市を訪れると、楽しい朝の散歩となるわけです。

目抜き通り「大湯通り」沿いで開かれるこの朝市では、地元や季節の食材をお求めになれます。晩夏や秋には近隣の果樹園で収穫されたぶどうやリンゴといった新鮮なくだもの、そして春には様々な種類の山菜、そして秋はきのこといった食材が目玉となります。野沢温泉の特産品で、地元の人にも観光客にも大人気の、野沢菜（日本産の葉物野菜）の漬物もお忘れなく。この農産物直売市ではこのほか、あけびの蔓細工、郷土玩具、木工品、お土産品、自家製のジャムなども販売されています。

温泉饅頭（小豆餡入り饅頭）、野沢菜コロッケ、笹寿司（笹の葉の上に広げられた寿司）、ヘルシーなスムージーなど、グルメ特産品を売る屋台や露店もあります。軽食をつまみながら、色々な露店を覗いて散策されてみてはいかがでしょうか？

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 つつじ山百番観音とつつじ山公園

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

In the north of Nozawa Onsen, you'll find the picturesque Tsutsujiyama hill, an especially captivating sight in June when it's in bloom with around 5,000 azaleas that color the slopes bright red. From the park at the top of the hill, which is also home to the tiny Hyakuban (100) Kannon temple, you have great views of the village, the ski area, the Northern Alps, and the five peaks of the Hokushin Gogaku mountain range. The outlook is a 25-minute walk up a narrow, winding path lined with 100 Kannon monuments. Kannon is Avalokiteshvara, the bodhisattva of compassion, and these 100 Kannon statues are used by the locals in ceremonies to pray for their ancestors and for people's safety. The Kannon lend a spiritual ambience to a short nature trail surrounded by lush greenery: the perfect getaway to refresh your mind.

Walking along this winding path lined with Kannon monuments is considered to be the equivalent of visiting the trio of pilgrimage tracks that make up "Japan's 100 Kannon"—the Saigoku 33 Kannon in the Kansai area, the Bando 33 Kannon in the Kanto area, and the Chichibu 34 Kannon in Saitama prefecture. That's because legend has it that the Kannon monuments, built by villagers between 1839 and 1849, are placed on soil that was brought back from these three sacred pilgrimages.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

つつじ山は、野沢温泉の北側にある丘です。この丘が特に美しくなるのは6月で、約5,000種類のつつじが山腹を真っ赤に染めます。小さな百番観音堂もある丘の頂上にある公園からは、村やスキー場、北アルプス、さらに北信五岳の5つの山頂を見渡す絶景が楽しめます。百体観音の石仏が並んだ、狭く曲がりくねった道を約25分登ったところにあります。

「日本百観音」とは、関西の「西国三十三番」、関東の「坂東三十三番」、そして埼玉県の「秩父三十四番」という3つの独立した巡礼道を総合した巡礼ルートのことです。

野沢温泉にも、100体の観音石像が並ぶ独自の小道があります。この曲がりくねった道を歩くのは、日本全国に広がる「日本百観音」の3つの道すべてを訪れるのと同じご利益がある考えられています。伝説によると、1839年～1849年に村人たちが作った観音石像は、これらの3つの観音霊場から持ち帰った土の上に安置されているということです。それ以来地元の人々は特に供養の際こちらの石像を用いており、石像一基に一灯ずつの燈明を献じ、先祖の供養や人々の無事をお祈りします。

豊かな緑に囲まれてハイキングを楽しみたいという方には、こちらの小規模な自然遊歩道がお勧めです。街の喧騒を離

れて心をリフレッシュするには最高の場所です。ハイキングの後に、自分へのご褒美として温泉に入ってリフレッシュしましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 岡本太郎と野沢温泉
 【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

A frequent visitor to Nozawa Onsen was the internationally famous avant-garde artist Taro Okamoto (1911–1996), best known for his giant installation *Tower of the Sun* (1970) in Osaka. In 1974 Okamoto was commissioned to create a large-scale monument for Nozawa Onsen in celebration of the village being linked with the town of St Anton in Austria. This work resembles his own, former design of the official commemorative medal for the Sapporo Winter Olympics in 1972, and was placed next to a bronze bust of ski professional Hannes Schneider, who brought modern skiing to the village. While attending festivities for the monument's inauguration, he developed a love for this small, tranquil town and became a regular winter visitor. He enjoyed skiing, the healing effects of the hot spring water, and the Dosojin Fire Festival. In turn, Okamoto was loved by the locals, leading to his nomination as the town's first honorary citizen in 1991. While strolling through the streets of Nozawa Onsen, Taro Okamoto's work can be found everywhere. His presence is even evident in the signage for the tourism association, which uses his handwritten character for hot water—湯 (*yū*)—as a logo, perfectly capturing the town's hot spring culture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

国際的に有名なアバンギャルドなアーティスト、岡本太郎（1911-1996）は、野沢温泉をしばしば訪れていました。彼は若い頃の大部分をパリで過ごし、特にパブロ・ピカソの絵に触発されて抽象画を描き始めます。岡本の最も有名な作品は、大阪万博（1970）のために制作し、多くの人に影響を与えた巨大な「太陽の塔」（1970）です。この塔は人類の過去、現在、未来を象徴しており、日本における有名なパブリックアートの1つです。

1974年、岡本は、野沢温泉村がオーストリアのサンクト・アントンの姉妹都市となることを記念する、大きな記念碑の制作を任されました。この作品は、1972年冬季オリンピック札幌大会のために彼が以前デザインした公式記念メダルを模しており、プロスキーヤー、ハンネス・シュナイダーのブロンズ像の隣に設置したものです。シュナイダーは現代スキーをこの村で普及させた第一人者なのです。岡本はこの記念碑の落成式典に出席した際、自分がこの静かな小村に愛着を感じているのに気づき、冬期に定期的に訪れるようになります。彼はスキーに興じ、温泉で癒され、道祖神火祭りを楽しみました。岡本は地元の人に愛され、1991年には村の最初の名誉村民に選出されます。野沢温泉の通りを散策すると、岡本太郎の作品やデザインをあちこちで目にするでしょう。例えば、村の観光協会は彼の手書きの「湯」という文字をイメージロゴとして使っていますが、このロゴは村の温泉文化を非常によく表しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 雪原遊覧ツアー

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

In Nozawa Onsen, snowcats are so much more than machines for shoveling snow drifts out of the way. At the ski resort you can board these giant vehicles and explore untouched mountain plateaus, which are usually inaccessible during winter season. It's a great way to discover the beautiful, snow-white landscapes during this non-skiing activity. While the snowcat moves through the forest, look out for wild animals, such as Japanese serows and rabbits. The ride takes about forty-five minutes and the vehicle has space for sixteen passengers—perfect for families and large groups.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

スノーキャットは、もはや単に積もった雪を片付けるためだけの道具ではありません。野沢温泉スキーリゾートでは、この巨大な乗り物に乗って、冬季は通常立ち入ることができない手付かずの山頂付近を探索することができます。特に、ウィンタースポーツが苦手な人にとっては、雪で覆われた真っ白な美しい景色を眺めることができる素晴らしい方法です。スノーキャットで森の中を走行しながら、ニホンカモシカやウサギなどの野生動物に出会えることも。ライドは約 45 分間で、16 名乗車可能なので、家族や大人数のグループでも楽しめます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 麻釜温泉公園 ふるさとの湯
【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

In addition to the thirteen public onsen, Nozawa Onsen has an unofficial (since an admission fee applies) “fourteenth” Soto Yu bath house: the Furusato no Yu. Located on the slope up to Ogama, this traditional, wooden building blends in perfectly with the little town’s atmosphere and history. It’s considered to be a *gensen kakenagashi* bath, whose natural hot spring water flows continuously from its original source. Compared to the other Soto Yu, this modern hot spring facility (it was built in 2011) is more spacious, including one outdoor bath and two indoor baths with different temperatures—an *atsuyu* (between 44 and 45 degrees Celsius) and a *nuruyu* (between 42 and 43 degrees Celsius)—for each gender. Basic amenities such as soap, shampoo and shower booths, are available as well.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この「ふるさとの湯」は麻釜（おがま）に行く途中の斜面に位置しており、非公式の14番目の外湯として数えられています（入場料が必要）。2011年に建設されたこの伝統的な木造建築は、この小さな村の雰囲気や歴史と完璧に調和しています。この温泉は、源泉から自然に湧出した温泉水が常時流れ込む、源泉掛け流し温泉とみなされています。

他の外湯と比べて、この現代的な温泉施設はより広々としています。男湯、女湯のそれぞれに、露天風呂が1つ、そして熱湯（摂氏44度から45度）とぬる湯（摂氏42度から43度）から成る温度の異なる2つの内湯があります。石鹸、シャンプーなどの基本的なアメニティは備え付けられており、シャワーブースも利用可能です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 野沢温泉スパリーナ 国際会議場
【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Boasting an outdoor facility with a *gensen kakenagashi*—a hot spring whose water flows endlessly from its original source—the spa complex of Sparena Nozawa Onsen is a place to unwind with your friends, family or partner in the town’s mineral-rich, hot spring water. The spa is equipped with indoor and outdoor pools, especially recommended for onsen first-timers, since the water temperatures are lower compared to Nozawa Onsen’s communal bath houses.

During peak season, from December to March, many visitors use Sparena as a base camp for a one-day visit to Nozawa Onsen. The spa opens at 6.30 am, so you can enjoy breakfast before starting your snowy adventure in the mountains. Stash your belongings in the lockers and head out to the ski resort, or unwind in the relaxation room equipped with reclining chairs, until the bathing area opens around 1 pm (you can rent swimwear and towels from the spa). Sparena’s restaurant serves local delicacies, some of them prepared with the area’s popular Nozawana leaf vegetable. And if you plan to drop by during summer, expect an outdoor pool adorned with a waterfall and fountain, especially popular with children, while the terrace turns into a fancy beer garden.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

源泉から湧出した温泉水が常時流れ込む、源泉掛け流しの露天風呂がある野沢温泉スパリーナは、野沢温泉村のミネラル豊富な温泉で、友人や家族、パートナーと一緒にくつろぐことができます。スパには室内風呂と露天風呂が備えられており、野沢温泉の公衆浴場と比べて湯の温度が低いので、特に温泉が初めての人にオススメです。

12月から3月にかけてのピークシーズンは、多くのビジターが野沢温泉への1日ツアーのためのベースキャンプとしてスパリーナを利用しています。この施設は午前6時半にオープンするので、雪山へ探索に出かける前に朝食を楽しむことができます。所持品を全てロッカーに預けてスキーリゾートに出かけるのもよし、午後1時ごろに温泉施設がオープンするまで、リクライニングチェアを備えたリラックスルームでくつろぐのもよし。手ぶらで来ても、施設で水着やタオルのレンタルが可能です。お腹が空いたら、スパリーナのレストランで昼食や夕食をとることができ、郷土料理や地域の名産、野沢菜を使った料理も提供されています。

夏季に訪れる予定の場合は、滝や噴水のあるアウトドアプールが特に子供たちに人気です。また、テラスもおしゃれなビアガーデンに変わります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高野辰之記念館 おぼろ月夜の館

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

The Oborozukiyo no Yakata Museum is dedicated to Tatsuyuki Takano (1876–1947), a popular Japanese lyricist and literature scholar, who was active during the first half of the twentieth century. He composed the lyrics for several children’s song books used in elementary schools across the country, which popularized songs that have been passed down through generations and are still firm favorites for Japanese parents and children alike. The first floor of the museum houses the Tatsuyuki Takano Memorial Hall, a permanent exhibition showcasing a large number of his works, such as writings, diaries, and letters, as well as other personal items alongside a life-size diorama of his office. Takano had a special relationship with Nozawa Onsen, having spent about twelve years living in the little onsen town. From 1934 onward he stayed each year at his summer residence, Taiun Sanso, near Ogama, before moving to Nozawa Onsen year round in 1943. While making your way to the second floor, which hosts regular changing exhibitions, keep an eye out for the large window in the hallway with elaborate colored glass, depicting fields of the town’s popular leaf vegetable Nozawana. On the third floor you’ll find a replica of one of the giant, colorful lanterns used during the annual Dosojin Fire Festival. Pick up a souvenir in the shop on the first floor, and for refreshments head to the adjoining café.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

おぼろ月夜の館は、20 世紀前半に活動していた、日本の有名な作詞家で国文学者、高野辰之（1876-1947）の業績を称えるための記念館です。高野は、国内の小学校で使われている唱歌のいくつかを作詞しています。彼が作詞したものには、世代を超えて歌い継がれ、今なお非常に人気のある「春がきた」（1910）、「もみじ」（1911）、「故郷」（1914）などの有名な曲があります。高野辰之記念館は館内の 1 階にあり、著作物、日記、手紙など彼の数々の作品や身の回り品の常設展示室となっています。特に目を引くのは、彼が使用していたオフィスの実物大のジオラマでしょう。高野はこの小さな温泉村で約 12 年間過ごしたので、野沢温泉とは特別の繋がりがあります。彼は 1934 年以降、1943 年に完全に野沢温泉に移住するまで、毎年夏に、麻釜近くの別荘「対雲山荘」に滞在していました。館内 2 階は展示物が定期的に入れ替わる特別展示室です。2 階に上がる際には廊下の大きな窓から、村の名産、野沢菜の畑が見えます。窓には精巧に作られたステンドグラスがはめ込まれています。3 階には休憩所が設置され、カラフルで巨大な灯籠のレプリカが飾られています。この灯籠は通常、毎年 1 月に行われる道祖神火祭りの際に使われるものです。飲み物やスナックが欲しくなったら 1 階に戻って隣接するカフェで一服するか、またはお土産の買い物をするのも良いでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 スキー博物館

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

A trip to the Japan Ski Museum, with its church-like design surrounded by typical European mountain lodges, is like stepping into an Austrian village. Once inside you can gaze at ancient skiing equipment from various parts of Asia, learn about the development and changing fashions of skiing, pore over historical documents and see plenty of memorabilia such as posters and medals won by local stars of bygone Winter Olympics. Even a pair of skis once owned by Imperial Prince Takamatsu are on display. For ski enthusiasts, the Japan Ski Museum offers unparalleled insight into the history of the sport—from its introduction to Japan in 1911 (when it was brought to Nagano's neighboring prefecture Niigata by a former Austro-Hungarian army officer), through the adoption of the classic Arlberg skiing technique two decades later, to its development as a modern, elegant sport. And Nozawa Onsen has a special place in that history: in 1930 the Austrian creator of the Arlberg technique, Hannes Schneider, was invited to Japan by the Imperial Prince Yasuhito to explain the new style he had been popularizing across the world. Schneider held a demonstration of his method at Nozawa Onsen in front of hundreds of Japanese skiers—a moment that would become a major milestone in the development of professional Alpine skiing in Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

教会のような外観の日本スキー博物館は典型的なヨーロッパの山小屋風の建物に囲まれています。エリア全体を歩いてみると中心に丸い噴水のあるオーストリアの村を歩いているような気分になります。

博物館は世界で最もポピュラーなウィンタースポーツの一つ、スキーの辿った変遷について詳細な内容を伝えてくれます。展示は2つのフロアにまたがっており、6つの部分に分かれています。アジアのいくつかの地域の古いスキー道具を眺めたり、スキーの発展や服装の変化について学んだり、歴史的文献を読んだり、ポスターや地元の才能ある選手たちが冬季オリンピックで獲得したメダルなど多数の記念品を見たりすることができます。高松宮殿下が所有されていたスキー板の実物も展示されています。日本スキー博物館は日本や世界におけるスキーの歴史を知るには間違いなく最適な場所です。

スキーは、オーストリア＝ハンガリー帝国の元将校であったテオドール・エドラー・フォン・レルヒによって、1911年1月に長野県の隣の新潟県に伝えられました。当時スキーは主として軍人がするもので、一本のストックだけで前進していたため、操るのはかなり困難でした。それから20年近くたってようやく、オーストリアのスキーの名手ハネス・シュナイダーによってアールベルクテクニクと呼ばれるスキーの技法が伝えられました。著書「Wunder des Schneeschuhs（スキー

の驚異)」が日本で出版された後、シュナイダーは 1930 年に秩父宮雍仁殿下に招かれ、2 本のストックを使うエレガントなスポーツとなっていた新しい近代スキーの技法を説明し披露しました。この時に、この新しい近代的なスキー技術のデモンストレーションの場となったのが野沢温泉でした。そしてこれを契機として日本にプロフェッショナルなアルペンスキーが根付いたのです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 シュナイダー広場 L'atelier KURA

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Schneider Square, named in honor of Hannes Schneider, and the café and art gallery L'atelier Kura form by far the best introduction to the village; both are centrally located near Nozawa Onsen's tourist information office and bus terminal. In Schneider Square you'll find a large monument commemorating two personalities who contributed to the town's growth and reputation: the blue tile-covered wall features a pair of wooden skis and poles, as well as a bronze bust of Hannes Schneider, while the large, round sculpture next to them—which resembles an Olympic medal—was designed by the late Taro Okamoto, the famous avant-garde artist who was a regular visitor to Nozawa Onsen. Nearby L'atelier Kura, meanwhile, is another local institution, which occupies an old, renovated warehouse (*kura* in Japanese) and renowned for its homemade bread specialties. Don't leave without tasting their “Nozawana Mayopan,” a sandwich filled with a paste made from pickled local vegetable leaf Nozawana and mayonnaise. It's not the only masterpiece on offer, though. Head up to the second floor and you'll find a free art gallery.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

近代的なアールベルクスキー技法を日本に伝えたオーストリアのスキーの名手、ハンネス・シュナイダーにちなんで名付けられたシュナイダー広場とカフェ&アートギャラリー L'Atelier KURA は観光案内所やバスターミナルに近い街の中心部にあります。便利なことに隣り合っているこの 2 つの場所は村を知るには間違いなく最適な場所です。シュナイダー広場には町の成長と評判に貢献した 2 人の重要人物を称える大きな記念碑があります。青いタイルに覆われた壁には木製のスキー板とストック一式とハンネス・シュナイダーのブロンズ製胸像が飾られています。1972 年に北海道の札幌で開催された冬季オリンピックの公式記念メダルを模した大きな円形のモニュメントも見ることができます。この芸術作品は著名な前衛芸術家の故岡本太郎氏によってデザインされたものです。

そして L'Atelier KURA は自家製のパンで人気があります。地元の葉物野菜、野沢菜を細かく刻んだものをマヨネーズで和えてはさんだサンドイッチ「野沢菜マヨパン」を味わうために早くから並びましょう。リノベーションされた古い倉庫（日本語で「蔵」）を使った L'Atelier KURA の 2 階に上がるとそこは無料のアートギャラリーになっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 木造道祖神人形

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Dosojin is a guardian deity in Shinto, and usually to be found near roads, village boundaries, and mountain passes, protecting travelers and towns from harm. Generally, it's a human-like figure carved into small stones, but Nozawa Onsen has its own interpretation of Dosojin. It comes in pairs, hand-carved from two matching cylindrical pieces of wood, and painted to resemble a married couple; local custom celebrates them as the deity of fertility, happy marriages, and healthy children. Legend has it that the couple the figures are based on were not particularly attractive, but decided to get married and were blessed with a baby boy. Walking through Nozawa Onsen, you can't miss these adorable wooden Dosojin, which come in a variety of sizes and designs. Locals often have small versions of these figures enshrined at home, but sometimes you can spot them outside their front doors. During the annual Dosojin Fire Festival, which takes place on January 15th, people bring their Dosojin in pairs to the festival site, place them in a big basket, and pick up somebody else's set to take home with them in the morning. The idea is that the adopted figurines will then help their new owners find a partner for life. If you need some friendly assistance in that area, you can pick up your own Dosojin set at the many souvenir shops sprinkled around town.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

道祖神は旅人や街を厄災から守ってくれる神道の守り神で、通常道端や村境、山道などにあります。一般的には人の形に彫った小さな石ですが、野沢温泉には道祖神の独自の解釈があります。この道祖神は、同じ大きさの一对の円筒形の木彫りの人形で、手で彩色されており、夫婦に見えます。そして子宝、幸せな結婚、子供の健康などをもたらしてくれる神様として祀られているのです。伝説によると、この神様はあまり魅力的でない男男女女だったのですが、結婚したところ男の子に恵まれたといわれています。

野沢温泉を歩いているとあちこちで様々な色とデザインの可愛らしい木製の道祖神が目に入ります。地元の人はいさい道祖神を自宅の神棚にお祀りしていますが、玄関の外に飾っているお宅もあります。年に一度、1月15日に行われる道祖神火祭りの日の朝に、人々は道祖神人形を祭りの場に持って行って大きなかがり火の籠の中に納め、新しい一对を持ち帰ります。こうすることによって二人の神様は地元の人たちの縁結びに力を貸してくれるのです。霊的な助けを求めている方は、街中に点在するたくさんの土産店で道祖神を手に入れましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 ハウスサンアントン

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

Strolling down Oyu-dori, Nozawa Onsen's central shopping street, you can't miss Haus St Anton. Incorporating a hotel, jam factory, restaurant, and café, its architectural design resembles typical structures found in Austrian villages—hence the name (St Anton is the village in Austria that Hannes Schneider hailed from, and is a sister city to Nozawa Onsen). All thirteen hotel rooms feature distinctive interiors, combining a cozy ambience with a modern style, similar to European mountain lodges. Even if you're not a guest at Haus St Anton, it's well worth dining in its restaurant. Here, Kensaku Katagiri, a former ski champion and trainee at Ritz-Carlton Osaka's La Baie restaurant, turns fresh, local produce and carefully selected international ingredients into creative dishes based on French cuisine and combined with Japanese traditional cooking techniques. Order an *osusume* (chef's recommendation) course, and savor Nozawa Onsen's nostalgic charm fused with the modern vibes of urban Japan. The jam factory, meanwhile, with its cozy café space, is the perfect place to take an indulgent moment for yourself. If you're craving a snack, go for Nagano's specialty, *oyaki* buns. Made from fermented flour dough, Nozawa Onsen's version is filled with a juicy mix of vegetables including local favorite leaf vegetable Nozawana. They also have different types of bread, ice cream made from local fruits, and plenty of coffee options. Don't hold back when it comes to sampling all the delicious, additive-free homemade jams and seasonal juices on offer at the tasting table. They make perfect souvenirs or gifts for loved ones back home—if they make it that far.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

野沢温泉の中心にある商店街、大湯通りをぶらぶら歩いていくとハウスサンアントンがあります。その外観は典型的なオーストリアの村の建物で（ハウスサンアントンの名もここからきています）、ホテル、ジャム工場、レストラン、カフェが一緒になっています。

ホテルの客室は全部で 13 部屋。素晴らしい内装は居心地の良い雰囲気とモダンな特徴を併せ持ち、ヨーロッパの山小屋に似ています。ここに泊まらないとしてもレストランのディナーは味わう価値があります。ここでは、スキーマの元チャンピオンでありリッツカールトン大阪の「ラベ」で修業した片桐健策氏が、新鮮な地元食材と厳選した輸入食材を使ってフランス料理に日本の伝統的料理法を組み合わせたクリエイティブな料理を供しています。特におすすめコースには、野沢温泉のノスタルジックな魅力と日本の大都市のモダンな雰囲気が融合されています。一方、居心地の良いカフェもあるジャムファクトリーはちょっと休憩するのにぴったりです。軽く何かを食べたいときは、長野名物のお焼きを食べてみましょう。

う。野沢温泉では、発酵させた小麦粉生地で作った皮の中に地元で栽培されている人気の葉物野菜、野沢菜などの野菜を混ぜたジューシーな具を入れます。そのほかにもいろいろなパン、地元の果物で作ったアイスクリーム、様々な種類のコーヒーなどがあります。無添加の美味しい手作りジャムや季節のジュースの試食品が試食テーブルいっぱいに載っていますから遠慮しないで試してみましょう。お土産にぴったりなものや自分の朝食メニューに加えたいものが取り揃えられていますから、手ぶらでお店を出ることは間違いなくないでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 遊ロード

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

This futuristic moving walkway connects the hot springs of Nozawa Onsen with the ski resort's Hikage Base. Entering the tube-shaped design, built in 1994, is a little like stepping inside a particle accelerator, though it will move you along at a much more comfortable speed. It's an elegant way to start your winter-sports adventure, and in contrast to the ski lifts, the Yu Road is free of charge, and offers some unique photo opportunities.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

遊ロードは未来的な外観の動く歩道で、伝統的な温泉街の野沢温泉とスキーリゾートの日影グレンデの麓を結んでいます。1994年に作られたこのチューブ型の構造物は宇宙的なタイムトンネルを思わせ、あなたをまさに別世界へと連れていってくれます。屋根付きの遊ロードはウィンタースポーツアドベンチャーへの出発点としてとても便利です。スキーリフトと違って無料で、ユニークな撮影スポットも何か所かあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 マイクロブルワリー里武士

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

できあがった英語解説文

For many, a good craft beer is the perfect follow-up to a soak in a hot spring. With the Oyu bath house right across the street, this brewpub has cornered the market in post-onsen pints. Run by an English-Japanese couple, Microbrewery Libushi's taproom provides space for twenty hop-happy individuals and as a small standing bar, it's a great place to mingle with other tourists and locals. The brewery uses natural local spring water, as well as the finest local and international organic ingredients to create their unique brews—the staff are known for experimenting with different yeast strains to come up with new concoctions on a regular basis. You're best off with their beer tasting set, which lets you choose four samples from the extensive menu. Pair your pints with some snacks, while any non-drinkers can look forward to homemade juices made by Haus St Anton from local produce.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

一日雪の中で過ごして、あるいは温泉に浸かった後で、どうしてもビールが飲みたくなったら、共同浴場大湯の真正面にあるこのクラフトビールのブルーパブ(ブルワリー直営パブ)に行かない手はありません。イングランド人と日本人のカップルが経営するマイクロブルワリー、里武士のタップルームには、ホップが欲しくてたまらない人が20人ほど入れます。小さな立ち飲みバーといった風情の里武士はほかの旅行者や地元の人たちに混じって飲むのにぴったりの場所です。ブルワリーは地元の天然の湧き水と、地元産あるいは輸入された上質のオーガニックの原材料を使って独自のタイプのビールを作っています。里武士はいろいろな系統のイースト菌やバクテリアを試しつつ、基本を守りながらも新しいビールを考案しているブルワリーとして人気があります。

多彩なメニューの中から4つのお好みのタイプのビールが選べるテイastingセットを頼んでみるのが一番です。ビールに合うおつまみもありますし、グループの中の未成年の方は地元産の果物を使ったハウスサンアントンの自家製ジュースを楽しめます。

本事業以前の英語解説文

なし

一般社団法人 金沢市観光協会

【施設名】長町武家屋敷跡界限
【整備予定媒体】WEB、ラミネート資料
<https://visitkanazawa.jp/>

できあがった英語解説文

Nagamachi District

The city of Kanazawa was once the economic and administrative center of the Kaga domain (feudal-era Ishikawa Prefecture). Its official founder Maeda Toshiie (1538–1599) and his successors enlarged the castle, and over the course of the Edo period (1603–1867) turned the surrounding town into one of the largest castle towns in feudal Japan. At its most prosperous, over 100,000 people lived here—a population rivaling Rome or Madrid at the time.

With the castle at its center, the town was designed with a view to both its defensive and economic aspects. Members of the upper classes were often given allotments of land for their residences close to that of the feudal lord (daimyo) in the castle, while commoners lived near the town's edges. Here in Nagamachi, relatively near the town center, middle- to high-ranking samurai had their homes. The name Nagamachi literally means “Long Town,” though probably it actually takes its name from the surname of a local family, the Cho, which means “long” and can also be pronounced “naga.”

Nagamachi's historical value lies in its unusual state of preservation. It has escaped large-scale fires, including the firebombing that damaged other large cities such as Tokyo and Osaka during World War II. Accordingly, it preserves many features from the Edo period: narrow streets, a drainage and water supply system that remains in use, and restored samurai houses. Many of these residences maintain their original earthen walls (*tsuchi-kabe*), which are still covered in the winter with straw mats to protect them from frost and subsequent cracking. A walk through Nagamachi, where an Edo-period atmosphere still lingers, offers a glimpse into the heritage of Kanazawa and Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

長町界限

金沢市はかつて加賀藩（封建時代の石川県）の経済的・行政的中心でした。その公的な創設者である前田利家は、後継者たちとともに城を拡大し、江戸時代（1603—1867）の間、周囲の町を封建時代の日本における最大の城下町のひとつに成長させました。その最も繁栄した時期には、10万人以上がここに住んでいました。これは、当時のローマやマドリッドに匹敵します。

城を中心におくこの街は、外部に対する防衛と経済的な要素を念頭に置いて設計されました。上流階級はしばしば、城にいる封建時代の君主（大名）に近い位置に広い土地を与えられました。町人は街の端の方に住んでいました。ここ、比較的街の中心近くにある長町は、中級から上級の武士が住んでいた場所です。長町という名前は、字義通りには「長い町」を意味しています。ただ、これはこの地にいた長（ちょう）家から取られたと考えられています。「長」は、長いという意味ですが、「なが」とも読みます。

長町の価値はその稀な保存レベルです。この地は、第二次世界大戦中にあった東京や大阪といった大都市への空襲を含めた、大規模な火災を免れました。このため、狭い通りや、今も使われている用水、侍屋敷の跡といった、江戸時代からの特徴が今も残っています。これらの家屋の多くは、土壁を維持しています。これは、霜や割れから守るために、冬には藁のマットで覆われます。江戸時代の雰囲気を残す長町を歩くことは、金沢と日本の遺産を味わう貴重な体験です。

本事業以前の英語解説文

Nagamachi Samurai Houses

In the Edo period, there were many samurai houses in this district.

They remain well preserved because the area has not been affected by fires.

Some say the name Nagamachi ("long town") comes from the long street extending from north to south and others say the area was named after a high-ranking warrior, Cho ("long") or after Yamazaki Nagato. The houses are surrounded by mud walls, and those of high-ranking warriors have Nagaya gates.

The Takada house is a good example of a typical samurai house.

Many houses have beautiful gardens with streams fed by the Onosho-yosui canal.

【施設名】長町武家屋敷跡界隈

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Samurai Ranks and Residences around Kaga Castle

In this hub of the Kaga domain (feudal-era Ishikawa Prefecture, centered on Kanazawa), samurai retainers were allotted land for their residences appropriate to their stipend, which was determined according to rank. Residential areas around the castle were divided and redistributed several times in the early years of the Edo period (1603–1867), but after 1659 there were no further major changes. In principle, the higher a samurai's rank, the closer his residence was to the castle and the larger the residential site assigned to him. Lower-ranking samurai were placed further out and allocated less land. This was both a political and strategic arrangement that kept high-ranking samurai close and made attacking the town from outside more difficult.

In Kanazawa, the area inhabited by samurai made up nearly seventy percent of the town. This included the castle, domain facilities, samurai residences, and accommodation for *ashigaru* (foot soldiers). Samurai of middle rank (*heishi*) were especially numerous and occupied roughly 25 percent of this land. It is thought that a high proportion of *heishi* was one reason that Nagamachi, in which many *heishi* lived, never suffered serious fire damage. The land they occupied was roughly seven times the area allotted to common townsfolk, and these expansive grounds were connected by gardens interspersed with water channels. Thus, fire could not spread as quickly as in areas with the higher densities more typical of the Edo period.

Ashigaru, the lowest-ranking samurai class, lived in designated wards called *kumichi* in various parts of the city. Unlike those in other domains, Kaga's *ashigaru* were given detached residences, which—on top of plentiful business opportunities—is thought to have made the domain attractive to many *ashigaru*.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

加賀城下町の侍の階級と住居

加賀藩（金沢を中心としていた、封建時代の石川県）のハブだったこの地では、家臣である侍たちには、階級に応じた決められる扶持に適切な土地と財産が与えられました。城の周りの居住地は江戸時代（1603—1867）の初め頃に何度か分割され直しましたが、1659年を最後に、その後は大きな変化はありませんでした。基本的に、侍の階級が高いほど、彼らの住居は城に近く、土地も広がったのです。地位の低い侍の場合、城から離れた位置に、少ない

土地が配分されました。このように上級の侍を城の近くに置き、街の外からの攻撃を受けづらくするのは、政治的かつ戦略的な観点から考えられた設計です。

金沢では、町の約7割が侍の住む場所で占められていました。これには、城、藩の施設、侍屋敷、足軽（歩兵）の住居が含まれていました。中級階級の武士である「平士」は特に多く、約25%の土地を占めました。平士が多く住んでいた長町が、大きな火災を被ったことのない理由の1つは、平士の存在のためだと考えられています。彼らは、町民の約7倍の土地をもち、庭園とつながる広々とした敷地と用水がありました。このため、江戸時代の一般的な状況に比べ、火災がすぐには広がらなかったのです。

侍階級の最下層の足軽は、市内各地の「組地」と呼ばれる指定区域に住んでいました。他の藩とは異なり、加賀藩では彼らは独立した住居を与えられていました。これは、仕事に十分な機会があったことも伴って、多くの足軽にとって加賀藩を魅力的な場所にしていただと考えられます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】長町武家屋敷跡界隈

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

History of the Nagamachi District

Here in the Nagamachi district of feudal Kanazawa, the Murai and the Cho, two of the highest-ranking and wealthiest samurai families (*bakka*) in the Kaga domain (feudal-era Ishikawa Prefecture) had their residences. Some argue that the name Nagamachi itself comes from the Cho family's use of the character for "long" (which can be read as either *cho* or *naga*) to write their name.

Throughout the Edo period (1603–1867) and to this day, Nagamachi has escaped severe fire damage. Thus, it exists in a rare state of preservation. While today a few modern houses dot the area, the narrow streets, active water channel system, earthen walls, and gates called *nagaya-mon* ("longhouse gates") still evoke the townscape of an era long past. With the beginning of modernization in 1868 and the subsequent abolition of the feudal class system, Nagamachi was opened to all residents; yet even today it retains the atmosphere of its days as a samurai district.

Visitors can learn more about samurai life by visiting various sites around Nagamachi. The Takada Family House has exhibits about the lives of middle-ranking samurai (*heishi*) and their servants (*chugen*). There is also the Kanazawa City Ashigaru Museum with displays about the lifestyle of the lowest ranking samurai, the *ashigaru* or foot soldiers.

The Onosho Yosui (water supply channel) that runs through Nagamachi is believed to be the oldest such channel in Kanazawa. Its date of construction is unknown, but the channel has been used variously for transporting goods into town, and for supplying water to the stroll gardens of the samurai residences.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

長町界隈の歴史

ここ、長町には、加賀藩の八家（侍の最も高い階級であり、エリートで豊かな階層）である村井家と長家が屋敷を構えていました。「長町」という名前は、その名前に「長い」という文字を使う長家から来ているという説があります。

江戸時代（1603—1867）とその後には、長町には深刻な火災被害はありませんでした。このために、長町は珍しいほどよい状態で保存されています。現在、この地域には近代的な住宅もありますが、狭い通りや、今も使われてい

る用水、土壁、長屋門（長屋形式の門）などは、古い時代の街並みが残っています。1868年に始まった近代化によって、封建時代の階級制が廃止され、長町は全ての住民が住める場所として開放されましたが、現在も侍の屋敷があった頃の雰囲気が残っています。

訪問者は、長町の様々な場所を訪れて、侍の生活の詳細を知ることができます。高田家は、中級武士である「平士」と彼らの奉公人である「仲間」の生活に関する展示をしています。また、金沢市足軽資料館もあり、最下層の侍である足軽（歩兵）のさまざまな側面を知ることができます。

長町を流れる「大野庄用水」は、金沢市の最古の用水と考えられています。いつできたのかは不明ですが、この用水は、物資の運搬のほか、侍屋敷の美しい回遊式庭園に水を供給するといった役割を担ってきました。

本事業以前の英語解説文

Nagamachi Samurai House Neighborhood

At one time there were many high-and mid-ranking samurai of the Kaga clan living in the Nagamachi area. Here the narrow streets, mud walls and row-house gates are reminiscent of bygone days. Once used to transport goods from the port to the castle town, the Onosho water channel that flows through the neighborhood is the oldest water channel in Kanazawa.

【施設名】長町武家屋敷跡界限

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Samurai Ranks in the Kaga Domain

In general, samurai were a high-status group in Edo-period society (1603–1867). Depending on their rank, however, stark differences existed in the lifestyles permitted them. More than any other factor, rank determined a samurai's stipend, the area of his residence, style of house, clothing, work, and rules of etiquette.

Early in the Edo period, there was disorder in the Kaga domain (feudal-era Ishikawa, centered on Kanazawa) owing to power struggles between upper members of the ruling family, but under the fifth lord (daimyo) of the domain, Maeda Tsunanori (1643–1724), samurai ranking was clearly set out. Excluding the daimyo, six ranks were established within the samurai class.

Families that were originally in positions of great power maintained their pre-eminence. As there were eight families in this category, they came to be called the “eight households” (*bakka*). Those of *bakka* rank were relatives of the daimyo or belonged to families that had played an important role in the early days of the Kaga domain. They served as senior advisers to the daimyo (*toshijori*) charged with consulting together to manage the political affairs of the domain. They were given the most extensive estates and the largest stipends. The greatest of these households was the Honda family, followed by Nagamachi's Cho family. All eight families had stipends of over 10,000 *koku*. A *koku* is a unit for measuring rice and was used to express the value of a samurai's holdings; one *koku* is roughly equivalent to 180 liters of rice and was held to correspond to the amount of rice a grown person consumes in a year. In other domains, estates that produced such wealth were often concentrated in the hands of the daimyo himself. From these valuations, one can gauge the prosperity of the Kaga domain.

Below the *bakka* were those of *hitomochi-gumi* rank. Their stipends ranged from 1,000 to 14,000 *koku*. There were 60–100 families of this rank. The wealthier of them were senior officials (*karō*), while the less wealthy were junior officials called *wakadoshijori*. Both undertook a greater share of practical administrative duties than did the *bakka* above them.

Thus, these high-ranking samurai occupied the upper echelons of society in the Kaga domain. However, the bulk of the administrative work was done by middle-ranking samurai (*beishi*). There were about 1,400 *beishi* in the Kaga

domain—more than any other rank. They often held administrative and judicial offices, such as court magistrates; they also made up the cavalry in military operations.

Below the *heishi* in rank were the *yoriki*, samurai who received stipends of 60–350 *koku*. Below the *yoriki* were the *okachi*. Although members of these ranks were technically samurai, they had little or no opportunity to interact with the daimyo directly. *Yoriki* and *okachi* were typically employed as workers in magistrates' offices.

The very lowest rank of samurai in the Kaga domain was that of *ashigaru* or foot soldier. During the long peace of the Edo period, *ashigaru* worked as gate guards or couriers (*bikyaku*). In other domains, *ashigaru* may not even have been viewed as samurai, and most lived in cramped tenement houses. However, in the comparatively prosperous Kaga domain, *ashigaru* were offered unusual incentives and amenities, which included detached family residences with their own gardens.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

加賀藩の武士階級

一般的に、侍は江戸時代（1603—1867）の社会で高い地位を占めていました。しかし、彼らに許容されるライフスタイルは、彼らの階級ごとに大きな違いがありました。なによりも階級が、扶持、居住地、住居、衣服、仕事、作法を決めていたのです。

江戸時代初期には、加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では上層の氏族間の権力闘争による混乱がありました。五代目の大名（領主）である前田綱紀（1643—1724）の時に、武士の階級が明確になりました。大名を除いて、6つの侍階級が設立されました。

もともと強大な地位にあった一族は、その地位を維持しました。このグループには8つの氏族がいたので、彼らは「八家」と呼ばれるようになりました。八家階級は、大名の親戚だったり、加賀藩の初期に多大な貢献があったりした者で、藩の政治を合議で動かしていく重要な職務である「年寄」として仕えました。彼らは最も広大な土地と最大の扶持を与えられました。これらの土地のうち最大のものは本多家であり、続いて長町の長家が続きました。すべての氏族は1万石以上を持っていました（石は米を測定する単位で、武士の所得を示すために使われていました。だいたい180リットル、あるいは1人の大人が1年に食べた米の量にほぼ相当しました）。他の藩の場合、そのようなレベルの財産を持つのは、だいたい大名だけでした。このことから、加賀藩の繁栄ぶりがたやすく見て取れます。

八家の下には「人持組」階級がありました。彼らの扶持は1,000～14,000石でした。このランクには60～100の家がありました。この中で、富が豊富な者は「家老」（上級の役人）であり、富の少ない者は「若年寄」（その下の役人）と呼ばれていました。どちらも、彼らの上にいる年寄よりも多くの実務上の責務を担っていました。

このように、加賀藩の上流は、最高位の侍たちで構成されていました。しかし、行政的な仕事の大半は、中位の「平士」が担っていました。加賀藩には約1400の平士があり、他の階級よりも多かったです。彼らはしばしば行政上の役割を

担い、裁判所で治安判事として働いたりしました。また、軍事作戦の際に騎兵隊を形成したりもしていました。

平士の階級の下には 60～350 石の扶持を受け取る「与力」があり、その下には「御徒」がありました。彼らは武家階級でしたが、これらの階級は大名と直接交流する機会はほとんど、あるはまったくありませんでした。与力と御徒は、通常、奉行所といった場所で職員として働いていました。

加賀藩の侍の最下位は「足軽」（歩兵）です。江戸時代の平和時には、足軽は門番や飛脚（宅配者）として働いていました。他の地域では、足軽は侍階級だとみなされなかった場合もあるようで、さらに、狭い長屋で住むことが多かったようです。しかし、比較的繁栄していた加賀藩では、庭が付いた一戸建ての住居といった、珍しいインセンティブと快適さが与えられていました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】長町武家屋敷跡界隈

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Earthen Walls (*Tsuchi-kabe*) and Stone Walls (*Ishi-gaki*)

The surviving samurai residential areas in Kanazawa are striking to behold. Long stretches of wall made from earth and stone front the narrow streets.

Within the samurai class, rank determined the type of walls that could enclose a household's grounds. The *ashigaru* or foot soldiers, for example, were not permitted walls at all, and instead used hedges. Samurai of middle rank (*beishi*) or above, however, surrounded their residences with earthen walls (*tsuchi-kabe*).

Tsuchi-kabe were constructed with a “rammed earth” technique that resulted in a heavy, solid wall. Earth, limestone, gravel, river sand, and bittern (a surplus liquid produced when extracting salt from seawater) were mixed together for a tough, earthen material that was then poured and packed tightly into standing wooden frames. This was then repeated any number of times until the residence had a lengthy and massive defensive wall.

Tsuchi-kabe were constructed atop a low stone wall (*ishi-gaki*). Here, again, rank determined what style of *ishi-gaki* a household could create. The style seen here, distinguished by its uncut, irregular stones, is called *nozura-zumi* (“field-stone bedding style”). These stones, in their natural and unaltered state, were laid upon one another. The wall's corners, however, do make use of high-quality cut stone taken from Kanazawa's Mt. Tomuro. Taken as a whole, the stones are stacked to resemble the base of a mountain.

At the top of the *tsuchi-kabe* is set a small, sloping roof of cedar, which protects the wall from the rain. In the winter months, freezing temperatures threaten to crack and damage the walls. Consequently, residents prevent the walls from freezing by covering them with woven straw mats. This sight forms a distinctive feature of the Kanazawa winter townscape.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

武家屋敷の土壁・石垣

金沢の侍の居住地跡はとても目を引きます。狭い路地には、土や石でできた壁の通りが長く続きます。

侍の中では、階級が家の土地を囲む壁の種類を決定しました。例えば、足軽（歩兵）は壁をつくることが全く許されていなかったため、生け垣をつくっていました。しかし、平士かそれ以上の階級の侍は土地を「土壁」で囲んでいました。

土壁は、重厚で頑丈な壁を生み出す版築の技術で建設されています。砂利、石灰岩、砂利、河川砂、にがり（海水から塩を抽出する際に生成する余分な液体）を混ぜ合わせて、頑丈な土の材料とし、木製の型に流し込んでしっかりと詰める。これを、重く長い防衛壁ができるまで、何度も繰り返します。

土壁は石垣の上に作られました。各家が作ることができる石垣の形式は、階級によって決められました。ここで見られる形式は、切り取られていない不均等な石で構成される「野面積み」です。これは天然の石をそのまま積み重ねたものです。ただし、角だけは、金沢市の戸室山からの取られた高品質の切石を使っていました。全体として、石は山裾のような形に積み上げられています。

土壁の上部には、雨から壁を守るためのスギ製の小さく傾斜した屋根があります。冬の12月から3月にかけて、凍結によって壁が破損する恐れがあります。したがって、壁が凍結するのを防ぐために、織られた藁のマットで覆われます。これは、金沢の冬の街並みの特徴です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】旧藩士高田家跡
【整備予定媒体】WEB、ラミネート資料
<https://visitkanazawa.jp/>

できあがった英語解説文

Takada Family House

Walking along the channel that flows through Nagamachi, one comes to a crossroads called *Yon-no-bashi* (“Fourth Bridge”), where stands the surviving structure of the Takada Family House. Here, an original samurai residence has been restored and opened to the public so that visitors can peek into the inner life of a samurai of the Kaga domain (feudal-era Ishikawa, centered on Kanazawa).

The Takada family were samurai of middle rank or *heishi*. They lived in the area designated for those of their status. Today, the house occupies a plot of roughly 890 square meters, but once it exceeded 1400 square meters. The *nagayamon* (“longhouse gate”) of the residence has been restored, and inside are exhibits relating to the servants who worked in the samurai household.

The beautiful Japanese stroll garden has also been restored. At the center of the garden is a pond that draws its water from the canal, and Japanese red pine trees are artfully arranged around it. The garden’s grounds have been designed for a leisurely walk.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高田家跡

長町を流れる用水に沿って歩くと、「四の橋」と呼ばれる十字路に行き当たり、そこに高田家跡があります。元の武家屋敷の復元がなされ、一般公開されており、観光客は加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）の侍の生活の内側を覗き見ることができます。

高田家は「平士」、すなわち中級武士の身分でした。彼らは、地位に応じて指定された地域に居住していました。高田家の現在の敷地面積は約 890 平方メートルですが、往時は 1,400 平方メートルを超えていました。ここでは、「長屋門」が復元されており、内部には武家屋敷で働いていた奉公人たちに関する情報が展示されています。

回遊式の日本庭園も復元されています。この庭園の中央には用水から水を引き込んで池が作られ、その周囲を松が彩るように配られています。庭園はゆったりと散策を楽しむことができるように設計されています。

本事業以前の英語解説文

Remains of the house of the Takada family, members of the Kaga clan

The feudal-period row-house gate (a characteristic samurai-house gate placed in the center of a long row-house) of the Takada family House has been restored, and the house is open to the public. The garden retains its atmosphere of the feudal period.

【施設名】旧藩士高田家跡

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Chugen (Household Servant): Status and Role

A consideration of the servants in samurai households, called *chugen*, can help visitors gain a deeper understanding of life in the samurai houses of the Edo period (1603–1867).

Chugen

Chugen are first mentioned in the Kamakura period (1185–1333), when they make an appearance as low-status soldiers who accompanied their samurai masters. It is said these soldiers were called *chugen* (meaning roughly “middle place”), because their rank fell between that of the lowest-ranking samurai (*ashigaru*) on the one hand and that of the messengers-cum-porters (*komono*) on the other.

During the Edo period, consecutive generations of *chugen* came to serve specific samurai families. Although there are stories of *chugen* who, in return for devoted service, were well-treated by their samurai families and who ultimately formed mutually beneficial relationships with them, there are also stories of *chugen* making use of samurai authority to further their own interests.

While some *chugen* commuted to the residence, others were quartered in the *nagaya-mon* (“longhouse gate”).

Life

Between 1830 and 1868, a *chugen*'s average annual salary amounted to 360 kg of rice, or three *ryo*. A *ryo* was the standard unit of currency at that time. *Chugen* also received five cups of brown rice per day. While a *chugen*'s meals were usually provided by his samurai master, *chugen* were quite poor, and many remained unmarried their entire lives. Some had no choice but to wear their masters' discarded clothing, and also took on side jobs like making straw sandals or cultivating *bonsai* trees to supplement their incomes.

Clothing

Chugen typically wore cotton clothing that they made themselves unless accompanying their masters on business, in which case they were provided with clothes bearing a symbol unique to the family they served. Spear-carriers, sandal-bearers, and umbrella-holders often wore straight-sleeved coats called *happi* with their masters' crests sewn onto the back of the garment. Those who carried their masters' wooden chests of extra clothing (*basamibako*) and other cargo-bearers wore navy or yellow *happi* with a crest. *Chugen* would also be given an appropriate *happi* for special occasions like the New Year's celebration or coming-of-age ceremonies for the family's children.

Work

Within wealthy households, the individual roles and duties of each *chugen* were well-defined, along with their status with respect to one another. However, in less prosperous samurai households, *chugen* often had to shoulder numerous responsibilities simultaneously.

In principle, a *chugens* work was to watch the traffic in and out of the gates of the residence, manage and clean the grounds, bring water, draw baths, care for the horses, and accompany their masters on business. When attending their masters outside the residence, they might act as pike-bearers, carry sandals, haul trunks full of clothing, or lead horses. *Chugen* of especially high-ranking samurai might also bear their masters' palanquins.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

仲間（奉公人）の身分と役割

「仲間」と呼ばれる武家屋敷の奉公人を知ることを通して、観光客は、江戸時代（1603—1867）の武家の生活をより深く理解することができます。

仲間とは：

仲間に関して初めて言及されたのは、鎌倉時代（1185—1333）です。当時、彼らは武士に伴われる低い位の兵士たちでした。彼らが仲間（粗く訳すと「中間」といった意味合い）と呼ばれたのは、武士階級と、最下級の兵士たちである「足軽」や「小者」（通信役や、荷物運びを担った者）の中間に、彼らの階級が位置付けられたためだと言われています。

江戸時代に入ると、仲間は特定の武家に代々仕えるようになりました。仲間に関しては、武家の家族に忠実に尽くす代わりに大切に扱われるといった、互恵的な結びつきを形成していたといった逸話があります。その一方で、他方で武士の権威を私欲のために利用する仲間もいたようです。

仲間には屋敷に通勤する者もいましたが、他の者は「長屋門」の中に住んでいました。

生活：

1830～1868年にかけて、仲間の年間給与の市場平均は、米 360 キログラムあるいは 3 両でした。両は当時の通貨単位です。彼らはまた、毎日、玄米 5 杯分を与えられました。仲間は通常、主人の家で食事を与えられましたが、かなり貧しく、多くが生涯未婚のままでした。時には、彼らは主人が使わなくなった服を譲り受け着用することもありました。多くの者は、貧しさのため、藁のサンダルを作ったり、盆栽（小さい木）を栽培したりするといった副業を行いました。

衣類：

仲間は通常、自前で作った綿の服を身に着けていました。しかし、彼らが公用で主人に同行しなければならない時は、彼らは主人の家に特有のシンボルが入った服を提供されたようです。槍持ち、草鞋取り、傘持ちは、しばしば主人の家の家紋を背に入れた法被を着用しました。「挟箱」（衣服の替えを入れた箱）を運ぶ人や、他の荷物担ぎ手は紺や黄色の紋付き法被を身に付けました。新年や主人の家の子どものお祝いといった特別な場合にも、仲間には法被が支給されました。

仕事：

裕福な家庭における仲間の職務は、仲間たちの中における各々の立場に基づいて役割分担されていました。しかし、裕福ではない武家の場合、仲間はしばしば複数の職務を同時に負わなければなりませんでした。

原則として、仲間の仕事は、長屋門内で敷地内外の交通を監視したり、敷地を管理し掃除をしたり、水を運んで来たり、お風呂を焚いたり、馬の世話をしたり、外出時に主人に同行したりすることでした。彼らの主人に同行するとき、槍、草鞋、衣類を詰めたトランクを持つほか、馬の誘導を行いました。上級武士に仕える仲間は、主人を入れる駕籠を持ったかもしれません。

本事業以前の英語解説文

Chuge-no-ma

The chugen were the lowest-ranking servants who worked in the samurai houses.

Those who lived in the house had a room such as this.

651

No.8 Nagaya-mon, Takada Family House

<金沢市、石川>

【施設名】旧藩士高田家跡
【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Nagaya-mon (“Longhouse Gates”)

In the Kaga domain (feudal-era Ishikawa centered on Kanazawa) during the Edo period (1603–1867), samurai residences were surrounded by earthen walls (*tsuchi-keabe*) with one or more entrance gates. A samurai’s rank determined the type of entrance gate he was allowed, and one type was a structure called a *nagaya-mon* (“longhouse gate”—basically a gate set into a range of building). The *nagaya-mon* was permitted for samurai of middle rank and above and contained living space.

The *nagaya-mon* owes its name to its form, which resembled a traditional Japanese *nagaya* (literally “longhouses”—a term applied to long ranges of ancillary buildings and row houses), but with a transverse passage through it incorporating a gate. Servants often lived within this structure, and it was their duty to guard the entrance to the residence and closely monitor who came and went.

It is believed that the Takada family’s *nagaya-mon* was originally built between 1861 and 1864. It is now owned by the city of Kanazawa and has been restored to its original layout based on traces of changes visible on the faces of its old posts. On either side of the entrance gate are servants’ quarters and a stable. The wood-floored servants’ quarters contain a built-in hearth, while the stable was constructed with a floor of rammed earth (*doma*).

At that time, the only style permitted for constructing the stone walls to either side of the *nagaya-mon* was the *nozura-zumi* (“field-stone bedding”) style, in which stones are roughly laid without cutting or shaping them. The style is easily distinguished by its uneven lines. However, in practice, this rule was not strictly obeyed. The walls of the restored *nagaya-mon* have decorative facing blocks set in them carved in the shape of turtle shells to show how they would have looked during the Edo period, when they were built with carefully laid blocks of cut stone (a style known as *kiri-isbi-zumi*).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

長屋門

江戸時代（1603—1867）の加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では、武家の屋敷は1つ、あるいは

複数の入り口が設けられた土壁で囲まれていました。どのような形式の門が許可されるかは、階級によって決定されますが、このうちの1つは「長屋門と呼ばれました。これは、中級以上の侍に許された、居住空間が中にある門でした。

長屋門は、その名をその構造に負っています。伝統的な日本の長屋（付属的な建物と平屋から成る長い建物を指す）と似た構造をしています。しかし、門が、その中に埋め込まれていました。奉公人たちはしばしばこの中に住んでいました。入居者の出入りを慎重に監視し、入口を守ることは、彼らの義務でした。

高田家の長屋門はもともと1861～1864年の間に建てられたものであると考えられています。現在は金沢市が所有しており、古い柱をもとに、当時の間取りが復元されています。門の両側には、奉公人の居住場所と厩があります。奉公人の居住場所には木床と囲炉裏があり、厩には「土間」（土を積んだ床）があります。

当時は、長屋門の門部分の両側に入れられていた石垣は、加工をされていない天然石を積み重ねた「野面積み」のみが許可されていました。これは、不揃いな石の線によって容易に見分けられました。しかし、実際には、この規則は守られていませんでした。現在復元されている長屋門は、石垣に亀の甲羅の形をした薄い石が貼られています。これは、当時の実際の石垣だった、切り石をきれいに積み上げた「切石積み」に見た目を似せるためです。

本事業以前の英語解説文

Nagaya-mon

The word nagaya-mon refers to a characteristic samurai-house gate placed in the center of a long row-house. The samurais' servants, called chugen and komono, lived in a room adjacent to the nagaya-mon, and served as both attendants and gate-keepers.

【施設名】旧藩士高田家跡

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Stables (*Umaya*) and Horse Care

The *nagaya-mon* (“longhouse gate”) owned by the Takada family includes a room for servants (*chugen*) on its right half and a stable (*umaya*) on the left, viewed from within the residence.

In the Kaga domain (feudal-era Ishikawa, centered on Kanazawa), samurai families of middle rank (*heishi*) or above were permitted to build and maintain a stable of horses in their residential compounds. These samurai most often rode on horseback when moving through the city on business. While particularly wealthy households may have kept many horses, it is thought that the Takada family’s stable held only two.

Some of the *chugen* serving in the Takada residence were responsible for the horses’ care. These servants rose early in the morning to walk the horses through the grounds for exercise, and then brushed them while the straw in the stables was being changed. They had to remain near the stables, ready to saddle and bridle the horses as soon as they received word that their master was preparing to leave the residence. They also usually accompanied him to his destination, running alongside his mount.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

厩と馬の世話

高田家の長屋門（長屋形式の門）は、門の内側から向かって右側には仲間（奉公人）部屋が、また左側には「厩」があります。

加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では、中級階級の「平士」かそれ以上の階級の侍は、屋敷内に厩を建て、馬を飼うことが許されていました。これらの武士は、公用で街に行く際には馬で出かけていました。特に裕福な武士宅ではたくさんの馬を飼っていたようですが、この高田家では2頭だけだったと考えられます。

高田家に仕える仲間には、馬の世話係の者がいました。彼らは毎日早朝に起床し、馬を引いて屋敷周辺で運動させた後に馬体を手入れし、その間に厩の敷き藁を交換しました。彼らは厩の直ぐ傍で待機し、主人が用事で街中に出か

けるという知らせを受けると、直ちに馬に鞍をつけ、手綱を引いて主人の外出を待ちました。また外出中は常に主人に付き添い、主人が目的地まで乗馬で行く際には徒歩で供をしました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】旧藩士高田家跡

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Heishi (Middle-Ranking Samurai)

Middle-ranking samurai were referred to as *heishi*. In the Kaga domain (feudal-era Ishikawa, centered on Kanazawa), *heishi* made up the bulk of the samurai in the service of the domain and the core of its administrative body. Historical documents indicate the existence of as many as 1,400 *heishi* residences by the end of the feudal period in 1868.

Work

The samurai class in Kaga domain was separated into two major groups: those whose role was essentially military and those who were primarily administrators.

The military group was split into six subgroups. Two of these subgroups were the *omawari-gumi*, who served as cavalry, and the soldiers who formed the bodyguard (*shinban-gumi*) of the domain lord (daimyo). The role of *heishi* within these subgroups could change, depending on their wealth.

In addition to the six military subgroups, *heishi* also constituted officials for ten administrative organizations. These included the horse officials who cared for the daimyo's mounts, officials who oversaw the repair and maintenance of the castle, officials who served as magistrates of public affairs and sat in the high courts, and police, responsible for local law enforcement.

Stipend

Although *heishi* held a middle rank among samurai, their lives were not necessarily easy—and the lower their stipend, the more difficult their lives became.

Samurai stipends were measured in units of rice called *koku*. One *koku* was about 180 liters, or roughly the amount of rice an adult person consumes in a year. On paper, a samurai of the *heishi* rank might receive a stipend of anywhere from 80 to 2,400 *koku*. However, in reality, many families had immediate access only to about 40 percent of

that amount. In the Takada family's case, that meant that while they were a 550-*kokū* family, they probably only received around 220 *kokū* each year.

According to documentation from 1825, a *heishi* estate receiving 500 *kokū* spent over 70 percent of that income on necessities such as food and clothing, and 11 percent on servants (*chūgen*). Consequently, less than 20 percent of a samurai's salary was actually available for ready use. Compared to a household of lesser means, this was still a considerable sum. A *heishi* estate of 100 *kokū* saw 83 percent of its stipend go to basic necessities and 13 percent to *chūgen*, meaning that they retained barely anything for other needs. There was a saying at this time that "in a 100-*kokū* family of six, eight suffer," meaning that a *heishi* family with six members could barely afford their living expenses, and the two or more *chūgen* that attended them would invariably lead harsh lives.

In the early days of the Edo period (1603–1867), *heishi* were given their land by the daimyo. They collected rice as a form of tax from the farmers on those lands, which meant that their real stipend was greatly dependent on the harvest each year. In 1656, reforms instituted by the daimyo Maeda Toshitsune (1593–1658) provided some stability for *heishi* families by switching the Kaga domain to a twice yearly (spring and winter) payment system. This ensured that *heishi* were paid regardless of fluctuations in annual yields.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

平士（中級武士）

「平士」とは中級武士のことです。加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では彼らが家臣の大部分を占め、行政管理者の中心的勢力でした。歴史的文献によると、封建時代の終わりである 1868 年時点の平士の邸宅は 1,400 軒を数えたといえます。

仕事：

加賀藩の武士階級は 2 つの主要なグループに分けられます。すなわち軍事組織と行政組織です。

平士の軍事組織は 6 組に分かれます。この中には、騎馬隊である「御廻組」と大名を護衛する「親番組」が含まれています。平士たちは富のレベルに基づき、所属組織を変更できた場合もあります。

軍事組織 6 組と比較に加え、平士の行政組織は 10 組に区分されました。中には、例えば大名の馬を飼育する御馬奉行、城郭の修理保全に携わる御作事奉行、藩の最高裁判所組織で裁判を担当する公事場奉行、また治安警察活動に従事する者もいました。

家禄：

平士は、身分上は中級者でしたが、彼らの生活は必ずしも容易ではありませんでした。家禄が低いほど、より生活は苦

しくなりました。

武士の家禄は「石」で測られました。1石はコメ約180リットル、あるいは成人が1年間に消費するとみなされたコメの量でした。額面上は、平士は80～2,400石の家禄を受けているものとされました。しかし、実際には、多くの家はこの約40%程度しか手にすることができませんでした。すなわち、高田家の場合の家禄は550石でしたが、実際には恐らく220石しか受け取れなかったであろうとみられています。

1825年の文書によると、家禄500石の家では、家禄の70%を食料品や衣料品などの必需品に費やし、11%を仲間その他の奉公人の人件費に充当していました。家禄の20%未満を手元に残し、急な支出に充当しました。資力がさらに劣る家庭に比べれば、これでもまだ余裕がある方でした。家禄が100石であれば、83%が基本的な必需品の購入に費やされ、13%が仲間その他の使用人の人件費に充てられ、そのほかのことに使う金は何も残らない状況でした。当時の言い回しによれば、「百石六人、泣き八人」。すなわち平士の家族6人の生活費で精いっぱい、残る2人かそれ以上の仲間ら使用人はひどく厳しい生活を強いられました。

江戸時代(1603—1867)の初期、平士たちは大名から所有地を与えられ、農民たちから税として米を取り立てていました。そのため、彼らの実際の家禄は、その年の収穫に大きく左右されました。しかし、1656年に前田利常(1593—1658)の下で行われた藩政改革により、平士家族の生活には若干の安定がもたらされました。春と冬の年2度に藩から家禄を支払う仕組みに変わったのです。これによって、作物収量に関係なく確実に収入が得られることとなりました。

本事業以前の英語解説文

なし

654

No.11 Going to Work: A Heishi (Samurai-Class Official) and His Entourage, Takada Family House <金沢市、石川>

【施設名】旧藩士高田家跡

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Going to Work: A *Heishi* (Middle-Ranking Samurai) and His Entourage

It is easy to envision a daily outing for the master of a *heishi* residence such as the Takada family. Much like salaried workers today, every morning *heishi* would depart their households and commute to their workplaces—most likely the castle or a town office—for duty. Unlike modern workers, however, samurai were required to travel with a retinue, the composition of which was determined by rank.

The master of a residence like this would, first and foremost, be accompanied on either side by an attendant. On his way out of the main house, he would stop at the entrance (*genkan*), where a sandal-bearer *chugen* (servant) would toss his sandals before him. A “toss” like this would in most circumstances be considered rude; but in samurai etiquette, this was a way of expressing awe in the presence of one’s master. Afterward, a retinue of *chugen* and attendants would gather and organize themselves about him. This included a trunk-bearer who carried a change of clothing, a spear-bearer who held a spear with the family crest, and the previous sandal-bearer. *Chugen* responsible for horse care would already have saddled and bridled the master’s horse and be holding it at the ready. As soon as the master mounted, they would also fall into line.

In this way, the head of a family like the Takada would have departed his residence on horseback accompanied by about seven servants.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高田家 平士の外出と供揃い

高田家のような平士が日常、どのように外出していたかをイメージするのは簡単です。今日の給与労働者と同様に、平士は毎日家を出て勤務先のおそらくは城内や街中の事務所に出勤したでしょう。しかし現代の労働者と違い、武士は位別に規定された人数構成の供人とともに移動することを義務付けられていました。

このような家格の主人は、何よりもまず左右どちらかに、僕を従えなければなりません。母屋から外出するにあたり、主人はまず玄関で立ち止まり、その主人をめぐって草履持ちの仲間が草履をさっと投げだします。このように物を「投げつける」ことは、通常では無礼極まりないと見なされますが、武家の作法ではこれは、主人に近づくのは畏れ多いという意味

を表現する方法でした。その後仲間とお供が集合し、一団を形成します。これには、着替えの衣装入れを担ぐ挟箱持、家紋のついた槍を持つ槍持、さらに先述の草履取が含まれます。馬の飼育を担当する仲間は、すでに馬に鞍や轡を付け、その傍で主人が乗馬するのを待ち、主人が鞍にまたがるや否や、直ちに行列に加わりました。

こうして高田家のような家格の主人は馬に跨って邸宅を離れ、約 7 名の供人を引き連れて出かけたと考えられています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】足軽資料館の説明

【整備予定媒体】WEB、ラミネート資料

<https://visitkanazawa.jp/>

できあがった英語解説文

Kanazawa City Ashigaru Museum

At the Kanazawa City Ashigaru Museum, feudal-era Japan comes to life once more.

In the feudal era, the size and design of homes were determined by a family's class and rank. Many houses visible in Nagamachi—with their earthen walls lining the streets, private entrance gates, and gardens just beyond—were the residences of middle-ranking samurai. Those of lower rank, on the other hand, had houses surrounded by hedges, which also enclosed gardens. Visitors can see such a structure in the Kanazawa City Ashigaru Museum.

Preserved at this museum are two of the oldest surviving examples of *ashigaru* housing. *Ashigaru* were foot soldiers in feudal Japan. During the Sengoku (“Warring States”) and the Momoyama periods from approximately 1467 to 1600, they made up battalions of archers and gunmen; but in the Kaga domain (feudal-era Ishikawa centered on Kanazawa) during the Edo period (1603–1867), they were designated the lowest rank of the samurai class.

Displayed in the museum are the Takanishi Family House and the Shimizu Family House, two *ashigaru* residences. Visitors can walk through these historical homes to learn more about *ashigaru* housing, life, and society.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

金沢市足軽資料館

金沢市足軽資料館に来ると、日本の封建時代の雰囲気がより一層感じられるでしょう。

封建時代、家のデザインやサイズは階級によって決められていました。長町に見られる家の多くには、土壁が通り沿いに見え、専用の門をくぐると庭園が続く。これは、中流階級の武士の家だ。しかし、より低い階級の者の家は、生垣に囲まれた庭付きの家でした。このような構造は、金沢市足軽資料館で見ることができます。

この資料館に保存されているのは、最古の「足軽」の家として残された2棟です。足軽は封建時代の日本の歩兵です。足軽は、戦国時代と桃山時代だったおおよそ1467～1600年の間には弓矢と鉄砲隊を構成していましたが、江

戸時代（1603—1867）の加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では武士階級の最下位として位置づけられました。

資料館には、高西家と清水家の2棟の足軽屋敷がある。訪問者は、これらの家屋内を歩き回り、当時の足軽の住居、生活、社会について知ることができます。

本事業以前の英語解説文

Ashigaru Museum

Mud walls enclose the vast property of the Samurai houses and extend down along the street.

The style of the gate was determined by the rank of the family. Only people of samurai status were allowed to live in these types of houses which today convey to us the atmosphere of the feudal era.

【施設名】高西家

【整備予定媒体】WEB、ラミネート資料

<https://visitkanazawa.jp/>

できあがった英語解説文

Takanishi Family House

In the Edo period (1603–1867), *ashigaru* (foot soldiers, the lowest rank of samurai) often lived in continuous rows of tenement housing called *nagaya* (literally “longhouses”). In the prosperous Kaga domain (feudal-era Ishikawa centered on Kanazawa), however, *ashigaru* were allotted detached houses with gardens. This unusual incentive, along with Kaga’s economic opportunities, is thought to have made the domain attractive to *ashigaru*.

The Takanishi Family House, along with the Shimizu Family House next door, is one of the oldest remaining detached houses for *ashigaru* in Kanazawa. Descendants of the original *ashigaru* owners lived in the house until 1994, when it was dismantled and moved here to become part of the Kanazawa City Ashigaru Museum. Previously, the residence was located in the district designated for “fast feet” (*hikyaku*). *Hikyaku* were couriers known for their speed and unique running style; they delivered anything from correspondence and goods to money orders. In the relatively peaceful Edo period, *hikyaku* was the primary occupation of many *ashigaru*.

Inside the Takanishi Family House, visitors can learn more about *ashigaru* organizations, life, residential areas, and housing. The Shimizu Family House next door introduces everyday life and activities.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

高西家

江戸時代（1603—1867）には、多くの足軽（歩兵で最下層の侍）は長屋と呼ばれる複数の棟がつながった家に住んでいました。しかし、繁栄している加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では、足軽には庭付き一戸建ての家が割り当てられました。このインセンティブは、経済的機会とともに足軽にとって加賀を魅力的なものにしたと考えられます。

高西家は、隣にある清水家と並び、金沢においてもっとも古い足軽の一戸建て家の一つです。1994年に解体され、金沢市足軽資料館に移転されるまでは、もとの住人だった足軽の子孫たちが住んでいました。高西家は以前、飛脚のために指定された地区にありました。飛脚とは、荷物から為替、通信に至るまでさまざまなものを運ぶ配達人で、その速さと独自の走り方で知られていました。江戸時代の比較的平和の時代には、「飛脚」は足軽の主な仕事だった。

高西家では、足軽の組織や生活、居住地、住居などを詳しく学ぶことができます。隣の清水屋では、日々の生活や活動に関する紹介をしています。

本事業以前の英語解説文

Takanishi Houses

The foot soldiers of the Kaga clan did not live in row houses; rather they lived in single-unit houses with a garden. The Takanishi House is the oldest standing foot-soldier house in Kanazawa.

【施設名】高西家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Ashigaru (Foot Soldiers)

Ashigaru (literally “light feet”) were foot soldiers employed by the samurai class in feudal Japan. While in some domains *ashigaru* were not considered a part of the samurai class, the Kaga domain (feudal-era Ishikawa Prefecture centered on Kanazawa) recognized them as such—albeit the lowest rank of samurai. The Kaga domain is thought to have been attractive to *ashigaru*: there was economic opportunity, and unlike other domains, the Kaga domain allotted *ashigaru* families their own detached houses with individual gardens. That said, *ashigaru* in Kaga were still of low rank, and their lives could be difficult. In feudal Japan, one’s position in society determined salary, housing, employment, and permitted clothing and weapons. As the lowest of the samurai, *ashigaru* were forced to serve under the authority of those of higher rank, and they often struggled with poverty.

History

Ashigaru as a term appears to have existed since the Kamakura period (1185–1333) and became widely used during the Sengoku (“Warring States”) and the Momoyama periods (approximately 1467–1600).

Before the existence of formal, standing armies, landowners in Japan often armed the people who worked their land and mobilized them for battle. These landowners were the original samurai, and their farmers became the foot soldiers that made up the backbone of their armies. Thus, armed farmers are believed to have been the original *ashigaru*. In the Warring States period, however, these peasant forces proved insufficient in the face of constant warfare, and landowners sometimes resorted to hiring wandering foot soldiers. In this way, *ashigaru* numbers grew. Early *ashigaru* formed groups of archers or spearmen, and had a reputation at the time for being untrained and unruly. They were usually mobilized for guerilla warfare. Later, when firearms were introduced to Japan in the mid-sixteenth century, warring lords made them into battalions of musketeers. This changed the reputation of *ashigaru* drastically. They became the backbone of armies, complementing the traditional mounted warriors of the samurai class. Many farmers at this time became *ashigaru* to elevate their social status.

However, with the advent of peace in the Edo period (1603–1867), the samurai class was restructured, and *ashigaru* numbers were greatly reduced. Those who remained played a less active role than they once had. Many *ashigaru* had to shoulder the double burden of remaining battle-ready while working daily as administrative assistants to samurai of higher rank. Nevertheless, they still enjoyed educational opportunities and received specialized training.

Life

Life for *ashigaru* could be difficult. They were often at the beck and call of their superiors, and their stipends were low. A typical *ashigaru* in the Kaga domain had to spend over half his yearly stipend on purchasing enough rice (the staple food of the time) to survive. So, to supplement their incomes, many *ashigaru* families took up piecework jobs which they could do in their homes when not engaged in official duties.

Clothing

Ashigaru were required to wear *hakama* for their official duties. This was a pleated pant-skirt that—in their case—extended below the knee but not to the tops of the feet. *Hakama* of greater length were only permitted to those of *okachi* rank (the rank above *ashigaru*) or higher. As their daily lives often involved work that required them to move quickly and to use their entire bodies, it was not uncommon to see *ashigaru* with their *hakama* rolled high, revealing their thighs. Even in mid-winter *ashigaru* were often to be seen with their legs exposed.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

足軽（歩兵）

足軽（字義通りには「軽い足」）は封建時代の日本の侍階級によって雇われた歩兵でした。いくつかの藩では、足軽は侍階級の一員とは見なされない場合もありましたが、加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では最下層とはいえ、足軽は侍として認識されていました。加賀藩は、特に足軽に魅力的であったと考えられます。経済的な機会があったことに加え、他の藩とは異なり、庭が付いた一戸建ての家が割り当てられていたからです。もっとも、加賀藩でも足軽は依然として低い地位であり、その生活は厳しいものでした。封建時代の日本では、社会的地位によって、給料、住居、雇用、着てよい衣服や持っいい武器が定められていました。最下位の足軽は、より上の階級に強く服従させられており、しばしば貧困と戦っていました。

歴史：

足軽という言葉自体は、鎌倉時代（1185—1333）にはすでにありました。そして、1467～1600年ごろの戦国時代・桃山時代に広く使われるようになりました。

公的な常備軍が存在する前に、日本の領主はしばしば領地で働いている者たちを武装させ、戦に動員しました。こうした領主たちが侍階級の始まりであり、彼らの農民たちは軍隊の屋台骨を構成する歩兵でした。この武装した農民たちが足軽の起源だと考えられています。しかし戦国時代に入ると、絶え間なく続く戦に、これらの農民軍だけでは不十分だった。そのため、領主は時に、流浪の歩兵に頼りました。このような形で、足軽の数は増えていきました。

初期の足軽は弓矢や槍を持つグループを構成していましたが、訓練されておらず、手に負えない人々であると考えられていました。彼らは通常、ゲリラ戦に動員されました。その後、銃器が日本に導入された16世紀に、大名が彼らを用いて鉄砲隊をつくりました。これにより、足軽の評価は大幅に変わりました。彼らは軍の屋台骨であり、侍たちを補完する

存在だとみなされたのです。このとき、多くの農民が、社会的地位を高めるために足軽になりました。

しかし、より平和な江戸時代（1603—1867）に入ると、侍階級のリストラによって、足軽の数は大幅に減少しました。残った足軽たちに与えられたのは、以前よりも消極的な役割でした。多くの足軽は、上級武士のサポートをしながら、戦闘準備もするという二重の負担を負わなければなりませんでした。それにもかかわらず、彼らには高度な教育や専門的な訓練を受ける機会がありました。

生活：

足軽の生活は厳しかったようです。彼らはしばしば上司に呼び出され、彼らの言いなりになりましたが、彼らの扶持は低いまでした。加賀藩の典型的な足軽の場合、年間の扶持の半分以上は、当時の主食である米を購入するために費やされたため、収入を補うために、非番時は多くの足軽が内職をしていました。

衣類：

足軽は公務では「はかま」を着用する必要がありました。彼らの場合、この衣装は、ズボンのひだが、ひざ下まではあっても、足上までにはかからないものでした。より長い「はかま」は、足軽の 1 ランク上の「御徒」より上の者にしか許されていませんでした。足軽は、日々、素早く動いたり、さまざまな動き方を必要としたりする業務に従事していたため、はかまを高くまくり上げ、太ももが現れた状態になっていたのは珍しいことではありませんでした。冬の半ばでさえ、足軽はしばしば脚を露出させていたのです。

本事業以前の英語解説文

Ashigaru

The word ashigaru refers to foot soldiers who were conscripted at times of war. During the Warring States period, the ashigaru were frequently utilized in military units comprised of archers and riflemen, however during the Edo period they were the lowest-ranking samurai and did not play the active role they once did.

【施設名】高西家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Ashigaru (Foot Soldiers): Aspects of Their Lifestyle

In the Edo period (1603–1867), Japanese society was broadly divided into four classes: samurai, farmers, craftsmen, and merchants. All people, including samurai, were bound by strict social rules relating to their class. However, as these details from the lives of *ashigaru* (foot soldiers) show, flexibility within the system and opportunities for social mobility did exist.

Good News from the Formal Entrance

There was a particular custom among the *ashigaru* communities in Kanazawa: whenever a superior wished to contact an *ashigaru*, he would send an envoy to the *ashigaru*'s residence a day ahead of time. How the envoy then delivered the message was dependent on the nature of the message. If the news was good, the envoy would enter by the formal entrance (*genkan*) and announce his message from there. Bad news, on the other hand, would be conveyed from the kitchen or side entrance. In this way, an *ashigaru* family would know from the envoy's approach whether he carried good tidings or bad.

Advantages of Retinue Service and Staying in Edo

During the Edo period, the Tokugawa military government (shogunate) implemented a system called “alternate attendance” (*sankin-kotai*). Its purpose was to ensure the continued ascendancy of the Tokugawa by weakening the independence of feudal domains and depleting the resources of the other domain lords (daimyo). This system required daimyo to divide their time between their own domains and the Tokugawa capital, Edo (now Tokyo), where they were forced to maintain one or more official residences, in which the official wives and male heirs were expected to live. Details varied, but in the case of the Kaga domain (feudal-era Ishikawa centered on Kanazawa), the daimyo were expected to spend every other year in Edo, alternating between living there and in their own domain. For all the daimyo, traveling to Edo was a costly and time-consuming exercise. They did not travel alone, but were accompanied by a huge retinue of samurai retainers, servants, and various attendants. It is said that the daimyo of the Kaga domain—lord of one of the richest and largest domains of the day—traveled with no fewer than 2,000 and sometimes as many as 4,000 people in his retinue.

Ironically enough, despite the ordeals of *sankein-kotai*, *ashigaru* who accompanied their daimyo to Edo generally found their duties there less burdensome. Whereas at home they were frequently required to perform military duties and to act as servants to their superiors in the administration of the domain, work in Edo was simple. More often than not, their duties in Edo involved no more than standing guard at the gate of the daimyo's residence (*bantei*). Work in Edo was also well-paid. Many *ashigaru*, therefore, were eager to accompany their daimyo to Edo.

Buying *Ashigaru* Status

In principle, the rank of *ashigaru* was not a hereditary status passed from parent to child. However, for the most part, children followed in the footsteps of their parents. The number of *ashigaru* permitted in the Kaga domain was fixed, so a person could join their number only on one of two occasions: either at the retirement or the death of another *ashigaru*. At such a time, a child hoping to become an *ashigaru* required a recommendation for the position.

In circumstances when *ashigaru* did not have children to succeed them, they could “sell” their status to a successor. This created an informal system of adoption whereby, for a price, a merchant or farming family could buy their child *ashigaru* status and have the child adopted into an *ashigaru* family.

As a general rule, there was no social mobility in the Edo period, as the classes were hereditary and fixed. However, for those hoping to become *ashigaru*, this small loophole allowed for a certain degree of fluidity.

The “Peach Division”

In one corner of an *ashigaru* district in the Kaga domain, there was an area full of blooming peach trees. As was the custom in Kaga, all the houses in this area were freestanding individual buildings, and they were generally referred to as the “Peach Division.”

As a general rule, *ashigaru* in other domains were not permitted to live in freestanding houses with gardens. They were therefore unable to plant fruit trees like peaches. This anecdote about the “Peach Division” demonstrates that *ashigaru* in Kanazawa enjoyed a better way of life than those in other areas.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

足軽（歩兵）の生活のさまざまな側面

江戸時代（1603—1867）、日本には大きく分けて武士、農民、職人、商人の4つの社会階級がありました。武士を含むすべての人々は、階級の厳しい社会規範に縛られていました。しかし、これらの足軽（歩兵）の生活の詳細が示すように、その中にもある程度の柔軟性と社会移動の機会がありました。

吉報は玄関から：

金沢の足軽コミュニティには、特別な慣習がありました。上級の者が足軽を召喚したいときは、前日に使いを足軽の住居に送りました。召喚の内容次第で、使いがメッセージを運ぶ方法は異なりました。良いニュースだったら、特使は「玄関」と呼ばれる公式な入り口から入って、メッセージの内容を告げました。悪いニュースの場合は、流しのある勝手口から伝えられました。このようにして、足軽の家族は、良いニュースか悪いニュースかを、使いの入りで知ることができました。

江戸勤番における俸禄の良さ：

江戸時代（1603—1867）には、徳川の軍事政権（将軍）が、「参勤交代」という制度を導入しました。他の藩の独立性を弱めたり、大名の資源を減らしたりして、自らに権力を集中させるためです。この制度では、大名は藩と徳川の首都である江戸（東京）を交互に行き来する必要がありました。江戸には、彼らは妻や子供を住まわせる屋敷を設けることを求められました。詳細は藩によって異なりますが、加賀藩（金沢を中心とする封建時代の金沢）の場合、大名は1年ごとに江戸と自分の藩を行き来することを求められました。大名にとっては、江戸への旅は費用も時間がかかる業務でした。彼らは一人で旅行したわけではありません。兵士たちや召使、およびその他の様々な家来の大勢の付き添いを伴いました。当時の日本最大級で最も豊かな藩の一つだった加賀藩の大名の場合、旅のお供は少なくとも2,000人、最大で4000人にも及んだと言われています。

皮肉なことに、「参勤交代」の試練にもかかわらず、大名とともに旅した足軽は、大きな負担から解放されました。故郷では軍事業務と、上級武士に仕える義務を求められましたが、江戸での仕事は簡単でした。しばしば、江戸における彼らの職務は、藩邸の門で警備するだけでよかったです。江戸での仕事は、さらに報酬も良かったです。そのため、足軽の多くは熱心に大名の江戸行きに同行したがりでした。

お金次第で足軽になれた：

原則として、足軽は世襲制ではありませんでした。しかし、ほとんどの場合、子どもたちは両親の跡を継いで足軽になりました。加賀藩の足軽の定数は決まっていたので、足軽になれるのは、ある足軽が引退するか、死去するかのどちらかの場合だけでした。この場合、足軽になりたい子どもは、足軽階級に推薦されることが必要でした。

足軽に跡継ぎの子供がいない場合は、後継者を見つけるために「階級」を売ることができました。これは、非公式の養子縁組のシステムを作り出しました。つまり、商人や農民たちは一定の金額で彼らの子供のために足軽の階級を買い、足軽の家に養子縁組させられたということです。

原則として、江戸時代は、階級が固定され社会的流動性はありませんでした。しかし、足軽になりたい者にとっては、ある程度の流動性を許す小さな抜け穴がありました。

足軽組地は桃の組：

加賀藩の足輕居住区の一角には、桃の木が一面に咲く区がありました。加賀藩の慣習に基づき、これらの地区にある家は一戸建てでしたが、この地域の家はまとめて「桃の組」と呼ばれました。

他の藩では、一般的に、足輕は、庭付き一戸建ての家に住むことができませんでした。彼らは桃のような木を植えることはできませんでした。この「桃の組」のエピソードは、金沢の足輕が他の地域の足輕と比較して比較的良い生活を送っていることを示しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高西家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Ashigaru (Foot Soldier) Stipends and Advancement*Ashigaru* Stipends

Members of the samurai class were employed by the domain lord (daimyo) and received stipends for their services. Their positions were inherited, and they were granted fiefs from which they derived their income. The status of *ashigaru* (foot soldier), on the other hand, was technically not a hereditary position, nor did a foot soldier derive his income from land assigned to him. Low-ranking samurai like *ashigaru* were paid at fixed times throughout the year in vouchers called *kiri-mai* that could be exchanged for rice or hard currency.

A typical *ashigaru* in the Kaga domain (feudal-era Ishikawa centered on Kanazawa) received a yearly salary of about 20 to 25 *hyo* (two *hyo* being roughly equivalent to the amount of rice one person eats in a year). Since *ashigaru* families included an average of six people, half of an *ashigaru's* annual salary went directly to purchasing the food needed for basic subsistence.

Ashigaru Side Jobs

To supplement their salaries, *ashigaru* often took up side jobs at home in their spare time. This was often piecework, and included making lanterns, dolls, children's toys, and decorations for traditional holidays such as Obon (a Buddhist summer event commemorating one's ancestors).

The "Kaga Sodo" Incident

Even though their lives could be difficult, many *ashigaru* invested heavily in education and culture. Some, like Otsuki Tomomoto (1703–1748), even found remarkable opportunities for advancement.

The "Kaga Sodo" incident was an infamous episode in the history of Kanazawa when an *ashigaru* named Otsuki Tomomoto rose well above his initial rank and subsequently met with an unfortunate fate. This event, which ended in a series of deaths, has been retold in countless stories and even depicted in the traditional plays known as *kabuki*. The historical facts are as follows.

In the eighteenth century, the Kaga domain was in serious economic difficulty. The daimyo at the time, Maeda Yoshinori (1690–1745), therefore charged an *ashigaru*, Otsuki Tomomoto, with finding a solution to these economic problems. Tomomoto subsequently devised a way to repair domain finances by cutting expenditures and investing in agriculture to boost rice production. Yoshinori was so pleased with Tomomoto's proposal that he promoted him to high samurai rank. This did not sit well with those who already held this rank, and they treated Tomomoto with open hostility. When Yoshinori fell sick and died, they then banished Tomomoto to a distant mountainous area, where he took his own life. The daimyo who succeeded Yoshinori also died early, and the one after that was nearly poisoned. All these events— fluctuation in the fortunes of the domain, and the early demise of successive daimyo—has since been termed the “Kaga Sodo.”

上記解説文の仮訳（日本語訳）

足軽（歩兵）の俸禄と出世

足軽の俸禄：

武士階級は大名によって雇用されており、彼らの奉仕に応じて俸禄を受け取りました。彼らの地位は代々受け継がれ、収入を得られる知行地が与えられていました。その一方で、足軽は、形式的には世襲ではなく、土地からの収入もありませんでした。足軽のように低い階級の侍は、米や硬貨のお金と交換できる「切り米」というバウチャーを、決まった時期に受け取っていました。

加賀の典型的な足軽は年間約 20～25 俵の俸禄を受け取りました。2 俵は 1 人の 1 年分の炊飯量に相当します。一般的に足軽の家には 6 人程度の人が含まれるため、俸禄の半分は、生存するために必要な食品を購入することに費やされました。

足軽の副業：

俸禄を補うために、足軽は時間のある時に自宅でしばしば副業をしました。彼らは「お盆（祖先をまつる夏の仏教行事）」といった伝統的な祝日で使う装飾を作ったり、灯笼、人形、子どもたちの遊具などをすき間時間に作ったりしていました。

加賀騒動：

彼らの生活は厳しかったかもしれませんが、多くの足軽は教育と文化に多くの投資をしました。その中からは、大槻朝元（1703—1748）のように、大きな出世をする機会をつかんだ者もいます。

「加賀騒動」とは、金沢の歴史における悪名高い出来事です。大槻朝元という足軽が自らの階級をはるかに上回る出世をした後、不幸な運命に見舞われました。このエピソードは、多くの人の死をもたらし、何度も物語の中で語られ、歌舞伎（日本の伝統劇）としても上演されています。出来事の内容は以下の通りです。

加賀藩は 18 世紀、経済的に苦しんでいました。時の大名である前田吉徳（1690—1745）は、朝元という足輕を起用し、解決策を見いだそうとしました。朝元は藩の支出を削減し、米生産量を増やすために農業に投資することで、藩の財政を立て直そうとしました。吉徳は彼の取り組みに喜び、朝元を高い階級に出世させました。これは既存の上流階級とうまくいかず、彼らは朝元を憎みました。吉徳が病んで亡くなった時、上流階級の者たちは朝元を遠く離れた山に追放しました。朝元はここで最後を遂げました。この事件では、次の大名は早く亡くなり、その次の大名が毒殺されそうになりました。このような藩の運命の変動と後継者の大名の早世といった一連の出来後をまとめて「加賀騒動」と呼びます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高西家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Ashigaru (Foot Soldiers) Residences

In the Kaga domain (feudal-era Ishikawa centered on Kanazawa), *ashigaru* (foot soldiers) lived in designated residential areas called *kumi-chi*. These areas had plots of land in a row, with about ten plots per row. The approximate size of the plots—each allocated to a single family—was either 165 or 230 m².

Each plot of land was surrounded by hedges and divided into a space for the house and a space for the garden. *Ashigaru* houses were single-story structures between 66 and 82 m² in area. They often had a main entrance in the gable end of the building (an arrangement called *tsumairi*). They had roofs of wood shingles held down with field stones, as the structures were not strong enough to support heavier clay tiles that would have been reserved for buildings of higher status. Drainage was arranged as required. The rest of the land around the house was used as a garden. Here *ashigaru* grew vegetables or cultivated peach, plum, persimmon, and other fruit-bearing trees.

The houses of *ashigaru* in the Kaga domain were fully detached dwellings. This was rare during the Edo period (1603–1867), as *ashigaru* in most other domains lived in rows of tenements called *nagaya* (literally “longhouses”). Individual units in these long tenement ranges were divided by insubstantial internal cross-walls. Most amenities were shared and private space was limited. By comparison, *ashigaru* families in Kaga enjoyed a higher level of residential comfort. Although compact, the Kaga houses with their individual gardens were independent of one another.

A unique feature of Kaga domain *ashigaru* housing was the spatial subdivision of the interior: areas for entertaining guests were typically separated from private family space. Guest spaces consisted of a formal entryway (*genkan*), an entrance hall (*genkan no ma*), and a guest reception room (*zashiki*), arranged in a line on one side of the house. The kitchen (*nagashi*), family living room (*cha no ma*, literally “tea room”), and sleeping room/work room (*nando* and *kagi no ma*) also formed a set on the other side of the building, and were largely private.

These compact, single-family *ashigaru* homes became the model for the detached houses that become popular in Japan after modernization began in 1868. True modern houses often have two stories, but two-story structures were prohibited in Kaga during the Edo period. Not only was it considered insulting to walk over the top of another

person, or to look down on someone of superior rank, anything suggesting an attempt to rival the height of the town's focal castle was prohibited.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

足軽（歩兵）の居住地

加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では、足軽（歩兵）は「組地」と呼ばれる指定された居住地に住んでいました。これらの地域には、約 10 の敷地が連続して並んでいました。一家族に割り当てられた土地の大きさは、およそ 230 平方メートルまたは 165 平方メートルでした。

土地の各敷地は生垣で囲まれ、屋敷と庭に分かれていました。足軽の家は約 66～82 平方メートルの 1 階建ての建物でした。彼らの家は、しばしば、「妻入り」と呼ばれる、建物の入口が切り妻側にある形でした。瓦が建物にとって重すぎるので、屋根板に石を置く形をとっていました（瓦は、もっと身分の高い者のためのものでした）。必要に応じて排水ができる排水システムもありました。家の周りの残りの部分は、しばしば庭として使われました。ここでは、野菜や桃、梅、柿やそのほかの果樹を栽培していました。

加賀藩の足軽は一戸建て住宅に住んでいました。これは江戸時代（1603—1867）では珍しいことです。他のほとんどの地域では、足軽は「長屋」に住んでいたのです。長屋のような家では、壁によって内部が分離されていました。多くの設備が共有され、プライベートスペースは限られていました。これに対し、加賀藩の足軽屋敷ではある程度快適な居住環境が得られました。コンパクトではあるものの、庭付きの家はそれぞれ独立していたからです。

加賀藩の足軽屋敷のユニークな特色は、空間の分け方、つまり大きく見ると接客スペースとプライベートスペースが分けられていたことです。接客スペースには、玄関、玄関の間、座敷があり、いずれも家の片側に配置されていました。反対側でつながっている流し、茶の間、納戸、鍵の間は、ほぼプライベートスペースでした。

このようなコンパクトで、一戸建ての足軽の屋敷は、1868 年に近代化が始まってから日本で普及した独立型住宅のモデルとなりました。もっとも、近代家屋は 2 階建てであることが多いですが、江戸時代の加賀藩では 2 階建てが禁止されていました。誰かの頭の上を歩くのが失礼だと考えられただけでなく、町の中心部にそびえる城に匹敵するような高さの構造が許されなかったからです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】清水家

【整備予定媒体】WEB、ラミネート資料

<https://visitkanazawa.jp/>

できあがった英語解説文

Shimizu Family House

During the Edo period (1603–1867), *ashigaru* (foot soldiers) typically lived in long ranges of tenement housing called *nagaya*. They had little choice but to endure cramped living conditions. When compared to this standard that existed throughout the country, however, *ashigaru* in the Kaga domain (feudal-era Ishikawa centered on Kanazawa) enjoyed more comfortable quarters: each family was given a completely detached house with its own garden.

The Shimizu Family House, like the Takanishi Family House next door, is one of the oldest remaining *ashigaru* houses in Kanazawa. It was moved to this location in the 1990s to become a part of the Kanazawa City Ashigaru Museum. Until it was moved, descendants of the original *ashigaru* owners continued to live there. Its previous location was in the residential district assigned to *ashigaru* that served as “fast feet” (*hikyaku*). *Hikyaku* were couriers known for their speed and unique running style.

The Shimizu Family House is an excellent example of *ashigaru* houses of the time. Visitors can experience something of the life of these foot soldiers by walking through the rooms of the house. The interior is divided into a guest reception area comprising of an entryway (*genkan*) with an entrance hall (*genkan no ma*), and a formal reception room (*zashiki*), and private areas reserved for family use. These were the kitchen (*nagashi*), living room (*cha no ma*, literally “tea room”), and sleeping room/work room (*nando* and *kagi no ma*).

More information on *ashigaru* life and residences is on display next door, in the Takanishi Family House.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

清水家

江戸時代（1603—1867）、足軽（歩兵）は、「長屋」に住むのが一般的でした。彼らは小さな居住空間に耐えて生活せざるを得ませんでした。このような一般的状況と対比した場合、加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）の足軽には庭園付の一戸建ての家が与えられ、相対的に快適な生活を送っていました。

清水家は、隣接する高西家と同様、金沢に残る最古の「足軽」屋敷の一つです。この家は1990年代に現在の場所

に移設され、金沢市足軽資料館の一角を占めることとなりました。この家がここに移動される直前まで、家には元の足軽の子孫が住んでいました。この家のもともとの所在地は、代々、飛脚の仕事をしていた足軽たちの居住区にありました。飛脚とは、そのスピードと独特の走行スタイルで知られる宅配輸送者たちのことです。

清水家は当時の足軽屋敷のすばらしい見本です。訪問者は、これらの家屋内を歩き回り、当時の足軽の毎日の生活ぶりを体験することができます。内部空間は、玄関と玄関の間、座敷からなる接客空間と、流し、茶の間と寝室、納戸、鍵の間からなる生活空間に分けられています。

隣接する高西家には、足軽の住居や生活に関する詳細情報が展示されています。

本事業以前の英語解説文

Shimizu House

The Shimizu House has the structure of a typical foot-soldier house. It was inhabited from the feudal period to 1990.

【施設名】清水家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Entrance Hall (*Genkan no Ma*), Reception Room (*Zashiki*), and Garden (*Niwa*)

Interconnected on one side of the Shimizu Family House are the spaces used primarily for entertaining guests. Entering through the main door, one finds the formal entryway (*genkan*) and entrance hall (*genkan no ma*), followed by the main reception room (*zashiki*); this then leads into the garden (*niwa*).

Entrance Hall (*Genkan no Ma*)

In the *ashigaru* (foot soldiers) homes of the Kaga domain (feudal-era Ishikawa centered on Kanazawa), the *genkan no ma* was the space connected to the *genkan* where members of the household greeted guests and received messages. It was the custom for brief visits to be carried out in this space, without callers needing to step up into inner areas of the house. A *genkan* is still a fundamental part of Japanese homes today, and it is common practice to talk to neighbors or receive package deliveries in the *genkan*.

It is said that, in the Kaga domain during the Edo period (1603–1867), only individuals of the same rank would visit using the formal entrance, and then be invited into an *ashigaru* home. Samurai of higher rank would dispatch a messenger, who would relay his message in the *genkan* and then return. Merchants, servants, or other lower-class visitors would conduct their business via the side entrance. Hosting guests, therefore, was usually a relaxed social event among equals.

Reception Room (*Zashiki*)

This is where household members entertained their guests. On sunny days, the sliding doors could be opened to enjoy a view of the garden. Even on rainy days, the extra overhang of the veranda roof allowed the garden to be viewed while still providing protection from the elements.

As placement of the guest cushion shows, guests would sit at a slight distance from the hanging scroll, paintings, and display alcove (*tokonoma*). Currently, there is a scroll depicting Sugawara no Michizane (845–903) placed in the display

alcove. Michizane was a renowned scholar, poet, and politician of the Heian period (794–1185). The founder and first domain lord (daimyo) of the Kaga domain, Maeda Toshiie (1538–1599), claimed to be Michizane's descendant.

Garden (*Niwa*)

The garden was surrounded on all sides by hedges to separate it from neighboring plots, and it provided an aesthetically pleasing context for the house. It was not merely ornamental, however, but provided space to grow vegetables or cultivate fruit-bearing trees. As part of a system of self-sufficiency, *ashigaru* families often supplemented their diets with food they grew themselves.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

玄関の間・座敷・庭

清水家の家内の片側は、主として客を接待するスペースとして利用されていました。正面の入り口を入ると、玄関、玄関の間、座敷があり、そこから庭へつながっています。

玄関の間：

加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）の足軽（歩兵）宅では、玄関の間は、玄関につながる空間であり、そこで家人が客にあいさつして連絡を受け取っていました。このスペースでは、訪問者は家の内部に足を踏み入れる必要がなく、訪問を手短かに切り上げることが習慣となっていました。現代日本においても玄関は家屋の基本的な部分であり、ここで隣人と会話したり、荷物を受け取ったりするのが通例とされています。

江戸時代(1603—1867)の加賀藩では、玄関から足軽の家屋に入る者は、その足軽と同等の階級の武士のみだったと言われています。上位の武士の場合、使者を派遣して玄関で口上を伝えてすぐに立ち去ったでしょう。商人、使用人、そのほかの下級階級の者は、勝手口を利用して用事を済ませていました。このような形で、客を接待することはしばしば、対等の位の者同士での気軽な社交行事であった見られています。

座敷：

ここが、足軽の家族構成員が客を接待する場所でした。晴れた日には、スライドドア（障子、ふすま）を開けて庭園の景色を楽しむことができました。雨の日でさえ、ベランダに張り出す軒先があり、風雨に晒されることなく、十分に屋外を楽しむことができたのです。

座布団の配置に見られるように、客は掛け軸、絵画、床の間からやや離れた場所に座っていたでしょう。ここには現在、菅原道真（845—903）が描かれている掛け軸が床の間に掛けられています。菅原道真は平安時代（794—1185）の高名な学者、詩人、政治家でしたが、初代加賀藩主の前田利家（1538—1599）は、自分が道真の子孫だと主張していたのです。

庭：

庭園は、隣家から区分するために四方を生垣で囲まれており、審美的にも美しい景観を作り出している。庭園は装飾的存在にとどまらず、野菜栽培や果樹育成にも利用されていました。自給自足の一環として、足軽の家庭では自分たちが育てた食物を食生活の足しにしていたのです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】清水家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Restroom/Toilet (*Kawaya*)

Just before the edge of the veranda in front of the garden of the Shimizu Family House is a restroom/toilet (*kawaya*). The *kawaya* was reserved for guests, while the family typically used a separate location. As was typical of the Edo period (1603–1867), the toilet is made of wood and built low for use in a squatting position. While to modern eyes this may look inconvenient, contemporary garments (primarily the kimono) could be easily pulled up, making its use convenient at the time.

It is dark inside the *kawaya*, so insects do not gather, and the toilet has a wooden lid to close it off when not in use. A container with water and a scoop stands right outside, allowing guests to wash their hands on the spot.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

厠

清水家の庭前のベランダの端には「厠」、手洗い所があります。この厠は客用で、家族は通常、別の場所にあるものを利用しました。江戸時代（1603—1867）の通例にもれず、このトイレは木製でしゃがんだスタイルで使用するため低い作りとなっていました。近代的な視点からは、これは不慣れた作りに見えるでしょうが、当時の主な衣服（主に着物）は容易にたくし上げることができたため、便利なものでした。

虫が集まらないよう厠内部は暗くしていました。トイレには木製の蓋が付いており、使っていない時はこれで蓋をしました。厠の直ぐ外側には水を入れた容器と柄杓が用意され、客はその場で手を洗うことができました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】清水家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Sleeping, Working, and Storage Space (*Nando* and *Kagi no Ma*)

The *nando* and *kagi no ma* are private areas in the house of an *ashigaru* (foot soldier). The origin of these rooms speaks eloquently of changes in the lives of *ashigaru* during the Edo period (1603–1867).

Nando

The *nando* was originally used to store everyday items. It was also used as a sleeping space. Families would arrange their bedding (*futon*) to sleep together in this room. However, as the size of a family increased, so did the number of items in daily use. Limited space often led to the addition of an extra room.

Kagi no Ma

Family size expanded in the Shimizu Family House, and accordingly the *kagi no ma* was added onto the far end of the *nando*. Its name probably comes from its position in the house layout, which resembles the L-shape of a traditional Japanese key (*kagi*). Rooms like this, which are not typical in Japanese architecture, probably emerged in response to the specific structural demands and interior spatial limitations of the time.

This cramped addition was used much like a study or workspace. It was here that *ashigaru* families read or did their various side jobs. Children might also help with the work, study, or play here. At night, the children would sleep in this room.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

納戸・鍵の間

納戸と鍵の間は、足軽（歩兵）屋敷のプライベート空間です。これらの部屋の出現は、江戸時代（1603—1867）における足軽の生活の変化を雄弁に伝えています。

納戸：

納戸はもともと日用品を収納するのに利用されました。これは寝室としても使用され、家族は布団を並べてこの部屋で一緒に睡眠をとりました。しかし、家族の規模が拡大するにつれて、日用品数も増加しました。利用可能なスペースが限界に達すると、しばしば追加の部屋をつくることになりました。

鍵の間：

清水家でも家族の規模が拡大し、それに併せて「鍵の間」は納戸の遠端に設けられました。その名称は、家の設計において、日本語でキー(鍵)を意味する「鍵」に似ている形に部屋が設けられたことに由来すると考えられています。通常の日本建築様式とは異なりますが、このような部屋は、当時の構造上の必要性や空間的限界から生じた特有のものだと考えられています。

この追加された狭いスペースは、主に学習や作業用に利用されました。ここで足軽の家族は、読書や細かい内職に勤しんでいました。子供たちは、ここで内職を手伝い、勉強し、または遊んだのだらうと思われます。夜になると、子供たちはこの部屋で眠りについたことでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

665

No.22 Attic, Shimizu Family House

<金沢市、石川>

【施設名】清水家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Attic (*Ama*)

In the Edo period (1603–1867), a person's class and rank determined the plan, ornamentation, and size of the residence permitted to him. As a rule, the houses of *ashigaru* (foot soldiers) were single story. A single-story house, however, left limited space for storage, so many *ashigaru* found ways to make use of the roof space. This space was called the *ama* or attic. In winter, it often became an area to store firewood. Also, despite the single-story policy, some families may have put *tatami* flooring in this space and used it as an additional room. The ladder affixed to the wall allowed household members to obtain easy access to it.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

あま（天間）

江戸時代（1603—1867）は、住居の設計、装飾、大きさは、階級ごとに定められていました。原則として、足軽（歩兵）の住居は1階建てでした。しかし、1階建て住宅では限られた収納スペースしかないため、多くの足軽は屋根裏のスペースを利用するようになりました。このスペースは「あま」と呼ばれました。冬は、ここは薪の貯蔵場所として利用されました。規則上、家は1階建てにしなければならないとされていましたが、中にはこのスペースに畳を敷いて追加部屋として利用した家族もあったようです。壁に取り付けられていた梯子は、家族のあまへの出入りを容易にしました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】清水家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

“Fast Feet” (*Hikyaku*) of Hayamichi Town

During the Edo period (1603–1867), when *ashigaru* (foot soldiers) were not absorbed in military exercises, they were often employed in public service work such as patrolling samurai residences or acting as gate guards. They also found employment as couriers for the Kaga domain (feudal-era Ishikawa centered on Kanazawa City), delivering letters, official documents, money orders, and packages to Edo (now Tokyo) in the east, or to the Osaka-Kyoto area in the west. Those who did this type of courier work were called “fast feet” (*hikyaku*). Many *ashigaru* took up this occupation. The former Hayamichi Town, where the Takanishi Family House and Shimizu Family House were previously located, was a residential district for *ashigaru* who served as *hikyaku*.

Hikyaku were known for their speed and unique running style. They did leg-training drills regularly, and upon receiving word would rush immediately to the castle. It is said that it took a skilled *hikyaku* only five days in the summer and six in the winter to cover the distance from Kanazawa to Edo. If *hikyaku* delivered their goods more quickly than expected, sometimes they were handsomely rewarded. If they were late, however, their pay was often reduced. *Hikyaku* used the highways for their deliveries, but in order to avoid passing through parts of other domains that might give them trouble, they also grew familiar with byroads and mountain paths.

In the late seventeenth century, under the fifth domain lord Maeda Tsunanori (1643–1724), *hikyaku* work was gradually given over to commoners not of *ashigaru* rank.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

早道町の飛脚

江戸時代（1603—1867）、足軽は、軍事関係の活動に従事していない時は、しばしば武家屋敷の巡回や門番といった公務に従事しました。加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川）では時に運搬業者として雇われており、種々の手紙、公文書、送金為替、小荷物を、東の江戸（現在の東京）や西の大阪・京都に運んでいきました。このような宅配業務に携わった者たちは「飛脚」と呼ばれました。多くの足軽がこの仕事に就きました。高西家や清水家がかつてあった旧早道町は、「飛脚」業務に従事する足軽たちが居住する地区でした。

飛脚はそのスピードと独特の走行スタイルで知られました。彼らは普段から脚を鍛えており、指示を受けたらすぐに城に駆け付けました。熟練の飛脚であれば、金沢から江戸までの距離を、夏季にはわずか5日間、冬季には6日間で駆け抜けたと言われています。飛脚が予定期間よりも早く物品を届けた場合、彼らは気前の良い報酬に与ることもありました。しかし遅刻した場合には、しばしば運賃を減額されました。飛脚の配達には街道を利用しましたが、問題が発生し得る他藩の領域を回避するため、彼らは脇道や山道にも精通していました。

しかし17世紀後半の5代目藩主・前田綱紀（1643–1724）の時代、飛脚業務は足軽から次第に民間に委託されるようになりました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】清水家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Kitchen (*Nagashi*) and Dining Area (*Cha no Ma*)

Near the formal entryway (*genkan*) and directly connected to the side entrance are rooms used for meal preparation and consumption by the family: the kitchen (*nagashi*) and dining area (*cha no ma*).

Kitchen (*Nagashi*)

The *nagashi* is where the wife of an *ashigaru* (foot soldier) would prepare meals and do other kitchen work. Gas and electricity did not exist in the Edo period (1603–1867), so rice was prepared in cauldrons set over cooking ranges, heated by blazing wood fires. The *nagashi* was often entered through a side door connected to the front garden, so air from the garden dispersed any smoke, making for a more comfortable working environment, and allowing easy access to the exterior for chores that required going in and out of the house. This included laundry, which was washed and dried in the garden. Displayed here is a large tub that was used for bathing.

The *nagashi* in the Shimizu Family House now has a wooden floor. In the Edo period, however, the entire *nagashi* would have had a floor of compacted earth (*doma*).

Dining Area (*Cha no Ma*)

The *cha no ma* was primarily used as a dining space. This was where the family gathered together to eat and relax. In the Shimizu Family House, a range of tableware that would have been used at the time is laid out to convey more vividly how it would have appeared when in use.

In the Edo period there was no single dining table; instead, individual trays with legs called *hakozen* were provided for each person. *Hakozen* are hollow and have a lid. At mealtimes, dishes would be placed atop the *hakozen* lid, and after all was finished, the clean dishes were stored inside.

At that time, a typical meal consisted of a bowl of soup, a vegetable dish, and a main dish of rice. Originally people typically took two meals a day (morning and evening), but around the end of the seventeenth century, the number of meals increased to three a day—perhaps a sign that people were prospering.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

流し・茶の間

足軽屋敷の玄関に近く、勝手口と直結しているのは、食事の準備に使う部屋と家族で食べる部屋、つまり流しと茶の間です。

流し：

流しとは、足軽（歩兵）の妻が食事の準備やそのほかの台所作業をする場所です。江戸時代(1603—1867)はガスと電気がまだ使われていなかったため、コメはかまどに釜をかけ、燃え盛る薪の炎で調理されました。流しは多くの場合、前庭につながる勝手口を通す形で設けられました。庭から取り込んだ空気によって煙を雲散させ、快適な作業空間を確保できました。家を出入りするのが必要な、洗濯といった雑務をこなすのも楽でした。洗濯は、庭で行われ、乾されました。ここには、入浴に使用された大きな盥も展示されています。

現在の清水家の流しは板の間となっています。しかし、江戸時代の流しは、全体が土間造りだったろうと思われます。

茶の間（食堂）：

茶の間は、主として食堂として使用されていました。家族が集まって一緒に食事しリラックスできる場でした。清水家では、当時使われていたと推測される食器を置いており、当時の様子をより生き生きと再現しています。

江戸時代はそもそも単独の食卓が存在せず、代わりに、「箱膳」と呼ばれる個人用の箱型テーブルが使われました。箱膳は中空で蓋が付いています。食事時には、箱膳上部の蓋の上に食事の皿などが並べられ、食後は、洗われた食器が箱膳内部に格納されます。

江戸時代の典型的な食事は、スープ料理一品、野菜料理一品と、主食のコメで構成されていた。もともと、人々は1日2回の食事（朝と夕方）を取っていましたが、17世紀の終わりごろに1日3食に変化しました。おそらくは経済的繁栄の証だろうと思われます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】清水家

【整備予定媒体】ラミネート資料

できあがった英語解説文

Training and Education of *Ashigaru* (Foot Soldiers)

Although *ashigaru* (foot soldiers) was the lowest-ranking samurai, there were some remarkably talented people among them. They were regularly trained and rigorously educated.

Martial Arts

Edo-period (1603–1867) martial arts included sword training (*kenjutsu*), spear training (*sojutsu*), archery (*kyujutsu*), firearm training (*hojutsu*), and numerous other disciplines. As foot soldiers, *ashigaru* were supposed to train and prepare to serve in each of these capacities. However, the Edo period was a time of relative peace, so for most *ashigaru* there was no need to use these skills on the battlefield. Military training thus became a type of “warrior etiquette” for honing the body and mind. This included the daily responsibility of inspecting and caring for one’s armor, since in principle, *ashigaru* were expected to be always battle-ready.

A school called the Kebukan was also established in the Kaga domain (feudal-era Ishikawa Prefecture, centered on Kanazawa) for samurai to hone their abilities in the martial arts. While initially this school admitted only the children of higher-ranking samurai families, in later years *ashigaru* children were also permitted to attend.

Displayed in the Shimizu Family House are martial arts’ texts thought to have been used by Edo period *ashigaru* as study material.

Education

In the course of their civil duties, *ashigaru* were often required to sort and handle important documents, as well as perform various financial calculations as part of the economic management of the domain. Therefore, although they were the lowest-ranking samurai, they had to be as educated as samurai of much higher status. This can be seen in the memoir of a samurai from the early eighteenth century, who wrote, “samurai in an era of war might get away with being illiterate, but in a peaceful world this excuse is not acceptable.”

Accordingly, although *ashigaru* were busy with civil duties and their own side jobs, they had to set aside time for education. Dedicating themselves to the study of literature, history, and the poetic forms of haiku (a poem of seventeen syllables), *kanshi* (a Chinese poetic style), and *waka* (an ancient style of thirty-one syllables), some became quite learned. The sophisticated designs of their gardens and documents they left behind give eloquent testimony to this fact. As in the case of Otsuki Tomomoto (1703–1748), who found great opportunities for advancement through his proposal for repairing the domain's finances in the eighteenth century, this focus on education gave *ashigaru* opportunities to rise above their rank.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

足軽の武術・教養

足軽（歩兵）は武士階級でも最下級に位置付けられましたが、中には非常に優れた人材も存在しました。彼らは常時訓練され、厳格に教育を受けていました。

武道：

江戸時代（1603—1867）の武道には、刀剣訓練（剣術）、槍訓練（槍術）、弓訓練（弓術）、火器訓練（砲術）のほか、さまざまな規範がありました。歩兵として、足軽はこれらを訓練し、その技能をもって仕えることとされていました。しかし、江戸時代は比較的平和な時代だったため、戦場でこれらの技術を利用する機会がほとんどありませんでした。かくして武術訓練は、身体と精神を磨くための「戦士の作法」の一種となりました。これには、甲冑を点検し補修するという日々の責務が含まれています。原則として、足軽は常に戦闘に備えていなければならないからです。

また、加賀藩（金沢を中心とする封建時代の石川県）には、武道の向上のために設立された「経武館」と呼ばれる学校もありました。この学校は、初期の頃は上級藩士の子弟のみに入学が許されていましたが、その後は足軽の子弟も登校を許されました。

清水家には、江戸時代に足軽が武道を勉強するため使用したと見られる武術書が展示されています。

教育：

足軽の業務には、藩財政管理のための計算事務のほか、重要文書の分類や取扱もありました。そのため、足軽は武士の「最下位」に属していたにも関わらず、もっと上級の武士と同様の教育を受ける必要がありました。18世紀前半の武士の回想録においても、「戦争時代の武士は文盲でも問題なかったが、平和な世界ではそのような言い訳は通用しない」と明記されています。

このようなわけで、足軽は公務と内職で多忙であったにもかかわらず、教育にも時間を割かなければなりません。文学、歴史、俳句（17音節の日本の伝統的な詩）と日本の詩歌教育に投資をした結果、中には相当の教養を積んだ人物も現れました。このことは彼らの庭園の優れたデザインや、彼らが残した文書で垣間見ることができます。こ

のような教育への投資の結果、藩の財政再建への提案によって大きな出世の機会を得た 18 世紀の大槻朝元 (1703-1748)の例に見られるように、足軽が身分をはるかに超えて大出世する機会を捉えることもあり得ました。

本事業以前の英語解説文

なし

ビジット GIFU 協議会

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

This mountain peak is dotted with the ruins of Gifu Castle's gates, wells, and fortifications. The castle began as a fort, called Inabayama Castle by the Nikaido clan who built it. It was seized and occupied by various other clans during the Sengoku period (1467–1600). The castle was valuable because its occupant had control of the prosperous Nobi plain below. Many of the individuals and groups who occupied Gifu Castle expanded or renovated it, including the man responsible for giving Gifu its current name: Oda Nobunaga (1534–1582), the first of the three great unifiers that consolidated political power in the lead up to national unification at the start of the Edo period (1603–1867).

Oda Nobunaga took control of the castle in 1567, and rebuilt it, improving its fortifications and building a new palatial residence. Nobunaga was interested in Western culture and technology, and invited Europeans to visit his castle. One of his guests, the Portuguese missionary Luis Frois (1532–1597) wrote that the upper area of the castle was accessible only to Nobunaga's trusted vassals—but also his guests. Frois also claims to have seen hundreds of people, including warriors, servants, and even hostages, within the upper castle. He described the castle's opulence in his journal, writing that the rooms were “decorated with screens painted with gold, with locks and fittings made of pure gold.”

After Nobunaga's death in 1582, the castle was ruled by Nobunaga's descendants and samurai retainers until its destruction in 1600 by the forces of Tokugawa Ieyasu (1543–1616), who would soon after bring all of Japan under his rule.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この山頂には岐阜城の門、井戸、要塞の遺跡が点在している。岐阜城は、最初に建築した二階堂氏によって稲葉山城と呼ばれる砦として始った。戦国時代（1467–1600）を通じて多くの氏族によって強奪され占領された。岐阜城はその眼下に広がる肥沃で豊かな濃尾平野を支配できるため、占有者にとっては非常に重要であった。岐阜城を占領した個人や団体の多くは、城郭を広げ改修した。もちろんこの地を岐阜という現在の名前をつけた織田信長（1534–1582）も同様である。織田信長は戦国時代を終結させ、全国を平定し、江戸時代（1603–1867）に導いた三英傑の最初の人物である。

織田信長は1567年に岐阜城を支配し、再建し、要塞を強固にし、新しい宮殿を建造した。信長は西洋文化と技術に興味を持ち、ヨーロッパ人に城を訪問するよう招待した。彼のゲストの一人、ポルトガル人宣教師ルイス・フロイス（1532–1597）は、城の上部は信長の信頼する家臣だけでなく彼の招待者も入場可能であったと記した。フロイスはまた城の上部で武者、使用人、人質を含む何百人もの人々を見たことと主張している。フロイスは日記の中で岐阜城の豪華さを説明し、部屋は「金箔の襖で飾られ、鍵と金具は純金でできていた」と書いている。

1582年に信長が亡くなった後、岐阜城は信長の後継者たちによって支配されたが、1600年、徳川家康（1543–1616）の攻撃によって落城した。間もなく家康は彼の幕藩体制による日本全国の統一を完成した。

本事業以前の英語解説文

Stone walls, wells, and other remains of the castle from the Warring States period can be seen at the peak of the mountain. Luis Frois recorded seeing more than 100 subjects in the castle, and that the entire castle was exceptionally extravagant and adorned with gold-plated folding screens. Nobunaga Oda was also known to have been very hospitable to important guests of the castle. Diary entries of both Luis Frois and Tokitsugu Yamashina describe their meal trays being brought to them by Nobunaga Oda himself.

【施設名】 岐阜城山上部、岐阜城山麓部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Gifu Castle, known prior as Inabayama Castle, took up most of this mountain, Mount Kinka. The castle ruins cover over two square kilometers and are now preserved as a National Historic Site. Remnants of the original palace and gardens have been found near base of the mountain, but the tower standing at the top was built from concrete in 1956.

The first castle on Mount Kinka is believed to have been built by the Nikaido clan between 1201 and 1204. The warlord Saito Dosan (1494–1556) built out the castle's fortifications after taking control of the mountain in 1539. Three generations of the Saito clan ruled here until Dosan's grandson, Saito Tatsuoki (1548–1573) was defeated in 1567 by Oda Nobunaga (1534–1582), who captured the castle town and renamed it "Gifu."

After defeating Saito Tatsuoki, Nobunaga rebuilt much of the castle using larger stones and the newest technology for the time. According to the Portuguese missionary Luis Frois (1532–1597) and the aristocrat Yamashina Tokitsugu (1507–1579), Nobunaga's castle was a well-designed and opulent complex, richly decorated and surrounded by beautiful gardens. In the words of Frois, it was a "paradise on earth." While the castle was built as a symbol of Nobunaga's power and authority, it was also a military fortress designed to withstand siege warfare.

While in the hands of Nobunaga's grandson, Oda Hidenobu (1580–1605), Gifu was attacked and destroyed in 1600 by forces who supported Tokugawa Ieyasu. After the battle, parts of the castle including some of the stone walls and wooden structures were reused to build Kano Castle a few kilometers to the south. The current Gifu Castle keep (fortified tower) was built in 1956.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

岐阜城は昔は稲葉山城として知られていた。岐阜城は金華山の大部分を占有していた。城の遺跡は2平方キロメートル以上に及んでおり、遺跡は現在国定史跡として保存されている。元の宮殿や庭園の遺構は山のふもと近くで見えられた。山頂の天守は1956年に鉄筋コンクリートで建造復元された。

金華山の最初の城は、1201年～1204年の間に二階堂氏によって建造されたと考えられている。1539年に斎藤道三（1494–1556）が山を支配した後、城塞を築いた。斎藤氏三代に渡って支配したが、道三の孫の斎藤竜興（1548–1573）の時、「岐阜」と改名した織田信長（1534–1582）によって1567年に滅ぼされた。

斎藤竜興を破った後、信長はより大きな岩と当時の最新技術を駆使して城の大部分を再建しなおした。

ポルトガルの宣教師ルイス・フロイス（1532–1597）と公家の山科言継（1507–1579）によると、信長の城は、巧みにデザインされ豪華な城で、みごとに装飾された美しい庭園に囲まれていた。フロイスの言葉では、それは「地球上の楽園」であったと。岐阜城は信長の権力と権威の象徴として建てられ、同時にそれは包囲戦に耐えるように設計された軍事要塞でもあった。信長の孫である織田秀信（1580–1605）が城主であったとき、岐阜は1600年に徳川家

康を支援した部隊によって攻撃され破壊された。戦後、石の壁や木造の建造物を含む城の一部は、南へ数キロ離れた狩野城を建設するために再利用された。現在の岐阜城は、1956年に建設された。

本事業以前の英語解説文

Gifu Castle (Inabayama Castle) is a mountain castle built on Mt. Kinka (Mt. Inaba), and is largely comprised of the vicinity of the summit where the castle stands, the lord of the castle's residence in the mountain foothills, and the natural fortress of the mountain's forests and crags. In 2011, 209 hectares including the residence in the foothills was designated as a National Historic Site, and in 2015 the castle was the focal point for the story of "the spirit of Nobunaga's hospitality" that was one of the first stories recognized as Japan Heritage.

Gifu Castle is said to have been built between 1201 and 1204 in Edo period writings, but it is believed to have been truly used as a castle starting in Saito Dosan's time, in the 1530's. In 1567, Oda Nobunaga took the castle from Dosan's grandson Tatsuoki and banished Tatsuoki to Ise. Soon after this, the castle was greatly remodeled. In 1576, Nobunaga relocated to Azuchi Castle, after which the lord of Gifu Castle changed frequently. The castle was held by Nobunaga's grandson Hidenobu when it fell in a prelude battle to the Battle of Sekigahara in 1600. Since then, the castle had been left empty.

It can be seen from the Ruins that the remodeling done when Nobunaga took the castle included the usage of large stones and stone walls, and used construction techniques of the early modern period. Also, there are records left of the Portuguese missionary Luís Fróis and a court noble from Kyoto, Yamashina Tokitsugu, among others, visiting the residence. These records and the valuable Ruins of the various foothill residence's gardens are two elements that characterize the Ruins of Gifu Castle.

【施設名】 岐阜城山上部、岐阜城山麓部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Oda Nobunaga (1534–1582) captured the fortress in 1567 and reformed it into one of Japan’s most splendid castles—a palace as well as a military base; it was here that Nobunaga developed his plans for national unification, Nobunaga invited various guests: warlords, vassals, nobles, and even foreign missionaries to visit him. He would guide them around the complex, where the opulence and grandeur of Gifu Castle underscored his power and authority.

From the top of the mountain, one could see the wide, sweeping Nobi Plain— Nobunaga’s domain. Specially invited guests spoke glowingly of the impressive view and of Nobunaga’s fine hospitality which, according to Portuguese missionary Luis Frois (1532–1597) and aristocrat Yamashina Tokitsugu (1507–1579), extended to personally serving dinner to his guests.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

織田信長（1534—1582）は 1567 年に稲葉山城を占領し、それを日本で最も素晴らしい城のひとつ、宮殿と軍事基地に改造した。信長が天下統一のための計画を練ったのはここで、信長は様々な客を招待した：武将、家臣、公家、さらには外国人宣教師さえ信長を訪問した。信長は城内の複合施設を案内し、岐阜城の豪華さと威厳を用い、その権力と権威を強調した。

山頂からは、濃尾平野 …はるか遠くまで広がった信長の領土が見渡せた。ポルトガルの宣教師ルイス・フロイス

（1532-1597）と公家の山科言継（1507–1579）など特別に招待されたゲストは、印象的な景色と信長のすばらしいおもてなしを熱心に話し、世に広めた。

本事業以前の英語解説文

Japan Heritage First Selection (Confirmed 2015/4/24)

Gifu - An Ancient Castle Town with the Spirit of Nobunaga’s Hospitality

In the Sengoku period, the town of Gifu that Saito Dosan had built up fell into the hands of Oda Nobunaga. From this foothold, he tried to unite the country. While continuing battles, Nobunaga entertained guests at the palace that he built in the foothills of the castle. The palace was so magnificent, it was as though a full-scale reproduction had been made of a Chinese landscape painting. Luís Fróis wrote that it was like “a paradise on Earth.”

This palace was the first place where visitors were invited, and there they would be shown the building and the gardens, watch performances of dance and song, be served snacks and meals, and exchange gifts.

【施設名】 岐阜城山麓部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Oda Nobunaga (1534–1582) built his palace at the base of the mountain in a small valley covering the little river that flowed through it. To create more space for buildings and gardens the sloping area was cut into terraces, the highest and lowest of which were separated by as much as 30 meters.

Portuguese missionary Luis Frois (1532–1597) stayed at Gifu for a short time and in his book *A History of Japan*, he described the impressive size and grandeur of the castle: the first floor of the castle alone, he wrote, had between 15 and 20 rooms. The second floor was reserved for Nobunaga's wife. The third floor was a space for tea ceremonies, and the fourth floor was used to watch over the city and surrounding area. Shards of the roofing tiles from this structure have been found which indicated that the roof was coated in gold leaf. Archeological excavations have also confirmed that the residence was once surrounded by as many as five or six different ornamental gardens.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

織田信長（1534–1582）は、山のふもとの谷間を流れる 2 つ谷の両側に宮殿を建てた。建物や庭園のためにより多くのスペースを得るために、傾斜地にテラスを造成した。その最も高いものと最も低いものは、最大 30 メートルも離れていた。

ポルトガルの宣教師ルイス・フロイス（1532–1597）は、彼の著書「日本の歴史」で、彼は城の驚くべき大きさと荘厳さについて述べている。城の一階部分だけで 15 から 20 部屋もあった。妻は 2 階に住んでた。3 階はお茶会用のスペースで、4 階は街とその周辺を見渡すために使われていた。この建造物の屋根瓦の破片から、屋根が金箔の瓦で覆われていたことがわかった。考古学的発掘調査により、この住居はかつて 5～6 つの異なる装飾庭園に囲まれていたことも確認された。

本事業以前の英語解説文

The foothills residence is centered around the Tsukitani mountain stream, and on either side of the stream are large flat areas that are arranged into terraced fields. Each field is divided by stone walls and arrangements of large rocks. From the lowest field to the farthest point, there is a total height of almost 30 meters. The valley topography and surrounding bedrock were used skillfully, and the viewable parts were taken into account to make a three-dimensional space. What make this residence special are the large number of garden Ruins and the use of the gold-leaf decorated tiles.

In 1569, the Portuguese missionary who visited Gifu Castle, Luís Fróis, was shown around the residence by Nobunaga, and introduced it as follows: “on the first floor were 15-20 zashiki (tatami rooms) and 5 or 6 gardens, the second floor

was the wife's and maids' rooms, the third floor had the tearoom, and from the third and fourth floor's observation platforms, one could see over the whole town." The image on the right is a CG produced based on Fróis' writings and the excavations done on the residence.

【施設名】 岐阜公園内
【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The area around Mitarashi Pond is believed to have been the living quarters for the ladies-in-waiting who attended the wife of the lord of Gifu Castle. When the castle came under attack in August of 1600, power in Japan was split into two factions: the Western forces under the command of Oda Nobunaga's grandson, Hidenobu (1580–1605) and the Eastern forces lead by Fukushima Masanori (1561–1624) and Ikeda Terumasa (1565–1613). At the time, the pond was much bigger than it is today, and according to local legend when the castle came under siege many of the ladies-in-waiting chose to drown themselves rather than be captured by the enemy.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

御手洗池の周辺は、岐阜城の藩主の奥方を世話する奥女中たちの生活の場所であったと考えられている。1600年8月岐阜城は日本を二分した関ヶ原の戦いで、西軍に呼応した岐阜城藩主織田信長の孫の織田秀信（1580-1605）は福島正則（1561-1624）、池田輝政（1565-1613）に率いられた東軍側の攻撃を受けた。当時の池は現在よりはるかに大きかった。城が包囲されると、奥女中たちの多くは敵に捕らえられるよりも、御手洗池に投身自殺することを選択したと伝えられている。

本事業以前の英語解説文

なし

674

No.6 Ruins of a Stone Wall and a Well

<岐阜市、岐阜県>

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Although most of the walls around Gifu Castle have crumbled, this retaining wall serves as a reference for what they once looked like. Like all the walls of Gifu Castle, this stone wall is held together entirely by its own weight, a technique known as dry-stone construction. Dry-stone walls do not use mortar and are built by stacking rocks together so that they interlock. This wall supports the mounds of earth that were leveled to make the path to the castle. Wells like this one were especially important in a castle town, where a prolonged attack might cut off access to other water supplies.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

岐阜城周辺の城壁の大部分は崩れているが、残され城壁からかつての外観が想像できる。岐阜城の全ての石垣同様、この石壁は完全に石の自重で結ばれており、乾式石造の石垣はモルタルを使用せず、石どうしが絡み合うように積み重ねることによって建てられている。この壁は城への道を作るために地面の凸凹を平らにするのに役立っている。城内の井戸は、敵による長期の攻撃で飲み水の水源が遮断される可能性がある城内では特に重要であった。

本事業以前の英語解説文

Stone Wall & Well Ruins

This area's natural landform is a valley, however an impressive path with stone walls on either side has been built here. These stone walls are the most well-preserved on the whole mountain, and based on their high level of craftsmanship they are thought to have been built after Nobunaga took up residence in Gifu Castle. A water storage well, which is buried now, was also located here.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The base of Gifu Castle was built with rough-cut stone. This type of masonry is called dry stone construction and is very common in the ancient buildings of Europe and the Americas. The castle's base is the shape of a trapezoid, which improves the structure's stability during earthquakes. Although the lower sections date to before 1600, a new keep and much of the stone base was rebuilt around 1910, when Gifu was reconstructed as a tourist attraction. This new keep was destroyed in the firebombing of WWII but was rebuilt out of concrete in 1956.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

岐阜城の基礎部分は、石垣になっている。この様式の石積み工法は乾式石造工法と呼ばれ、ヨーロッパやアメリカの古代の建物では非常に一般的である。城の基礎部分は台形の形をしており、地震の際には構造上にも安定性が向上する。下の部分は1600年以前のものであったが、1910年頃に岐阜が観光名所として再建されたときに、新しい城と石垣の基礎の多くが再建された。この新しい岐阜城は第二次世界大戦の爆撃で破壊されたが、1956年に鉄筋コンクリート造りで再建された。

本事業以前の英語解説文

The Tenshudai(tower keep) and Stone Walls

The stone walls supporting the current reconstructed castle keep were reformed in the modern period, but in the surrounding area there are partial remains of the stone walls that stood during the Sengoku Period.

According to the Edo Period plans, the northwest portion of the Tenshudai has 3 levels of stone walls marked, but if you look at this stone wall from below, it looks as though it is all one large wall.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

It is difficult to dig traditional wells at the top of the mountain and transporting water from below was inefficient (and during a siege, impossible) so cisterns like this one were carved out of the rock to collect and store rainwater. If the castle came under attack, these extra stores of potable water made it possible for the defenders inside to survive a prolonged siege.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

山頂で伝統的な井戸を掘ることは困難で、下から水を運搬するのは非効率的であった（包囲の間は不可能）ので、そのため貯水槽は岩をくりぬいて雨水を貯めた。城が攻撃を受けた場合、飲料水の予備的な貯蔵は、城内の味方が長期的包囲でも生き残れることを可能にした。

本事業以前の英語解説文

Well Ruins

This area was previously the location of a well, which was a square-shaped structure hollowed out of the solid rock ground. Rainwater collected in the well was thought to have been used in times of emergency.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

On a map of the castle made in the Edo period, this area is labeled as the Lower Kitchen (Shimo Daidokoro). According to the records of Portuguese missionary Luis Frois (1532–1597) and other visitors, around one hundred sons from the families of local warlords and nobles were kept here as political leverage by Oda Nobunaga (1534–1582), who according to Frois treated them more like lower-ranking vassals than hostages.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

江戸時代に作られた城の見取り図では、この地域は下台所（シモダイドコロ）と表示されている。ポルトガルの宣教師ルイス・フロイス（1532–1597）や他の訪問者たちの記録によると、地方の戦国大名や貴族の跡継ぎたち約 100 名が信長（1534–1582）の政治的影響力によりここに人質として差し出されていた。フロイスによると彼らは人質というよりも家来のように遇されていたようだ。

本事業以前の英語解説文

Shimo-daidokoro Ruins (Presumed)

According to the Edo Period plans, this was the Shimo-daidokoro (lower kitchen) , and the Daidokoro (main kitchen) was in the flat space on the upper level.

The Missionary Luis Frois, who visited in 1569, noted the following about this area: “there were 2-3 large Japanese-style-rooms, holding about 100 young lords. They were mostly the children of domainal lords under Nobunaga’s rule, and around 12–15 years old.”

678

No.10 Gifu Castle Map

<岐阜市、岐阜県>

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

This is a map of Gifu Castle's upper sections and fortifications. The map shows trees growing on the mountainside, and therefore was probably drawn sometime after 1600, when Gifu Castle was abandoned. When the castle was occupied the mountainside was kept cleared of trees to place attackers out in the open. The map has many useful details about the castle such as the height and width of its stone fortifications and the locations of various parts of the complex.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

岐阜城の上部と要塞の地図である。地図は山腹に生えている木々を見せているので、1600年に岐阜城が放棄された後に描かれたものだと考えられる。城が占領されたとき、山の中腹は攻撃者を野外に出すために木から一掃された。

地図には、石造りの要塞の高さや幅、複合施設のさまざまな場所の位置など、城に関する多くの有用な情報が記載されている。

本事業以前の英語解説文

Inaba-joshi-no-zu (Inaba Castle Plan)

This plan shows the whole of Gifu Castle, centered on the castle keep on the mountaintop and noting all remaining enforcements. These castle grounds are currently just about exactly covered by the area set aside as a national forest. In the bottom right of the plan, you can see the name "Enyasamon." As this was the name of the head priest of Inaba-jinja Shrine from the second half of the 17th century to the first half of the 18th century, it is estimated that he made this plan in that time.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The Second Gate (Ni no Mon) is the second in a series of large, defensive gates that protect the upper reaches of Gifu Castle. The gate was originally positioned several meters down the mountain, at the bottom of the steps, where parts of the original stone wall can be seen. Inside the gate was the Lower Kitchen (Shimo Daidokoro), where Oda Nobunaga's (1534–1582) retainers lived and ate.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

二之門は、岐阜城の上部を守る大きな防衛門である。門はもともと山の数メートル下の階段の下にあり、そこには自然石の一部が見えていた。門の中には下台所（シメダイトコロ）があり、そこで織田信長（1534–1582）の家臣たちが生活をしていた。

本事業以前の英語解説文

Ni-no-mon Gate & Shimo-daidokoro Ruins (Presumed)

According to maps and records from the Edo period, this flat area was known as Shimo-daidokoro. It was thought to have been a place for food preparation. The area around its entrance was believed to have been the location of the Ni-no-mon gate. Stone walls made from large stones remain on either side of the entrance to the Ni-no-mon gate.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The V-shaped cut in the ridge to the left is man-made form of fortification called a *horikiri*. Trenches like this were dug across the path leading up to the castle and were bridged with wooden bridges that could be collapsed to hinder an invaders' progress.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

左の尾根にあるV字型の切り込みは、ホリキリと呼ばれる人工の要塞だった。このような塹壕は城に通じる道を横切って掘られ、侵入者の進歩を妨げるために切り落とし可能な木製の橋が架けられていた。

本事業以前の英語解説文

Cross ditches were dug through the One Pass to prevent rival forces from entering the castle grounds. As is commonly seen in middle age hilltop castles, wooden bridges were constructed to connect the castle grounds and it is assumed that they were felled to enable defense. In the Edo period these were called "Kiridoshi".

681

No.13 Hitching Post and Corral Site (presumed)

<岐阜市、岐阜県>

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Based on this map of Gifu Castle created sometime between 1650 and 1750, this long, flat area is thought to have been used as a place for hitching and corralling horses. According to a member of the Owari Clan who visited the castle in 1717, high-ranking vassals and guests would dismount and leave their horses here before walking to the castle's upper sections.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

1650年から1750年の間に作成された岐阜城の見取り図によると、この長く平らな場所は、馬を係留したり、囲い込む場所 馬場として使われていたと考えられる。1717年に岐阜城を訪れた尾張藩の藩士によると、上級家臣や客はこの場所に馬を置いて徒歩で城の上部へ向かったようである。

本事業以前の英語解説文

Baba Ruins (Presumed)

This path, which starts at the Ichi-no-mon Gate, is recorded on the plans from the Edo Period as the “baba,” or hitching post area.

The Owari Clan tatami mat administrator, Asahi Bunzaemon, who visited in 1717, notated the Ichi-no-mon Gate as “also called the Ogeba (main hitching post),” so this is believed to be where horses were dismounted and tied.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The First Gate was the first of many large, defensive gates along the path to the castle's upper enclosures. The large rocks, which formed a barrier to the right of the path, are most likely the base of a raised guardhouse. Although most of the castle's walls have crumbled, while they stood visitors would have been impressed by the large rocks used to build them—only a lord of great wealth and power could have afforded such earthworks in a time without machines.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

一之門は、城上部エリアへの道に沿って造られた多くの大きな最初の防御門であった。道の右側の大きな大岩は障壁の役目を担い、その上に警備の基地があった。城壁の大部分は崩れているが、それらの造成に使用された大岩を見て、訪問者は感銘を受けるであろう。機械のない時代に、このような土木工事をなしえたのは大きな富と権力の持ち主だけであっただろう。

本事業以前の英語解説文

Ichi-no-mon Gate Ruins (Presumed)

According to maps and records from the Edo period, this was presumed to have been the location of the Ichi-no-mon gate. Parts of the fallen stone walls and large stones still remain today. It can be seen that the large stones were lined up along the trail in a similar way to those around the entrance of the remains of the residence at the base of the mountain in Gifu Park.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Many castles had a drum tower that was used for timekeeping, conveying orders like the opening and closing of gates, and warning the castle in times of attack. Old maps and records show the Gifu Castle drum tower on this 18-by-10-meter site, where it commanded a fine view of the valley below and could be heard clearly across the fortified mountain.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

多くの城には時報、門の開閉などの命令伝達、敵の攻撃時に城へ警告をする太鼓楼があった。古地図と記録に、この18×10メートルの敷地にある岐阜城の太鼓楼が記されている。ここでは、渓谷下方の素晴らしい景色の眺望ができる。

本事業以前の英語解説文

Taiko-yagura Turret Ruins (Presumed)

The area around the present-day restaurant was believed to have been the Taiko-yagura turret. Maps show it was a flat area of approximately 18 meters by 10 meters. It had good visibility of the surrounding area, and together with the Ichi-no-mon gate further down the slope, the structure was thought to have been used to help prevent attacks from the enemy.

【施設名】 岐阜城山麓部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Decorative gardens were common in most samurai castles and Oda Nobunaga (1534–1582) had large ornamental gardens built inside Gifu Castle. During recent excavations of the castle grounds, archaeologists have discovered rocks and colorful stones that likely lined the bottom of a garden pond. This discovery helps confirm the accuracy of Portuguese missionary Luis Frois's (1532–1597) account of the palace and its gardens. Archeologists also discovered shards of gold-leaf-covered roof tiles which are thought to have been used on the second floor of the palace.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ほとんどの武将の城内には庭園があったが、織田信長（1534–1582）の岐阜城にも装飾された観賞用庭園もあった。城の敷地の最近の発掘調査によって、考古学者は庭の池底に並べられたと思われる岩や色鮮やかな石を発見した。考古学者たちは更に、金箔で覆われた屋根瓦の破片も発見した。庭園の様子はポルトガルの宣教師ルイス・フロイス（1532–1597）の岐阜城に関する報告と一致している。

本事業以前の英語解説文

The residence had multiple gardens. This lake divided by large stones and stone walls was part of one, and through excavation, not only were landscaping stones found, there were also many brightly colored stones that likely decorated the bottom of the pond, as well as a large number of gold-leaf tiles. From the circumstances of the tiles' excavation, it is believed that The gold-leaf tiles may have decorated the roof of the 2nd floor wife's rooms that Fróis they covered the roof of a building in the upper part of the garden.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Nikaido Yukimasa was a member of the noble Fujiwara clan and lived during the twelfth and part of the thirteenth century. He was related to the first Kamakura Shogun (1147–1199), and through his family ties was made an official in the Kamakura Shogunate's government. Yukimasa had considerable political influence, and old records show that between 1201 and 1204 he built a fortress known as Inabayama Castle here on Mount Kinka (known at the time as Mount Inabayama). That fortress would eventually be rebuilt as Gifu Castle.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

二階堂行政は、貴族藤原氏の一員で、12世紀から13世紀にかけて活躍した。彼は最初、鎌倉将軍家（1147 – 1199）と関係があり、彼の家族関係で鎌倉幕府の役人になった。行政はかなりの政治的影響力を持ち、1201年から1204年の間に彼はここ金華山に稲葉山城として知られる城塞を建設した。（当時金華山は稲葉山として知られていた）。その城塞はやがて岐阜城として再建される。

本事業以前の英語解説文

Member of the Kamakura Shogunate governing body during the early part of the Kamakura period and ancestor of the Nikaido family line. According to records from the Edo period such as the "Mino Meisaiki," it is stated that that Yukimasa was the first person to build a fortress on Mt. Inaba (Mt. Kinka). Records confirm that the Nikaido clan and their branch family, the Iga clan, lived on Mt. Inaba. The record also states that the Mino Province shugodai (deputy military governor), the Saito clan, and the koshugodai (acting deputy military governor), the Nagai clan, lived there during the Muromachi period.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The Nagai clan were originally retainers of the Saito clan, the deputy military governors of Mino (present-day Gifu). The Nagai clan seized power during a period of political turmoil for the Saito clan, and by the end of 1525 the Nagai had overthrown them entirely and sent them into exile along with domain ruler, Toki Yoshinori (1502–1582). Nagai Shinzaemonnojo (life dates unknown) was one of the Nagai clan samurai who participated in the coup. Shinzaemonnojo was not born a samurai, but grew up as a monk in Kyoto, became a successful oil merchant, and then joined the Nagai clan. He eventually became the head of the Nagai clan and took control of Inabayama castle. His son, Saito Dosan (1494–1556), would succeed him as ruler of Inabayama castle after Shinzaemonnojo's death in 1533.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

長井氏はもともと美濃（現岐阜）の守護代であった斎藤氏の家臣だった。長井氏は斎藤氏の政治的混乱の間に権力を掌握し、1525年の終わりまでに長井氏は彼らを完全に打ち倒し、守護職の土岐頼芸（1502–1582）と共に亡命させた。長井新左衛門尉は、この政変に参加した長井藩士の一人だった。新左衛門尉は、武士出身ではなく、京都で僧侶として育ち、ごま油商人として成功し、その後長井家に加わった。彼は最終的に長井藩の長となり、稲葉山城を支配した。彼の息子、斎藤道三（1494年 - 1556年）は、1533年の新左衛門尉の死後、彼を稲葉山城の支配者として引き継いだ。

本事業以前の英語解説文

The Nagai clan was a retainer of the shugodai (deputy military governor), the Saito clan, however they began to take control after Saito lost power due to repeated political rebellion. In June 1525, Nagai overthrew those in power and temporarily forced the shugo (military governor), Toki, and the Saito clan to Mugetani (present-day Seki City). The Asakura clan of Echizen Province and the Rokkaku clan of Omi Province intervened in October, and the Nagai clan briefly retreated to Owari Province. However according to records in the "Asakura-ke Denki" the final place the Nagai clan is known to have been based at is Inabayama Castle (Gifu Castle). Feuds occurred frequently after that, however they resulted in an increase in the Nagai's authority in Mino Province. Nagai Shinzaemonnojo, who was originally a monk at Myokaku-ji Temple in Kyoto and the father of Saito Dosan, had a reputation within the Nagai family, and appeared in historical records of that time. The tactic of overthrowing the powers in reign that were seen during this period were used by Dosan later on.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Known as the “Viper of Mino,” Saito Dosan was renowned for his ruthless tactics. His defeat of Oda Nobuhide (1510–1551) at the Battle of Kanoguchi in 1547 brought him national recognition. After the battle, Dosan’s daughter, Nohime (1533–35–1612), and Nobuhide’s son Oda Nobunaga (1534–1582) were married as part of the peace treaty negotiations.

By 1556, Dosan found himself surrounded by speculation concerning who would be made his heir. Some rumors claimed that his firstborn, Saito Yoshitatsu (1527–1561), was not his natural son; others suggested that Dosan was considering his more talented son-in-law, Oda Nobunaga as his heir. Aware of the doubts about his paternity and determined to secure his position as rightful heir, Yoshitatsu killed his two siblings and attacked his father at the Battle of Nagaragawa in 1556.

Yoshitatsu was able to rally the majority of the Saito clan samurai to himself and defeated his 62-year-old father in a one-sided battle. Nobunaga sent reinforcements to aid his father-in-law, but they arrived after the battle had already ended. Dosan’s head, taken during battle, was interred in the Dosanzuka head mound near Sofukuji temple north of Gifu Castle.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

「美濃の蝮」として恐れられた斎藤道三は、その冷酷な戦術で有名だった。1547年の加納口の戦いで織田信秀（1510–1551）を敗北させたことで、彼は全国的に認知された。戦いの後、道三は娘濃姫（1533～35–1612）を信秀の息子織田信長（1534–1582）に嫁がせ、和平協定をなした。

1556年ごろ、道三は、誰が彼の後継者になるかの憶測に困まっているのに気づいた。噂では、道三の長子の斎藤義龍（1527-1561）は彼の本当の息子ではないと言われ、他の人々は、道三は後継者に彼より才能のある義理の息子、織田信長を考えていると話した。斎藤義龍は自分の出生と道三の思惑に疑問を感じ、正しい相続人としての地位を確保する決心した義龍は、1556年の長良川の戦いで、父親を襲撃した。

義龍は斎藤氏の大多数を自分の力で結集させ、62歳の父親道三を一方的な戦いで敗北させ殺害した。信長は義父を助けるために増援を派遣したが、戦いがすでに終わった後に到着した。斎藤道三の頭部は戦闘中に奪われ、岐阜城の北にある崇福寺の近くにある道三塚に埋葬された。

本事業以前の英語解説文

Son of Nagai Shinzaemonnojo. He assumed the name Nagai Norihide and after succeeding his father, he became the Nagai heir. He then took up the name of his shugodai (deputy military governor), Saito, and became known as “Saito Toshimasa.” Toshimasa developed Inabayama Castle (Gifu Castle) and the Inokuchi (present-day Gifu) castle town area

and increased the power of the province. He eventually drove out his master and shugo (military governor), the Toki clan, to officially assume control of Mino Province, which Inokuchi became the center of. He also battled against Oda Nobuhide of Owari Province, however they later made peace and Toshimasa gave Nobuhide's son, Nobunaga, his daughter in marriage. He entered the priesthood in his later years which is when he took up the name of "Dosan." Dosan yielded his position as head of the family to his son, Yoshitatsu, in 1554 and retreated, however two years later in 1556 he was killed when fighting against Yoshitatsu during the Battle of Nagaragawa.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Saito Dosan's (1494–1556) son was named Saito Yoshitatsu. Yoshitatsu an imposing man who stood 197 cm tall when the average height at the time was 157 cm, and just as ruthless as his father. In 1554, Dosan was 60 years old, and the question of who would succeed him was becoming more and more pressing. Rumors were circulating that Yoshitatsu was not Dosan's natural son, but the son of Toki Yoshinori (1502–1582), Dosan's former lord. Other rumors suggested that Dosan was considering his other sons, or even his son-in-law, Oda Nobunaga (1534–1582). Yoshitatsu was based at Sagiyama Castle, not far from Gifu, and he recognized the opportunity to have a decisive influence on his father's decision. In 1556, Yoshitatsu killed his brothers, brought the majority of Saito clan warriors to his side, and attacked his father in the Battle of Nagaragawa. Dosan was killed in the battle and Yoshitatsu became the ruler of Gifu Castle.

Nobunaga attempted many times to kill Yoshitatsu in revenge, but was defeated each time. In 1559 Yoshitatsu sent a matchlock gunner to assassinate Nobunaga while he was traveling to Kyoto, but the attempt failed. Yoshitatsu died from an illness in 1561 and was succeeded by his teenage son, Saito Tatsuoki.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

斎藤道三の息子（1494–1556）は斎藤義龍と名付けられた。平均身長は 157 cm の時代に、義龍は 197cm の堂々とした体躯を持ち、父親道三と同じくらい冷酷だった。1554 年、道三は 60 歳になり、後継者問題はますます緊急になっていた。義龍は道三の息子ではなく、道三の元主人土岐頼芸（1502～1582）の息子であるという噂が広まっていた。別の噂では、道三は彼の他の息子、あるいは彼の義理の息子、織田信長（1534–1582）に跡目を継がせることを考えていると流布されていた。当時義龍は岐阜からそう遠くない鷺山城を拠点にしていた、そして、義龍は道三に後継者問題に決着をつける機会を造った。1556 年、義龍は兄弟を殺害し、斎藤氏の戦士美濃衆の大多数を掌握し、長良川の戦いで父親を攻撃した。道三は戦いで殺され、義龍は岐阜城の支配者となった。信長は義父の復讐のため何度も義龍を滅ぼす軍を起こしたが、毎回目的を果たさず撤退した。1559 年に義龍は、京都旅行道中の信長を暗殺するために火縄銃の狙撃者を派遣した。しかしその試みは失敗した。義龍は 1561 年に病気で亡くなり、10 代の息子、斎藤竜興が継承した。

本事業以前の英語解説文

Son of Saito Dosan. After succeeding the position as head of the family, Yoshitatsu turned against his father, who ultimately died in battle against Yoshitatsu in 1556. According to the "Shinko Koki" (Nobunaga Chronicles), Dosan was very fond of two of Yoshitatsu's younger brothers, and so Yoshitatsu lured them to him by feigning illness and had them murdered. Dosan left Mt. Inaba (Mt. Kinka) after hearing the full story of his sons' deaths from Yoshitatsu's

side, and battle resulted the Whilst head of the family, Yoshitatsu implemented a political-like system where following year. higher authorities were involved in decision-making affairs. He also established new land ownership and military related structures similar to those that were being adopted by powerful daimyo (feudal lords) in other provinces, setting forth policies unseen while under the command of Dosan. Yoshitatsu died suddenly in 1561. He was succeeded by his son, Saito Tatsuoki (1548–1573), however that turned out to be the ultimate factor in the undermining of the Saito clan.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Saito Tatsuoki was just thirteen when he succeeded his father in 1561. In 1564, the Saito clan's military advisor Takenaka Hanbei (1544–1579) was insulted by a Saito clan samurai, and he demanded that Tatsuoki punish the offender. Tatsuoki refused, and Hanbei retaliated with a false attempt on Tatsuoki's life, attacking the castle with sixteen samurai. Thinking he was under attack from a much larger army, Tatsuoki fled, abandoning his castle and men. Hanbei took the castle easily, but later returned it to Tatsuoki, whose cowardly retreat was seen as a great humiliation.

When Oda Nobunaga (1534–1582) attacked in 1567, many of Tatsuoki's troops remembered their lord's cowardice and either fled or defected to the Oda forces. Nobunaga took the Saito fortress handily, and he chose to relocate it and rename it "Gifu." Tatsuoki also fled the castle and was later killed during the Siege of Ichijodani Castle in 1573.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

斎藤竜興はわずか13歳で1561年に斎藤氏を引き継いだ。1564年、斎藤一族の軍事顧問であった竹中半兵衛（1544–1579）は、斎藤一族の武士に侮辱され、竜興に侮辱した武士を処罰するように求めたが、竜興はそれを拒否したため、竹中半兵衛はわずか16人の武士で城を攻撃し、竜興の誤った命令に報復した。しかし竜興は大部隊の攻撃を受けたと勘違いし、自分の城と人々を見捨てて逃げた。竹中半兵衛は容易に岐阜城を手に入れたが、後に竜興に返した。その時の竜興のその臆病な逃亡は大きな不面目となった。

1567年に織田信長（1534–1582）が攻撃したとき、竜興の軍隊の多くは彼らの主人の臆病を記憶しており、織田軍に投降したり、逃亡したりした。信長は斎藤家の要塞を比較的容易に手中に収め、それを「岐阜」と改名した。竜興は城から逃げ出し、1573年に一条谷城の包囲の間に殺害された。

本事業以前の英語解説文

Grandson of Saito Dosan. Tatsuoki succeeded his father, Yoshitatsu, after his death in 1561. He retaliated against Oda Nobunaga's invasion of Mino Province, however he was unable to take adequate command of his fiefdom due to his young age. This led to several of his subordinate leaders defecting, including Mino's top three generals (Inaba Yoshimichi (Ittetsu), Ujiiie Bokuzen and Ando Morinari) joining forces with Nobunaga. Yoshioki fled from Inabayama Castle (Gifu Castle) to Ise Nagashima in 1567 and moved around to different areas. Eventually he turned to Asakura Yoshikage of Echizen Province, but just prior to Asakura being overthrown by Nobunaga on August 20 1573, Tatsuoki died in the Battle of Tonzaka on August 14.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Oda Nobunaga was the first of the “three unifiers” who brought about the end of the Sengoku Period (1467–1600). A military genius, he developed new tactics for armies using spears and arquebus guns and also greatly improved castle construction techniques.

When his father died in 1551, Nobunaga was able to consolidate power within his own clan and by 1560 he had taken control of the region around what is now Gifu and Nagoya. In the Battle of Okehazama (1560), Nobunaga defeated an invading force of 25,000 Imagawa samurai with just 3,000 men armed primarily with arquebuses. He captured Inabayama Castle in 1567 and renamed it “Gifu.” For about ten years he expanded the castle and used it as his stronghold until he moved again in 1576 to the newly completed Azuchi Castle in modern-day Shiga prefecture.

As his influence and power rose, Nobunaga grew more ambitious and worked to unify all of Japan under his rule. In 1575, Nobunaga defeated the powerful Takeda clan in a large-scale gun battle at Nagashino. He dominated the Uesugi clan after the death of their leader in 1578 and defeated the forces of Hoganji temple in 1580. In 1581 he took control of Iga province, and in early 1582 he had completely destroyed the Takeda clan.

Akechi Mitsuhide (1528–1582) was in Oda Nobunaga’s inner circle of trusted generals. In June 1582 Nobunaga ordered him to bring reinforcements to a battle in Western Japan, but he instead marched his 13,000 men to Honnoji Temple in Kyoto, where Nobunaga was staying at the time. Mitsuhide betrayed Nobunaga and attacked him. Hopelessly outnumbered and wounded by arrow fire, Nobunaga retreated into the temple’s inner sanctum and committed ritual suicide. Mitsuhide was killed weeks later after the Battle of Yamazaki. Another of Nobunaga’s generals, Toyotomi Hideyoshi (1537–1598), would continue Nobunaga’s work of national unification.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

織田信長は、戦国時代末期（1467–1600）全国統一を図った三英傑（信長・秀吉・家康）の最初の人物だった。軍事的天才で、彼は長槍と火縄銃を使用する新しい戦術を開発した。そしてまた築城技術も大改良した。信長の父親織田信秀が 1551 年に亡くなったとき、信長は一族の統合した。そして 1560 年までに彼は今の岐阜と名古屋のまわりの地域を支配下の収めた。桶狭間の合戦（1560）で、信長は 25,000 人の今川吉元率いる今川勢をわずか 3000 人の火縄銃を装備した武士の力で敗北させた。1567 年に稲葉山城を占領し、その名を「岐阜」と改名した。約 10 年の間に、城を拡大し、1576 年に現在の滋賀県に新しく完成させた安土城に移るまで、岐阜城を拠点として使用した。

影響力と軍事力が増すにつれ、信長はより野心的になり、自分で天下統一をしようと努力した。1575 年に、信長は今の愛知県長篠で大規模な銃撃戦で強力な武田一族騎馬隊を壊滅した。1578 年に上杉謙信が亡くなった上

杉家を支配し、1580年には一向宗の本願寺の部隊を攻め滅ぼした。1581年には現在の三重県伊賀地方を支配し、1582年初頭には武田氏を完全に滅亡させた。

明智光秀（1528–1582）は、織田信長の最も信頼していた将軍の一人であった。1582年6月、信長は中国地方での戦への増援に光秀に命じたが、光秀は彼の部隊13000人の兵士を、信長が当時滞在していた京都の本能寺に向かわせた。光秀は信長の信頼を裏切り攻撃した。圧倒的多数の明智勢の攻撃で、矢で負傷した信長は、寺院の内部の仏間に後退し、自刃した。光秀は数週間後今の京都府の山崎の戦いで豊臣秀吉軍に負け、逃亡中に殺された。信長の武将であった豊臣秀吉（1537–1598）は、信長の天下統一の仕事を受け継いだ。1560年桶狭間の戦いで、今川軍25,000人に対して織田軍は2,500人で退けた。信長は後に稲葉山城を陥落させ、岐阜城に改名し自身の本拠地とした。

信長は勢力を拡大するにつれ、天下統一を果たし平和な世にすべく動き出した。1575年信長は、長篠の戦いで鉄砲を用いた戦術で強敵武田軍を退けた。

信長の有能な家臣の中には、明智光秀（1562年-1582年）がいた。明智光秀は信長から西日本に向けて派兵するように命を受けていたにもかかわらず、30,000の軍勢を率いて、70人の家臣とともに信長がいる京都本能寺を襲撃した。圧倒的な数の軍勢に包囲された信長はなすすべなく、本能寺奥にて自害した。

明智は山崎の戦い後の一週間後には、信長の腹心豊臣秀吉によって討たれた。こうして、信長の天下統一は終わりを告げた。

本事業以前の英語解説文

Military commander in Owari Province during the Sengoku period and son of Oda Nobuhide. Nobunaga's family line was a branch family of the shugodai (deputy military governor), the Oda clan, in Owari Province. He killed one of his brothers, Nobukatsu, to claim the position as heir of his family. He overthrew the other Oda clan in Owari, drove out the shugo (military governor), the Shiba clan, and succeeded in uniting Owari Province. He also defeated Imagawa Yoshimoto in the Battle of Okehazama in 1560. Following the death of Inabayama Castle (Gifu Castle) lord, Saito Yoshitatsu, in 1561, Yoshitatsu's son, Tatsuoki, succeeded as heir. Nobunaga strengthened his attempt at invading Mino and seized Inabayama Castle in 1567, and moved his base there from Komaki, Nobunaga carried out large-scale repairs on the castle and renamed it "Gifu Castle." He also reestablished the castle town at the foot of the mountain and renamed it "Gifu." For the next 10 years until he moved to Azuchi in 1576, Nobunaga expanded his power and attempted to unite the nation while using Gifu as his base.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Oda Nobutada was the eldest son and heir of Oda Nobunaga (1534–1582) and ruled Gifu Castle from 1576 to 1582. Nobutada had become a skilled general after serving his father in many major campaigns, and he went on to lead armies in a number of battles on his own. He was responsible for defeating the powerful rival Takeda clan during the siege of Iwamura Castle in 1575. He also led the sieges of Shigisan Castle (1577) and Takato Castle (1582) against the Takeda. As part of a peace negotiation between the Oda and the Takeda clans in 1567, Nobutada was engaged to be wed to Princess Matsu (1561–1616), a daughter of Takeda Shingen (1521–1573).

The Oda-Takeda peace agreement was broken by Shingen five years later in 1582 when he and his forces invaded neighboring Mikawa, then held by Oda's ally Tokugawa Ieyasu (1543–1616). During the ensuing warfare, while Nobunaga was staying at Honnoji Temple in Kyoto and Nobutada was with his troops in Nijo Castle, Nobunaga's trusted general Akechi Mitsuhide (1528–1582) betrayed and attacked him. Having killed Nobunaga, Akechi and his men turned their attention to his son Nobutada at Nijo Castle. Surrounded, Nobutada committed ritual suicide (seppuku). Like his father, his head was never found.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

織田信忠は織田信長（1534 -1582）の嫡男で相続人であり、1576 年から 1582 年まで岐阜城を統治していた。

彼は多くの主要な戦いで彼の父親に仕えた後に熟練した将軍となり、彼自身でいくつかの戦いで軍を率いた。

1575 年の岩村城の包囲戦で、強力な敵である武田氏を倒した。

彼はまた、武田に対し、信貴山城（1577 年）と高遠城（1582 年）の包囲を指揮した。

1567 年の織田家と武田家の和平交渉の一環として、信忠は武田信玄(1521–1573)の娘である松姫（1561-1616）と婚約したが、織田家と武田家の和平協定は、5 年後の 1572 年に信玄と彼の部隊が隣接する三河を侵略し、織田の味方である徳川家康（1543-1616）が打ち破られ、破棄された。その後の戦の中、信長が京都の本能寺に滞在し、信忠が二条城の部隊と共にいる間、信長の重臣であった明智光秀（1528 - 1582）が信長を裏切りこれを攻めた。信長を打った後、明智とその部下は二条城にいる息子の信忠に注意を向けた。囲まれた信忠は切腹（seppuku）をした。彼の父親のように、彼の頭は決して見つけれなかった。

本事業以前の英語解説文

Son of Oda Nobunaga, he was responsible for bringing down Iwamura Castle in 1575. In the same year, Nobutada took up position as the head of the Oda family and thus became the lord of Gifu Castle. He held reign over Mino Province and part of Owari Province. His military campaigns were remarkable and he led the Oda army in the

invasions of the Saiga and Takeda lands, and in the defeat of Matsunaga Hisahide. Akechi Mitsubide launched an attack in the Honnoji incident in 1582, leading to the suicide of Nobutada's father, Nobunaga. Nobutada was besieged at Nijo Palace by Akechi's troops and despite his resistance, he was overpowered and committed suicide.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Oda Nobutaka was Oda Nobunaga's (1534–1582) third son and ruled Gifu Castle from 1582 to 1583. As part of Nobunaga's plan to control the important Ise region, Nobutaka was adopted into the Kanbe clan as their clan leader. In 1582, Nobutaka was ordered by his father to subjugate the island of Shikoku. However, just prior to the invasion, while Nobunaga was in Kyoto his trusted general Akechi Mitsuhide (1528–1582) betrayed and attacked him. Nobutaka quickly joined forces with another Oda general, Toyotomi Hideyoshi (1537–1598), and would kill Akechi during the Battle of Yamazaki in 1582.

On the death of their father and elder brother, Nobutada (1557–1582), a struggle for succession broke out between Nobutaka and his other brother, Nobukatsu (1558–1630). It would be Nobutada's infant son who was eventually named heir, and Toyotomi Hideyoshi was given custody of the child. Nobutaka did receive Gifu Castle, but seeing Hideyoshi take on his father's position, he joined forces with Shibata Katsuie (1522–1583), to attack him. During the ensuing Battle of Shizugatake (1583), Nobutaka's brother Nobukatsu lay siege to Gifu castle, with him inside it. Shibata was killed following the battle, severely weakening Nobutaka's position and forcing him to surrender Gifu Castle. He was exiled to Utsumi in present-day Aichi, where he was forced by Hideyoshi and Nobukatsu to commit ritual suicide.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

織田信孝は織田信長（1534–1582）の三男で1582年から1583年のあいだ岐阜城の城主であった。信長の伊勢地方を重視する計画のため、信孝は神戸氏にそのリーダーとしてして養子に出された。1582年に父親信長に四国征伐の命を受けた。しかし、侵攻前に信長は京都で信頼する武将の明智光秀（1528–1582）に裏切られ攻撃され死亡した。信孝は1582年もう一人の織田の武将豊臣秀吉（1537–1598）と素早く連携し、山崎の戦い（京都郊外）で明智光秀を滅ぼした。

父織田信長と長兄織田信忠（1557–1582）の死によって、次兄の織田信雄（1588–1630）との間に織田家継承問題が起きた。最終的に長兄信忠の幼子が豊臣秀吉の後見で織田家を引き継いだ。信孝は岐阜城を手にしたが、秀吉が父信長の地位の篡奪を目にして、信長の武将の一人柴田勝家と秀吉を攻撃するため手を結んだ。1583年賤ヶ岳の戦い（滋賀県）の間に、信孝の兄信雄が岐阜城を包囲攻撃した。柴田勝家は賤ヶ岳で殺され、信孝は地位を弱められ、岐阜城の明け渡しを命じられた。愛知県知多半島の内海に追放され、秀吉と信雄に自刃させられた。

本事業以前の英語解説文

Third son of Oda Nobunaga. He was adopted into the Kanbe family of Ise, so he was also known as Kanbe Nobutaka.

After the incident at Honnoji in 1582, he allied with Hashiba Hideyoshi and defeated Akechi Mitsubide. At the meeting at Kiyosu, Nobutaka argued with Oda Nobunaga's second son, Nobukatsu, over who would succeed the Oda family, however Nobutaka was rejected by Hideyoshi. Sanposhi (later known as Hidenobu), son of Oda Nobutada, who died during the incident at Honnoji, was named heir. Nobutaka acquired Mino Province and Gifu Castle as Sanposhi's deputy, Soon after, Nobutaka joined forces with Shibata Katsuie to plot against Hideyoshi and set up an army at Gifu Castle. However Katsuie died during battle at Echizen in 1583, which weakened Nobutaka's army's ability to fight and resulted in him surrendering Gifu Castle. He was later sent to Utsumi in Chita District, Owari Province and committed suicide at Omido-ji Temple in Noma.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

After serving as Oda Nobunaga's (1534–1582) retainer from childhood, Ikeda Motosuke became the lord of Gifu Castle from 1583 to 1584. He was a skilled warrior who fought in a number of Nobunaga's battles. He fought alongside Toyotomi Hideyoshi (1537–1598) during the invasion of Awaji Island, and was fighting in the central regions of Japan when Oda Nobunaga died at Honnoji temple in 1582. Joining Hideyoshi's forces, he fought against Nobunaga's treacherous general Akechi Mitsuhide (1528–1582) at the Battle of Yamazaki (1582). During the battle over the Oda clan line of succession, the Ikeda clan supported Toyotomi Hideyoshi and the elder son, Nobukatsu (1558–1630).

In 1583, the Ikeda clan received control of a large part of Mino, and Motosuke was given Gifu Castle. During the 1584 Battle of Komaki, the Toyotomi forces realized that with the bulk of the opposing Tokugawa forces on the field, the Tokugawa's base, Okazaki Castle, would be short-handed. Ikeda Motosuke was sent as part of a contingent to attack the castle, but the plan was discovered by the Tokugawa. The Tokugawa forces counter-attacked the Toyotomi in what became the Battle of Nagakute (1584). Motosuke was killed during the fighting and Gifu Castle went to his brother Terumasa.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

織田信長（1534–1582）の幼少期からお付きの武士として勤めた後、池田元助は1583年から1584年まで岐阜城の領主となった。彼は、信長の数々の戦いに参戦した熟練した武将であった。淡路島侵攻で豊臣秀吉（1537-1598）と呼応して戦っていたとき、1582年京都で織田信長が本能寺で亡くなった。秀吉の部隊に加わり、信長を殺した明智光秀との山崎の戦い（1582）で戦い、織田氏継承問題をめぐる戦いの間、池田氏族は豊臣秀吉と次男の信雄（1558-1630）を支持した。

1583年、池田氏が美濃の大部分を統治し、元助に岐阜城が与えられた。1584年現在の愛知県小牧の戦いの時、豊臣軍と徳川軍の大部分はともに野陣で対戦していた。その時秀吉は徳川の基地である岡崎城が留守で容易に獲得できると気づき、池田元助は岡崎城を攻撃する派遣部隊の一部として侵攻したが、その計画は徳川によって発見された。徳川軍は今の名古屋市郊外の長久手の戦い（1584）で豊臣軍に反撃を与えた。元助は戦闘中に戦死し、岐阜城は弟の輝政に任された。

本事業以前の英語解説文

Retainer of the Oda family and first son of Ikeda Tsuncoki. Motosuke and his father served Oda Nobunaga and took part in many battles. After the incident at Honnoji, relations between Hashiba Hideyoshi, and Oda Nobutaka and Shibata Katsule became hostile. Motosuke's father, Tsuncoki, strengthened ties with Hideyoshi and Motosuke

followed. After the Battle of Shizugatake in 1583, the Ikeda clan was given a large part of Mino Province, making Motosuke the lord of Gifu Castle. He joined Hideyoshi's army in the Battle of Komaki and Nagakute in 1584, but died on April 9 alongside his father while fighting against Tokugawa Ieyasu's army.

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Ikeda Terumasa ruled Gifu castle from 1584 to 1591. As Nobunaga's retainer, Terumasa took part in many of Nobunaga's major campaigns. After Nobunaga's death, Ikeda Terumasa's family served Toyotomi Hideyoshi (1537–1598). When both his father Ikeda Tsuneoki (1536–1584) and elder brother Ikeda Motosuke (1559–1584) were killed during the Battle of Komaki-Nagakute in 1584, Terumasa inherited a large part of Mino (modern-day Gifu), including Gifu Castle.

Terumasa was moved Yoshida Castle in present-day Aichi prefecture in 1590, and in 1594 married Tokugawa Ieyasu's daughter Tokuhime (1565–1615). When Hideyoshi died in 1598, Terumasa's loyalties turned to his new father-in-law. In 1600, Ikeda Terumasa and Fukushima Masanori launched a joint attack on Gifu Castle, then held by Oda Hidenobu (1580–1605). The castle fell in a single day.

During the Battle of Sekigahara, which marked the end of this period of war, Terumasa guarded the base of Mt. Nangu to prevent the Western-supporting Mori clan from sandwiching the Eastern forces on the plains. For his services, Terumasa was awarded the strategically important Himeji Castle, which was greatly expanded under his control. By the time of his death in 1613, his power and influence had grown so much that Ikeda Terumasa was nicknamed Saigoku no Shogun, or "The Shogun of the West."

上記解説文の仮訳（日本語訳）

池田輝政は 1584 年から 1591 年まで岐阜城を任された。信長の家臣として、信長の多くの重要な戦闘に参加した。信長の死後、池田輝政の一族は豊臣秀吉（1537–1598）に仕えた。1584 年の小牧長久手の戦いで、父の池田恒興（1536–1584）と兄の池田元助（1559–1584）の両者が戦死したあと輝政は岐阜城を含む美濃の大部分を受け継いだ。

1590 年、現在の愛知県吉田城に移り、1594 年に徳川家康の娘徳姫（1565-1615）と結婚した。1598 年に秀吉が亡くなったとき、輝政の忠誠心は彼の新しい義父に向けられた。1600 年、池田輝政と福島正則は織田信秀（1580-1605）が入っていた岐阜城に共同攻撃を仕掛けた。岐阜城はわずか一日で落城した。

戦国時代の終焉を告げた現在の岐阜県の関ヶ原の戦いの間、輝政は南宮山山頂の基地を守った。西軍の代表毛利氏が平野に布陣する東軍を挟むのを防ぐための布陣であった。輝政の貢献は、戦略的に重要な姫路城（兵庫県）を家康から与えられた。1613 年に亡くなる頃には、彼の力と影響力は非常に大きくなり、池田輝政は西国の將軍と呼ばれた。

本事業以前の英語解説文

Second son of Ikeda Tsuneoki. After the Battle of Shizugatake in 1583 his father was given a large part of Mino Province by Hashiba Hideyoshi, and Terumasa became the lord of Ikejiri Castle in Nakagawanosho, Anpachi District (present-day Ogaki City). The following year, he joined his father and brother, Motosuke, in the Battle of Komaki and Nagakute, however both his father and brother were killed. Terumasa retreated and survived to succeed the position of head of the Ikeda clan and the lord of Gifu Castle. In 1590 he joined in the Siege of Odawara and the subjugation of Mutsu Province, and in September of that year his base was relocated to Yoshida in Mikawa Province (present-day Toyohashi City, Aichi Prefecture). Terumasa sided with Tokugawa Ieyasu for the Battle of Sekigahara in 1600, and in the lead-up to the battle he helped invade Gifu Castle where he once resided, forcing the castle lord at the time, Oda Hidenobu, to surrender. After the Battle of Sekigahara he was given Harima Province and became the first lord of Himeji Domain.

695

No.27 Toyotomi Hidekatsu (1569–October 14, 1592)

<岐阜市、岐阜県>

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Toyotomi Hidekatsu ruled Gifu castle from 1591 until his death in 1592. He was the son of the younger sister of Toyotomi Hideyoshi (1537–1598) and was married to Oda Nobunaga's niece, Oeyo (1573–1626). An able warrior, Hidekatsu repeatedly distinguished himself in battle, and was previously awarded with Tamba Kaneyama Castle in Kyoto, and Kofu Castle in Yamanashi.

In early 1591, Hidekatsu was made master of Gifu Castle. A little over a year later, however, under orders from Hideyoshi, Hidekatsu and the samurai of Gifu Castle set off to Korea to assist Hideyoshi's planned Korean Invasion. Hidekatsu fell ill during the sea crossing and died on Geoje Island, southeast of Busan. Following the death of Hidekatsu, Gifu Castle was given to Oda Hidenobu (1580–1605).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

豊臣秀勝は1591年から1592年に亡くなるまで岐阜城の城主であった。彼は豊臣秀吉（1537–1598）の妹の息子で、織田信長の姪、於江（1573–1626）と結婚した。能力のあった武将で、秀勝は多くの戦いで名声を高め、最初は京都の丹波亀山城を、引き続き山梨の甲府城を与えられた。

1591年初頭、秀勝は岐阜城の城主となった。しかし、その1年後、秀吉の命により、秀勝は岐阜城の武士を引き連れて朝鮮侵略を遂行するために朝鮮へ出陣した。秀勝は渡航中に発病し、釜山南東の巨済島で死亡した。秀勝の死後、岐阜城は織田秀信（1580-1605）に引き渡された。

本事業以前の英語解説文

Son of Toyotomi Hideyoshi's older sister, Nisshu, he was adopted by Hideyoshi along with his older brother, Hidetsugu. Hidekatsu's wife, Go, was the third daughter of Azai Nagamasa and Nobunaga's younger sister, Ichi. Following his adoption by Hideyoshi, Hidekatsu served as the lord of Tanba Kameyama Castle and Kofu Castle before becoming the lord of Gifu Castle in March, 1591. In the same year, his brother by blood, Hidetsugu, was appointed as kampaku (imperial regent). The following year in June 1592, Hidekatsu went to battle on the Korean Peninsula for the launch of the invasion of Korea along with Hosokawa Tadaoki, however he died of illness on Karashima Island (present-day Geoje Island, South Korea).

【施設名】 岐阜城山上部

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The final lord of Gifu Castle was Oda Hidenobu, also known as Samboshi, who ruled the castle from 1592 to 1600. Hidenobu was the son of Oda Nobutada (1557–1582) and grandson of Oda Nobunaga (1534–1582). He was just two years old in 1582 when his father and grandfather were betrayed in Kyoto by Akechi Mitsuhide (1528–1582) at Honnoji temple and Nijo Castle. After the death of Nobunaga and his eldest son, his second son, Nobukatsu (1558–1630), and his third son, Nobutaka (1558–1583), disputed who was the rightful heir to the clan. At the clan leadership meeting held at Kiyosu Castle, Toyotomi Hideyoshi (1537–1598) asserted that in fact the infant Hidenobu should be made leader. Hidenobu was ultimately made the head of the clan, but political power was functionally held by Hideyoshi.

Hidenobu controlled Gifu Castle in 1600. The castle was considered an important element to the Eastern forces' plan to defeat the Western armies. Because of this, Gifu Castle was attacked by Fukushima Masanori (1561–1624) and Ikeda Terumasa (1565–1613) just before the Battle of Sekigahara in 1600. Upon realizing their defeat, Hidenobu's samurai committed ritual suicide inside the castle, and the bloodstained floorboards are said to have been later used to construct the ceiling of Sofukuji temple in Gifu city. After the battle Hidenobu renounced the world and became a priest but he died only five years later.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

岐阜城の最後の城主は、1592年から1600年まで城を統治した幼名三法師と呼ばれた織田秀信だった。1582年、父織田信忠(1557–1582)と祖父織田信長(1534–1582)が本能寺と二条城で明智光秀(1528–1582)の裏切りで襲撃を受けて死亡したのは、秀信わずか2歳のときであった。信長と彼の長男である信忠の死後、次男織田信雄(1558–1630)と三男織田信孝(1558–1583)の間で後継者争いが起こった。清洲城(愛知県)で行われた後継者会議で、豊臣秀吉(1537–1598)は、幼児秀信(三法師)が正統の後継者であると主張した。秀信は最終的に織田家の後継者になったが、その政治的権力は秀吉によって完全に掌握されていた。

秀信は1600年に岐阜城の城主であった。岐阜城は当時石田三成を中心とした西軍を倒すという徳川家康率いる東軍にとって重要な拠点と考えられていた。このため、西軍側についた岐阜城は1600年に関ヶ原の戦い(岐阜県)の直前に福島雅則(1561–1624)と池田輝政(1565–1613)によって攻撃され落城した。城の床板は後に岐阜市内の崇福寺の天井板(血天井)に使われ城内で戦死した者を吊ったと言われている。戦後、秀信は世をはかなみ出家したが、その後わずか5年で亡くなってしまった。

本事業以前の英語解説文

First son of Oda Nobutada, and known as Sanposhi as a child. After the incident at Honnoji, it was decided at the meeting at Kiyosu that he would be the successor of the Oda clan at the young age of three. He was to move into Azuchi Castle, but his uncle, Oda Nobutaka, opposed this plan and had Hidenobu stay at Gifu Castle. Toyotomi Hideyoshi launched an attack on Nobutaka and Gifu Castle and took charge of Hidenobu, moving him to Azuchi Castle and giving Oda Nobukatsu guardianship of Hidenobu. In 1592, Hidenobu became the lord of Gifu Castle and was bestowed a fief of 130,000 koku. Before the Battle of Sekigahara in 1600, he sided with the western army and fought against the eastern army at Kiso River, but he was defeated and Gifu Castle was besieged. Fukushima Masanori and Ikeda Terumasa then launched an attack on the castle, destroying it. Hidenobu surrendered then entered the priesthood, and after being sent away to Mt. Koya, he eventually died due to illness.

【施設名】 岐阜公園内

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Water was a vitally important resource within a castle. Without fresh water, the defenders of castle could not withstand a prolonged siege. In a large castle like Gifu there would be many wells inside the castle to ensure that there was enough water for drinking and extinguishing fires.

This well was discovered in 1999 during a research excavation, and dates back to when Oda Nobunaga (1534–1582) ruled the castle (1567–1579). The well is around five meters deep and has a square pinewood base at the bottom which supports a lining of closely fitted stones.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

水は城内では極めて重要な資源であった。真水がなければ、城内に立てこもった人々は長期の包囲に耐えることはできなかった。岐阜城のような大きなお城では、城内に多くの井戸があり、飲み水や消火のために十分な量を確保しなければならなかった。この井戸は1999年の研究発掘中に発見され、織田信長（1534–1582）が城を統治したとき（1567–1579）にまで遡る。井戸の深さは約5メートルで、底はぴったり合った石の裏地を支える正方形の松材が基礎となっている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 岐阜公園内

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The roads that connected east and west Japan ran through Mino province (modern-day Gifu), and there was the saying during the Sengoku Period (1467–1600) that if you “Control Mino, and you control the nation.” Having conquered Mino by defeating the Saito clan in 1567, Oda Nobunaga (1534–1582) set his sights on unifying the country. He summed up this ambition through the slogan “*tenka fubu*”, which is often translated as “Rule all under heaven by military force.” Nobunaga also created a seal featuring the slogan, which he used to legitimize and impart authority to his written laws. Under this slogan, Nobunaga would eliminate the Ashikaga Shogunate, defeat numerous samurai clans, and reduce the power of the Buddhist temples. He also freed commerce in his castle towns, removed toll gates from his territories, and worked to provide economic stability.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

東日本と西日本を結ぶ道は美濃地方（現代の岐阜）を通らなければならず、戦国時代（1467–1600）に「美濃を支配するものは、天下を制する」と言われていた。1567年に斎藤氏を倒した織田信長（1534–1582）は天下統一を目指した。彼はスローガン「天下布武」を通して自分の野望を集約した。そしてそれはしばしば「天下を武力で平定する」として理解されているが、本来は「武」とは本来、「戦いを止める」という意味を持つ。また、信長は彼の書面を正当化し権威を与えるためにスローガンを刻んだ特徴ある印を作成した。このスローガンの下で、信長は足利幕府を倒し、多くの戦国武將を滅ぼし、そして仏教寺院（本願寺・延暦寺）の権力削いだ。彼はまた岐阜の城下町で商取引を解放（楽市楽座）し、自分の領地から料金所を取り除き、そして庶民の経済的安定をはかる政策を講じた。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 岐阜公園内

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The founder of Japan's Liberal Party, Itagaki Taisuke, was almost assassinated near this spot, on April 6, 1882. As he was leaving the hall where he had given a speech, Itagaki was attacked by Aihara Shoukei (1854–unknown), a right-wing militant armed with a 27 cm dagger. Shoukei stabbed Taisuke in the left side of his chest. Taisuke fought back but was stabbed once more in the right side of his chest. Taisuke received further injuries to his hands and left cheek before the police were able to subdue and arrest the assailant. During the attack, Taisuke is said to have shouted, “Taisuke may die, but freedom shall never die!”

上記解説文の仮訳（日本語訳）

1882年4月6日、日本の自由党の創始者である板垣退助は、この岐阜城の近くで暗殺未遂に遭った。演説が終わり会場を離れようとしたとき右翼の闘争員相原尚褻に27センチの短剣で刺された。相原は板垣の左胸を刺した。板垣も抵抗したが右胸をもう一度刺された。警官が加害者を鎮圧し逮捕する前に、板垣はさらに手と左頬に怪我をした。相原の攻撃中、板垣は「板垣死すとも自由は死せず」と叫んだと言われている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 岐阜公園内

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Yamauchi Kazutoyo was a retainer to Oda Nobunaga (1534–1582) and participated in most major battles of the late sixteenth century under his command. His wife, Chiyo, was a daughter of the Gujo Hachiman Castle Lord located in modern-day Gifu.

According to local legend, she told Kazutoyo, "Love only me, and I will make your dream of becoming the lord of a domain come true." When they were married, Chiyo had received ten pieces of gold from her family, which she kept secret from her husband. One day, a local horse dealer brought around an exceptionally fine horse. The horse was very expensive, and no one could buy it. Recognizing an opportunity to set her husband apart from the other retainers, Chiyo bought the horse with her secret gold. The new horse brought Kazutoyo to the attention of Nobunaga, who is believed to have said; "If no one within the Oda clan had bought this fine horse, it would have been an embarrassment. I'm glad you purchased it!"

Under Nobunaga, Kazutoyo would become master of the small Karakuni domain, and then Nagahama and Kakegawa castles. He later pledged allegiance to Tokugawa Ieyasu. Kazutoyo was awarded the lordship of Kochi Castle in Tosa Province in Shikoku for his help during the attack on Gifu Castle and the Battle of Sekigahara in 1600.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

山内一豊は、織田信長（1534–1582）の武将であり、信長の指揮下で16世紀後半の大部分の戦いに参加した。彼の妻、千代は岐阜県にある郡上八幡城主の娘だった。

その地方の伝説によると、千代は一豊に、「私だけを愛すれば、私はあなたが城主になる夢を実現してみせます。」と言った。二人が結婚したとき、千代は親からもらった持参金小判十両のことを夫の一豊には告げず秘密にしていた。ある日、地元で馬市が開かれ一豊は素晴らしい馬を見たが、高価すぎて誰もその馬を買うことができなかった。千代は夫を信長の他の武将たちと引き離す絶好の機会と考え、秘密にしていたお金でその馬を買った。その新しい馬に乗った一豊は信長に注目された。信長は「織田の武将の中でこの馬を買う者がいないのは、織田家の恥になる。お前がこの馬を買ってくれてよかった」と言った。

信長のもとで、一豊は最初近江国浅井郡唐国（現在の長浜市唐国町）城主となり、それから長浜城、掛川城の城主となった。彼は後に徳川家康へ忠誠を誓った。1600年に岐阜城への攻撃と関ヶ原の戦いで功績で、一豊は四国の高知一國を与えられその城主となった。

本事業以前の英語解説文

なし

環境省中部地方環境事務所

【施設名】伊勢志摩国立公園ストーリー

【整備予定媒体】JNTO Web サイト

できあがった英語解説文

Ise-Shima National Park A Story of Harmony Between People, the Sea, and Ise Jingu's Ancient Traditions

The most important *jinja* (Shinto shrine) site and the spiritual heart of Japan, Ise Jingu is located in the Ise-Shima National Park, an area characterized by varied landscapes and a long history. The home of cultivated pearls, jagged coastlines, and fishing villages, Ise-Shima National Park encompasses almost 60,000 hectares.

Discover a unique local culture based on respect for the natural environment and conservation of fertile seas teeming with marine life. Explore mountainside temples and find serene inlets in the unusual, indented coastline of Ago Bay. Take the opportunity to sample the area's famous seafood, once reserved for the imperial family. Meet female divers known as *ama* and learn about the ancient traditions of these women who plunge deep into the ocean to harvest shellfish and seaweed. These and many more memorable experiences await visitors in Ise-Shima National Park.

At the spiritual heart of Ise-Shima National Park is Ise Jingu. Founded about 2,000 years ago as a place to worship and give thanks to the sun deity Amaterasu-Omikami, the Ise Jingu precincts blend harmoniously with the surrounding forests. Ise Jingu represents the connection between people and nature. Nutrients from the protected forests in Ise Jingu enrich the sea and help ensure abundant marine life in Ise-Shima. People show gratitude for nature's blessings, including seafood, through various ceremonies. The Ise Jingu buildings are rebuilt every twenty years, ensuring that traditional craftsmanship survives. This also helps ensure the sacred site remains fresh and timeless, much like the diverse and vibrant nature of Ise-Shima itself.

Local communities have traditions and culture stretching back hundreds of years. Local festivals take place throughout the year, providing a special attraction for visitors. These include the Shirongo Festival, where *ama* diving is the centerpiece. During this event, the female divers, clad in their distinctive white outfits, compete to catch a lucky pair of abalone. Visitors can visit an *ama* hut and meet a real *ama* and hear her stories, one of Ise-Shima's activity programs. Watching an *ama* cook delicacies such as freshly caught abalone over a fire pit is a memorable experience.

Wandering through fishing villages and island communities offers glimpses of everyday life. Explore the narrow alleyways and see fish and *wakame* seaweed being dried on racks. In Daiozaki, visitors can book a special opportunity to watch the traditional process of drying bonito over firewood. This has been a specialty of the area for hundreds of

years.

Ise-Shima National Park is famous for its pearls and is the birthplace of the world's first pearl cultivation techniques. In addition to buying pearl products, hands-on experiences, such as trying to extract pearls directly from an oyster and making necklaces, are also possible in various locations. Areas including Kashikojima Island have strong connections with this industry; many pearl cultivation rafts float in Ago Bay.

Since ancient times, Ise-Shima has been known for its abundance of delicious seafood. Enriched by the nutrients from the forest and the sea, a wide variety of marine life and animals flourish. The region was given the status of *miketsukuni* in ancient times. This meant that the seafood of Ise-Shima was specially selected for the imperial family. Today, visitors can enjoy the exceptional flavors of Ise-Shima specialties like Japanese spiny lobster and abalone, as well as the wide variety of seaweeds that grow in forests under the sea.

Ise-Shima is also home to numerous natural landscapes. Hiking through lush parks and forests reward visitors with views of Ise-Shima's natural habitats. Yokoyama Picnic Site offers relaxing viewpoints that showcase Ago Bay, where the calm sea surrounds a multitude of green forested islands. Here, pearl cultivation rafts float on the calm waters. A boat tour around the coast features a variety of environments, from sandy beaches to dramatic jagged rock formations. A hike up the gentle slopes of Mt. Asama, Ise-Shima National Park's highest mountain, reveals panoramic vistas of Ise Bay and the Pacific from the summit. Mt. Otonashi is a prime spot to see cherry blossoms in spring—many blossoming trees line its promenades.

Climbing to the top of Anorisaki Lighthouse affords inspiring views of the Pacific Ocean on one side and the calm bay on the other, making it an ideal point from which to admire Ise-Shima National Park's contrasting landscapes. Visitors looking for a romantic spot can enjoy views of the beautiful heart-shaped inlet visible from the Mieshima View Point at Ugura Picnic Site.

The Meoto Iwa (“Husband and Wife Rocks”)—a large and a smaller rock bound together with straw ropes—are one of Ise-Shima National Park's most famous sights. See the sunrise here in early summer, perfectly framed by the rocks. The Meoto Iwa site has been a place for sun worship since ancient times. Very lucky visitors may even see Mt. Fuji.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伊勢志摩国立公園：人々と海、伊勢神宮の古い伝統の調和の物語

日本の最も重要な神社であり精神的な中心地である伊勢神宮がある伊勢志摩国立公園には、さまざまな自然と長い歴史が結びついています。真珠の養殖場、入り組んだ海岸線、漁村などがある伊勢志摩国立公園は 6 万ヘクタールに近い広さがあります。

自然環境への敬意と海洋生物が豊富な豊かな海の保護を軸とするユニークな文化を発見してみましょう。山の中にあ

る寺院や、他では見られない英虞湾の曲がりくねった海岸線の中にある静かな入り江を探検してみましょう。かつて天皇家に捧げられるためのものだった、この地域の有名な海産物を食べてみましょう。海女として知られる女性ダイバーに会って、貝類や海藻などを採るために深く海に潜る彼女たちの伝統について学びましょう。伊勢志摩国立公園には数多くの体験が待っています。

精神的な側面での伊勢志摩国立公園の中心にあるのは、伊勢神宮です。この神社は太陽の神である天照大神を祀り、感謝を捧げる場所として約 2000 年前に創建されました。神宮の区域は周囲の緑の森と調和しています。伊勢神宮は人々と自然の間の結びつきを象徴しています。伊勢神宮で保全されている森から流れ出た栄養は海を富まし、多くの海の生き物を育む要因の一つになっています。人々はさまざまな儀式を通して、海産物のような自然の恵みに感謝をささげます。伊勢神宮は 20 年毎に建て替えられます。これは、伝統的な職人の技をしっかりと後世に伝えるものであると同時に、伊勢志摩の多様で活気に満ちた自然と同様に、聖なる場所を常に新しく時を超越した存在にする取り組みなのです。

地域社会は、独自の伝統と文化を何百年も守ってきました。地元のお祭りは年中行われており、観光客にも特別な魅力を提供します。しろご祭りもその一つです。この祭では海女のダイビングが中心にあります。この祭の間、女性のダイバーたちは、独自の白い衣を身にまとい、つがいのアワビを捕まえる競争をします。体験プログラムの一環として、訪問者はまた、海女の小屋を訪ねて、海女としかに会って話を聞くこともできます。海女が採れたてのアワビなどの珍味を炉の上で焼いてくれるのを眺めることは、記憶に残る経験になります。

漁村や静かな島の町や村を散策すると日常生活の一端を垣間見ることができます。狭い路地に分け入って、魚やワカメが台の上で干されているのを見てください。大王崎では、何百年も前からこの地域の特産品となっている鰹節を、薪をつかって乾かして作る伝統的なプロセスを見学できます。

伊勢志摩国立公園はまた、真珠で知られており、世界初の真珠養殖の発祥地でもあります。真珠の製品が購入できるのに加え、様々な場所で、真珠貝から真珠を取り出したり、ネックレスを作ったりするなどの体験もできます。賢島のような地域は、真珠産業と強い関係があり、英虞湾には真珠養殖の筏が浮いている風景を見ることができます。

古代から、伊勢志摩は豊富でおいしいシーフードで知られています。多種多様な海の植物や動物が、森と海からの養分によって豊かに育っています。この地域は、古代には「御食国（みけつくに）」とされていました。この言葉が意味しているのは、伊勢志摩の海産物が天皇家のために特別に選ばれていたということです。今日、観光客たちは、伊勢エビやアワビ、海の森で育った多様な海藻など伊勢志摩の特産品を堪能することができます。

伊勢志摩ではまた、美しい景観を楽しむことができます。緑の生い茂る公園や森林を散歩すると、数多くの生き物を目にすることができます。横山園地には、ゆったりできる展望台がいくつもあり、英虞湾の穏やかな海が多くの緑の島々を取り囲んでいるのが一望できます。英虞湾には、真珠の養殖筏が穏やかな水面に浮かんでいます。海岸線をめぐる船旅では、砂浜からギザギザの岩が作り出す劇的な風景まで、多様な海岸部の環境を目にすることができます。伊勢志摩で最も高い朝熊山のなだらかな斜面を登ると、その頂上からは伊勢湾の息を呑むようなパノラマと太平洋が広がっているのが見えます。春には、音無山が桜の花見に絶好のスポットです。その散歩道の両側には、多くの桜の木が並んで

います。

安乗埼灯台の上まで上がると、一方には太平洋、もう一方には静かな湾が広がっているのが一望でき、伊勢志摩国立公園の対照的な光景を堪能するには絶好のスポットとなっています。ロマンチックな場所を求める人たちは、鵜倉園地にある見江島展望台からの美しいハート型の入り江を楽しむことができます。

大きな岩と少し小さめな岩が藁縄で結ばれている「夫婦（めおと）岩」は、伊勢志摩国立公園の中でも、最も有名な景色の一つです。初夏の頃、日の出が二つの石の間に完璧に挟まっているのを見てください。伊勢志摩国立公園は、古代の太陽信仰の場所でした。とても運が良ければ、富士山も見られるかも知れません。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】英虞湾（空撮風景）

【整備対象媒体】VR 映像

できあがった英語解説文

Ise-Shima National Park Skywalk (Shima Area)

The picturesque scenery of Ago Bay can be enjoyed from Yokoyama View Point.

The bay is characterized by an intricate, indented ria coastline with around sixty small islands that seem to float on the calm waters.

Let's take an aerial tour of a selection of Ise-Shima National Park's most remarkable spots.

This is Kashikojima- famous for pearl cultivation and the site of the 2016 G7 summit.

Brilliant white sands and shallow waters characterize Gozashirahama Swimming beach- where visitors can enjoy swimming while surrounded by beautiful nature.

Situated on a rocky promontory, Daiozaki Lighthouse watches over the sea and Daio Town.

Climbing to the top of the lighthouse for views of the ocean and fishing villages dotted along the coast.

Daio town's intricate alleyways and dramatic coast attract and inspire many artists.

It is also a popular place to see the first sunrise of the new year.

Tomoyama Park has some great outdoor activities, such as sea kayaking, hiking and nature tours.

So, what did you think about the Ise-Shima Skywalk?

This is only a fraction of what Ise-Shima National Park has to offer.

You must, of course, see these beautiful landscapes with your own eyes!

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伊勢志摩国立公園 空中散歩（志摩エリア）

横山展望台からは、英虞湾の絵のような景観が楽しめますー
複雑に入り組んだ海岸線が特徴のリアス海岸で、湾内には約 60 もの小島が浮かんでいます。

これから伊勢志摩国立公園が誇る絶景を空中散歩していきましょう。

真珠養殖で有名で、2016 年、G7 伊勢志摩サミットの会場にもなった賢島。

真っ白な砂浜と遠浅の海からなる御座白浜海水浴場。観光客は、美しい自然に囲まれながら、水泳を楽しむことができます。

断崖絶壁の大王崎の先端にそびえ立つ大王崎灯台からは、海と大王町が見えます。
灯台に登ると、大海原や、点在する漁村が一望できます。

大王町の入り組んだ路地と、劇的な海岸線は多くのアーティストを惹きつけています。
ここは、初日の出を見る場所としても人気です。

「ともやま公園」では、カヤックやハイキング、エコツアーなどのアウトドアのアクティビティが楽しめます。

伊勢志摩の空中散歩はいかがでしたか。
今回お見せしたのは伊勢志摩国立公園のほんの一部です。
皆様もぜひ足を運んで、美しい絶景をご覧ください。

本事業以前の英語解説文

なし

703

No.3 Komorebi Terrace, Yokoyama

<伊勢志摩、三重>

【施設名】横山園地
【整備予定媒体】標識

できあがった英語解説文

Komorebi Terrace

The word *komorebi* refers to sunlight filtering through the leaves of trees. The sunlight flickering through the leaves of the Zelkova (*Zelkova serrata*) and Castanopsis (*Castanopsis sieboldii*) trees on the terrace create a relaxing atmosphere in which to enjoy the views of Ago Bay. With a refreshment counter and seats overlooking the bay, Komorebi Terrace is a comfortable place to stop for a drink and a chat.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

こもればテラス

「木漏れ日」という言葉は日の光が木の葉の間から射していることを意味しています。このテラスにあるケヤキとスタジイの木陰から漏れる太陽の光は、このテラスにゆったりした雰囲気を生み出します。ここからは英虞湾が展望できます。湾を見渡せるカウンターを備えているこもればテラスは、飲み物を飲み、おしゃべりするのに素晴らしい場所です。

本事業以前の英語解説文

なし

704

No.4 Soyokaze Terrace, Yokoyama

<伊勢志摩、三重>

【施設名】横山園地
【整備予定媒体】標識

できあがった英語解説文

Soyokaze Terrace

Located higher up than the Yokoyama Tenku (Sky View) Café Terrace, this wide terrace offers visitors a sweeping view of Ago Bay. In April, this is a pleasant spot to have a picnic under the nearby cherry blossoms.

On the way to the terrace are the Nagora no Uki-ishi, stones venerated by fishing communities for their power to protect those at sea.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

そよ風テラス

横山天空カフェテラスよりも高い位置にあるこの広々としたテラスは、英虞湾の広がりを見渡すことができます。4 月には、近くの桜の花の下でピクニックを楽しむことができます。

テラスへ行く道には、漁師たちから海の安全を守る石としてまつられている「なごらの浮石」があります。

本事業以前の英語解説文

なし

705

No.5 Miharashi View Point, Yokoyama

<伊勢志摩、三重>

【施設名】横山園地
【整備予定媒体】標識

できあがった英語解説文

Miharashi View Point

The Miharashi View Point allows visitors to experience two different aspects of Ise-Shima's landscape from Yokoyama's highest observation area. It offers a view of Ago Bay on one side and mountains and forests on the other, including Mt. Asama and Mt. Aonomine. Between April and May, garden varieties of azalea bloom here, adding seasonal beauty to this photo spot.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

みはらし展望台

みはらし展望台は、横山のもっとも高い位置にある展望台で、伊勢志摩の風景の2つの異なる景観を経験できます。一方に英虞湾があり一方には朝熊山や青峯山などの山々や森が広がる風景を一望できます。4月から5月にかけてツツジやサツキが咲き誇り、この季節ならではの美しさがこの写真撮影スポットに加わります。

本事業以前の英語解説文

なし

706

No.6 Ago Bay View Point, Yokoyama

<伊勢志摩、三重>

【施設名】横山園地
【整備予定媒体】標識

できあがった英語解説文

Ago Bay View Point

Visitors can view Ago Bay's many islands and indented coastline from here. In April, the scene is framed by wild azaleas, making it a great spot for nature photographers. Japanese andromeda (*Pieris japonica*) bloom here in spring. Other plants include the yeddo hawthorn (*Rbaphiolepis indica* var. *umbellata*), which boasts plum blossom-like white flowers in May and black fruits in winter.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

あご湾展望台

観光客は、ここから英虞湾に浮かぶ多くの島々と入り組んだ海岸線を見ることができます。4月には野生のツツジの花に囲まれ、自然写真家にとっては素晴らしい撮影スポットとなります。春には馬酔木の花も咲き誇ります。他の植物としては、シャリンバイが5月に梅に似た形をした白い花も咲かせ、冬には黒い実を付けます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】横山園地

【整備予定媒体】標識、パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Yokoyama Tenku (Sky View) Café Terrace

Located in Ise-Shima National Park, Yokoyama's leisurely hiking course allows visitors to experience the area's nature firsthand, as well as admire spectacular views of Ago Bay from five different angles.

Opened in August 2018, the cafe is located at the routes' first scenic spot, Yokoyama Tenku Café Terrace. The cafe offers drinks and light snacks made using local ingredients. The café building also has a covered rooftop viewpoint, allowing visitors to enjoy the scenery and providing a rest spot on rainy days.

From the café terrace, there is an uninterrupted view of Ago Bay's mosaic coastline and the lush greenery on 60 or so islands. Pearl cultivation rafts float on the waters. The Shima Kanko Hotel, site of the 2016 G7 Summit, is also visible.

Yokoyama Tenku Café Terrace can be reached easily from the carpark via the wheelchair access ramp. Alternatively, visitors can stroll up the stone steps from the Yokoyama Visitor Center. After enjoying the cafe and terrace, visitors can take in further views of the bay and Shima City from various viewpoints along the trail.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

横山天空カフェテラス

伊勢志摩国立公園にある横山は、ゆったりとしたハイキングコースがあり、観光客がまずこの地の自然を体験するのに最適です。さらに英虞湾の絶景を堪能できる5つ異なるアングルから堪能できます。

2018年8月に開業した天空カフェは、このハイキングコースの最初の絶景ポイントである横山天空カフェテラスにあります。このカフェでは飲み物と地元の食材を使った軽食が提供されています。カフェの建物の上は屋根付きの展望台となっており、観光客は絶景を楽しめるし、雨の日の休憩所にもできます。

カフェテラスからは、豊かな森を持つ約60もの島々と、英虞湾のモザイクのような海岸線が見えます。この青い海の上に、真珠養殖の筏も浮かんでいます。2016年G7サミットの会場となった志摩観光ホテルも見えます。

横山天空カフェテラスには、車椅子でも通行可能な傾斜路が駐車場から設置されており、簡単にアクセスできます。もしくは、横山ビジターセンターから石段を登って行くこともできます。カフェとテラスを楽しんだ後、観光客はハイキングコースに沿って設置されている様々な展望台から、さらに英虞湾と志摩市の風景を眺めることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

708

No.8 The promenades, Mt. Otonashi

<伊勢志摩、三重>

【施設名】音無山

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Mt. Otonashi

Located just a ten-minute walk from Futamiura station, Mt. Otonashi is one of the best places to see cherry blossoms in Ise-Shima, making the walk a delightful experience. In spring, an amazing number of blossoming trees line the promenades. Both the viewpoint and the walkways paths offer pleasant views of Ise Bay. One can even see across the bay to neighboring Aichi Prefecture's Atsumi and Chita Peninsulas.

Mt. Otonashi also boasts over thirty species of evergreen tree. Japanese silver leaf (*Farfugium japonicum*) plants here produce clusters of yellow flowers in the fall.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

音無山

二見浦駅から徒歩で10分の場所に位置する音無山は、伊勢志摩での桜の花見には最高の場所の一つで、散歩が楽しめます。春には、遊歩道に沿って植えられた多くの桜が咲きます。展望台と遊歩道のどちらも、伊勢湾を楽しく眺めることができます。湾の対岸にある隣の愛知県の渥美半島や知多半島も見えます。

音無山にはまた、30種類を超える常緑樹があります。ツワブキは秋に黄色い花を咲かせます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二見浦

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Futamiura

The Meoto Iwa (“Husband and Wife Rocks”) of Futamiura are a famous sight in Japan. The two rocks, a large one and a small one, are joined by a thick rice straw rope. In the past, these rocks were thought to be a gate separating the divine world from the human world. They are now considered a symbol of wedded couples. It is a popular place for newly-married couples to visit. Protection charms for happy marriages are sold at the shrine facing the Meoto Iwa. There are many statues of frogs at the shrine, symbols of a safe journey home.

Between May and July, the sun rises between the two rocks. A beautiful full moon also appears perfectly positioned between them from November to February. Historically, this spot was used to wash and purify the body before continuing to the most important *jinja* (Shinto shrine) complex in Japan, Ise Jingu.

Nearby is the Hinjitsukan, a former imperial vacation residence, completed in 1887. Its interior reveals an intriguing blend of traditional Japanese and Western-inspired decor, best seen in the large banquet room. The style of the walls and the floor is Japanese, yet there are impressive chandeliers hanging from the ceiling.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

二見浦

二見浦の夫婦岩（夫と妻の岩）は日本の有名な景観です。大きな岩と小さめな岩が一緒に太い藁の縄でくっられています。昔は、二つの石は、神の世界と人間の世界を分ける門と考えられていました。現代では、二つの石は夫婦のシンボルと考えられています。ここは、新婚カップルに人気の場所で、夫婦岩の向かいにある神社では夫婦円満のための御守りが売られています。神社には、「無事に帰る」ことを象徴するカエルの像も多数あります。

5月から7月にかけて、ちょうど2つの岩の間から太陽が昇ります。満月も、11月から2月まで、完全に岩の間から現れます。歴史的には、この場所は日本で最も重要な神社である伊勢神宮にお参りする前に身体を清めるために使われていました。

近くには、賓日館（ひんじつかん）があります。これは、かつて皇室が休暇中に使った邸宅で1887年に完工しました。その内部は、日本の伝統と西洋風の装飾が混ざり合っており、中でもそれが最も良くあらわれているのが大広間で

す。壁と床は日本の様式ですが、天井からは目を見張るようなシャンデリアが下がっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】朝熊山

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Mt. Asama

At 555 m, Mt. Asama's summit is the highest point in Ise-Shima National Park. The soil here contains serpentinite, stunting the growth of coastal species of plants and trees. The open landscape gives visitors an uninterrupted 360-degree view of Ise Bay, the islands of Toba Bay, and the Pacific. Enjoy these vistas while taking a hot footbath at the nearby viewpoint. Along a fifteen-minute walking route near the summit, one can view plants such as jingu-tsutsuji (*Rhododendron sanctum*), a variety of azalea. It is also possible to go to the viewpoint by car, or by hiking along a trail which is accessible from Asama Station.

Next, visit Kongoshoji, a Buddhist temple near the top of Mt. Asama founded in the ninth century. There are various points of cultural interest here, including an arched red bridge surrounded by a lily pond. People come to the temple's Okunoin (Inner Sanctuary) cemetery to pray for deceased ancestors. In accordance with tradition in the Ise-Shima area, people erect *sotoba* here, tall wooden grave tablets. These line the approach to Okunoin—some are as much as eight meters tall.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

朝熊山（あさまやま）

朝熊山は、高さ 555 メートルで、伊勢志摩国立公園で最も高い山です。その土は、蛇紋岩を含んでおり、海岸性の草や木の成長を抑制します。そのおかげで、観光客は、伊勢湾と鳥羽湾の島々、太平洋を 360 度のパノラマで見ることができます。近くにある展望台の足湯に浸かりながらこの風景を楽しんでみましょう。頂上付近には 15 分ほどの散歩道があり、ツツジの一種であるジングウツツジといった植物を見られます。展望台へは車でも行くことができるほか、朝熊駅からの登山道をハイキングすることもできます。

次に、金剛證寺に訪れてみましょう。これは 9 世紀にたてられた仏教のお寺で、朝熊山の頂上近くにあります。ここには文化的興味をそそるものが色々あります。例えば、蓮の池に囲まれた半円形の美しい赤い橋があります。奥の院（内部の聖地）の墓地は、亡くなった祖先への祈りを捧げるために人々が訪れる場所です。伊勢志摩地域の伝統に従い、人々は、卒塔婆という木でできた背の高い墓標を立てます。これらは奥の院に通じる道に並んでおり、中には 8 メートルになるものもあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】神島

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Kamishima Island

Kamishima Island is a uniquely-shaped island, located 14km to the northeast of Toba harbor, and renowned for its beautiful scenery. A stroll around the island takes about three hours. There many places to explore, from Kamishima town's picturesque alleyways to the nature trail that winds through Kamishima's forests and around the coast. Along the way, visitors will discover a white-tiled lighthouse and the Kantekisho ruins, the remains of a pre-World War II naval building used for observing shell firing tests.

At Niwanohama, towering karst limestone rock formations stretch to the south. These white rocks provide a dramatic contrast to the island greenery and blue ocean. Visitors may also catch a rare glimpse of two species that visit the island between September and October: the grey-faced buzzard (*Butastur indicus*) and the chestnut tiger butterfly (*Parantica sita nipponica*).

Mishima Yukio (1925–1970), one of the most important Japanese novelists of the twentieth century, used the island as the setting for his 1954 novel *The Sound of Waves*. The novel is a romance between a young fisherman and an *ama* (a female diver). Multiple film adaptations of this book have helped establish Kamishima's image as a romantic spot.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

神島

神島はユニークな形をした島で、鳥羽港の北東 14 キロメートルのところであり、美しい風景で有名です。島を歩いて回るには 3 時間ほどかかります。その中には、深い森、海岸線沿いに続く絵のような神島の町の路地があります。その道をたどると、白いタイル張りの灯台や監的哨跡などが見えます。監的哨跡は第 2 次世界大戦前に建てられた、砲弾のテストを監視するために使われた海軍施設の遺構です。

ニワの浜では、巨大な石灰岩によってできたカルスト地形が南へと続きます。岩の白さが、島の緑、海の青と素晴らしいコントラストを作りだしています。9 月から 10 月にかけてこの島を訪れる 2 つの種類の生き物の珍しい光景を、観光客は垣間見ることもできるかもしれません。それは、サンバとアサギマダラです。

三島由紀夫(1925-1970)は、20 世紀の最も重要な日本の小説家の一人ですが、この島を舞台に 1954 年に小説『潮騒』を書きました。これは、若い漁師と海女と呼ばれる女性ダイバーのロマンスです。この本から何本もの映画が作られ、神島がロマンティックな場所だというイメージが定着しました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】答志島

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Toshijima Island

Walking around Toshijima Island and exploring its maze of alleyways gives the visitor a glimpse into the everyday life of this fishing community, including the traditional process of making salted *wakame* seaweed.

The sea has provided Toshijima locals with their livelihood for centuries. Since ancient times, the deity Hachiman has been worshipped by the fishing community. Many houses and boats bear the *marubachi* symbol—a circle with the Japanese character 八 (eight). The character is pronounced “hachi,” as in Hachiman. The mark is believed to protect fisherfolk from dangers at sea, as well as representing a prayer for plentiful catches. During January’s Hachiman Festival, fishermen repaint each symbol using ink carried from the Hachiman Shrine.

Local warlord Kuki Yoshitaka (1542–1600) launched his navy from here during the unification struggles in the sixteenth century, siding with the Toyotomi Clan. However, Kuki’s son Moritaka (1573–1632) joined the opposing side led by Tokugawa Ieyasu (1542–1616). When Tokugawa defeated Toyotomi, Kuki’s son obtained a pardon for his father from the victor. However, before this news could reach him, Kuki Yoshitaka committed suicide. Legend has it that the blade he used was washed in the pond next to his grave on Toshijima.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

答志島（とうじま）

答志島の町の中を歩き回り迷路のような路地を探検すると、伝統的な塩わかめを作っているといったシーンを含め、漁師コミュニティの日常生活を垣間見ることができます。

何世紀もの間、答志島の住民は海から生活の糧を得てきました。古代から、漁師コミュニティは八幡神を崇めてきました。多くの家や船は、円の中に八 (eight) の字を描いた紋章を付けています。これは、八幡の中の一字で、「はち」と発音します。この紋章は、海の危険から身を守り、大漁を祈願するものだと考えられています。それぞれの紋章は、毎年1月の八幡祭の際に、八幡神社から漁師が運んでくる墨で塗り直します。

この地の武将であった九鬼嘉隆(1542～1600)が、16世紀の天下統一の戦乱の中で、自らの海軍を創設し、豊臣氏に味方しました。しかしながら、九鬼の息子守隆(1573～1632)は敵対する側の徳川家康(1542～1616)の

下に加わりました。徳川が豊臣を打ち破った後、九鬼の息子は勝者から父の赦免を得ました。しかし、この知らせが九鬼嘉隆に届く前に、嘉隆は自刃してしまいました。答志島にある嘉隆の墓の隣にある池で、彼が使った刀が洗われたと伝説は伝えています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】菅島

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Sugashima Island

Toba Bay's second-largest island offers many interesting spots to hike and explore. These include the Shirahige and Benten Shrines, abandoned World War II naval ruins, and the Sugashima Lighthouse. Built in 1873, Sugashima Lighthouse is the oldest surviving Western-style brick lighthouse in Japan. Its squat cylindrical shape and white-painted bricks give it an unusual appearance.

Adventurous hikers can try climbing Oyama, the island's tallest mountain, in January or February to experience unique scenery. Bright red leaves from the Japanese boxwood (*Buxus microphylla* var. *japonica*) form a thick red carpet on the ground in winter, creating a contrast with the blue sea. This usually evergreen plant is known as *beni-tsuge* in Japanese and its transformation to such a vibrant red color is a rare sight.

Visitors can stay at a Japanese inn and experience local culture firsthand while enjoying the slower-paced island life here. There are also fishing tours, where visitors benefit from local fishermen guides. In addition, Shirongohama has beautiful beaches. During July, it hosts the Shirongo Matsuri - an important festival for the local female divers known as *ama*. Visitors can watch the female divers compete to catch a pair of abalone.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

菅島

鳥羽湾で 2 番目に大きな島で、ハイキングや探検をするのに興味深いスポットが数多くあります。その中には、白鬚神社や弁天神社、第 2 次世界大戦中の海軍の遺構、菅島灯台などがあります。菅島灯台は 1873 年に建築され、現存するレンガ造りの洋式灯台としては日本最古のもので、低い円形と白く塗られたレンガ造りの灯台は異彩を放っています。

珍しい風景を見るため、冒険好きなハイカーは 1 月か 2 月、島で最も高い大山を登ってみるのも良いでしょう。ここでは、冬になるとツゲの木が、真っ赤に染まり、地面に厚い赤色のカーペットを敷いたようになり、青い海と際立った対比を見せてくれます。この植物は「ベニツゲ」の名で知られています。通常は常緑樹であるにも関わらずこのように鮮やかな赤色になるのは珍しい光景です。

日本式の旅館に泊まり、島のゆっくりとしたペースのライフスタイルを楽しみながら、地元の文化を直接体験することもできます。地元の漁師がガイドとして付いてくれるフィッシング・ツアーもあります。さらに、しろんご浜には、美しいビーチがあります。7 月には、しろんご祭が行われます。これは、海女と呼ばれる地元の女性ダイバーたちにとって大切な祭です。祭では海女たちが、つがいのアワビを捕る競争を見ることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

714

No.14 Sakatejima Island

<伊勢志摩、三重>

【施設名】坂手島

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Sakatejima Island

Easily reachable via a ten-minute ferry ride from Toba, Sakatejima allows visitors to experience the relaxed pace and beautiful scenery of Ise-Shima's outlying islands in a half-day trip. Toba's closest island is known for its beautiful purple irises (*Iris laevigata*), which bloom from mid-May through to the beginning of summer. Legend has it that Princess Yamatohime-no-Mikoto brought the first iris here from Nara. The princess is said to have established Ise Jingu, the most important *jinja* (Shinto shrine) complex in Japan.

In summer, visitors can also enjoy swimming in the waters of Sakatejima's beaches.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

坂手島

鳥羽からフェリーに乗ってわずか 10 分で到着する坂手島では、半日旅行で伊勢志摩の離島ののんびりしたペースと風景を体験できます。この鳥羽に最も近い島は、美しい紫色のカキツバタで有名です。カキツバタは 5 月中旬から夏の初めまで咲いています。伝説では、最初にカキツバタをこの地にもたらしたのは、倭姫命とされています。倭姫命は、日本でもっとも重要な神社である伊勢神宮の創設者だと言われています。

夏には、坂手島のビーチで海水浴を楽しむこともできます。

本事業以前の英語解説文

なし

715

No.15 Toba View Point

<伊勢志摩、三重>

【施設名】鳥羽展望台

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Toba View Point

Located along the Pearl Road that stretches 23.8km between Shima and Toba, the Toba View Point is a scenic spot. One can view both the Pacific and forests of Ise Jingu, Japan's most important *jinja* (Shinto shrine) complex, from here. The panoramic ocean vista stretches from the Atsumi Peninsula to Daiozaki. There is also a souvenir shop and a restaurant serving local seafood.

As the stars are clearly visible, people also visit this area to view the night sky.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

鳥羽展望台

志摩と鳥羽の間にのびる 23.8 キロのパールロード沿いにある鳥羽展望台は絶景スポットです。展望台からは、太平洋と日本で最も重要な神社である伊勢神宮の宮域林の両方を一望できます。海のパノラマは、渥美半島から大王崎まで広がっています。ここには、また土産物屋や、地元で取れたシーフードを出しているレストランがあります。

星が美しく見えることから、この辺りには夜、星空観賞に訪れる人々もいます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】青峯山

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Mt. Aonomine

Fine views of Matoya Bay and the sea beyond can be enjoyed from the hiking trail to Shofukuji Temple on Mt. Aonomine. In the past, monks at Shofukuji Temple lit fires and beacons to help guide ships. This led to the temple being considered a sanctuary for seafarers.

Over the centuries, those who relied on the sea to make their fortunes donated the numerous lanterns found here. This included merchants from far and wide who were dependent on ships navigating Ise-Shima's rocky coastlines. The bell, lanterns, and the inside of the main building's roof bear many names of temple sponsors. The great wooden gate that marks the entrance to the temple features elaborately painted carvings, including dragons and phoenixes, on its ceilings. This lavish decor is testament to the funding received from merchants and rewards a close look.

The current main building was constructed in 1836 and houses a gold, eleven-faced Kannon (Deity of Bodhisattva) statue. To the left side of the main building, there is an open corridor with *ema* (wooden prayer tablets) featuring painted scenes of the sea hung on the walls.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

青峯山

青峯山の正福寺までのハイキング道では、的矢湾やその向こうの海の素晴らしい眺望が眺められます。昔、正福寺の僧侶は、火を焚いて、船の誘導の手助けとなる合図を送りました。このため、正福寺は船員たちの聖地とみなされるようになりました。

何世紀もの間、海によって財産を築こうとしてきた人々がこの寺に、灯籠を寄贈してきました。それらはこの寺で見ることができます。その中には伊勢志摩の岩がちな海を通る船で事業を行う全国津々浦々の商人もいました。正福寺の多くの支援者の名前は鐘、灯籠、本堂の屋根の内側などに刻まれています。寺への入口となる大きな木造の門は、天井に龍や不死鳥などの精巧な彫刻と彩色が施されています。この贅沢な装飾は、商人からいかに多くの資金が寄せられたかの証拠であり、近くで見る価値があるものです。

現在の本堂は 1836 年に建造され、黄金の十一面観音（慈悲の菩薩）像が納められています。本堂の左側には、海の景色が描かれた絵馬（祈願を書く木製の板）が掛けられています。

本事業以前の英語解説文

なし

717

No.17 The viewpoint, Mt. Hiyori

<伊勢志摩、三重>

【施設名】日和山

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Mt. Hiyori

A twenty-minute hike through tall, green forests brings you to the summit of Mt. Hiyori. This peak not only offers a panorama of Toba's surrounding islands but also gives visitors an insight into the importance of this outlook at different points in history.

Until the latter half of the 1800s, sailboats would often stop at Toba harbor. While waiting for a favorable wind, members of the ship's crew would climb Mt. Hiyori, where the far-reaching views would allow them to forecast the following day's weather. A stone compass dating from 1822 still remains. There is also a stone carved with a haiku, a seventeen-syllable poem. This text was written by the famous seventeenth-century poet Matsuo Basho (1644–1694). He is considered a master of this style of poetry.

The trail up Mt. Hiyori can be accessed through the Kata Shrine—a ten-minute walk from Toba Station. Local lord Kuki Yoshitaka (1542–1600) visited this shrine before departing on a naval expedition in 1592 as commander of the Toyotomi Clan's fleet. He used cedar trees from the surrounding forest to build his boats. After returning to Toba safely, he planted one thousand cedars in thanks to the deities. Today, only one remains, situated to the left of Kata Shrine's *torii* gate.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日和山

高い緑の木々に囲まれたハイキング道を 20 分ほど歩くと、日和山の頂上に着きます。この山頂は、鳥羽周辺の島々が見渡せるだけでなく、観光客にこの眺望の重要性を歴史上の様々な観点から教えてくれます。

1800 年代後半までは、鳥羽港にはしばしば帆船が寄港しました。順風を待つ間、船員たちは日和山に登り、遠景から翌日の天候を予測しました。1822 年に設置された方位石が今も残されています。17 音の詩である俳句が刻まれた石碑もあります。この俳句は 17 世紀の有名な俳人、松尾芭蕉(1644～1694) が書いたものです。芭蕉はこの形式の詩の巨匠とみなされています。

鳥羽駅から徒歩 10 分の距離にある賀多神社を通過して、日和山の登山口まで行くこともできます。この地の領主だった

九鬼嘉隆(1542～1600) は、1592 年、豊臣一派の艦隊の司令官として水軍遠征へ出発する前にこの神社を参拝しました。彼は、周辺の森の杉で船を造りました。鳥羽へ無事に帰還した後は、神々へのお礼として千本の杉を植えました。現在では、賀多神社の鳥居の左側に 1 本が残るのみです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】城山公園

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Shiroyama Park

Overlooking Toba Bay, Shiroyama Park is famous for its cherry blossoms in the spring. A mere ten-minute walk from the station, it is an excellent spot to rest in the shade of the cherry trees and enjoy the relaxing view of Toba Harbor framed by the pink blossoms.

Shiroyama Park is located on the old site of Toba Castle. The castle was sea-facing, with a gate opening out onto the bay, and was surrounded by a moat which could be used by boats. Built by local lord and naval commander Kuki Yoshitaka (1542–1600) around 1594, it was controlled by various lords until 1869. Following the 1868 Meiji Restoration (when Japan's feudal period ended), the castle was subsequently abandoned in line with new Meiji government policies in 1871.

Certain elements of the castle structure remain, such as the stone walls. These were designed with gaps for easy drainage. Visitors can still see how the structure would have dominated Toba Bay. Mikimoto Pearl Island, Sakatejima Island, and Toshijima Island can be seen from here.

Shiroyama Park, and nearby Mt. Hiyori and Mt. Hino are collectively called Toba's Three Mountains. Visitors can enjoy views of Toba Bay from each spot.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

城山公園

鳥羽湾が一望できる城山公園は、春の桜で有名です。駅からわずか徒歩 10 分。桜の木陰で日向ぼっこをしたり、ピンクの花に縁取られた、鳥羽港のゆったりとした眺めを楽しむには絶好の場所です。

城山公園は鳥羽城跡にあります。この城は海に面しており、湾へ通じる門や、船用に外側を取り囲む堀がありました。領主であり水軍司令官でもあった九鬼嘉隆(1542～1600) によって 1594 年に建立され、1869 年まで様々な城主がおさめてきました。1868 年の明治維新によって日本の封建時代は終わった後、明治新政府の方針に従って、鳥羽城は 1871 年に廃城となりました。

石垣のような、城の構造のいくつかは現在も残っています。石垣は水はけをよくするために間隔をあけて設計されていました。見学者は、この城が鳥羽湾をどのように見下ろしていたかを垣間見ることができます。ここから、ミキモト真珠島や坂手島、答志島が見えます。

城山公園と近くにある日和山、樋の山は「鳥羽三山」と呼ばれ、それぞれから鳥羽湾の眺望が楽しめます。

本事業以前の英語解説文

なし

719

No.19 a branch of the Sanuki Kotohiragu Shrine, Mt. Hino

<伊勢志摩、三重>

【施設名】樋の山

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Mt. Hino

One of Toba's Three Mountains, Mt. Hino's viewpoint overlooks Toba Bay.

Below the viewpoint is a branch of the Sanuki Kotohiragu Shrine. The main shrine is in Kagawa Prefecture. The Toba branch is one of six located around the country. These shrines are dedicated to deities associated with safety at sea and serve as important places of worship for those whose livelihoods are connected to the sea. This scenic spot is also very popular for the views of Toba Bay framed by cherry blossoms in spring, and for splashes of vivid red and gold leaves in the fall.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

樋の山

鳥羽三山のひとつ、樋の山の展望台からは鳥羽湾が一望できます。

展望台の下には讃岐金刀比羅宮という分社があります。総本宮は香川県にあり、鳥羽分社は全国にある六分社のひとつです。これらの神社は海上安全の神を祀ったもので、海事関係者にとって大切な信奉の場所です。この展望台はまた、春には桜で縁取られた鳥羽湾の景観、秋には鮮やかな紅葉のまだら模様が楽しめます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】賢島

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Kashikojima Island

Accessible by limited express train from Kyoto, Osaka, and Nagoya, the town around Kashikojima Station has an old-world atmosphere. Kashikojima is the largest island in Ago Bay, a center of pearl cultivation. The numerous pearl shops are testimony to the close link between Kashikojima and this industry. Further evidence can be found at Maruyama Park, where there is a monument to Japan's three pioneers of pearl cultivation, as well as a memorial to the oysters that have been sacrificed for their pearls.

Various boat tours can be taken from the town's ferry terminal. The larger boats often stop at a pearl factory, where visitors can observe the delicate process of implanting irritants into the shells to stimulate the formation of cultivated pearls. The smaller boats allow visitors a different experience, offering a close examination of the pearl culturing rafts and indented coastlines of Ago Bay's smaller islands.

Kashikojima was also chosen as the location for the forty-second G7 Summit in 2016, which was held at the Shima Kanko Hotel. The Ise-Shima Summit Memorial Museum inside Kashikojima Station gives an insight into this historic event. Visitors can try sitting in Prime Minister Abe Shinzo's chair at the actual table used for the eight leaders' discussions.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

賢島

京都、大阪、名古屋から特急列車で行くことができる賢島駅周辺の町並みには、古風な雰囲気が漂っています。賢島は、真珠養殖の中心地である英虞湾最大の島です。この産業と賢島がいかに強く結びついているかは、数多くの真珠店を見るとわかります。さらなる証拠は丸山公園で見つかります。公園には、日本の真珠養殖における3人のパイオニアに捧げる記念碑や、真珠のために犠牲になったアコヤ貝の供養塔があります。

町のフェリーターミナルからは、いろいろなボートツアーが出ています。大型客船だと真珠工房に立ち寄ることが多く、養殖真珠を作るために貝に核を挿入するデリケートな核入れ作業をじかに見ることができます。小さいボートに乗ると、観光客は真珠養殖いかだでの真珠養殖や英虞湾の入り組んだ海岸線を間近で観察するという、また違った経験ができ

ます。

また、賢島は 2016 年の第 42 回サミットの開催場所に選ばれ、志摩観光ホテルで会議が行われました。賢島駅構内にある伊勢志摩サミット記念館では、この歴史的な出来事の詳細な概要がわかります。見学者は、8 名のリーダーが議論の際に実際に使用したテーブルで、安倍晋三首相の椅子に座ることができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】安乗崎灯台

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Anorisaki Lighthouse

A beacon was first lit at this spot in 1681 to guide the Tokugawa Shogunate's ships as they navigated their way along the coast of Japan carrying rice to Edo (now Tokyo). In 1873, it was replaced by a wooden lighthouse. Designed by British engineer Richard Henry Brunton (1841–1901), this was the first lighthouse in Japan to use the Fresnel lens—a lens that projects light long distances, and is vital for guiding ships. One of these lenses can be examined in detail at Anorisaki's Lighthouse History Museum.

The current concrete lighthouse dates from 1948. In 1998, it was selected as one of the best fifty lighthouses in Japan due to its unusual square shape. Climbing to the top of the lighthouse, one can see a dramatic view of the quiet seas of Matoya Bay on one side and the rough Pacific on the other. Visitors can sometimes view Mt. Fuji from here on a clear winter's day.

As the midway point between Edo and Osaka, Anori became an area where various cultural aspects merged. Bunraku, Japanese puppet theater, was one such cultural development. The tradition continues in Anori, with annual Bunraku performances at Anori Shrine in mid-September.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

安乗崎灯台

1681年、江戸（現在の東京）に米を運ぶため、徳川幕府の船が日本の海岸沿いを航海する際、船の道しるべとして、この場所でもかり火が灯されるようになりました。1873年には木製の灯台がその役目を引き継ぎました。イギリス人技師リチャード・ヘンリー・ブラントン（1841-1901）が設計したこの灯台は、船の誘導に重要な、光を長距離に渡って投影するフレネル式レンズを使った日本で最初の灯台です。安乗崎灯台資料館では、このレンズのひとつを間近に見ることができます。

現在のコンクリート製灯台は1948年に遡ります。1998年、珍しい四角形の形状のおかげで、日本の灯台50選に選ばれました。灯台の上に登ると、一方では海が穏やかな的矢湾、もう一方では荒々しい太平洋という、迫力ある眺めが一望できます。冬のよく晴れた日には、ここから富士山が見えることもあります。

江戸と大阪の中間地点として、安乗は様々な文化が混ざり合う土地になりました。日本の人形劇である文楽は、そのような 文化的発展の一例です。文楽はこの地の人々の間で受け継がれ、今なお、毎年 9 月中旬に安乗神社で演じられています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】登茂山

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Tomoyama Park

Tomoyama Park in Shima is surrounded on three sides by Ago Bay. Unlike other viewpoints such as Yokoyama and Mt. Konpira, the Kirigaki View Point in Tomoyama Park allows visitors a closer view of the bay's jagged coastline and uninhabited forested islands. Visiting this spot on evenings around the spring and fall equinoxes to watch the sunset over the entrance to the bay is highly recommended.

The Kirigaki View Point is in a relatively dry area with only small shrubs, a strong contrast with the dense evergreen trees growing elsewhere on the islands of Ago Bay. It's one example of the variety of landscapes in Ise-Shima.

The park promotes ecotourism, and there are many recreational programs available, including cycling, sea kayaking, hiking, and nature tours. There are also activities for families, and areas for children to play. Additionally, Jiro Rokuro Swimming Beach is nearby, with its white sands. For those who want to try sleeping outside under the myriad stars visible from Ise-Shima, there are campsites and camping equipment rental services.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

登茂山公園

志摩の登茂山公園は3面を英虞湾に囲まれています。横山や金比羅山のような展望台と比べ、登茂山の桐垣展望台からは、入り組んだ海岸線や、木々に覆われた無人島をもっと近くで見ることができます。この展望台を訪れるのは、湾口に夕日が差し掛かる春分や秋分の日あたりの夕方がお薦めです。

桐垣展望台周辺は、小さな植物のみの乾燥地帯で、英虞湾の島々に群生する常緑樹と強いコントラストをなしています。伊勢志摩の多様な景観の一例を示しています。

登茂山公園はエコツーリズムを推奨しており、サイクリングやシーカヤック、ハイキング、エコツアーのような、多くのレクリエーションが用意されています。家族向けの活動や子供たちの遊び場もあります。近くには、白砂の次郎六郎海岸があります。戸外で伊勢志摩を眺めながら満天の星空の下で眠りたい人には、キャンプ場があり、キャンプ用品のレンタルサービスも行っています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】大王崎灯台

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Daiozaki Lighthouse

Before the construction of Daiozaki Lighthouse in 1927, sailors feared this jagged, treacherous point on Shima Peninsula's southeast coast. Although extensively renovated in 1978, and equipped in 2004 with a radar to automatically monitor waves, the structure is original. Along with Anorisaki Lighthouse, it is one of only sixteen lighthouses in Japan where visitors can climb to the very top.

Daiozaki is a popular spot to see the first sunrise of the new year. The town of Daio is known as "Artist's Town," as its winding alleyways, jagged coastline, chalk-colored lighthouse, and dramatic views of the sea have attracted artists from all over Japan since the Meiji period (1868–1912). Today, many art students and artists can be seen here during the summer holidays.

The waves and wind are very strong in Daio, and the area has a long history of constructing stone walls to protect the town from the elements. The oldest walls were constructed without the use of cement. Each of the stones was chosen and aligned so as to leave no gaps between them. A good example is the stone wall around Daijiji Temple, a temple known for its hydrangeas and cherry blossoms.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大王崎灯台

1927年に大王崎灯台が建てられる前は、志摩半島の東南端にある、この切り立った危険な岬は船員たちに恐れられていました。1978年に大規模に改修され、2004年には自動的に波を監視する電波探知機が設置されましたが、灯台の構造は当初のままです。安乗崎灯台と共に、ここは日本に16しかない見学者が頂上まで昇ることができる灯台の1つです。

大王崎から見る日の出は美しく、元旦に人気の場所となっています。曲がりくねった路地、入り組んだ海岸線、白亜の灯台、迫力のある海の景観などが明治時代から日本全国の芸術家を魅了し、大王の町は「絵かきの町」として知られています。現在は、夏休みになると、多くの美大生や芸術家を見かけます。

大王の町では、波も風もとても強いです。そのため、この地域では石垣を建て、風雨を防いできた長い歴史があります。古い壁はセメントを使わずに建てられました。石をひとつずつ選定して、隙間がないように並べていったのです。大慈寺の周囲にある石垣が良い例で、この寺はアジサイと桜でも有名です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】金比羅山

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Mt. Konpira

A thirty-minute hike along a peaceful, tree-lined trail from Goza Fishing Port leads to the Mt. Konpira View Point situated at about 110m above sea level. The viewpoint showcases a 360-degree panorama of Shima City, Ago Bay, and the Pacific. The Kii Mountains can be seen to the southwest. Mt. Konpira is a serene place to see the first sunrise of the New Year.

Hidden away in the woods, yet easily accessed from the foot of Mt. Konpira, is Tsumekiri Fudosen Temple. *Tsumekiri* are nail clippers in Japanese. Legend has it that the famous monk Kobo Daishi, also known as Kukai (774–835), the founder of the Shingon Sect (one of the major Japanese Buddhist sects) visited this area. Deeply moved, Kobo Daishi carved a stone figure of the Buddhist guardian deity Fudo Myo-o using only his nails. This statue is enshrined at Tsumekiri Fudosen, although hidden from public view. There is also a *nadeishi*, or stroking stone, behind one of the temple buildings, which you can touch and use to make a wish. Local female divers known as *ama* pray for safety at sea here at the beginning and end of the fishing season.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

金比羅山

御座漁港から木立が並ぶのどかな道を 30 分ほど歩くと、海拔 110 メートルにある金比羅山の展望台に辿り着きます。展望台からは、志摩市や英虞湾、太平洋など、360 度のパノラマが見渡せます。南西には、紀伊山地が見えます。金比羅山は初日の出を見る場所として人気です。

森の中に隠れるようにある爪切不動尊は、金比羅山のふもとから簡単に行くことができます。「爪切」とは日本語では爪切りという意味です。真言宗（日本の仏教の主な宗派のひとつ）の開祖である有名な僧侶、空海として知られる弘法大師（774～835）がこの地域を訪れたという言い伝えがあります。弘法大使はこの地域に深い感銘を受け、自分の爪だけを使って、仏教の守り神である不動明王の石像を彫りました。この像は爪切不動尊で祀られ、人目から隠されています。また、寺の建物のひとつの裏には撫石という撫でる石があり、触って願い事を行うことができます。漁期の始まりと終わりの頃には、海女として知られる地元の女性ダイバーがここで祈願をします。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】鵜倉園地

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Ugura Picnic Site

Located in Minami-Ise, Ugura Picnic Site has four viewpoints offering different views of the rocky coastline facing the Kumano Sea. The park has gained popularity as a romantic place for couples to visit due to the beautiful heart-shaped inlet that can be seen from the Mieshima View Point. At night the stars are clearly visible, attracting astronomers to this spot.

A beautiful forest of evergreen broad-leaved trees, designated a special protection zone, can also be appreciated from the Mieshima View Point. It is possible to spot a species of house martin from this observation platform throughout the year. This is a rare sight as this house martin is a migratory bird that normally visits Japan only in spring and summer.

Visitors can enjoy a view of Nie Bay and its fishing villages from the park's next scenic spot, Kasaragi View Point. Sea bream farms are visible in the distance —these are rectangular cages on the surface of the bay. A pair of red bridges can be seen from the Akebono View Point. They are a Minami-Ise landmark, known locally as the Oyako Ohashi (parent and child bridges) because while they look similar they are different lengths.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

鵜倉園地

南伊勢にある鵜倉園地には4つの展望台があり、熊野灘に面した変化に富む岩がちな海岸線の景観を見ることができます。見江島展望台から見える美しいハート型の入江のおかげで、この公園はロマンチックな場所としてカップルに人気が出ました。見江島展望台は、夜に星が美しく見えるため、星空観賞をしたいと思う人々を惹きつけています。

見江島展望台からは常緑広葉樹の美しい森も見えます。この場所は特別保護区に認定されています。この場所は、イワツバメの一種が一年中みられます。この渡り鳥は、通常日本には春と夏にしかいないので、これは珍しい景観です。

もう一つの絶景ポイントであるかさらぎ展望台からは、鰲湾と漁村の風景が見えます。遠くには、湾に浮かぶタイの四角い生け簀が見えます。また、あけぼの展望台からは、南伊勢のランドマークである一対の赤い橋も見えます。地元では親子大橋（『親と子供の橋』）として知られています。長さは違うが、見た目が似ているからです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】南海展望公園

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Nankai View Point

At 150m above sea level, the Nankai View Point offers panoramic views across Gokasho Bay's lagoon. A causeway crosses the bay, linking both sides. The view over the sea here is so far-reaching that the horizon appears curved.

The viewpoint is accessible from the car park via a ten-minute climb up steps, making it perfectly suited to novice hikers. Various plants, including gardenias (*Gardenia jasminoides*) and cherry trees, bloom along the path to this serene vista.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

南海展望台

海拔 150 メートルのところにある南海展望台からは、五ヶ所湾の潟湖を見渡すことができます。二つの海岸の間に広がる土手が湾を分けています。ここからの海の眺望はとても広大なので、水平線が曲線に見えます。

展望台へは、駐車場から階段を 10 分ほど登って行きます。ハイキング初心者にぴったりです。のどかな景色が見えるこの場所へ向かう道の周辺には、クチナシや桜の木のような様々な植物が生えています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】中ノ磯展望台

【整備予定媒体】パンフレット、アーカイブ

できあがった英語解説文

Nakanoiso View Point

Sunsets seen from the viewpoint on the small island of Nakanoiso are spectacular as the sun sinks over the mountains, coloring the inlet orange and turning the sky purple. Nie Bay, with its thick forests, golden beaches, and blue sea, is also visible. Rafts for yellowtail and sea bream farming, and pearl cultivation, float in the calm waters nearby.

Nakanoiso is accessible by crossing the Oyako Ohashi bridges. This pair of red bridges is a landmark in Minami-Ise. In spring, the scenery is a tapestry of verdant greens as the evergreen trees shed their old leaves for new.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

中ノ磯展望台

中ノ磯の小さな島の展望台から眺める夕日は、入江をオレンジ色に染め、空を紫色に変えながら、山のかなたに沈む絶景です。うっそうとした森、黄色い砂浜、青い海がある贅湾も見渡せます。ハマチや鯛、真珠などの養殖いかだが穏やかな海に浮かんでいます。

中ノ磯展望台は、南伊勢のランドマークである一組の赤い橋「親子大橋」を渡っていくことができます。春には、常緑樹が古い葉から新しい葉へと変わり、風景が緑のタペストリーのようになります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の特徴（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Ise-Shima National Park (short version)

Ise Jingu in Ise-Shima National Park is the spiritual heart of Japan, a place where people and nature live in harmony. The national park encompasses indented coastlines and lush forests.

The most important *jinja* (Shinto shrine) complex in Japan, Ise Jingu is dedicated to the sun deity Amaterasu -Omikami. Ise Jingu symbolizes the ancient relationship between nature and people, one which has been nurtured in Ise-Shima for over 2,000 years.

Over ninety percent of the designated area in Ise-Shima National Park is privately owned land. This is testimony to the fact that there are many people here who have a long tradition of living with, and respecting, the environment that provides them with their sustenance and livelihoods. A combination of traditional conservation rules regulating the region's female divers known as *ama*, and modern fishing regulations, ensure that Ise-Shima delicacies like Japanese spiny lobster and abalone can continue to be enjoyed for generations to come.

Given its size and the varied landscape, from the forested mountains of the inland area to the sheltered bays and jagged rock ledges along the Pacific coast, Ise-Shima National Park offers many opportunities to experience a unique culture where local people and nature happily coexist.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

特徴（要約）

日本の精神の中心である伊勢神宮がある伊勢志摩国立公園では、人々と自然が調和の内に共存しています。この国立公園には、入り組んだ海岸線と、豊かな森があります。

日本の最も重要な神社である伊勢神宮は、太陽の女神である天照大神を祀っています。伊勢神宮は、2000年以上にわたって、伊勢志摩で培われてきた自然と人々の古くからの関係を象徴的に表す存在です。

伊勢志摩国立公園の指定区域の90%以上は、私有地です。これが意味しているのは、この地には、生活の糧を与えてくれる自然環境の中で生き、尊ぶことを、伝統としてきた人が多くいるということです。この地域の海女と呼ばれる女

性ダイバーたちが昔から自然を保護するために従ってきた決まりと、現代の漁業規制によって、伊勢エビやアワビのようなすばらしい食べ物を、これから何世代にもわたって賞味することができるようにしています。

内陸部の森林の生い茂る山々から、外海から守られた湾、太平洋岸のギザギザした岩の段丘にいたるまで、伊勢志摩国立公園の景観は広大で多様であり、地域の人々と自然が幸せに共存しているユニークな文化を体験する多くの機会を提供しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の特徴

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Ise-Shima National Park (long version)

Ise-Shima National Park covers central Mie Prefecture, including most of the Shima Peninsula. It spans a vast area of almost 60,000 hectares. The inland area of the park boasts gentle mountain slopes and lush green forests that surround Ise Jingu, Japan's most important *jinja* (Shinto shrine) complex. Its precincts are seen as the heart of Japanese spirituality. The topographically varied coastline ranges from rugged outcrops to ancient rock ledges and sandy beaches. Unlike most national parks, Ise-Shima has a relatively large proportion of private land, and significant populations in four cities: Ise City, Toba City, Shima City, and Minami-Ise Town. The lives, history, culture, and customs of Ise-Shima's people are deeply connected to the park's natural landscapes. Since ancient times, they have lived with nature and respected the environment.

Ise Jingu nestles in protected forests. The *jinja* complex was founded about 2,000 years ago. It is at the heart of Japan's Shinto religion. The precinct buildings include the Naiku, which enshrines Amaterasu-Omikami, the sun deity and ancestor of the imperial family, and Geku, which enshrines Toyouke-no-Omikami (the deity of food, clothing, and shelter), as well as 125 affiliated *jinja* in the Ise-Shima area.

With the verdant trees and the clear waters of the Isuzugawa River, it is easy to see why this area was chosen as a sanctuary for deities. Ise-Shima's rivers bring nutrients from the forest down to the sea. This fertile natural environment means that Ise-Shima's seafood has had a reputation for high quality since ancient times when it was served to the imperial family. Today, Ise-Shima's seafood continues to be renowned, and thousands of ancient ceremonies giving thanks to the deities continue to be performed.

The importance of conserving abundant sea-life populations can be seen in the many rules observed by communities of female divers known as *ama*. Ise-Shima's *ama*, who harvest various types of seaweed and shellfish from the ocean floor (without the aid of breathing apparatus), are thought to have been a part of the region's history for at least 3,000 years. Many areas have their own *ama* community who have strict rules concerning diving and harvesting practices. In general, abalone can be harvested only if they are over 10.6 cm long. If the abalone is bigger than this, the size indicates that it is over three years old, and has had a chance to breed at least once. The locations where *ama* can dive, and permitted times, are strictly regulated. Such rules have allowed *ama* to harvest shellfish and seaweed sustainably for

centuries. Ise-Shima National Park offers the chance to observe the divers and their ancient customs firsthand. Visitors can also enjoy fresh seafood caught and cooked by an *ama* in one of their huts. There is also an activity program allowing visitors to dive with an *ama*.

More recently, *satoyama* and *satoumi* conservation movements have adopted the ancient idea of living alongside and respecting nature. *Satoyama* is a Japanese term for an area of land where people work to conserve local ecosystems, ensuring that the natural environment is used in a sustainable way. Likewise, *satoumi* refers to a marine area which is managed similarly. Visitors can gain an understanding of this way of thinking themselves by joining one of the many eco-tourism activities. These include cycling tours, guided walking tours of island fishing communities, hiking along nature trails, exploring the inlets of Ago Bay's intricate coast or other bays by sea kayak, bird watching, and last, but certainly not least, observing the myriad stars that are visible here at night.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

特徴（詳細版）

伊勢志摩国立公園は、志摩半島の大半を含む三重県の中央部を占めています。6 万ヘクタールに近い広大な面積を有しています。公園の内陸部には、なだらかな山の斜面と緑の生い茂る森が、日本でもっとも重要な神社である伊勢神宮を取り囲んでいます。伊勢神宮の社は、日本的精神の中心をなしています。多様な地形のある海岸線は、ギザギザした岩礁や段丘、砂浜があるなど様々な景観を作りだしています。多くの国立公園とは異なり、伊勢志摩国立公園は私有地が多く、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町の 4 つの市町の住民が住んでいます。伊勢志摩の人々の生活、歴史、文化、慣習は、公園の豊かな自然の景観と深く結びついています。古代から、伊勢志摩の人々は自然と共に暮らし、自然を尊敬してきました。

保護林の中に座する伊勢神宮は、約 2000 年前に創建されました。日本の神道の中心地です。神宮は、太陽の神であり天皇家の先祖神である天照大御神をまつる内宮と、衣食住の神である豊受大御神をまつる外宮の 2 つの主要な神社に加えて、伊勢志摩地域の 125 の関連する神社で構成されています。

周りの美しい木々と五十鈴川の透明な水があれば、この地域が神域として選ばれた理由が容易に見て取れるでしょう。伊勢志摩の川は森から重要な養分を海へ運びます。この豊穡な自然環境によって、伊勢志摩の海産物は、昔から質の良いことで評判をとっていました。古代には、それらの海産物は天皇家に献上されていました。今日でも、伊勢志摩のシーフードは高く評されており、神々に感謝を捧げる古代からの何千もの儀式も、現在も行われています。

海の生物の個体数を保護することの重要性が、海女として知られる女性ダイバーの集団の規則に見られます。伊勢志摩の海女たちは、海の底まで（呼吸装置を使わずに）潜ってさまざまな海藻や貝類を採集します。彼女たちは、3000 年以上もこの地域の歴史の一部を担っていると考えられています。海女の集団がいる多くの場所では、潜水と採集を行うにあたっての厳格な規則があります。例えば、一般的にアワビは長さが 10.6 センチ以上のものでなければ採集できません。アワビがこれよりも大きなサイズであれば 3 歳以上であり、少なくとも一回は産卵している可能性があるということなのです。海女が潜ることのできる場所と、時間は厳しく制限されています。そうした規則によって、海女が貝

類や海藻類を何世紀にもわたり持続的に収穫できるようにしてきたのです。伊勢志摩国立公園では、海女や彼女たちの古くからの慣習を身近に接することができます。また、海女が収穫した新鮮なシーフードを、海女小屋で料理してもらって食べる体験を楽しむこともできますし、海女と一緒にダイビングできる体験プログラムもあります。

最近では、自然と共に、自然を尊重して生きるという昔からの考え方が、「里山」や「里海」の保全活動に組み入れられるようになってきています。「里山」は、人々が自然資源を持続可能な形で使い続けるために地域の生態系を守る取り組みをしている陸の地域を指す日本語で、「里海」はその海版です。観光客は、エコツーリズムの活動に参加して、身をもってこうした考え方を理解できます。エコツーリズムには、サイクリングツアー、ガイド付きの島の漁村巡りウォーキングツアー、自然の中の遊歩道のハイキング、シーカヤックで英虞湾の複雑な海岸線の中にある入り江の探検、バードウォッチング、そして、夜の星鑑賞などがあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の地形・景観（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Landscape (short version)

A wide variety of natural landscapes lie both inland and along the coasts of Ise-Shima National Park.

The coastal area of Ise-Shima National Park is notable for its indented ria coasts. These were thought to be formed over a long period of time by various factors, including river valleys that were drowned when sea levels rose after the last glacial period. The calm seas and puzzle-piece shapes of Ago Bay's islands create an aesthetically pleasing, peaceful landscape. On the Pacific side of the Shima Peninsula, erosion from rough waves has created jagged cliffs and terraces. This dramatic scenery can be seen along the coast from Daiozaki Headland to Minami-Ise.

Ise-Shima National Park's inland area is characterized by lush forests and low mountains. These offer many hiking trails to explore, as well as numerous vantage points from which to view the patchwork coastline and seas.

In Ise-Shima, rich nutrients flow from the inland forests to the coastlands and surrounding seas. The warm ocean current also enriches marine life, supporting the local fishing villages. Local aquafarming practices, such as pearl cultivation and tending the rafts floating on Ago Bay, compliment the natural scenery.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

景観（要約）

伊勢志摩国立公園では、内陸部でも海岸部でも驚くべきさまざまな自然の景観があります。

海岸部は、のこぎりの歯のような形状をしたリアス海岸で有名です。これは、最終氷期後の海面上昇で海水が複数の渓谷に浸水してきたことも含め、さまざまな要因によって長い年月をかけて作り出されたと考えられています。英虞湾の穏やかな海と、まるでジグソーパズルのピースのような形の島々は優雅でおだやかな景観を作りだしています。志摩の太平洋側では、大王崎と南伊勢で切り立った崖と段丘の息を呑むような劇的な景観を見ることができます。

伊勢志摩国立公園の内陸部は、緑の生い茂った森と小さな山々で構成されています。おかげで、数多くのハイキングコースを探访できます。また、見晴らしの良い場所も非常に多くあり、そうした場所からは、曲がりくねった海岸線と青い

海の驚くほど美しい光景を目にすることができます。

伊勢志摩では、内陸の森から、豊かな栄養が複雑な地形の海へ流れ込んでいます。暖流も豊かな海洋生物を養う要因となり、漁村や湾に浮かぶ真珠の養殖いかだといった、人々の生活の風景も形作られています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の地形・景観

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Landscape (long version)

Ise-Shima National Park's landscape is characterized by lush forests, mountains, steep cliffs, fragmented coastlines, and a contrast between the calm bays and inlets, and the rough Pacific Ocean. These landforms enrich Ise-Shima's marine life and strengthen people's connection to the sea.

The ria (a drowned river valley which remains open to the sea) coastline seen in Ago Bay is thought to have been formed by various factors. During the last glacial period, sea levels rose, causing river valleys to be drowned. This process formed interestingly shaped islands. These small islands were originally raised beaches along the original coast. Today, many areas are covered in a variety of broad-leaved evergreen trees. These forests thrive in the mild climate influenced by the Kuroshio Current. The bays are enriched by nutrients carried down from the forests by the rivers. This allows thick beds of seaweed to grow and nurtures marine life. It also makes Ise-Shima's sheltered bays a great place for pearl farming. Pearl rafts can be seen everywhere.

Ise-Shima's coastline is distinguished not only by its forms but also by the striated rocks. These patterns were formed over a long period by plate tectonics. An ocean plate is moving downwards under Ise-Shima, beneath the continental plate. The continuous movement of the plates against each other causes layers of sedimentary rock on the seabed to be pushed up onto the land. Ise-Shima's complex geology is characterized by rocks that are eroded at different rates by wave action and the flow of rivers. These geological factors have resulted in a coastline characterized by rias.

From numerous viewpoints throughout Ise-Shima National Park, these natural wonders can be fully appreciated. The summit of Ise-Shima National Park's highest mountain, Mt. Asama, allows visitors a panoramic view of the area and has a veritable cornucopia of plants.

Yokoyama Picnic Site's many observation areas offer different perspectives on Ago Bay's jagged coastlines, seas, and woods. Visit the Ugura Peninsula's observation points to see the heart-shaped inlet—a popular, romantic spot. Other landscapes include sea caves and lagoons (such as the one that can be appreciated from the Nankai View Point).

Kamishima Island has an unusual karst limestone coast. A combination of groundwater and rain have eroded the white stone into distinctive jagged peaks. The bright, white rocks of this natural wonder create a striking contrast with the

surrounding sea and greenery.

The inland areas of Ise-Shima feature mountains and thick, green forests- especially around Ise Jingu, the most important *jinja* (Shinto shrine) complex in Japan. In 1923, a 200-year cypress-planting project was established by Ise Jingu's secretariat. The aims of this plan are to conserve Ise Jingu's own forest and to ensure that it will be able to provide Ise Jingu with a sustainable supply of cypress for rebuilding the *jinja* every twenty years. These efforts include trimming the cypress trees to promote growth. This pruning also allows more light to enter the forest, in turn allowing young trees and small plants to flourish. Forest management has made the ground in this area more absorbent, thus providing a natural way to prevent river flooding. Although Ise Jingu's forest is not open to the public, there are many other forested areas of Ise-Shima that can be explored. Hiking through these areas one is sure to see many types of plants and observe a range of bird species and their habits.

Thanks to the warm Kuroshio Current that flows offshore from the Kumano Sea, there are many relatively warm days and only short periods of frost in the winter.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

景観（詳細版）

伊勢志摩国立公園の景観を特徴付けているのは、緑の生い茂る森、山々、切り立った崖、ギザギザのリアス式海岸、穏やかな湾や入り江と荒々しい太平洋のコントラストです。こうした地形は、伊勢志摩の海の生き物を富ませ、人々の海との結びつきを強めてきました。

英虞湾に見られるリアス式海岸（海に向かっての溺れ谷）は、さまざまな要因が働いて創り出されたと考えられています。最終氷期の後に海面が上昇し、海が溪谷に浸水したことも含まれます。これは、面白い形の島も形成しました。こうした小さな島々は、もともと海岸にあった隆起した海岸段丘です。現代では、そうした場所の多くは色々な種類の広葉の常緑樹に覆われています。これらの森は、黒潮に影響を受けた穏やかな気候の影響も受け栄えました。湾は、川が森から運んでくる栄養分が豊かです。おかげで、海藻が厚く敷きつめるように繁茂し、海洋生物が育まれています。また、これは外海から守られた伊勢志摩の湾を真珠養殖に最適な場所にしてあります。あちこちで真珠養殖いかだが見えます。

伊勢志摩の海岸線は、その形状だけでなく岩の縞模様も際立っています。この縞模様は、構造プレートの動きを受けて長い期間をかけて形成されました。海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込んでいます。このプレートの押し合う動きが、海底の多層な地層の岩を陸上に押し上げました。伊勢志摩の複雑な地質は、河川や波浪による差別的な侵食が生じた岩によって特徴づけられます。これらの地質的要因がリアス式海岸に特徴づけられる海岸線をつくったのです。

伊勢志摩国立公園の数多くの展望台からは、自然のすばらしさをたっぷり味わえます。伊勢志摩国立公園で最も高い山は朝熊山です。その頂上からはこの地域全体のパノラマと豊かな植生を楽しむことができます。

横山園地の複数の展望地は、英虞湾のぎざぎざした海岸線、海、森をさまざまな角度から見るすることができます。鵜倉（うぐら）半島の展望地を訪ねてみましょう。そこからは、ハート型の入り江が見えます。この入り江はロマンチックな場所として人気があります。その他にも、海食洞やラグーン（南海展望台から見られるものなど）などがあります。神島には、変わった石灰岩のカルスト地形の海岸があります。地下水と雨が組み合わせたり、白い石を浸食し、独特のギザギザした形の峰に変えました。この自然の驚異によってできた明るく白い岩と、周りの青い海や緑と際立ったコントラストを成しています。

伊勢志摩の内陸部は、なだらかな山と緑の深い森でできています。特に、日本で最も重要な神社である伊勢神宮の周りはそうです。1923年に、200年のヒノキの育林計画が伊勢神宮の司庁によって策定されました。この計画の目的は、神域の森を守るとともに、伊勢神宮で20年毎に行う神宮の再建に必要とされる檜を、持続的に供給できるようにするというものです。こうした努力の一環として、檜の間伐をして成長を促すことも行っています。枝打ちをすることで森の中に光が入り、若い木や小さな植物が繁茂するのにも助けています。森林の管理をすることによって、土地の吸水性を高め、川の氾濫を防ぐ自然な手段としています。神宮林は一般に公開されているわけではありませんが、伊勢志摩には他にも探索が可能な多くの森林地域があります。こうした地域をハイキングすることで、多種多様な植物や鳥の生態を目にすることができます。

伊勢志摩は、暖流の黒潮が熊野灘の沖合を流れているおかげで、冬でも比較的暖かい日が多く、霜が降りる期間は短期間です。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】伊勢志摩国立公園の文化（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Culture (short version)

Ise-Shima National Park allows visitors to experience local traditions, customs, and festivals which have a deep connection with nature.

For thousands of years, the sun deity Amaterasu-Omikami has been worshipped in Japan as a symbol of the sun. Sunlight, of course, is essential for life. Ise Jingu, the most important *jinja* (Shinto shrine) complex in the country, lies at the center of this belief.

Today, local culture is still characterized by ancient rituals and festivals giving thanks for harvests and catches. These festivals are held in and around Ise Jingu. One of them is Ise Jingu's Kanname-sai festival—the offering of the first rice grown every October. Fishermen and female divers known as *ama* visit shrines and temples to pray for safety at sea. Ise Jingu's associated *jinja*, Izawa-no-miya, is just one of the places of worship where fishing and agricultural communities can receive this blessing. Lively festivals celebrate people's health and the plentiful harvests.

Around Ise-Shima, visitors may also find many ancient symbols connected to warding off evil spirits and praying for safety at sea. These include *shimenawa* rice straw ropes above the entrances to buildings and the star-and-lattice designs on *ama* divers' clothing and equipment.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

文化（要約）

伊勢志摩国立公園では、観光客は、自然と深く結びついた地域の伝統、風習、祭りなどを見ることができます。

数千年もの間、太陽の神、天照大神は、太陽の象徴として、日本で崇められてきました。太陽の光は、当然、生命に欠かせないものです。この国でもっとも重要な神社である伊勢神宮は、この信仰の中心にあります。

今日でも、地域の文化は収穫や大漁の感謝をささげるための、古代の儀式や祭りに特徴付けられています。その一例が伊勢神宮の神嘗祭で、毎年 10 月、その年に最初に実った米をささげます。漁師や海女は海での安全祈願のため

に神社や寺に参拝します。伊勢神宮の別宮である伊雑宮は、漁業・農業コミュニティが恵みを受けることができる信仰場所の1つです。にぎやかな祭りは、人々の健康や豊作を祝います。

伊勢志摩では、観光客は、悪霊退散や海上での安全祈願に関する古代からのシンボルをたくさん見かけるでしょう。これには、建物の入口の上に飾られたしめ縄、海女の衣類や用具に付けられた星印や格子柄などが含まれます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の文化

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Culture (long version)

For thousands of years, the sun deity Amaterasu-Omikami has been worshipped in Japan as a symbol of the sun, one of nature's blessings essential to life. As Japan's most sacred *jinja* (Shinto shrine) complex, Ise Jingu in Ise-Shima lies at the center of this belief.

Today, Ise-Shima's culture is still characterized by ancient rituals and festivals giving thanks for harvests and catches. These festivals are held in and around Ise Jingu. One of them, Ise Jingu's Kanname-sai festival, celebrates the offering of the first rice grown every October. Fishermen and female divers known as *ama* visit shrines and temples to pray for safety at sea. Ise Jingu's associated shrine, Izawa-no-miya, is just one of the places of worship where fishing and agricultural communities can receive this blessing. Lively festivals celebrate people's health and the harvests.

In addition to Ise Jingu, Ise-Shima is home to many shrines and temples that remain closely interwoven with people's lives today. Mt. Aonamine's Shofukuji Temple has long been a destination for local fishermen, *ama* divers, and merchants to pray for safety at sea. In January, the temple's Mifune Festival sees the offering of colorful flags, which celebrate abundant catches, from all over the country.

The Waraji Festival is held in Daio Town in mid-September. According to legend, a one-eyed monster called Dandarabotchi came to the town bringing strong winds and waves. To scare it away, a giant straw *waraji* (sandal) was made. The monster, upon seeing the sandal, thought that there was someone bigger than him locally and was scared away. Today, people make a three-meter-long straw sandal and float it out to sea from the beach at Suba. Daio Town is very close to the ocean, and historically these festivals were thought to have been held to ward off natural disasters.

Toshijima Island, in particular, is home to many unique and long-standing traditions. One of these is the *marubachi* mark. This symbol is made up of the character for the number eight (written 八) surrounded by a circle. This character is pronounced "hachi" as in Hachiman, the name of the deity worshipped by the island's fishing community. This mark is thought to protect residents from dangers at sea and bring good catches. The marks are repainted in the same spot every January as part of the Hachiman Festival.

Ama divers have their own symbols for warding off misfortune, called *seiman* and *doman*. *Seiman* is a star shape drawn

in one stroke that is thought to repel sea demons. *Doman* is a lattice shape which represents eyes keeping watch on evil spirits. Tomokazuki, a demon in the form of an *ama* who beckons, is just one manifestation of the dangers of the sea in *ama* legends.

Above home and shop entrances in Ise-Shima, one often finds *shimenawa*. These traditional, sacred ropes are also believed to ward off evil spirits. They are primarily made from rice straw, representing gratitude for the rice harvest. Poisonous Japanese Andromeda, or thorned holly, are also added to the rope to repel evil spirits.

Traditional forms of entertainment, including Anori Bunraku, a type of Japanese puppet theater, still flourish in Ise-Shima. Bunraku combines narration, *shamisen* music (a traditional three-stringed instrument), and puppetry, to portray a story. The puppets themselves are sophisticated and extraordinarily lifelike, with movable features including eyebrows that make them expressive. Bunraku is thought to have already been performed in the seventeenth century and developed with the support of local merchants in the eighteenth century as the area flourished as a port between Edo (now Tokyo) and Osaka. The art form is still handed on from generation to generation today. Bunraku is performed every year on September 15th and 16th in the Anori Shrine grounds.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

文化（詳細版）

数千年もの間、太陽の神、天照大神は、生命に欠かせない自然の恵みである太陽の象徴として、日本で崇められてきました。日本でもっとも重要な神社として、伊勢志摩にある伊勢神宮はこの信仰の中心にあります。

今日でも、伊勢志摩の文化は収穫や大漁の感謝をささげるための、古代の儀式や祭りに特徴付けられています。こうしたお祭りは伊勢神宮内やその周りで行われています。その一つが伊勢神宮の神嘗祭で、毎年 10 月、その年に最初に育った米をささげます。漁師や海女と呼ばれる女性ダイバーたちは海での安全祈願のために神社や寺に参拝します。伊勢神宮の別宮である伊雑宮は、漁業・農業地域が恵みを受けることができる信仰場所の 1 つです。生き生きとした祭りは、人々の健康や豊作を祝います。

伊勢神宮以外にも、今なお人々の生活に密着した、多くの神社や寺があります。長年に渡って、青峯山の正福寺は、地元の漁師たちや海女、商人たちが海での安全を祈願する場所です。1 月に開催される寺の御船祭では、大漁を祝うカラフルな旗が全国から寄贈されます。

大王町では、9 月中旬にわらじ祭が開催されます。伝説によると、『ダンダラボッチ』という一つ目の怪物が強風と波を起こしながら里へやって来ました。怪物を怖がらせて退治するため、地元の人々は巨大な藁の草履（サンダル）を作りました。怪物は、この草履を見ると、この里には自分よりも大きな人間がいるのかと思い、怖がって逃げて行きました。現代では、人々は 3 メートルの藁のサンダルを作り、須場の浜から海へ流します。大王町はとて海に近く、歴史的に、この祭りは自然災害を遠ざけるために行われていたと考えられています。

特に答志島には、昔ながらのユニークな伝統がたくさんあります。その1つがマルハチのマーク。この印は数字の8を表す字である八を丸で囲んだものです。この字は、島の漁業地域で崇拝されている神の名前、八幡のように『ハチ』と発音することができます。このマークは住民を海の危険から守り、大漁をもたらすと考えられています。毎年1月には、八幡祭の一部として、同じ場所にマークを塗り直します。

海女にはセーマン、ドーマンと呼ばれる独自の魔除けの印があります。セーマンは一筆で描いた星形で、海の魔物を追い払うと考えられています。ドーマンは、悪霊を見張る目を表す格子柄です。ともかづきという海女に化けて招いてくる妖怪は、海女伝説の中で、海の危険を具現化したものの1つです。

伊勢志摩の家や店舗の入口の上には、しめ縄をよく見かけます。この伝統的な神聖な縄も魔除けになると考えられています。主に稲わらで作られ、米の収穫に対する感謝を表します。邪気を追い払うため、有毒のアセビや、とげのあるヒイラギも縄に加えられています。

伊勢志摩では、日本の人形劇の一種である安乗の文楽など、伝統的な形のエンターテインメントが今なお盛んに行われています。文楽は、語り、三味線（3本弦の伝統的な楽器）の音楽、人形の動きを組み合わせることで物語を描くものです。人形は細部まで精巧で、人間そっくりであり、眉のように動かせる機能があって、表情豊かです。文楽は17世紀にはすでに行われていたと考えられており、その後、18世紀には江戸と大阪の中継港としてさかえていたこの地の商人たちの支援を受けて発展しました。現在でも、この芸術形式は何世代にも渡って継承されています。毎年9月15日と16日に、安乗神社の境内で上演されます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の食（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Food (short version)

In Ise-Shima, nutrient-rich waters flow from the mountains to the calm bays and seas. These waters are just one of the elements which enrich the local marine life. Thanks to its fertile waters, Ise-Shima has been famous for its excellent seafood since before the eighth century, a time when the area supplied the kitchens of the imperial household.

Various foods can be enjoyed at different times of year in different areas. In spring, seasonal specialties include red sea bream, *wakame*, and *hijiki* seaweed. Turban shells, abalone, horse mackerel, and conger eels are bountiful in the summer season. In the fall, Japanese spiny lobster, sea bream, and Japanese Spanish mackerel are at their best. Lobsters, sea cucumbers, blowfish, and seaweeds such as *nori* are harvested in winter.

There are many local dishes that use these gifts from the sea, such as *tekonezushi* (sushi made from marinated bonito fillets served on rice). Seafood burgers, including Toba's "Toburgers," come in numerous varieties.

Sweet shops have operated along the pilgrimage route to Ise Jingu, Japan's most important *jinja* (Shinto shrine) complex, for a long time. There are many unique traditional sweets that can only be enjoyed here.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

食（要約）

伊勢志摩では、栄養豊かな水が山から流れ出て、穏やかな湾や海へと注ぎます。これが、海洋生物を豊かなものにする一つの要因となっています。この豊かな水のおかげで、伊勢志摩は、海産物を天皇家に献上してきた8世紀前から、新鮮なシーフードで有名です。

季節や地域ごとに様々な食べ物が楽しめます。春には、旬の食材として、鯛、ワカメ、ヒジキなどがあります。夏は、サザエやアワビ、鱈、穴子が豊富です。秋は、伊勢エビや、鯛、サワラが旬になります。冬には、エビやナマコ、フグのほか、海苔などの海藻類がとれます。

これらの海からの贈り物を使った郷土料理が多くあります。たとえば、てこね寿司（漬け込んだ鰹の切り身とお米でつくられる寿司）です。シーフードバーガーは、鳥羽の「とバーガー」などを含め、バラエティも豊富です。

日本の最も重要な神社である伊勢神宮への参道沿いでは、色々なスイーツの店が長年にわたり営業してきました。これらの地域だけで楽しめる伝統的なユニークなスイーツもたくさんあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の食

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Food (long version)

Ise-Shima is proud of its fresh seafood and local dishes. The seafood has been deemed good enough for the imperial family since ancient times. However, it is possible for everyone to enjoy Ise-Shima's specialties these days.

The Japanese spiny lobster, or *Ise-ebi* in Japanese, is a specialty of Ise-Shima. Important food for auspicious occasions, its curved back and whiskers are a symbol of longevity. Fall and winter is the best season for Japanese spiny lobsters.

Delicious Ise-Shima abalone, caught by female divers known as *ama*, have been famous for a couple of thousand years. Two thousand years ago, Princess Yamatohime-no-mikoto, the founder of the *jinja* (Shinto shrine) complex Ise Jingu, is said to have declared the abalone of Kuzaki in Ise-Shima food fit for the deities. It can be enjoyed in a variety of ways. Slices of raw abalone sashimi have a chewy texture. Abalone grilled over a fire in an *ama* diver's hut, or in a restaurant, are softer and more delicate. Steamed abalone has a rich umami taste and is best paired with Japanese sake. Summer is the main season for abalone.

There are also many kinds of oysters. Creamy Matoya oysters are one winter delicacy. As the name suggests, they are farmed in Matoya Bay. Iwagaki oysters, on the other hand, are large oysters that can be eaten in the spring and summer months.

Furthermore, in spring, seasonal specials include red sea bream, and *wakame* and *hijiki* seaweed. Turban shells, horse mackerel, and conger eels are plentiful in summer. In the fall, sea bream, and Japanese Spanish mackerel are at their best. Sea cucumbers, blowfish, and seaweeds like *nori* are harvested in winter.

Tekonezushi was traditionally eaten for lunch by fishermen from Shima. Freshly-caught fish were sliced and soaked in sweetened soy sauce, then mixed with rice by hand. More recently, it has become a local specialty of Ise-Shima, a homemade dish served at celebrations and to guests.

Ise udon has been eaten by pilgrims visiting Ise Jingu for a long time. It is a dish consisting of soft, thick *udon* noodles served with a slightly sweet black sauce. Ise udon noodles are boiled for an hour to make them much softer. It is

thought that the noodles were boiled like this to make it easier for tired travelers to eat and digest them.

Traditional sweets were developed for pilgrims visiting Ise Jingu. Visitors today can also enjoy these treats.

A more modern specialty of Ise-Shima are seafood burgers. Toba's "Toburgers" contain approved local ingredients such as Japanese spiny lobster and oysters. A wide range of Toburgers is available at various restaurants. Shima's bonito burger features a patty of crispy battered bonito, topped with shredded cabbage and served on a bun.

Daiozaki is also known for producing dried bonito. Even now, it is still produced using traditional methods by various companies. The fish are slowly smoked over a fire pit—a process that requires much time and patience. It is then used to make cooking stock or eaten as a snack that pairs well with Japanese sake.

The sacred *shinsen* meals offered to the deities at Ise Jingu are thought to be the origins of *washoku* (Japanese traditional cuisine). Both *shinsen* and *washoku* include a wide variety of foods such as rice, fish, seaweed, and seasonal fruits and vegetables. In Ise-Shima, visitors can enjoy a rich food culture, one which has been greatly appreciated for centuries.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

食（詳細版）

伊勢志摩の自慢は、新鮮なシーフードと郷土料理です。この地の海産物は、古くから天皇家に献上するのに相応しいほど素晴らしいものでした。しかし、今日では、誰もが伊勢志摩の名産を楽しむことができます。

日本語では伊勢エビと呼ばれる Japanese spiny lobster は伊勢志摩の名産です。伊勢エビの曲った腰とヒゲが長寿のシンボルであることから、お祝い事には大事な食べ物です。特に旬は秋と冬になります。

海女として知られる女性ダイバーたちが獲る美味なアワビは、2～3千年間も前から有名でした。2000年前、神社「伊勢神宮」の創設者である倭姫命が伊勢志摩の国崎のアワビを神々への食べ物としてふさわしいと宣言したと言われています。アワビは様々な方法で味わうことができます。生アワビの刺身は歯応えのよい食感があります。海女小屋や食事処で食べることができる焼アワビは、より柔らかで繊細な味わいです。蒸しアワビは、豊かなうま味があり、日本酒との相性は最高です。アワビの主な旬は夏になります。

色々な種類の牡蠣もあります。的矢カキは、冬のごちそうです。名前からわかるように、的矢カキは的矢湾で養殖されています。一方、岩牡蠣は大きなカキで、春や夏に食べられます。

さらに、春には、季節の特別な食材として、鯛、ワカメ、ヒジキなどがあります。夏は、サザエ、鰯、穴子が豊富な季節です。秋は、鯛、サワラが旬になります。冬には、ナマコやフグのほか、海苔などの海藻類がとれます。

てこね寿司は、伝統的に志摩の漁師たちが昼ご飯に食べていたものです。取れたての魚を切り身にし、醤油の中に漬け込み、手を使って飯と混ぜたものでした。最近では、伊勢志摩の郷土料理となっており、家庭でのお祝い事の際には

客にふるまわれます。

伊勢うどんは、長い間、伊勢神宮にお参りをする巡礼の人たちが食べてきたものです。柔らかく太い麺のうどんが、少し甘味のある黒い色の汁といっしょに供されます。このうどんの麺は茹でるのに 1 時間をかけて、柔らかくします。疲れた旅人たちに食べやすく、消化しやすくするためにこのようにゆでると考えられています。

このほか、伊勢神宮へお参りする人たちのために、伝統的なお菓子も発展してきました。これらは現在、旅行者たちも楽しむことができます。

もっと現代的な伊勢志摩のグルメにはシーフードバーガーがあります。鳥羽の「とバーガー」は、伊勢エビやカキなど地元産であることが認定された食材でつくられています。さまざまな種類が鳥羽市内のレストランで食べられます。志摩の鰹バーガーは、パンにカリカリにバターで焼いたカツオのパテとキャベツの千切りをのせているのが特徴です。

大王崎はまた、カツオ節の生産でも知られています。現在でも、伝統的方法で製造する会社があります。魚は炉の上でゆっくりとスモークされます。多くの時間と忍耐を要するプロセスです。だし汁を作るのに使ったり、日本酒に合うおつまみとして食べたりします。

伊勢神宮の神にささげられる食事である神饌は、和食の原点と考えられています。神饌も和食も、米や魚、海藻類、季節の果物や野菜などの多彩な食べ物を含んでいるからです。伊勢志摩では、訪問者は、このように長年高く評価されてきた食文化を堪能することができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の動物（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Animals (short version)

Ise-Shima National Park's diverse environment of forests, mountains, rocky cliffs, beaches, and bays provide habitats for a wide range of wildlife.

The intertidal zones (shore areas covered by water during high tide) are a habitat for many species that can be seen only at low tide. These include sea anemones, crabs, starfish, sea urchins, various types of shellfish, and sea slugs. Ise-Shima's famous Japanese spiny lobster and abalone hide between the rocks on the foreshore and among the reefs on the ocean floor.

Ise Bay and the beaches along the Pacific coast attract loggerhead turtles (*Caretta caretta*) and provide valuable nesting areas for them.

Numerous fish and crustacean-eating seabirds live near the coast. These include the great cormorant (*Phalacrocorax carbo*), which can be seen all year round, especially around Ise Bay and near large river mouths. They gather in great numbers at these sites. Ospreys (*Pandion haliaetus*) patrol the coast as they hunt for fish, diving when they spot prey.

Rare insects including the four-spot midget (*Mortonagrion biroseti*), a species of damselfly, inhabit the estuaries and tidal flats.

The mountains here are habitats for many animals including deer, wild boar, and Japanese macaque monkeys.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

動物（要約）

伊勢志摩国立公園には、森林や山、切り立った岸壁、海岸、湾などの多様な環境があり、多様な野生動物の生息地となっています。

潮間帯（満潮時に水に覆われる部分）は、干潮時にしか見られないさまざまな生き物の生息地になっています。イソ

ギンチャクやカニ、ヒトデ、ウニ、巻き貝やウミウシの仲間を見つけることが出来ます。波打ち際から海底まで続く岩礁帯は、岩の隙間に伊勢志摩の有名なイセエビやアワビなどが隠れています。

伊勢湾や太平洋に面した砂浜は、アカウミガメを惹きつけ、巣をつくるための場所を提供しています。

魚や甲殻類などを餌とする海鳥の仲間は海岸の近くに暮らしています。カワウは一年中見ることができます。伊勢湾や大きな川の河口などで群れをなします。ミサゴは、海岸の近くに飛んでいて、水に潜って魚を捕まえます。

河口周辺や干潟などの汽水域では、イトトンボの仲間であるヒヌマイトンボといった希少な昆虫が生息しています。

このほか、山間地では、シカやイノシシ、ニホンザルなども多く生息しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の動物

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Animals (long version)

Sea Life:

Along Ise-Shima National Park's coastline, rocky reefs, seaweed beds, tidal flats, and beaches provide habitats for a range of wildlife.

The rocky reefs that run from the edge of the beach to the ocean floor are home to abalone and the Japanese spiny lobster, which hide in the gaps between the rocks. Seaweed beds provide nourishment and shelter for many sea creatures, making it a great area for fishing.

In the intertidal zone, fascinating worlds can be discovered in rock pools at low tide. Tidepool inhabitants include small fish, sea anemone, crabs, starfish, and sea urchins, various types of shellfish and sea slugs, as well as other small marine creatures. Large intertidal areas can be explored in many places in Ise-Shima National Park, including at Arajima in Toba City, Shioshikahama in Shima City, and Asoura in Minami-Ise Town.

Loggerhead turtles (*Caretta caretta*) lay their eggs on summer nights along the quiet sandy beaches facing the Pacific and Ise Bay. Local residents help protect them.

On summer nights, beaches with gentler waves are alive with the vivid blue lights and otherworldly beauty of sea fireflies, a type of plankton.

Birds:

Various seabird species feeding on fish and crustaceans are found near the coast. Great cormorants (*Phalacrocorax carbo*) can be seen all year round. These black birds often gather in large numbers around Ise Bay and large river estuaries. The sight of flocks with hundreds of birds is spectacular.

Ospreys (*Pandion haliaetus*) are often seen in Ise-Shima during winter. They glide over the sea until they spot their prey, then dive to catch fish in their sharp talons.

Kentish plovers (*Charadrius alexandrinus*) nest on sandy beaches. Their eggs look very similar to the surrounding sand and pebbles. These brown and white birds can be seen running back and forth along the sandy beaches, suddenly stopping and changing direction to catch insects and small crabs.

Visitors may also enjoy viewing the many seagulls such as black-tailed gulls (*Larus crassirostris*) on boat trips. Seagulls are the designated bird of Toba City—it is easy to see why, as these gulls follow the sightseeing boats on Toba Bay.

Insects:

Ise-Shima National Park features a wide range of environments, allowing many species of insects that can be found only in specific habitats to thrive.

Along the shore, a species of *Hydrophilidae* and rove beetles (*Staphylinidae*) can be spotted feeding on seaweed that has been washed onto the beaches. The brackish waters of the estuaries and tidal flats provide a habitat for rare insects such as the four-spot midget (*Mortonagrion hirosei*), a damselfly which can live in saline marshes, as well as small diving beetles.

In Minami-Ise's wetlands, more than 50 species of dragonfly have been recorded. They include hachou-tombo (*Nannophya pygmaea*), one of the smallest dragonflies in the world.

Mammals:

The mountains of Ise-Shima National Park are inhabited by many animals, including deer, wild boar, and Japanese macaque monkeys. Some of these animals are considered pests due to the damage they do to crops and are subject to control programs. In *satoyama* areas, where people work to conserve local ecosystems by using environmental resources sustainably, a wider range of animals can be spotted. These include raccoon dogs, hares, foxes, and badgers.

In Ise Bay and Toba Bay, Finless Porpoises (*Neophocaena phocaenoides*) can be sighted from boats and from the coast.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

動物（詳細版）

海辺の生き物：

伊勢志摩国立公園の海岸線には、岩礁帯、海藻の茂る藻場など、干潮が様々な生物の生息地を提供しています。

波打ち際から海底まで続く岩礁帯は、岩の隙間にイセエビやアワビなど様々な生物が住み着いています。その藻場は

多くの海の生き物の隠れ場所・栄養源になっており、こうした場所を豊かな漁場にしています。

潮間帯では、岩場の干潟に、驚くような世界を見つけることができます。タイドプールに住んでいるのは、小さな魚やイソギンチャクやカニ、ヒトデ、ウニのほか、巻き貝やウミウシの仲間、そのほかの小さな海の生き物を見つけることが出来ます。伊勢志摩国立公園では、鳥羽市の安楽島や志摩市の塩鹿浜、南伊勢町の阿曾浦など多くの場所で、広いタイドプールが見られます。

伊勢湾や太平洋に面した静かな砂浜では、夏の夜になるとアカウミガメが産卵のために上陸します。アカウミガメの保護に地域住民もかかわっています。

夏の夜に波が打ち寄せる砂浜では、小さなプランクトンの仲間であるウミホタルの発する光が、この世ならぬ美しさを作り出します。

鳥類：

魚や甲殻類などを餌とする海鳥の仲間は海岸の近くで見ることができます。カワウは一年中見ることができます。この黒い鳥たちは、伊勢湾や大きな川の河口などでは大群で見られることがあり、数百羽が群れ飛ぶ姿は壮観です。

ミサゴは、伊勢志摩では冬になるとよく見られます。海の上を飛び回って魚をさがし、飛び込んでいて魚を鋭い足で捕まえます。

シロチドリは、砂浜で巣を作ります。彼らの卵は、海岸の砂や小石とそっくりです。砂浜を走り回ったり急に方向転換をしたりして、昆虫や小さなカニを捕まえます。

船に乗って海上に出ると、ウミネコなどカモメの仲間を見るでしょう。カモメは鳥羽市の鳥にも指定されています。鳥羽湾でカモメの仲間が観光船の後をついて飛び回る姿を見れば、それが分かるでしょう。

昆虫：

さまざまな環境のある伊勢志摩国立公園では、特定の生育環境にしか見られない昆虫が生息しています。

砂浜では打ち上がった海藻などを餌にするガムシやハネカクシの仲間などが生息しています。河口周辺や干潟、海跡湖などの汽水域では、塩分に耐性を持つイトトンボの仲間であるヒヌマイトトンボや、小さなゲンゴロウなどが希少な昆虫が生息しています。

南伊勢の湿地では世界的にも最も小さな部類に属するハッチョウトンボを含む 50 種以上のトンボが記録されています。

ほ乳類：

伊勢志摩国立公園の山間地では、シカやイノシシ、ニホンザルなどが多く生息しており、一部では農作物に対する獣害駆除の対象にもなっています。人が持続可能な自然の活用のためにエコシステムを管理している里山にはタヌキやキツネ、ウサギ、アナグマなどが見られます。

伊勢湾や鳥羽湾では、スナメリが多く生息しており、船からや海岸から見られることがあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の植物（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Plants (short version)

From luscious forests to rugged coastlines, mountains to shallow bays, Ise-Shima National Park is home to a wide range of plant life.

Trees in Ise-Shima's forests and mountains are mostly evergreen. Old-growth vegetation remains in the conserved area of the forest of Ise Jingu, the most important *jinja* (Shinto shrine) in Japan. Here, coniferous trees and evergreen broad-leaved (laurel) trees mingle. The ubame-gashi oak (*Quercus phillyraeoides*) grows in the second-growth forest of Ise-Shima National Park. The timber is used as a raw material for charcoal.

In the early spring, kobanomitsuba tsutsuji (*Rhododendron reticulatum*), a species of azalea, blooms pale purple in a number of areas, including the Yokoyama Picnic Site and Tomoyama Park. In winter, yabutsubaki (*Camellia japonica*), one of the commonly seen indigenous plants of Ise-Shima, blooms red on Mt. Konpira.

Unique coastal plants grow in the open sand dunes on beaches such as Shima's Koshirahama and Hironohama. Poison bulb (*Crinum asiaticum*) display thin white flower petals in July and August. In early August, visitors can enjoy hamabo's (*Hibiscus hamabo*) yellow flowers on the shores of Gokasho Bay, Ago Bay, and Matoya Bay.

The seas around Ise-Shima are relatively shallow, providing the perfect environment for various species of seaweed such as *hijiki* (*Sargassum fusiforme*) and agar weed (*Gelidiaceae*).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

植物（要約）

森から岩だらけの海岸、山々、浅瀬の湾までそろそろ伊勢志摩国立公園、は様々な植物の生息地です。

伊勢志摩国立公園の山や森の樹は、その多くが常緑樹です。日本の最も重要な神社である伊勢神宮の宮域林には原生的な植生が保護区として残されており、針葉樹と常緑広葉樹（照葉樹）が混交しています。一方で、伊勢志摩国立公園の二次林には炭の原料として使用されるウバメガシなどが生育しています。

横山園地や登茂山の林などでは、コバノミツバツツジが早春に淡い紫色の花を多数咲かせます。冬には、伊勢志摩でよくみられる原生植生のひとつであるヤブツバキが金毘羅山で赤い花を咲かせます。

志摩市の国府白浜、広の浜などには広い砂浜が存在し、ユニークな海岸植物が生育しています。ハマユウは7～8月頃に白色で細長い花被片の花を咲かせます。ハマボウは五ヶ所湾や英虞湾、的矢湾などの岸辺で8月の初め頃に黄色い大きな花を咲かせます。

伊勢志摩の周辺は比較的水深の浅く、ヒジキやテングサといったさまざまな海藻類にすばらしい環境を提供しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園の植物

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Plants (long version)

Mountain and Forest Flora

Ise-Shima's mountains are mostly covered in evergreen forest. Old-growth plant life remains only in the conserved area of the forest of Ise Jingu, the most important *jinja* (Shinto shrine) complex in Japan. Evergreen broad-leaved trees (laurel forest) including species of oak mix with coniferous trees such as Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) and momi fir (*Abies firma*). The hinoki cypress (*Chamaecyparis obtusa*) is grown either naturally or in the afforested areas. This timber is used to rebuild the *jinja* complex of Ise Jingu at the ceremony called Shikinen Sengu.

Second-growth forest occupies much of the area in the Ise-Shima National Park. People have used this resource for a long time. Ubame-gashi oak (*Quercus phillyraeoides*) grows here. This is used as a raw material for charcoal. Other trees that can grow on poor soils, such as the Japanese red pine (*Pinus densiflora*), are also found here.

Bonsai (miniature) versions of unusual plants can be seen around the summit of Mt. Asama and Sugashima Island's Mt. Oyama due to its serpentinous rock. Rare plants such as jingu tsutsuji (*Rhododendron sanctum*), can also be found here.

Flowering Plants:

In the Ise-Shima National Park, beautiful flowering plants can be seen in every season.

In the early spring, pale purple kobanomitsuba tsutsuji (*Rhododendron reticulatum*), a species of azalea, bloom in a number of areas including the Yokoyama Picnic Site and Tomoyama Park.

The bamboo lily (*Lilium japonicum*), a species native to Japan, grows in mountainous areas and forests with open canopies. Its pale pink flowers bloom around June to July. They are found in areas where the ecosystem is well managed, such as in Isobe Town in Shima.

The yabutsubaki (*Camellia japonica*) is one of the commonly seen indigenous plants in the Ise-Shima area. Visitors can

enjoy tunnels of the trees with their bright red blooming flowers on Mt. Konpira in winter.

Coastal Plants:

There are seemingly endless sand beaches in Ise-Shima, such as Shima's Koshirahama and Hironohama. Interesting plants found only in beach areas grow here. Beaches are not generally suitable for plants, because the sea breezes shift sand, strong sunlight dries the plants out, and the salt content is very high. However, coastal plants are well adapted to growing in this environment.

Poison bulb (*Crinum asiaticum*) is a large, one-meter high perennial grass with white flowers that bloom around July and August. Poison bulb has been used as a symbol on posters and stamps for a long time around the Ise-Shima National Park. Hamabo (*Hibiscus hamabo*) blooms yellow at the beginning of August at Gokasho Bay, Ago Bay, and Matoya Bay.

Ocean Plants:

Shallow seas with depths of about 20 to 30 meters stretch from Ise Bay to Sakishima Peninsula in Shima City. Particular species of seaweed and seagrass grow here thanks to the sunlight reaching the bottom.

Hijiki (*Sargassum fusiforme*) and agar weed (*Gelidiaceae*) are found in the rocky coast. Arame (*Eisenia arborea*) and akamoku (*Sargassum horneri*) grow in shallow reef areas, whilst kajime (*Ecklonia cava*) grows in the deeper waters. Seagrasses, such as eelgrass (*Zostera marina*), flourish in the salt marshes and on the sandy beaches.

Rare Plant Phenomena:

Rare ecological phenomena can be seen in Ise-Shima National Park. On Mt. Oyama on Sugashima Island, the Japanese boxwood (*Buxus microphylla* var. *japonica*) boasts red leaves in winter. These form a thick, red carpet on the ground and create a stark contrast to the blue sea. This plant is known as *beni-tsuge* in Japanese, the change of this normally evergreen plant to such a vibrant red color is truly beautiful. There are only a few places in Japan where one can see this wonderful sight.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

植物（詳細版）

山や森の樹木：

伊勢志摩国立公園の山や森の樹木は、多くが常緑樹です。原生林は、日本で最も重要な神社である伊勢神宮の宮域林にのみ残されています。ここでは、オークの仲間などの常緑広葉樹（照葉樹）やスギ、モミなどの針葉樹が混

交しています。ヒノキは自然の形で、あるいは人工林に生育しています。これは、伊勢神宮の式年遷宮と呼ばれる建て替えに使用されます。

伊勢志摩国立公園では、古くから人々が山の木を利用してきたため、二次林が多くを占めています。炭の原料として使用されるウバメガシや、痩せた土地でも生育できるアカマツなどが生育しています。

朝熊山の山頂付近や、菅島の大山では、蛇紋岩質の土壌のために盆栽のような小さいサイズの珍しい植物が生育しています。ジングウツツジといった珍しい植物が見られたりします。

花の美しい植物：

伊勢志摩国立公園では、美しく花さく植物が季節ごとに楽しめます。

ツツジの一種であるコバノミツバツツジは、早春に淡い紫色の花を多数咲かせます。横山園地や登茂山などさまざまな場所で見られます。

日本の固有種であるササユリは、山地や明るい森林に生育しており、6～7月頃に淡紅色の花を咲かせます。志摩市の磯部町などエコシステムの管理が良好な地域に見られます。

伊勢志摩でよくみられる原生植生のひとつであるヤブツバキに関しては、金比羅山で冬に真っ赤な花が咲く樹木のトンネルを楽しめます。

海岸の植物：

志摩市の国府白浜、広の浜などには広い砂浜が存在し、海浜に特有の植物が生育しています。このような場所は海風が砂を移動させたり、塩分が多かったり、強い日差しで乾燥するなどして、一般に植物の生育には適していませんが、海浜植物はこのような環境にうまく適応しています。

ハマユウは高さ 1m 程度に成長する大型の多年草で、7～8月頃に白色の花を咲かせます。ハマユウは、伊勢志摩国立公園では古くからポスターや切手などの図柄に使用されています。

このほか、五ヶ所湾や英虞湾、的矢湾などの岸辺には、ハマボウが8月のはじめ頃に黄色い大きな花を咲かせます。

海の植物：

伊勢湾の湾口から志摩市の先島半島の沿岸では、水深が 20～30m 程度の浅い海が広がっており、海底まで日光が届くため、特有の海藻や海草の仲間が生育しています。

磯にはヒジキやテングサなどの海藻が、比較的浅い岩礁地帯にはアラメやアカモクが、さらに深い場所にはカジメの仲間などが生育しています。一方で砂浜や干潟などの浅い砂泥底の海中には、アマモといった海草が生育しています。

植物の珍しい現象：

伊勢志摩国立公園では、生態系の珍しい現象も見ることができます。菅島の大山では、常緑樹であるツゲが真冬になると深紅に紅葉し、辺り一面を濃い赤色に染め、青い海とのコントラストを生みます。これは日本語で「紅ツゲ」と呼

ばれ、この普段は常緑の植物が生き生きとした赤色になるのは美しい光景です。このような現象が見られる場所は日本では数箇所しかありません。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】伊勢志摩国立公園のアクティビティ（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Activities (short version)

Ise-Shima National Park offers so many activities and unique experiences that there is sure to be something to interest and excite everyone.

Numerous hiking trails wind through the inland forests and mountains, leading visitors to views of the jagged coastline. There are all sorts of water sports on offer. Further out to sea, surfing is popular. Sea kayaking, water balling, and paddle boarding, suitable for a range of ages and abilities, can be enjoyed on the bays' calmer waters. Cycling tours allow visitors another way to experience the beautiful coastlines of Ise-Shima.

Various cruises depart from Kashikojima Island and Toba Bay. Ago Bay's ferries weave around the many small islands, giving travelers up-close views of the intricate coastline and lush forests.

Travelers wishing to experience Ise-Shima's rich cultural history directly can opt to visit an *ama's* hut for lunch. These brave female divers who harvest shells and seaweed have played an important role in Ise-Shima for centuries. Listening to their stories as they cook fresh abalone and other seafood over an open fire is an unforgettable experience. Ise-Shima is also famous for being the birthplace of cultivated pearls. Visitors can try extracting them and making accessories from pearls cultivated here.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

アクティビティ（要約）

伊勢志摩国立公園では、様々なアクティビティやユニークな体験ができるので、誰もが楽しめる何かがあります。

内部の森や山々にはたくさんのハイキングコースが曲がりくねって通り、観光客はギザギザの海岸線の絶景を眺めることができます。多くのマリンスポーツも可能です。外洋ではサーフィンが人気です。幅広い年齢層や能力の人が楽しめるシーカヤックやウォーターボール、サーフボードがさまざまな湾の穏やかな海で楽しめます。サイクリングツアーはまた、伊勢志摩の美しい海岸線を楽しむためのもう一つの方法です。

様々な種類のクルーズが賢島と鳥羽湾から出発しています。英虞湾の船は、湾に浮かぶたくさんの島々の間を進み、旅行者は複雑な海岸線や豊かな森を間近で見ることができます。

伊勢志摩の豊かな文化の歴史を直接体験したい旅行者は、昼食に海女小屋を訪れることができます。この、貝や海藻を獲る勇敢な女性ダイバー達は、伊勢志摩で何世紀もの間、重要な役割を果たしてきました。アワビやその他の海産物を囲炉裏で調理してくれる間、海女の話聞くことは、忘れがたい経験です。また、伊勢志摩は養殖真珠発祥の地としても有名です。観光客は真珠の取り出し作業やここで養殖された真珠を使ったアクセサリー作りを体験できます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩国立公園のアクティビティ

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Activities (long version)

Food Culture:

Ise-Shima is famous for its seafood, and there are many opportunities for fishing and related activities for visitors. Fishing boat tours of Ago Bay allow visitors to catch fish such as horse mackerel, with chances of catching improved with expert advice from the boatmen. Similar tours are offered on Sugashima Island. From January to March, *wakame* seaweed harvesting excursions are available. In Minami-Ise, visitors can try other fishing-related activities, such as rides on fishing boats and feeding farmed sea bream.

In Ise-Shima an activity program allows travelers to experience local culture, including visiting an *ama* diver's hut. This is a building where, traditionally, female divers known as *ama* relaxed, chatted and warmed themselves in front of a fire after diving. *Ama* have played an important role in Ise-Shima's culture for centuries, and today the majority of Japan's remaining *ama* live in this area. Visitors can relax around the hut's central fire pit while an *ama* cooks fresh, seasonal seafood in front of them. These are rare opportunities to meet divers in a traditional setting and to hear their stories. In summer, those who would like to learn more about them can participate in dives with an *ama*.

Water Sports and Activities:

From mid-April to September, visitors can enjoy many water activities in the calmer seas of the bays. Going on a sea kayak or a paddleboard tours allows visitors to explore the inlets along the coastline and some of the many islands. The fully guided sea kayak tours are suitable for beginners and families. Some places also offer sea kayak tours at night, when the moon and stars over the sea create a romantic atmosphere.

Water ball activities on offer involve getting inside a large, inflatable, transparent ball, which is then towed across the bay by a boat. Riding over the sea in a water ball is a fun way to view the bay's clear seas from a unique perspective.

For the more adventurous, skydiving over Ise-Shima's seas, green forests, and coastlines makes for an exhilarating experience. This is available from summer through the fall. There is surfing on the Pacific side of Ise-Shima. Surf

enthusiasts can rent boards from surfing schools. Snorkelers can discover seagrass beds and various types of seaweed, such as *wakame*. Diving offers close encounters with marine life, including various types of sea slug.

For those seeking a more relaxed vacation, various cruises depart from Kashikojima Island and Toba Bay. Ago Bay's ferries weave around the bay's many small islands, giving travelers an up-close view of the curving coastlines and lush forests.

Hiking, Walking, and Cycling:

Ise-Shima boasts numerous hiking trails, which lead visitors to the beautiful scenery of the surrounding bays and mountains. Trails suitable for beginners include the Yokoyama Picnic Site, with its many viewpoints offering vistas across Ago Bay. Surrounded by a large number of blossoming cherry trees in spring, Mt. Otonashi's promenade looks out across Ise Bay towards Aichi Prefecture's Atsumi and Chita peninsulas. Hikers who want to walk further can try climbing to the top of Mt. Asama, Ise-Shima National Park's highest mountain. There are also guided walking tours of Shima's rocky coasts and historical fishing villages.

Cycling tours allow visitors another way to experience the rich ecology and beautiful coastlines of Ise-Shima. Options include bicycle tours of Shima's fishing villages and sunset cycling tours. Those who prefer to plan their own route can rent bicycles.

Craft Workshops:

There are also workshops where visitors can try extracting pearls and using them to make their own accessories or necklaces.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

アクティビティ（詳細版）

食文化：

伊勢志摩は海産物が有名で、観光客には釣りや関連する体験をする機会があります。英虞湾の釣船ツアーでは、観光客は船頭から指導を受けて釣りの技術を上達させつつ、アジのような魚を釣ることができます。同じようなツアーは菅島にもあります。1月から3月までは、ワカメ狩りツアーも開催されます。このほか、漁業に関連するアクティビティとして、南伊勢町では、漁船に乗って、養殖タイにエサを与える体験もできます。

伊勢志摩では、海女小屋を訪れるといった、地元の文化を体験できるプログラムもあります。これは伝統的に、海女と呼ばれる女性ダイバーたちがダイビングの後、リラックスしたり、おしゃべりをしたり、炎の前で体を暖める建物です。海女は何世紀にも渡って伊勢志摩の文化で重要な役割を果たしており、今日では日本の海女の大多数がこの地域に住

んでいます。観光客が小屋の中央にある囲炉裏の周りであつろぐ間、海女が旬の海鮮を目の前で調理してくれます。伝統的なセッティングの下で海女に会って話を聞くというのは、貴重です。海女についてさらにもっと知りたい人は、夏と一緒に潜水するプログラムに参加することもできます。

マリンスポーツとアクティビティ：

4月中旬から9月まで、湾内の穏やかな海では多くのマリンレジャーが楽しめます。観光客は、シーカヤックやサーフボードのツアーに参加すると、海岸沿いの入江や様々な島を探検できます。ガイド付きのシーカヤックツアーは初心者や家族連れに適しています。夜間開催のシーカヤックツアーもあり、海上に浮かぶ月や星の美しさがロマンチックな雰囲気を醸し出します。

ウォーターボール体験とは、空気注入式の大きな透明のボールに入り、ボートの後ろに付けて湾内を引っ張ってもらおうというものです。海上でウォーターボールに乗ると、湾の澄んだ海をユニークな視点から眺めて楽しめます。

もっと冒険心のある人は、伊勢志摩の海、緑の森、壮大な海岸線の上をスカイダイビングする爽快な体験ができます。これは夏から秋にかけて参加できます。伊勢志摩の太平洋側では、サーフィンができます。サーフボードはサーフィンスクールからレンタル可能です。また、シュノーケルをすると海草やワカメのような様々な海藻を見ることができます。ダイビングをすれば、さまざまな種類のウミウシを含む海洋生物をより近くで見ることができます。

もっとのんびりした休暇を求めている人には、様々な種類のクルーズが賢島と鳥羽湾から出ています。英虞湾の船は、湾に浮かぶたくさんの島々の間をくねくねと進み、旅行者は湾曲した海岸線や豊かな森を間近で見ることができます。

ハイキング、ウォーキング、サイクリング：

伊勢志摩には、数多くのハイキングコースがあり、観光客は周辺の湾や山々の絶景を眺めることができます。初心者向けコースには、英虞湾の景観が見渡せる展望スポットが多い横山園地などがあります。春になると多くの桜に囲まれる音無山の遊歩道からは、伊勢湾から愛知県の渥美半島や知多半島まで見晴らせることがあります。もっと長く歩きたい人は、伊勢志摩国立公園の最高峰の朝熊山の山頂までの登山にトライするのもよいでしょう。また、志摩の岩がちな海岸や歴史のある漁村をめぐるガイド付きウォーキングツアーもあります。

サイクリングツアーだと、観光客は伊勢志摩の豊かな自然や美しい海岸線を、違った方法で体験できます。志摩の漁村を自転車でめぐるツアーやサンセットサイクリングツアーのような選択肢もあります。自分でルートを組みたい人は、自転車のレンタルも可能です。

工芸品手作り体験教室：

このほか、真珠を取り出したり、真珠を使ってネックレスやアクセサリーを手作りする体験教室もあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢志摩の歴史、地域性（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

History (short version)

Ise-Shima has a long history of people whose lives have been shaped by the sea. Excavations have unearthed 3,000-year-old tools for taking abalone. There are also records of seafood being traded by Ise-Shima's Daio Town dating from 745 CE, evidence that seafood has sustained the population here for thousands of years.

Ise Jingu, the most sacred *jinja* (Shinto shrine) in Japan, was established about 2,000 years ago to worship the sun deity Amaterasu-Omikami. The excellent quality of Ise-Shima's seafood and other local produce further enhanced the area's reputation. Ise-Shima were declared a *miketsukuni*—a special area given the honor of providing food for both deities and the imperial court.

During the period of military upheaval in the sixteenth century, Kuki Yoshitaka (1542–1600) rose to prominence as a naval commander leading a faction in the conflict. Roads were improved during the 250 years of peace that followed the end of this warring period. This meant that more people could make pilgrimages to Ise Jingu. During this period, about one-sixth of the Japanese population was able to visit this sacred place. At the same time, trade between Ise-Shima, Edo (now Tokyo) and Osaka, boomed, leading to increased wealth and exchanges of culture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

歴史（要約）

伊勢志摩には、海によって形づくられた生活の、豊かで長い歴史があります。アワビを取るための 3000 年前の道具が発掘されたことがあります。また、西暦 745 年にまでさかのぼる、伊勢志摩の大王町での海産物の取引についての記録もあります。これは、何千年もの間、シーフードがこの土地の人々を支えてきたことを示しています。

約 2000 年前、太陽の女神、天照大神を祀るために日本で最も重要な神社である伊勢神宮が建立されました。伊勢志摩の上質な魚介類や農産物は、この地への評価をさらに高まりました。伊勢志摩は、神や朝廷に食糧を供する栄誉が与えられた土地『御食国』に指定されました。

16 世紀の軍事的激変の間、九鬼嘉隆(1542～1600) は戦の有力な陣営の水軍武将として名を成しました。戦国時代が終わり、250 年間の平和の間に道が改善されました。これにより、さらに多くの人が伊勢神宮への巡礼できる

ようになり、日本の人口の約6分の1がこの聖地を訪れることができるようになりました。同時に、伊勢志摩と江戸（現在の東京）、大阪の間の交易が盛んになり、その結果、富や文化の交流が行われました。

本事業以前の英語解説文

なし

【場所】伊勢志摩の歴史、地域性

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

History (long version)

Miketsukuni and Ise Jingu:

Ise-Shima has a long and interesting history of people whose lives have been shaped by the sea. Excavations have unearthed 3,000-year-old tools for taking abalone. There are also records of seafood being traded by Ise-Shima's Daio Town dating from 745 CE.

With its rich natural environment, bountiful harvests, and fine seafood, the area was identified as a *miketsukuni*. These were regions of Japan responsible for providing food to the imperial court. In the *Manyoshu*, a collection of classical poems compiled around the eighth century, Wakasa (now Fukui prefecture), Awaji Island (in modern Hyogo), and Ise-Shima are listed as the three regions bestowed this honor.

As the *jinja* (*Shinto shrine*) complex dedicated to Amaterasu-Omikami, the most important deity in Japan's native religion of Shinto, Ise Jingu is regarded as the spiritual center of the country. Throughout history, Japanese people have been moved to visit Ise Jingu at least once. The improvement of roads in the Edo period (1603–1867) allowed significant numbers of people to visit the sacred site. This increase in visitors to Ise Jingu led to the establishment of many teahouses nearby. The atmosphere of eras in which people made the pilgrimage lingers today along Okageyokocho Street, opened in 1993, which is lined with reconstructions of Edo period buildings. Located near Ise Jingu's Naiku, the street has traditional sweet and souvenir shops.

Kuki Yoshitaka's Naval Forces and the Warring States Period:

The Kuki family rose to prominence in Toba during Japan's turbulent warring period in the sixteenth century. Kuki Yoshitaka (1542–1600), originally the leader of a band of pirates, eventually established himself as a resourceful naval commander. In the 1570s he became an ally of Oda Nobunaga (1534–1582), at the time the most powerful warlord in the country. In the Battle of Kizugawaguchi, Kuki supported Oda's army, using iron-plated ships to repel the opposing Mori Clan's attacks.

After Oda's death, Kuki went on to support Japan's emerging unifier, Toyotomi Hideyoshi (1536 or 1537–1598), rising to become commander of the Toyotomi Clan's fleet. He was granted permission by Toyotomi to build Toba Castle, which was completed in 1594. This was a sea-facing castle, with a large gate that opened directly onto Toba Bay, and was surrounded by a seawater moat. The seaward side was painted black, and the landward side white—explaining its nickname “Two-colored Castle.” Today, visitors to Shiroyama Park and the Toba Castle ruins can see the remains of the castle's foundation walls, and enjoy the commanding view it once had over Toba Bay.

In 1600, the Toyotomi and Tokugawa Ieyasu (1542–1616) forces fought a decisive battle at Sekigahara. Kuki Yoshitaka fought alongside Toyotomi. However, his son, Kuki Moritaka (1573–1632), joined the opposing Tokugawa army.

Moritaka managed to obtain a pardon for his father from Tokugawa. Unfortunately, Kuki Yoshitaka committed suicide on Toba's Toshijima Island before the news could reach him. His body is now buried there. His head was buried separately on a promontory in Toshijima where he can look over towards Toba Castle.

An Important Shipping Route:

During the era of peace brought about by the Tokugawa Shogunate (1603–1867), Ise-Shima and its ports prospered through trade. This brought wealth to the area and enhanced standards of living, as well as starting an exchange of culture with Osaka. Such exchange is evident in traditions such as Anori Bunraku puppet theater, which was inspired by a similar form of entertainment popular in Osaka in the eighteenth century. The Shogunate collected taxes from the various domains in the form of rice, and Ise-Shima flourished as an important port for rice ships en route to the capital Edo (now Tokyo).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

歴史（詳細版）

伊勢志摩には、海によって形づくられた生活の、豊かで長い歴史があります。アワビを取るための 3000 年前の道具が発掘されたことがあります。また、西暦 745 年にまでさかのぼる、伊勢志摩の大王町での魚介類の取引についての記録もあります。

豊かな自然環境、豊かな食べ物、素晴らしいシーフードから、伊勢志摩は、『御食国』の 1 つに選ばれました。これは、朝廷に食べ物を献上する責任を持つ地域ということです。8 世紀ごろに編纂された歌集『万葉集』で、若狭（現在の福井県）、淡路島（現在の兵庫県にある）と並んで、伊勢志摩は、この栄誉を授けられた 3 つの地方として詠われています。

日本固有の信仰である神道で最も重要な神である天照大神を祀った神社として、伊勢神宮はこの国の精神的な中心地とみなされています。歴史を通じて、多くの日本人は、人生に少なくとも一度はこの神社に参拝したいと願ってきま

した。江戸時代(1603~1867)に道が改善されたおかげで、多くの人がこの聖なる地を訪ねることができるようになりました。伊勢神宮への参拝者が増えたことで、付近には多くの茶店も作られました。伊勢神宮の近くにある、1993年にオープンした、江戸時代の建物を再現したおかげ横丁には、この巡礼の時代の雰囲気は今も漂っています。伊勢神宮の内宮の近くにあり、伝統的なお菓子やおみやげの店が並んでいます。

九鬼嘉隆の水軍と戦国時代：

16世紀の戦乱の時代に、九鬼家は鳥羽で名を成しました。九鬼嘉隆(1542~1600)はもともと海賊の一団のリーダーで、その後、有能な水軍武将としての地位を確立しました。1570年代、織田信長(1534~1582)の陣営に加わりました。信長は当時、最も有力な武将でした。木津川口の戦いで、九鬼は鉄甲船を使って敵の毛利軍の攻撃を阻止し、織田軍を支援しました。

織田の死後、九鬼は次の日本の統一者である豊臣秀吉(1536あるいは1537~1598)に仕え、豊臣氏の水軍武将になりました。豊臣により、鳥羽城の築城を認められ、1594年に完成しました。海に面した、珍しい城で、鳥羽湾に直接通じる大きな門があり、海水の堀に囲まれていました。海側は黒く、陸側は白く塗られていたため、『二色城』と呼ばれました。現在、城山公園や鳥羽城跡を訪れると、城の構造壁を見ることができ、かつては城から見渡せた鳥羽湾の眺望が楽しめます。

1600年、豊臣軍と徳川家康(1542~1616)軍の間で、天下分け目の関ヶ原の合戦が行われました。九鬼嘉隆は豊臣に与したが、息子の九鬼守隆(1573~1632)は敵対する徳川軍に加わりました。

守隆は、徳川から父の助命の許しをなんとか得ました。不運にも、その知らせが届く前に、嘉隆は鳥羽の答志島で自害しました。現在、遺体の胴体はこの島に埋葬されていますが、頭部は別の場所、鳥羽城を一望できる答志島の岬に埋葬されています。

重要な航路：

徳川幕府(1603-1867)がもたらした平和な時代に、伊勢志摩とその港は交易で栄えました。これにより、この地域に富もたらされ、生活水準が向上し、大阪との文化交流も始まりました。このような交流は、18世紀に大阪で人気があった類似の芸能に影響を受けた、安乗文楽という人形劇のような伝統によく表れています。さらに、幕府は様々な領地から年貢を徴収していましたが、伊勢志摩は、江戸の都(現在の東京)に米を運ぶ船の重要な中継港として栄えました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢神宮（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Ise Jingu (short version)

Ise Jingu, officially known as “Jingu,” is the most important *jinja* (Shinto shrine) complex in Japan. It was originally built over 2,000 years ago for the imperial court to honor the sun deity Amaterasu-Omikami. Over time, Ise Jingu gained wide recognition as Japan’s spiritual heart. In the eighteenth century, there were years when over four million people made pilgrimages to Ise.

Ise Jingu is composed of 125 *jinja*, centered around the Naiku and Geku. These are dedicated to Amaterasu-Omikami and Toyo’uke-no-Omikami (the deities of food, clothing, and shelter) respectively. The deities symbolize nature’s blessings. People acknowledge these blessings not only in ancient rituals giving thanks for harvests but also through conservation efforts. A 200-year cypress-planting project was introduced in Ise Jingu’s own forests in 1923.

The nutrients from this forest are carried by the Isuzugawa River, enriching farmlands and eventually the sea. This nourishes Ise-Shima’s rice paddies, vegetable plots, and plentiful marine life. Visitors to Ise Jingu also experience nature’s blessings when ritually purifying themselves by washing their hands in the Isuzugawa River’s clear waters.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伊勢神宮（要約）

公式には「神宮」として知られる伊勢神宮は、日本で最も重要な神道の神社です。宮廷が太陽の神である天照大神を祀るため、2000年以上前に創建されました。長い時をかけて、伊勢神宮は日本の精神の中心として広く認知されるようになりました。18世紀には、1年間に400万人以上の人々が伊勢へと巡礼した年もあります。

伊勢神宮は125の神社から成っていて、その中心となるのが「内宮（ないくう）」と「外宮（げくう）」の2つです。それぞれ、天照大神と、衣食住の神である豊受大御神（とよけのおおみかみ）を祀っています。これらの神たちは自然の恵みを象徴するものです。人々は、こうした神の恵みを昔からの収穫を感謝する儀式だけでなく、実際に自然環境を守る取り組みをしています。伊勢神宮の宮域林では、1923年から200年に及ぶ植林計画が実施されています。この森からの養分は五十鈴川によって運ばれ、田畑に養分を与え、最終的に海に達します。これは、伊勢志摩の田や

畑、海洋生物に栄養を与えます。伊勢神宮に訪れる人も、五十鈴川の澄んだ水で儀式的に手を洗うことで、その自然の恵みを感じるでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】伊勢神宮

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Ise Jingu (long version)

Ise Jingu is the most important *jinja* (Shinto shrine) complexes in Japan. Japan's indigenous Shinto faith is based around paying respects to *kami*, deities that reside in the natural world, in every being and every person. Ise Jingu, officially known as “Jingu,” is composed of 125 *jinja*, centered around the Naiku and Geku. These are dedicated to Amaterasu-Omikami (the sun deity) and Toyo'uke-no-Omikami (the deities of food, clothing, and shelter) respectively.

According to legend, Ise Jingu, was established approximately 2,000 years ago by Yamatohime-no-Mikoto, the daughter of Emperor Suinin. Prior to that, Amaterasu-Omikami was worshipped in the imperial palace located in the ancient capital of Nara. When an epidemic spread through Nara, it was decided that Amaterasu-Omikami's sacred mirror (one of the three imperial regalias of Japan) should be moved to a more appropriate location to placate the deities. Princess Yamatohime-no-Mikoto was sent on a mission to find a place where the sun deity could be enshrined. After searching for over twenty years, she arrived in Ise. She is said to have received a revelation besides the Isuzugawa River and decided that this was the perfect place. The Naiku was then constructed.

Every twenty years, both the Naiku and Geku, as well as fourteen affiliated *jinja* called *betsugu*, are rebuilt. This process is called *Shikinen Sengu* and is the most important ritual at Ise Jingu. It is an ancient tradition dating back to 690 when Emperor Tenmu decreed that the Naiku should be rebuilt. Each *jinja* is rebuilt next to the old one, which is why the *jinja* in Ise Jingu appear to be located to the left or right of their plot. After construction is completed, a ceremony is held to move the deities from the old *jinja* to the new. Only then is the old *jinja* carefully disassembled piece by piece. This process is carried out to make sure that the wooden buildings of Ise Jingu remain both eternal and fresh. It also helps make sure that many ancient techniques of *jinja* building continue to be handed on from generation to generation.

The 62nd Shikinen Sengu was conducted in 2013. The Ujibashi Bridge on the way to Ise Jingu was also rebuilt. Its walkways and railings are made from Hinoki cypress and the piers from water-resistant Japanese zelkova. All the *jinja* are constructed using new cypress wood. However, parts of Ise Jingu's old *jinja* are often reused. The large *torii* gate that is seen before Ujibashi Bridge is constructed from reclaimed cypress. Some of the wood from deconstructed Ise Jingu is also sent to other *jinja* buildings around Japan.

Around ninety years ago, a 200-year cypress-planting project was started by the Ise Jingu Secretariat with the aim of providing all the wood for the rebuilding from Ise Jingu's own forests. These efforts meant that a quarter of the wood used for the most recent Shikinen Sengu in 2013 could be sourced from Ise's forest. The rest was obtained from Kiso in Nagano and Gifu Prefecture. Ise-Shima National Park was founded in 1946 to protect Ise Jingu and its forest following World War II.

Since the early times, residents have thanked the Ise Jingu deities for nature's blessings through ceremonies. One of the most important of these ceremonies is Kanname-sai. Rice is a staple food in Japan. According to legend, the first rice was given to the people by Amaterasu-Omikami's grandson. Every year, Ise Jingu's Shinto priests make an offering of the first rice grown at Ise Jingu to Amaterasu-Omikami. This rice is grown in a special field irrigated by the waters of the Isuzugawa River which runs through the forests of Ise Jingu. This is such an important tradition that rice farmers from all over Japan also make offerings at Ise Jingu.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

伊勢神宮（詳細版）

伊勢神宮は日本の最も重要な神社です。日本固有の信仰である神道は自然界、すべての生命と人間の中にある神への崇敬を基礎に置いています。公的には「神宮」として知られる伊勢神宮は、125 の神社から成り、その中心には内宮と外宮があります。これらは太陽の神である天照大御神と、衣食住の神である豊受大御神にそれぞれささげられています。

伝説によれば、伊勢神宮は約 2000 年前に、垂仁天皇の娘である倭姫命によって創建されたということです。それより以前は、天照大神は昔の奈良の都で祀られていました。奈良に疫病が蔓延した時に、神々を鎮めるために天照大神の神鏡（日本の三種の神器の 1 つ）をしかるべき場所に移すべきだということが決定されました。皇女である倭姫命が太陽の女神を祀るための場所を見つけるために派遣されました。彼女は 20 年以上かけて探し回り、伊勢に到着しました。五十鈴川のほとりで神の啓示を受け、これこそが完ぺきな場所であると決断しました。それから、内宮が建立されました。

20 年毎に、内宮と外宮、14 の関連する神社（別宮）が建て替えられます。このプロセスは式年遷宮と呼ばれ、伊勢神宮で最も重要な儀式です。式年遷宮は古くからの伝統で、天武天皇が内宮の再建を定めた 690 年まで遡ります。それぞれの新しい神社は、それまでの建物の隣に建てられます。伊勢神宮の神社の建物は、あるべき場所の右や左にあるように見えるのはそのためです。建築が完了した後に、神々を古い神社から新しい神社に移す儀式が執り行われます。その時になって初めて、古い神社は丁寧に解体されます。このプロセスは、伊勢神宮の木造の建造物が永久に存続し、かつ常に新鮮であることを確かなものとするを目的としています。また、神社建築に関する古くからの多くの技術が次の世代へと確実に伝承され、継続する助けとなっています。

第 62 回式年遷宮が、2013 年に行われました。伊勢神宮への参道にある宇治橋も作り直されました。橋の通路部分と欄干はヒノキで作られており、橋脚は耐水性のケヤキで作られています。全ての神社の建物は、新しいヒノキを使っ

ています。しかしながら、伊勢神宮の古い神社の多くの部分が再使用されています。宇治橋の前にある巨大な鳥居は、再利用されたヒノキで建てられています。伊勢神宮の解体された神社に使用されていた木材の中には、日本全国に送られて他の神社建立に使われるものもあります。

約 90 年前、200 年計画が伊勢神宮司庁によって施行されました。この計画の目的は、神社再建に必要な木材は全て伊勢神宮が所有する森林から伐採し、供給することです。こうした努力によって、2013 年に行われた最新の式年遷宮では 4 分の 1 の木材が、伊勢の森から伐採されたもので賄われました。残りは、長野県と岐阜県にまたがる木曾地域から調達されました。なお、伊勢神宮の森を守るため、第二次世界大戦後の 1946 年に伊勢志摩国立公園が設立されました。

伊勢神宮創建後の早い段階から、人々は自然の恵みに対して儀式を通して感謝を捧げていました。その最も重要な儀式の 1 つが、神嘗祭（かんなめさい）です。米が日本の主食です。そして、伝説によれば、最初の米は天照大神の孫から与えられたものと言います。毎年、伊勢神宮の神官たちは、伊勢神宮で栽培し最初に収穫された米を天照大神に捧げます。この米が栽培されているのは、伊勢神宮の森の中を流れる五十鈴川の水で灌漑した特別な田です。これは重要な伝統であることから、日本全国の米作り農家の人たちも伊勢神宮に米を奉納します。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】真珠（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Pearls (short version)

Obtained from pearl oysters, natural pearls have been harvested in Ise-Shima for centuries. Natural pearls, once prized as “mermaid’s tears”, are rare. In the late 1800s, researchers attempted to cultivate pearls. Toba-born Mikimoto Kokichi (1858–1954) succeeded in making hemispherical pearls in 1893 for the first time in the world. The subsequent efforts of Mise Tatsuhei (1880–1924) and Nishikawa Tokichi (1874–1909) led to them also obtaining patents for pearl cultivation methods, leading to the development of spherical pearls. Even before World War II, Ise-Shima’s pearls were highly sought after and sold not only in Japan but also in Europe and the United States. Ise-Shima is today home to hundreds of companies involved in the pearl industry.

Cultivated pearls are made by inserting irritants into the oyster shells. Nacre (pearl-forming liquid) is secreted around the irritants. In about one to two years, this develops into a pearl. To cultivate pearls successfully in the shell, great care and skills are necessary. Ise-Shima’s sheltered bays and temperate climate offer the perfect conditions for pearl shells.

Visitors to Ise-Shima National Park can experience the area’s pearl legacy firsthand, either by extracting pearls themselves or by joining a pearl necklace-making workshop.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

真珠（要約）

何世紀もの間、伊勢志摩では真珠貝から天然真珠を収穫してきました。天然真珠は『人魚の涙』として尊重されることもあるなど、貴重なものでした。1800年代後半、研究者たちは真珠の養殖を試みました。1893年、鳥羽生まれの御木本幸吉（1858～1954）は世界で初めて半円真珠を育てることに成功しました。それに続く見瀬辰平（1880～1924）や西川藤吉（1874～1909）の努力により、彼らにも特許を得たほか、真円真珠の発展につながりました。第二次世界大戦の前でも、伊勢志摩の真珠は高く評価され、日本だけでなく欧米でも販売されました。現在、伊勢志摩には真珠産業に関わる会社が数百社あります。

養殖真珠をつくるには、まず貝の中に核を挿入します。核は真珠層（真珠をつくる液体）によって包まれていきます。1～2年ほどをかけて、真珠ができます。真珠を貝の中でうまくつくるには、細心の注意と技術が求められます。伊勢

志摩の穏やかな湾や温暖な気候は真珠貝にとって最適な条件です。

伊勢志摩国立公園を訪れる観光客は、真珠の取り出しに挑戦したり、真珠のネックレス作りのワークショップに参加したりして、この地域の遺産をじかに体験できます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】真珠

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Pearls (long version)

Pearls have been an integral and much-valued part of local history and culture in the Ise-Shima National Park area for centuries. The National Park has become known today as the “home of the cultured pearl.” Developments in pearl cultivation in Ise-Shima during the last century created a vibrant industry. Today, the quality of Ise-Shima pearls is recognized all over the world.

In pre-modern Japan, pearls were used as an ingredient in medicine. Their powder was believed to help cure a variety of ailments, from eye diseases to fevers. At that time, female divers known as *ama* harvested pearl oysters along with other seafood. However, natural pearls are formed by accident. They were a relatively expensive ingredient due to their rarity, and prized as “mermaid’s tears.”

Mikimoto Kokichi (1858–1954), sometimes known as the “Pearl King,” was born the son of a restaurant owner in Toba. He originally started trying to farm pearls on Shinmeiura Inlet in Ago Bay in 1888. Two years later, he began farming on Toba’s Ojima Island. In 1892, an over-profusion of algae in Ago Bay caused a red tide, a phenomenon caused by algal blooms. This killed most of Mikimoto’s pearl oysters. He was left with his smaller stock on Ojima Island. On restarting oyster farming at Ojima the following year, he discovered that he had managed to produce five pearls attached to their shells. These hemispherical pearls were the first successfully cultivated pearls in the world, representing a big step for pearl cultivation techniques.

The efforts of two other researchers, Mise Tatsuhei (1880–1924) and Nishikawa Tokichi (1874–1909), resulted in the first successful production of perfectly spherical cultivated pearls. Subsequent to these developments, Mikimoto began to produce spherical pearls on Ojima, expanding his business.

Having deep respect and love for this beautiful landscape, Mikimoto supported initiatives to get the Ise-Shima area designated as National Park. Before World War II, and together with local leaders and organizations, he lobbied the Japanese government. His dreams came true in 1946.

In the early days of pearl cultivation, it was the *ama* divers’ job to find mother pearl oysters and then return the irritant-inserted oysters back to the seabed so that pearls could develop. Subsequently, pearl-farming rafts were invented. Cages

housing oysters are attached to the raft. This invention made the pearl farmer's work of caring for the shells easier. Today, the sight of pearl-farming rafts floating on Ago Bay is considered a symbol of Ise-Shima.

There are workshops where visitors can try their hand at extracting cultured pearls from oysters in Ise-Shima. There are also demonstrations of how irritants are inserted into oysters, and opportunities to learn more about pearl cultivation history in Ise-Shima. The natural beauty of pearl necklaces and many other items made using local pearls can be appreciated in Ise-Shima's specialist pearl shops.

Irritants are placed inside mother pearl oyster shells to make pearls. The oysters secrete nacre (pearl-forming liquid) around the irritants. Cultivated pearls typically take around one to two years to grow from irritant insertion to harvest.

Pearls are difficult to cultivate because they require particular conditions. Ise-Shima's bays meet these specific requirements. Pearl oysters need a steady current, but protection from strong winds. They also require plankton for nutrition. Pearl farmers must also pay attention to the status of each oyster. If, for example, water temperatures drop, they must move the oysters to a southern bay.

The sheltered inlets of Ago and Gokasho Bay, along with other places in Ise-Shima, allow pearl oysters to thrive. Shima's New Satoumi Community program helps to preserve these rich natural environments for future generations.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

真珠（詳細版）

何世紀もの間、真珠は伊勢志摩の郷土史や地域文化の重要な一部を成してきました。伊勢志摩国立公園は今日、養殖真珠のふるさととして知られています。前世紀に行われた伊勢志摩での真珠養殖の開発は有力な産業を創出しました。現在、伊勢志摩の真珠の品質は世界中で認められています。

近代以前の日本では、真珠は薬の原料に使用されていました。真珠の粉は、目の病気から熱に至るまで、様々な病気の治療に役立つと信じられていたのです。当時は、海女として知られる女性ダイバーたちが海産物と一緒に天然の真珠貝を探していました。ただ、天然真珠は偶然によってしかできません。希少であるため、かなり高価な原料であり、「人魚の涙」と呼ばれていました。

『真珠王』としても有名な御木本幸吉（1858～1954）は鳥羽の飲食店主の息子として生まれました。最初は、1888年に英虞湾の神明浦で真珠養殖を試み始めました。2年後には、さらに相島でも養殖を開始しました。1892年、英虞湾に藻の大発生によって起きた赤潮によって、御木本の真珠貝の大半が死にました。これにより、相島にあるわずかな貝のみ残されました。真珠養殖の試みを再開した翌年、相島の貝を開けると、貝殻にくっついた真珠が5粒できたことを知りました。この半円真珠は世界で初めて養殖に成功した真珠であり、真珠養殖技術の大きな第一歩を表すものでした。

他にも、見瀬辰平(1880～1924)、西川藤吉(1874～1909)という2名の研究者の尽力により、最初の完全な球形の養殖真珠が作られました。こういった開発に対応するため、御木本は鳥羽の相島で真円真珠の生産を始め、事業を拡大していきました。

伊勢志摩の美しい景観を愛していた御木本は、伊勢志摩を国立公園にしようとする運動を支援してきました。第二次世界大戦前から、彼は地元の有力者や組織と一緒に日本政府にロビー活動しました。彼の願いは1946年に実現します。

真珠養殖の初期段階では、母貝となる貝を見つけることや、核入れをした貝を海に戻すのは海女の仕事でした。その後、真珠の養殖いかだが開発されました。この筏には養殖かごが取り付けられており、養殖の作業はより効率的になりました。今日、英虞湾などに浮かぶ養殖いかだは、伊勢志摩を代表する景観の一つになっています。

現在、伊勢志摩では観光客は自分で貝から養殖真珠を取り出す体験ができるワークショップがあります。核入れの作業を見学したり、真珠養殖の歴史についてさらに学んだりできる施設があります。伊勢志摩の真珠店では、地元産の真珠や、真珠を使ったものなどを買うこともできます。

核は真珠貝の母貝に入れられます。真珠貝は真珠層(真珠を形成する液体)を核の周りに分泌します。養殖真珠が取れるまでは、核入れからだいたい1～2年かかります。

真珠は養殖が難しいです。特殊な条件を必要とするからです。伊勢志摩の湾は、この特殊な条件を満たします。真珠貝には安定した流れと強風からの保護が必要です。栄養分としてプランクトンも要ります。また、真珠養殖者はひとつひとつの貝の状態にも注意しなければなりません。例えば、水温が下がったら、もっと南の湾に貝を移さなければならないためです。

英虞湾や五ヶ所湾、伊勢志摩にあるその他の場所の入江は穏やかであるため、真珠貝が繁殖できます。志摩の『新しい里海のまち』プログラムが、この豊かな自然環境を次世代のために守るのに役立っています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】海女（要約）

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Ama (Female Diver) (Short version)

Strong, brave, and dedicated, *ama* are female divers who harvest abalone, seaweed, and shellfish from the ocean floor. *Ama* plunge into the ocean without any breathing apparatus, holding their breath for around a minute.

Ama are found only in Japan and Korea. There are records of *ama* in the Ise-Shima area dating from the eighth century. Since that time, they have also played an important role in harvesting pearl oysters. Today, Ise-Shima is home to the largest number of *ama* in Japan. Ise-Shima National Park is the best place to learn about their unique culture and lifestyle.

Ama communities have many rules about the amounts and sizes of marine life they can harvest. There are also many restrictions about where and when they can dive. These measures are taken to conserve marine resources and are one more example of the local people living in harmony with nature.

Being an *ama* is dangerous work. Since ancient times, *ama* have prayed to the sea deities for protection. They also paint special symbols on their equipment and white clothing. They believe these star shapes, called *seiman*, and lattice patterns called *doman*, protect them from the dangers of the sea.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

海女（要約）

海女とは、海底からアワビ、海藻、貝などを採集する、強く、勇敢で、熱意がある女性ダイバーです。海女は呼吸に使う潜水用具なしに海に飛び込み、1分ほど息を止めます。

海女がいるのは日本と韓国だけです。伊勢志摩の海女についての、8世紀にまでさかのぼる記録が残されています。時代を通して、真珠貝を採る上でも重要な役割を果たしてきました。現在、伊勢志摩には日本でもっとも沢山の海女がいます。伊勢志摩国立公園は、海女の独特な文化や生活様式について学べる最適な場所です。

海女のコミュニティには、採集量や採っていい海産物のサイズについての決まりがたくさんあります。いつ、どこで潜水し

てよいかについても多くの規制があります。これらは海洋生物を保護するためのものですが、これらは自然と共に生きる地元の人々の一つの事例となっています。

海女は危険な職業です。昔から、海女は海の神に加護を祈願してきました。また、用具や白い衣類に特別な印を書き込みます。この『セーマン』と呼ばれる星形や『ドーマン』と呼ばれる格子柄は、海の危険から身を守ると考えられています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】海女

【整備予定媒体】パンフレット

できあがった英語解説文

Ama (Female Diver) (long version)

Ama are female divers who harvest a wide variety of seafood from the ocean floor, including abalone, shellfish, and various types of seaweed. *Ama* are found only in Japan and Korea.

In Ise-Shima, where there is rich marine life, their history goes back thousands of years, and tales of early *ama* are recorded in the *Manyōshū*, a poetry collection compiled around 759. Today, Ise-Shima is home to the largest number of *ama* in Japan (973 *ama* as of 2010).

Ama do not use any breathing apparatus; instead, they must learn to hold their breath as they dive using special breathing techniques. These include slightly opening their mouths and exhaling slowly when they surface, making a whistling sound known as *isobue*. Most *ama* hold their breath for around a minute, and the time spent underwater is called the “50-second battle.” Early *ama* braved the cold waters wearing nothing but loincloths, but today’s *Ama* wear wetsuits and large single-lens diving masks.

There are two main diving methods used by the *ama*: *kachido* and *funado*. In the *kachido* method, *ama* tie a rope around their waists. This is attached to a wooden bucket that floats on the surface. The *funado* style, on the other hand, is traditionally practiced by a married couple from a boat. The husband waits on the boat while the *ama* dives, holding a heavy weight. This allows the *ama* to descend rapidly and reach deeper levels than *kachido ama*. The husband then reels her in using a pulley system attached to the boat. These methods vary slightly depending on the area.

Ama have strict rules to protect their livelihood and conserve marine resources. There are long periods surrounding the spawning season (usually from September to December) when taking abalone is forbidden. Furthermore, abalone can be harvested only once they are over 10.6cm long. They are slow growing, and if the abalone reaches that size, it means it has had the chance to breed at least once. This rule is embodied in the *ama*’s saying “Abalone will become a beautiful bride, as long as you wait three years.”

In addition, all local *ama* must agree unanimously to go diving each day of the diving season. The number of diving days, and the length of each diving session is also strictly regulated by local communities to protect natural resources.

Ama have a strong historical connection to Ise Jingu, the most important *jinja* (Shinto shrine) in Japan. It is said that Yamatohime-no-mikoto, the founder of Ise Jingu, was given an abalone by Oben, a local *ama* who lived in Kuzaki, 2,000 years ago. She enjoyed the taste so much that she decided abalone should be offered to Ise Jingu's deities as an element in their sacred meals, called *shinsen*. These balanced meals for the deities contain thirty types of high quality, locally sourced food. This tradition continues today, and the abalone used is obtained from the Kuzaki area of Toba City. Oben is enshrined at Amakazukime Shrine in Kuzaki, so the abalone caught by *ama* in this area are thought to have received her blessing.

There are many rituals and festivals involving *ama*, including the Shirongo Festival on Sugashima Island. Regulations usually prevent *ama* diving around Shirongo Beach except on this festival day, held in July every year, when visitors can watch *ama* compete to catch abalone. It is considered lucky to find a pair, and the winner is appointed Chief *Ama* for that year. *Ama* also decorate their clothing and equipment with star and lattice shapes. They are called *seiman*, and *doman*, respectively. Embroidered with thread, or drawn with purple ink made from seashells, these traditional symbols are thought to protect the wearer from evil spirits and the fickle nature of the sea.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

海女（詳細版）

海女とは、アワビ、貝類、海藻などさまざまな海産物を海底から採集する女性ダイバーです。海女は日本と韓国だけに見られます。

海産物の豊富な伊勢志摩では、その歴史は何千年も前にさかのぼり、759 年あたりに編纂された歌集、万葉集に、初期の頃の海女の話が残されています。現在、伊勢志摩にいる海女の数は日本一です（2010 年の時点で 973 人）。

海女は呼吸装置を使いません。代わりに、潜水するときに特別な呼吸法を使って息を止める方法を身につけなければなりません。例えば、水面に出るときに口を少し開けてゆっくりと息を吐き、『磯笛』として知られる口笛を吹くような音を出します。ほとんどの海女は 1 分ほど息を止めます。水中にいる時間は『50 秒の勝負』と呼ばれています。昔の海女は、腰巻以外何も身につけずに冷たい水に挑みましたが、現代の海女はウエットスーツや大きな一眼の潜水メガネを付けます。

海女には、徒人と舟人という、主に 2 つの漁法があります。徒人法では、海女は腰に縄を巻き、海面に浮かぶ木製の樽に縄を結び付けます。一方、舟人法は伝統的に夫婦で船に乗って行きます。海女が重いオモリを持って潜水している間、夫は船上で待ちます。この方法では、急速に潜水し、徒人法よりも深く潜ることができます。その後、夫が海女を、滑車装置を使って巻き上げます。これらの方法は地域によって異なります。

生活を守るため、また海洋生物の個体数を保護するため、海女には厳しい決まりがあります。アワビは、産卵期にあたる時期（通常 9 月から 12 月）は採集が禁止されています。さらに、アワビが体長 10.6 センチ以上にならないと採ってはいけません。アワビは成長が遅く、その大きさになっていれば、少なくとも 1 回は繁殖の機会があったことを意味しま

す。この規則は「アワビは3年待てば美しい嫁になる」という海女の言葉に表れています。

さらに、漁期中、地区の海女は漁に出る日を決められています。天然資源を保護するため、許可されている漁の日数や長さも、自治体によって厳しく規制されています。

海女は、日本でもっとも重要な神社である伊勢神宮と歴史的に強い関係があります。2000年前、国崎にいた海女、お弁は倭姫命にアワビを献上したと言われています。伊勢神宮を創建した倭姫命は、その味を堪能し、神饌という神聖な食事の一部として神にアワビを献上するよう決めました。神に捧げるこのバランスの取れた食事には30種類の食べ物があり、すべて高品質で、地元産のものばかりです。この伝統は現在も続いており、使われるアワビは伊勢志摩の国崎で採集します。お弁は国崎にある海士潜女神社に祀られているため、この地域で採れたアワビはお弁の恵みを受けていると考えられています。

菅島のしろんご祭のように、海女に関わりのある儀式や祭りがたくさんあります。しろんご浜では、毎年7月に開催されるこの祭りの日以外、海女が潜水することは規則で禁止されています。アワビを採るために海女が競い合うのを観光客も見学できます。つがいのアワビを見つけるのは幸運とみなされており、勝者はその年の海女頭に任命されます。また、海女たちは衣類や用具を星や格子柄で飾ります。これらはそれぞれ『セーマン』『ドーマン』と呼ばれています。糸で刺しゅうしたり、貝紫色のインクで描いたりしたこの伝統的な印は、身につける人を悪霊や予測不可能な海の自然から守ると考えられています。

本事業以前の英語解説文

なし